

平成 26 年度

男女共同参画社会に関する
県民意識調査報告書

高 知 県

はじめに

男女がお互いの人権を尊重しあうとともに、仕事や家事の責任も分かち合い、性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会」の実現は、社会の活性化を図るうえで、また、県政浮揚を進めるうえでも、極めて重要な課題です。

県では、平成15年に「高知県男女共同参画社会づくり条例」を制定し、「こうち男女共同参画プラン」や「高知県DV被害者支援計画」に基づき、こうち男女共同参画センター「ソーレ」を拠点に、男女共同参画に関する啓発や人材育成などの様々な取組を進めてまいりました。また、平成26年度からは、女性の活躍の場の拡大を県政の重要政策に位置付け、女性の就労支援や登用の促進に取り組んでいます。

このたび、男女共同参画の視点から見た県民の意識や課題を把握し、それらの経年変化や全国調査との比較等を行うことで、今後の施策に活かすことを目的に、「男女共同参画社会に関する県民意識調査」を実施いたしました。今回の調査では、これまでの男女平等や性別役割分担の意識といった項目に加えて、新たに、女性の働き方の理想と現実や理想の働き方実現に必要なことをお聞きしており、女性が働きやすい環境づくりに向けた課題がより明確になったものと受け止めています。

今後は、この調査結果を新たな「こうち男女共同参画プラン」策定に活かすとともに、より一層の施策の充実を図るよう努めてまいりますので、男女共同参画に携わる関係機関や県民の皆様にも、ご理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本調査の実施にあたりご協力いただきました方々に、心よりお礼申し上げます。

平成27年3月

高知県 文化生活部 県民生活・男女共同参画課長 武田 良二

目 次

	ページ		
I 調査の設計	1		
II 調査結果の見方	3		
III 調査対象者の特性	5		
1. 市町村別の配布・回収状況	5		
2. 対象者の特性	5		
IV 調査結果のあらまし	9		
V 調査結果〔解説・グラフ〕			
〔1〕 男女平等に関する意識について		解説・グラフ ページ	数 表 ページ
1. 各分野における男女の地位の平等意識	13		82
〔2〕 家庭生活について			
2. 家庭における男女の役割分担の理想と現実について	26		84
3. 理想的な男女の役割分担が実現するために必要なこと	31		86
〔3〕 女性が働きやすい環境づくりについて			
4. 女性の働き方の理想と現実について	34		87
5. 理想的な女性の働き方を実現するために必要なこと	40		90
(1) 家庭や地域において必要なこと	40		90
(2) 企業など職場において必要なこと	42		90
(3) 行政の取組において必要なこと	44		91
〔4〕 ドメスティック・バイオレンス（夫婦・恋人間の暴力）/セクシュアル・ハラ メントについて			
6. 配偶者・恋人からの行為に対する暴力の認識	48		92
7. DV経験の有無	50		94
8. したこと、されたことのあるDV行為	51		96
(副問1) DV行為について相談した相手	53		98
(副問2) DV行為について相談しなかった理由	55		99
9. デートDV（交際相手からの暴力）、DV（配偶者等からの暴力） 性暴力などの行為を予防し、なくすためにはどうすればよいか	57		100
10. セクシュアル・ハラメントだと思いう行為	59		101

〔5〕 男女共同参画の推進について

11. 男女共同参画関連用語等の周知度	61	102
12. 男女共同参画社会を実現するために必要なこと	76	104
13. 男女共同参画社会を実現のためにできること	78	105
VI 調査結果〔数表〕	82	
VII 自由回答	107	
VIII 自由回答〔「その他」の内容〕	119	
IX 調査票〔単純集計結果〕	125	

I 調査の設計

1. 調査の目的

本調査は、高知県の男女共同参画を推進していくうえでの基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の事項

(1) 男女平等に関する意識について

各分野における男女の地位の平等意識

(2) 家庭生活について

男女の役割分担の理想と現実／理想的な男女の役割分担が実現するために必要なこと

(3) 女性が働きやすい環境づくりについて

女性の働き方の理想と現実／各分野における理想的な女性の働き方が実現するために必要なこと

(4) ドメスティック・バイオレンス（夫婦・恋人間の暴力）／セクシャル・ハラスメントについて

配偶者・恋人からの行為に対する暴力認識／DV経験の有無／DV経験（加害・被害）の有無及び頻度／DV行為についての相談相手／DV行為について相談しなかった理由／DV等を予防し、なくすために必要なこと／セクシャル・ハラスメント認識

(5) 男女共同参画の推進について

男女共同参画関連用語等の周知度／男女共同参画社会実現のために力をいれるべきこと／男女共同参画社会実現のために自分にできること

3. 調査の対象

県内全域から20歳以上の県民2,000人を抽出

4. 対象者の抽出方法

層化二段無作為抽出法（総人口比から各市町村のサンプル数を割り当て、各市町村の選挙人名簿から抽出した）

5. 調査の方法

郵送法

6. 調査の期間

平成27年1月13日（火）～1月27日（火）までの14日間

7. 実査および集計

株式会社 トミーコーポレーション

8. 調査票配布数と回収状況

配布数 2,000票

有効回収数 1,015票 (有効回収率 50.8%)

Ⅱ 調査結果の見方

1. 「V 調査結果〔解説・グラフ〕」は「VI 調査結果〔数表〕」に基づき、要点のみを記述してあるので、「VI 調査結果〔数表〕」をあわせて参照すること。
2. 「VI 調査結果〔数表〕」の「サンプル」は有効調査人数を示し、比率（%）算出の基礎となっている。
3. 「VI 調査結果〔数表〕」に記入してある数値は、回答人数又は各回答項目に対する回答率であり、回答率は下記の式により求めている。

$$\text{回答率（\%）} = \frac{\text{回答人数}}{\text{サンプル（有効調査人数）}} \times 100$$

なお、回答率は小数第2位を四捨五入し表示しているため、合計が100%にならない場合もある。

4. 質問によっては、複数の回答を選択する形（例：「2つまで○印」「3つまで○印」「あてはまるものすべてに○印」）になっているため、比率の合計が100%を超えることがある。
5. 質問回答者が限定される場合は、その内容及び母数について、質問ごとに記載している。（母数は全ての質問について記載している。）
6. 各質問に対する集計は、対象者の特性別（階層別）及び回答者別（質問間クロス）で分析した。

- | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|--|--|-----------------------|---|--------------------|--|--------------------|
| F1 | 性 | 別 | … | 男女の別 | | | | | | |
| F2 | 年 | 代 | 別 | … 20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上の6階層に分類 | | | | | | |
| F3 | 職 | 業 | 別 | … 農林業、漁業、商工サービス業自営、事務職、技術職、労務職、管理職、自由業、主婦・主夫、学生、無職、その他の12種類に分類 | | | | | | |
| F4 | 配 | 偶 | 者 | の | 有 | 無 | … | 配偶者あり、配偶者なしの2種類に分類 | | |
| F5 | 夫 | 婦 | 共 | 働 | き | の | 有 | 無 | … | 共働きあり、共働きなしの2種類に分類 |
| F6 | 市 | 町 | 村 | 別 | … | 高知市、高知市以外の市、町村の3種類に分類 | | | | |
| F7 | 世 | 帯 | 別 | … | 単身世帯（一人住まい）、夫婦のみの世帯、親と子の世帯（二世帯世帯）、三世帯世帯（親、子、孫の世帯）、その他の5種類に分類 | | | | | |
| F8 | 同 | 居 | 家 | 族 | 内 | 容 | 別 | … | 就学前の子どもがいる、小学生の子どもがいる、中学生の子どもがいる、高校生の子がいる、大学生・専門学生等の子どもがいる、65歳以上の方がいる、子どもはいないの7種類に分類 | |

※F3、F6の分類の詳細については次ページを参照のこと。

7. その他

本報告書で「全国調査」とあるのは、内閣府男女共同参画局調べの下記調査を指す。

- ・平成26年度「女性の活躍推進に関する世論調査」
(調査期間：平成26年8月28日～9月14日、調査対象：5,000人、有効回収数：3,037人)
- ・平成24年度「男女共同参画社会に関する世論調査」
(調査期間：平成24年10月11日～10月28日、調査対象：5,000人、有効回収数：3,033人)
- ・平成21年度「男女共同参画社会に関する世論調査」
(調査期間：平成21年10月1日～10月18日、調査対象：5,000人、有効回収数：3,240人)

※ 職業別の分類詳細、居住地域別の市町村内訳は次のとおりである。

◆ F 3 職業別

農 林 業	}	(主婦・主夫の場合は、家庭内の仕事と田畑、漁業に出る時間と比較して多い方をとる)
漁 業		
商工サービス業	自営	(商店や工場などを自分でやっている人、家族従業者を含む)
事 務 職		(勤め人や公務員で主に事務系の仕事の人、課長以上を除く)
技 術 職		(主に技術系の仕事の人、看護師、保育士など、課長以上を除く)
労 務 職		(現場従業員、工員、運転手、店員、日雇い、大工など)
管 理 職		(勤め人・公務員で課長以上の場合、校長・教頭など)
自 由 業		(医師、弁護士、画家、僧侶、大学教授など)
主 婦・主 夫		(家庭内等の仕事が一番多い場合)
学 生		(高校・短大・大学、その他の学校在学中)
無 職		(年金などで生活しているか、自分の収入がなく、または働いていない場合)
そ の 他		(上のいずれにも属さないもの)

◆ F 6 居住地域別

高 知 市	
高知市以外の市	室戸市、安芸市、南国市、土佐市、須崎市、宿毛市、土佐清水市、四万十市、香南市、香美市
町	東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村
村	本山町、大豊町、土佐町、大川村、いの町、仁淀川町、中土佐町、佐川町、越知町、梶原町、日高村、津野町、四万十町、大月町、三原村、黒潮町

Ⅲ 調査対象者の特性

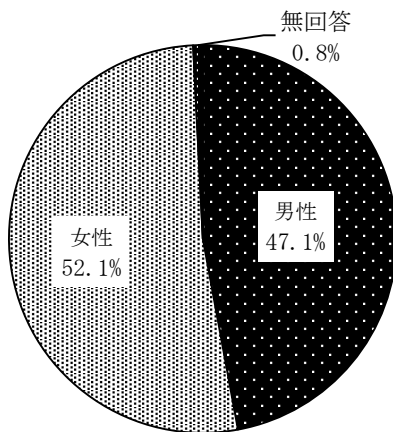
※構成比は小数第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合もある。

1. 居住地域（市町村）別の配布・回収状況

市町村別	配布数（人）	有効回収状況		
		回答数（人）	回収率（%）	構成比（%）
高知市	888	449	50.6	44.2
高知市以外の市	717	375	52.3	36.9
町村	395	185	46.8	18.2
無回答		6		0.6
合 計	2,000	1,015	50.8	100.0

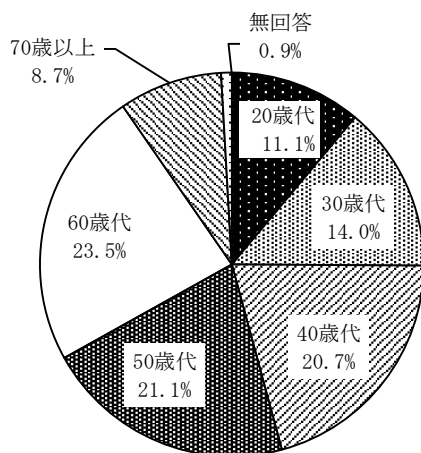
2. 対象者の特性

F 1 性別



区 分	回答数（人）	構成比（%）
男 性	478	47.1
女 性	529	52.1
無回答	8	0.8
合 計	1,015	100.0

F 2 年代別

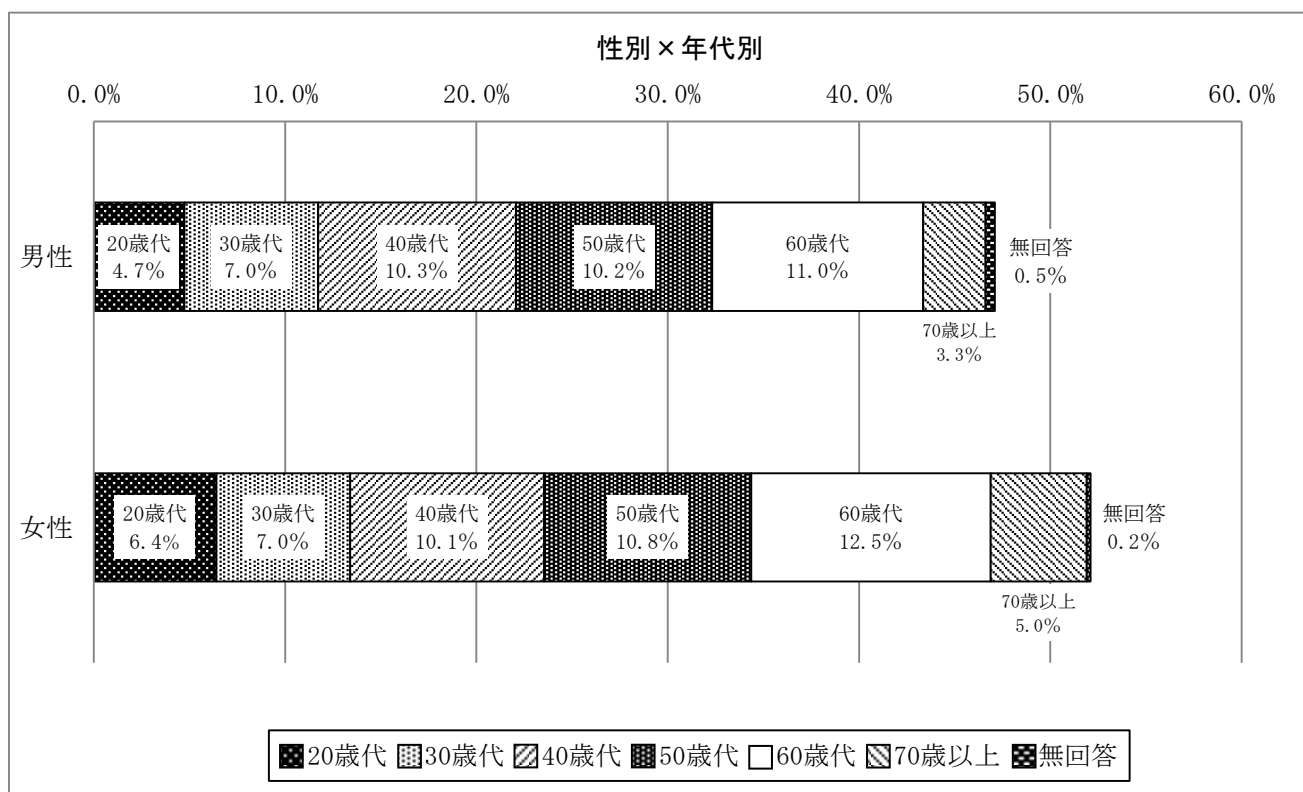


区 分	回答数（人）	構成比（%）
20 歳代	113	11.1
30 歳代	142	14.0
40 歳代	210	20.7
50 歳代	214	21.1
60 歳代	239	23.5
70 歳以上	88	8.7
無回答	9	0.9
合 計	1,015	100.0

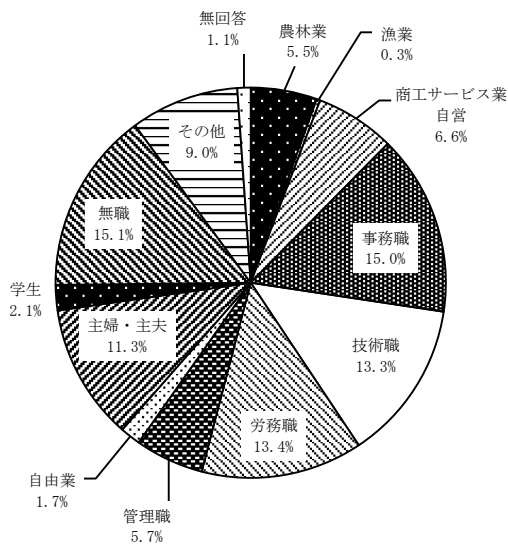
(参考)

○ F 1 性別 × F 2 年代別内訳

	全 体	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	無回答
合 計	1,015	113	142	210	214	239	88	9
	100.0%	11.1%	14.0%	20.7%	21.1%	23.5%	8.7%	0.9%
男 性	478	48	71	105	104	112	33	5
	47.1%	4.7%	7.0%	10.3%	10.2%	11.0%	3.3%	0.5%
女 性	529	65	71	103	110	127	51	2
	52.1%	6.4%	7.0%	10.1%	10.8%	12.5%	5.0%	0.2%

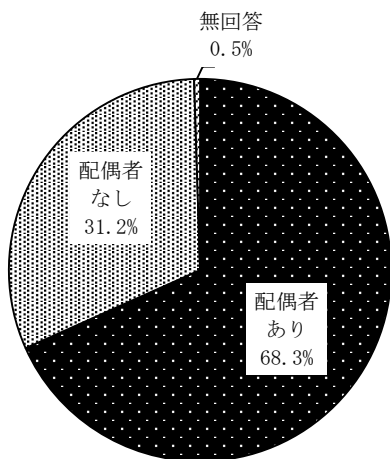


F 3 職業別



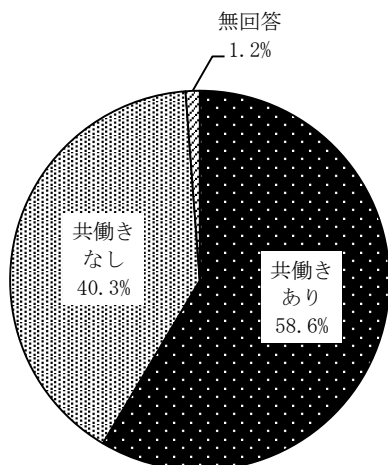
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
農林業	56	5.5
漁 業	3	0.3
商工サービス業自営	67	6.6
事務職	152	15.0
技術職	135	13.3
労務職	136	13.4
管理職	58	5.7
自由業	17	1.7
主婦・主夫	115	11.3
学 生	21	2.1
無 職	153	15.1
その他	91	9.0
無回答	11	1.1
合 計	1,015	100.0

F 4 配偶者の有無



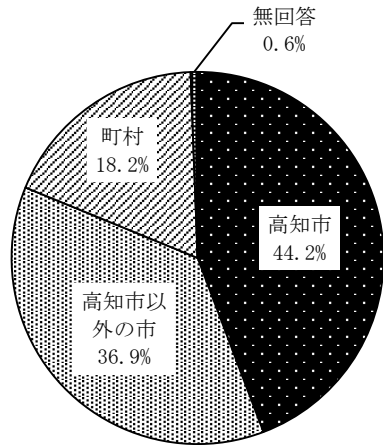
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
配偶者あり	693	68.3
配偶者なし	317	31.2
無回答	5	0.5
合 計	1,015	100.0

F 5 夫婦共働きの有無



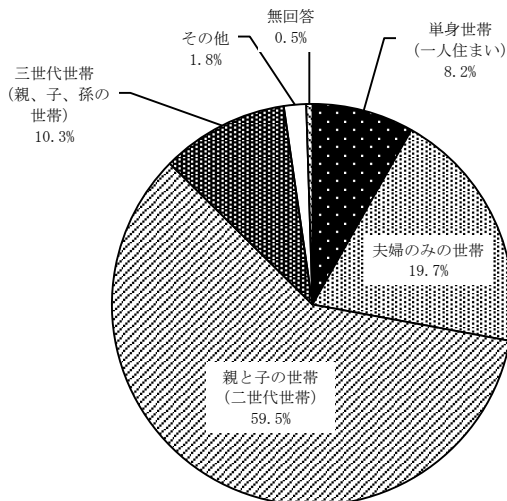
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
共働きあり	406	58.6
共働きなし	279	40.3
無回答	8	1.2
合 計	693	100.0

F 6 居住地域（市町村）別



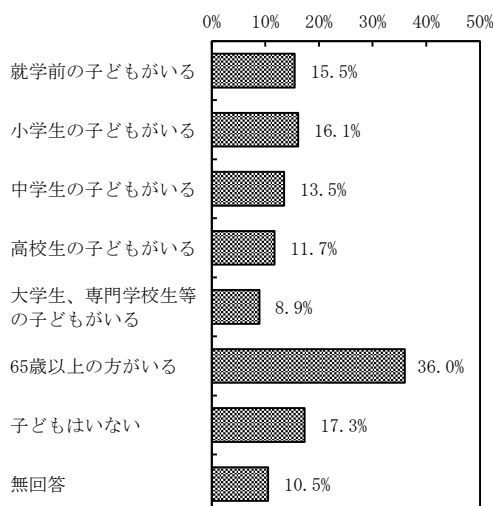
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
高知市	449	44.2
高知市以外の市	375	36.9
町村	185	18.2
無回答	6	0.6
合 計	1,015	100.0

F 7 世帯構成別



区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
単身世帯 (一人住まい)	83	8.2
夫婦のみの世帯	200	19.7
親と子の世帯 (二世帯世帯)	604	59.5
三世帯世帯 (親・子・孫の世帯)	105	10.3
その他	18	1.8
無回答	5	0.5
合 計	1,015	100.0

F 8 同居家族内容別



区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
就学前の子どもがいる	113	15.5
小学生の子どもがいる	117	16.1
中学生の子どもがいる	98	13.5
高校生の子どもがいる	85	11.7
大学生、専門学校生等の子どもがいる	65	8.9
65歳以上の方がいる	262	36.0
子どもはいない	126	17.3
無回答	76	10.5
合 計	727	

IV 調査結果のあらまし

1. 男女平等に関する意識について

◆問1 分野別の男女平等意識

実生活における各分野での男女平等に関する意識については、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を足したもの。以下同。）の割合が最も高いのは「政治の場」で、71.4%を占めている。次いで「社会通念・習慣・しきたり（70.8%、前回 70.7%）」、「社会全体（66.0%、前回 64.9%）」の順である。

また、男女平等と感じている割合が高いのは、「学校教育（71.0%、前回 65.8%）」「地域活動の場（43.2%、前回 41.7%）」「法律や制度の上（37.7%、前回 34.7%）」の順になっている。

(ア) 家庭生活

平成6年度調査からほぼ一貫して『男性優遇』の割合が下がり、平等の割合が上がっている。

性別による認識の差が大きく、男性が『男性優遇』（4.4%+33.7%）が38.1%であったのに対して、女性は『男性優遇』（12.9%+50.7%）が63.6%で、25.5ポイント差が見られた。若い世代ほど『男性優遇』の割合が低く、「平等」の割合が比較的高い傾向にある。

(イ) 職場生活

平成6年度の調査結果と比較すると『男性優遇』の割合は減っているが、平成11年度以降はほぼ横ばいの状態が続いている。性別では、『男性優遇』が男性39.5%、女性52.0%と12.5ポイント、「平等」が男性39.7%、女性26.7%と13ポイントの開きがあった。

夫婦共働きの有無では、「共働き」が『男性優遇』41.8%、「平等」43.3%であったのに対し、「共働きでない」は『男性優遇』51.6%、「平等」21.5%となっており、共働き家庭の方が平等意識が高い。

(ウ) 学校教育

学校教育の分野では、平成6年度調査以降、一貫して「平等」の割合が伸びており、全国と比較しても『男性優遇』の割合が低く（県7.6%、全国13.4%）、「平等」の割合が高い（県71.0%、全国67.0%）。

70歳以上の層で「平等」の割合が55.7%になっている他は、いずれの層でも7割程度が「平等」を選択しており、最も平等意識が高い項目となっている。

(エ) 政治の場

『男性優遇』の割合が最も高い分野であり、前回調査と比較しても『男性優遇』の割合が増えている（59.5→71.4%）。性別では、「男性の方が非常に優遇されている」（男性19.0%、女性33.8%）、「平等」男性22.4%、女性5.9%で男女間に違いが見られる。また、年代別では、20歳代から50歳代では約3割が「男性の方が非常に優遇されている」と回答した一方、60歳代、70歳以上では約2割と低くなっている。

(オ) 地域活動の場

地域活動の場における男女平等の意識については、前回調査と比較していずれもほぼ横ばいの状態で、ほとんど変化は見られず、「平等」（43.2%）は「学校生活」分野に次いで高い。性別では、『男性優遇』11.7ポイント（男性25.7%、女性37.4%）、「平等」12.5ポイント（男性49.6%、37.1%）と男女差が見られ、また、年代別では、『男性優遇』の割合が若い世代ほど低くなっている。

(カ) 法律や制度の上

法律や制度上における男女平等の意識については、『男性優遇』の割合が平成11年度以降、ほぼ横ばい傾向にあったものが約4ポイント増加した。性別では、『男性優遇』とした割合が男性の24.9%に対し、女性は47.4%とほぼ半数が『男性優遇』だと感じている。年代別でみると、20歳代、30歳代、70歳以上は『男性優遇』とした割合が約32%だが、40歳代から50歳代は約41%、60歳代は36.8%と比較的高い。

(キ) 社会通念・習慣・しきたり

県民の70.8%が『男性優遇』だと感じている。性別では、『男性優遇』が男性62.5%、女性78.4%と15.9ポイント差が生じている。「平等」の意識は、男性19.2%、女性8.7%で、10.5ポイント差があるものの、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合では、男性52.9%、女性56.3%と、大きな差は見られない。

(ク) 社会全体

66.0%が『男性優遇』としており、前回調査からの変化がほとんど見られない。

性別では、『男性優遇』が男性の55.0%、女性の76.0%、「平等」と感じているのは、男性23.8%、女性8.7%と男女差が見られる。年代別では、『男性優遇』と回答した割合は、20歳代55.8%、30歳代62.0%と若い世代ほど低くなっているが、「平等」の割合はどの世代も大きな差は見られない。

2. 家庭生活について

◆問2 家庭における男女の役割分担の理想と現実

夫婦の理想の役割分担としては、「夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」が44.5%と最も高率で、2位以下を大きく引き離れた。

一方、現実の役割分担は、「夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する」(41.1%)、「夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する」(23.3%)の順で、理想と現実にはまだ大きな隔たりが見られる。

◆問3 家庭における理想的な男女の役割分担実現に必要なこと。

今回新たに追加された質問である。家庭における夫婦の理想的な役割分担を実現するために必要だと考えることを、複数回答で確認したところ、6割近くもの県民が「夫婦や家族間で、コミュニケーションを増やすこと」と回答している。

3. 女性が働きやすい環境づくりについて

◆問4 女性の働き方の理想と現実について

女性の働き方の理想は、「結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける」(31.4%)、「子どもができたらか仕事をやめ、大きくなったらフルタイムで仕事を続ける」(18.8%)の順で、実際の働き方は、「結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける」(39.8%)、「子どもができたらか仕事をやめ、大きくなったらパートタイムで仕事を続ける」(16.4%)と続いた。

結婚や出産に関わらずフルタイムの勤務を望み、実際にその働き方を選択している女性が多い一方、子育て終了後の再就職(フルタイム及びパートタイム)など柔軟な働き方を理想としながらも、様々な事情からフルタイムで働き続けざるを得ない女性が少なからずいる状況が見受けられる。

◆問5 理想的な女性の働き方を実現するために必要なこと

(1) 家族や地域において必要なこと。

最も高率だったのが、「男性が、家事・育児・介護などに参加すること」(58.3%)で、6割近くの県民が選択している。次いで、「家族が、女性が働くことについて理解すること」(42.4%)、「周りに、子育てや介護をする

うえで助けてくれる仲間がいること」(38.4%)と続いている。

性別では、男性は「家族が、女性が働くことについて理解すること(45.4%、女性39.5%)」、女性は「周りに、子育てや介護をするうえで助けてくれる仲間がいること(44.2%、男性31.8%)」と続き、女性が働くことについて、男性は自分も含めた家族の理解が必要であると考え、一方、女性は周囲の手助けを重視していることが分かる。

(2) 企業など職場において必要なこと。

「仕事と子育てや介護の両立について、職場(上司・同僚・部下)の理解が得られること(51.9%)」及び「育児休業や介護休業などが整っている、または、取得しやすい雰囲気があること(43.6%)」の2つの項目が高率である。

(3) 行政の取組において必要なこと。

理想的な女性の働き方を実現するために、行政が行う必要があることとしては、「保育サービスの充実(40.3%)」、「出産や育児、介護でいったん退職した女性の再就職の支援(29.7%)」、「児童手当など子育てに関する経済的な支援の充実(27.8%)」、「放課後児童クラブや放課後子ども教室などが充実すること(23.6%)」の順になっている。

4. ドメスティック・バイオレンス / セクシャル・ハラスメントについて

◆問6 配偶者等からの行為に対する暴力認識

身体に直接的な被害を及ぼす行為については、「どんな場合も暴力に当たる」を選択した割合が高く(約85%~95%)、「暴力の場合とそうでない場合がある」をあわせると、95%以上の県民が暴力だと認識している。

一方、身体に直接的な被害を及ぼさない精神的な行為等については、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が、身体に直接的な被害を及ぼす行為よりも高くなっているものの、85%以上の県民が暴力だと認識している。

前回調査と比較すると、ほとんどの項目で前回調査時点よりも「暴力に該当する(「どんな場合も」「時により」)」と回答する割合が高くなっており、DVに対する県民の理解、認識が高まっていることが伺える。

◆問7 DV経験、見聞有無

「直接、経験したことがある」と回答したのは20.6%で、前回調査時の28.1%と比較して7.5ポイント減少した。一方、「身近に見聞きしたことがある」と回答した割合は38.7%で、前回調査時の20.1%と比較すると2倍弱に増加していることから、周囲の人も問6に列挙した行為がDVだと認識するようになってきたことが想定される。

なお、「経験したこともないし、見聞きしたこともない」と回答した割合については39.3%と、前回調査の39.2%とほぼ同率で推移している。

◆問8 DVの加害及び被害経験有無及び頻度

それぞれの項目において、何らかのDV経験があると回答した割合(全体から「どちらでもない・無回答」の割合を引いたもの)は、「大声でどなる、罵倒する」が70.8%、「小バカにするようなことを言ったり、態度を取る」が65.6%、「素手で殴ったり、足でける」が56.9%の順で高率となっている。

◆問8〈副問1〉 DV行為について相談(打ち明けた)相手

DV行為について、打ち明けたり、相談した相手について複数回答で質問したところ、「どこ(だれ)にも相談しなかった」割合が43.5%(男性58.0%、女性32.8%)で最も高率であるが、前回調査51.4%と比較すると7.9ポイント減少している。

◆問8〈副問2〉 DV行為について相談しなかった理由

「相談するほどのことではないと思ったから」(42.9%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(24.2%)、「相談しても解決しないので、無駄だと思ったから」(24.2%)の順で高率であった。

◆問9 DVや性暴力などの行為の予防や根絶のために必要なこと

DVや性暴力などの行為を予防し、なくすためには、何を行う必要があるのかを複数回答で質問したところ、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やし、窓口の周知を図る」が50.5%(男性47.1%、女性53.7%)、「法律、制度の制定や見直しを行い、加害者への罰則を強化する」が44.3%(男性46.7%、女性42.3%)、「学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や暴力を防止するための教育を行う」が38.7%(男性35.4%、女性41.6%)の順で高率であった。

◆問10 セクシュアル・ハラスメントだと思うこと

セクシュアル・ハラスメントに該当すると思う行為については、「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する」(86.9%)、「相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体にさわる」(80.2%)、「相手が嫌がっているのに、性的なことを話題にする」(75.7%)の順であった。順位及び割合とも、前回調査時点とほぼ変わりはない。

5. 男女共同参画の推進について

◆問11 男女共同参画関連用語等周知度

最も認識が高かったのは、「セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)」で88.9%、次いで「DV(ドメスティック・バイオレンス)」86.8%と9割近くの県民が「内容を知っている」と回答した。その後は、「男女雇用機会均等法(51.1%)」、「育児・介護休業法(44.4%)」と続いた。

「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を足した割合では、「セクハラ(95.0%)」、「DV(93.6%)」、「育児・介護休業法(83.0%)」、「男女雇用機会均等法(82.1%)」の順で高い。

「内容を知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が最も低かったのは、「クオーター制(3.3%+15.3%)」で、「高知家のしごと応援室(3.6%+21.0%)」(H26.6開所)、「次世代育成支援対策推進法(5.7%+26.6%)」、「女子差別撤廃条約(10.0%+25.1%)」と続いている。

◆問12 男女共同参画社会実現のために力を入れていくべきこと

男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきか、複数回答で質問したところ、「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること(46.4%)」、「法律や制度の面で見直しを行い、男女差別につながるものを改めること(41.2%)」、「労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること(37.7%)」と続いた。

◆問13 男女共同参画社会実現のためにできること

男女共同参画社会を実現するために自分に何ができるかについて、複数回答で質問を行ったところ、「家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする(68.5%、前回69.8%)」、「『男らしく、女らしく』から『その子らしく』子育てをする(43.7%、前回50.4%)」、「職場で男女平等意識を浸透させる(36.3%、前回27.6%)」の順であった。

前回調査と比較して、割合が伸びたのは上から、「職場で男女平等意識を浸透させる」で8.7ポイントアップ、「男女共同参画について学ぶ(30.1%、前回22.2%)」で7.9ポイントアップであった。逆に割合が下がったのは、『男らしく、女らしく』から『その子らしく』子育てをする」で6.7ポイントダウンとなった。

V 調査結果

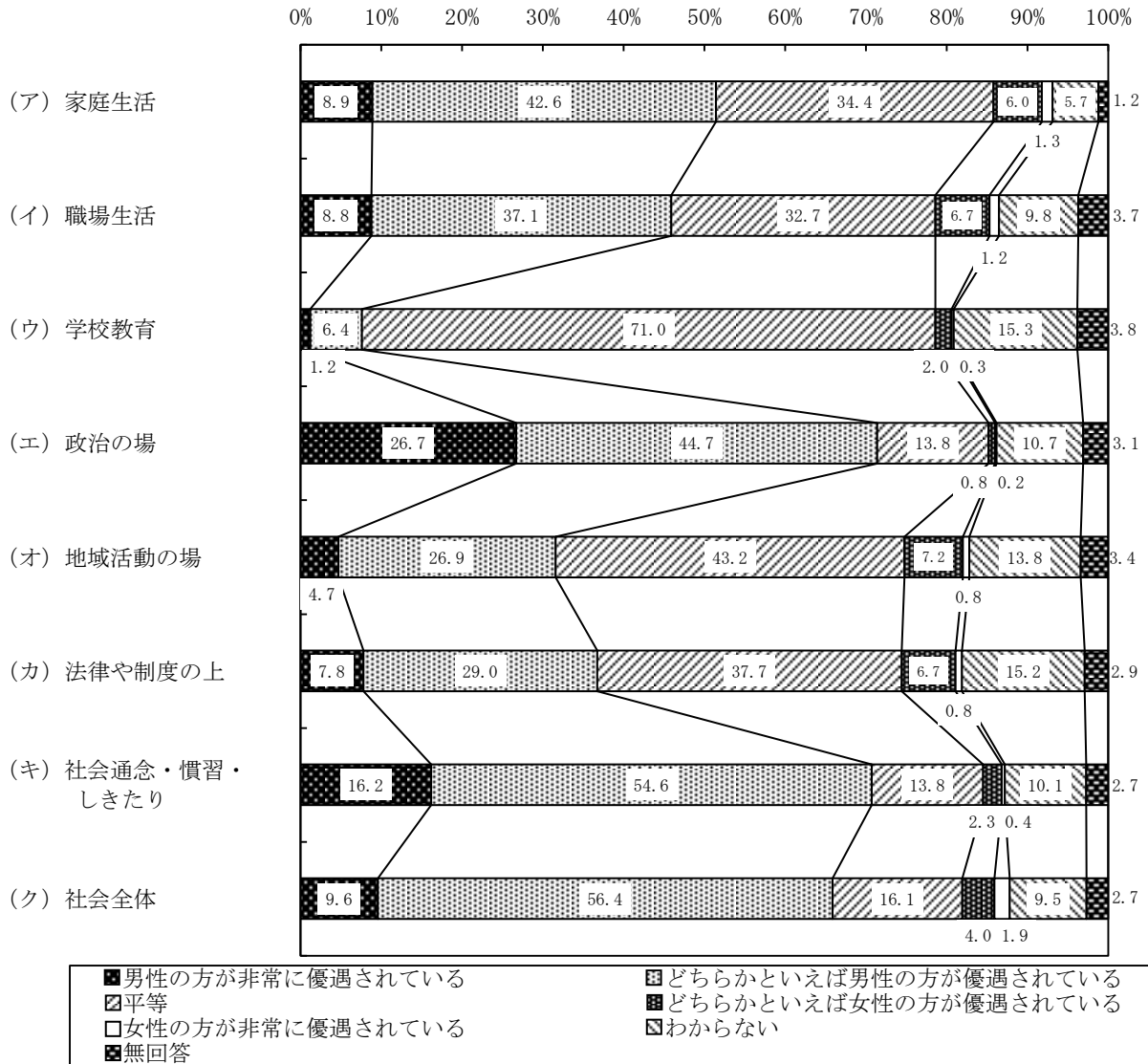
[解説・グラフ]

◆ 1. 男女平等に関する意識について

問1 次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (ア)から(ク)までの各分野ごとに、あなたの気持ちに最も近い内容の選択肢を1つだけ選択して下さい。
 【全員回答】

[N=1,015、選択数：各1]

図表1-1 分野別の男女平等意識「全体」
 [総合：N=1,015、選択数：各1]

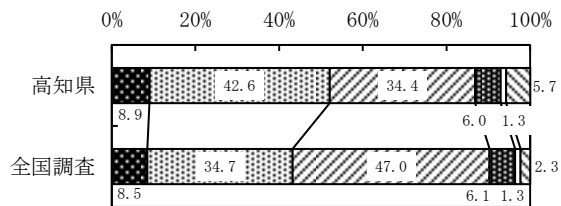


実生活における各分野での男女平等に関する意識については、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を足したもの。以下同。）の割合が最も高いのが、「政治の場」で71.4%を占めており、前回調査（59.5%）と比較すると約12ポイント増えている。次いで「社会通念・慣習・しきたり（70.8%、前回70.7%）」は0.1ポイント、「社会全体（66.0%、前回64.9%）」は1.1ポイント増加が見られた。

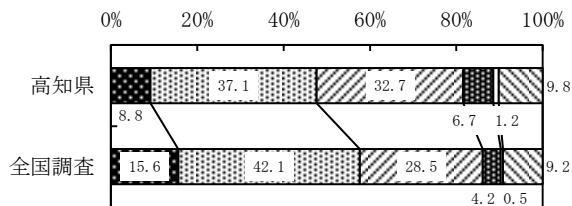
また、男女平等と感じている割合が高いのは、「学校教育（71.0%、前回65.8%）」「地域活動の場（43.2%、前回41.7%）」「法律や制度の上（37.7%、前回34.7%）」の順になっている。
 なお、いずれの項目も、「平等」と回答した割合は、女性よりも男性の方が高かった。

図表1-2 分野別の男女平等意識（全国調査※との比較） [高知：N=1,015、全国：N=3,033、選択数：各1]

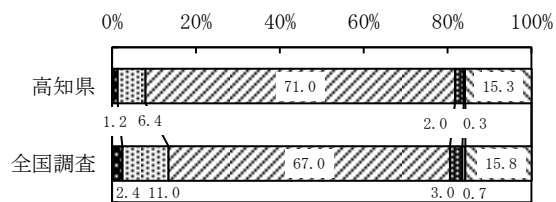
(ア) 家庭生活



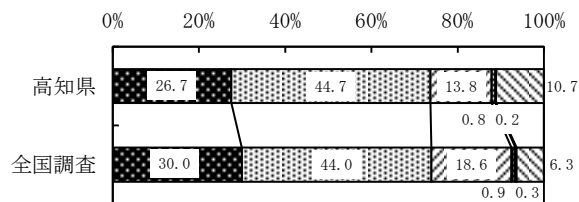
(イ) 職場生活



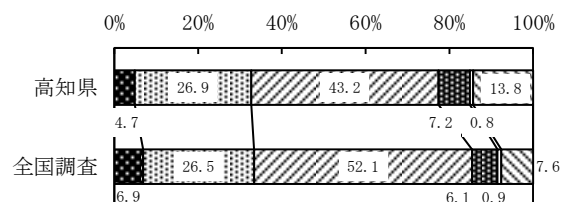
(ウ) 学校教育



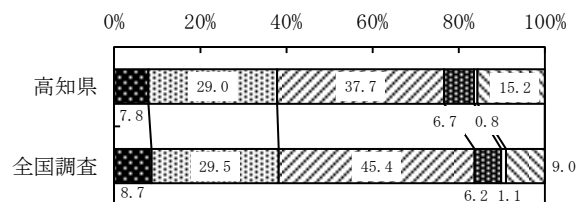
(エ) 政治の場



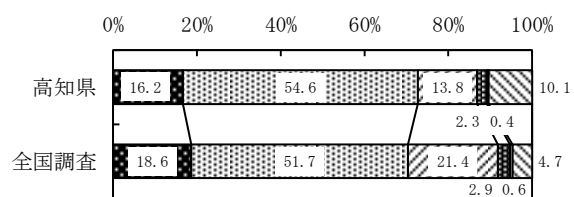
(オ) 地域活動の場



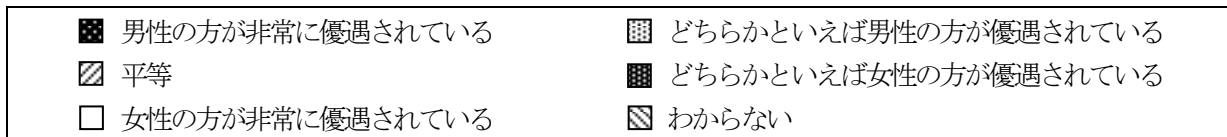
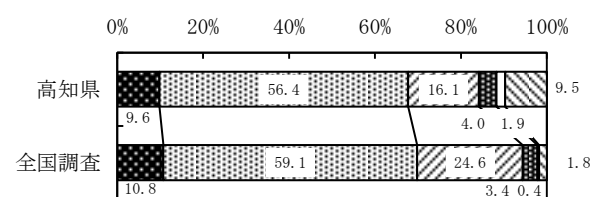
(カ) 法律や制度の上



(キ) 社会通念・習慣・しきたり



(ク) 社会全体



※「全国調査」出典：

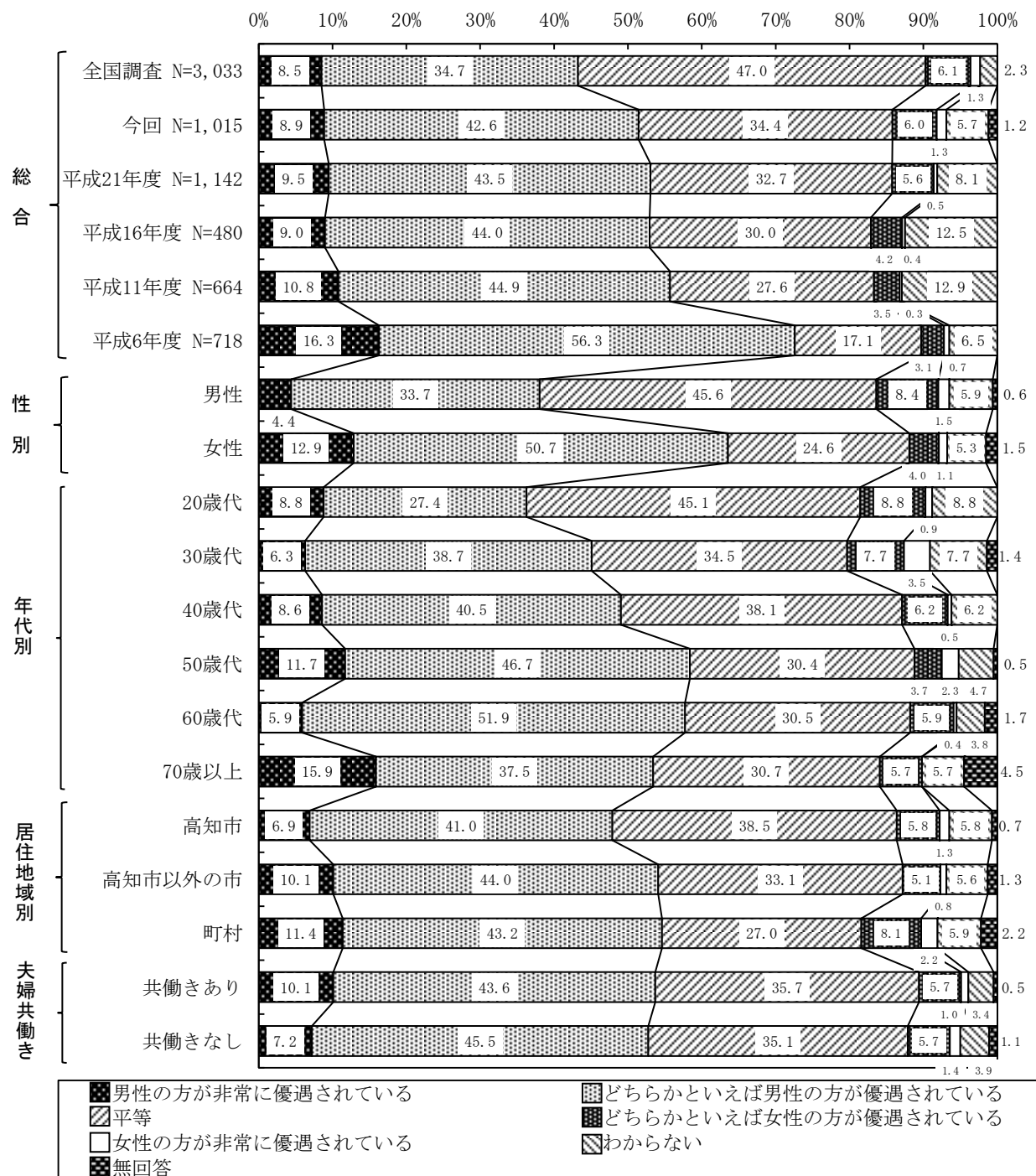
平成24年度「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府男女共同参画局調べ）

全国調査と比較すると、『男性優遇』の割合が、「家庭生活」（51.5%、全国 43.2%）、「社会通念・習慣・しきたり」（70.8%、全国 70.3%）では、わずかに高知県の方が高いものの、他の項目では全国の割合の方が高い。

また、「平等」と答えた人の割合が全国より高いのは、「職場生活」（32.7%、全国 28.5%）、「学校教育」（71.0%、全国 67.0%）の二分野のみである。

(ア) 家庭生活

図表1-3 分野別の男女平等意識「家庭生活」 [総合：N=1,015、選択数：1]

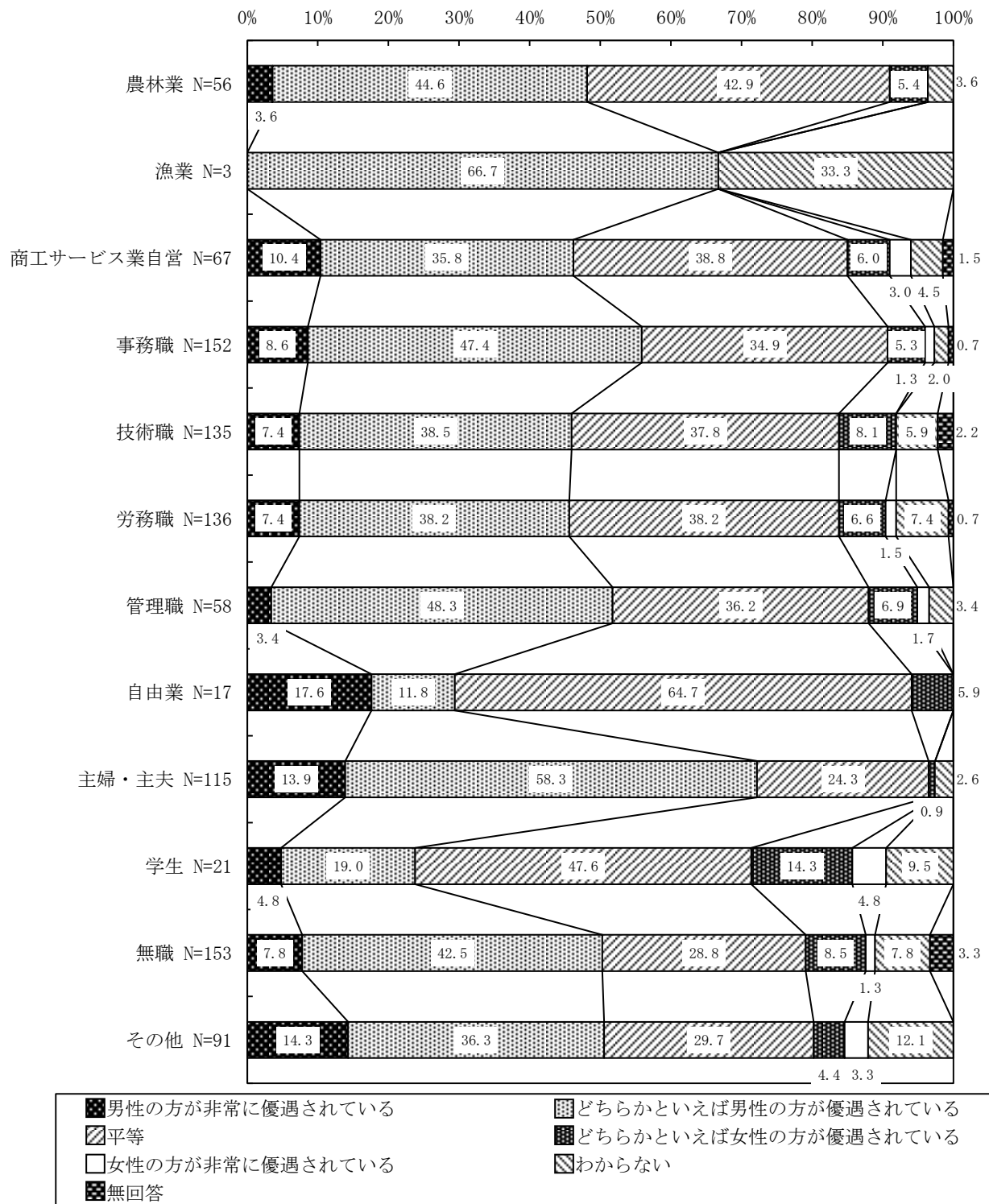


平成6年度調査からはほぼ一貫して『男性優遇』の割合が下がり、平等の割合が上がっている。

他の項目に比べて、男女による認識の差が大きく、男性が『男性優遇』(4.4%+33.7%)が38.1%であったのに対して、女性は『男性優遇』(12.9%+50.7%)が63.6%で、25.5ポイント差が見られた。また「平等」だと回答した割合も、男性が45.6%であったのに対して、女性は24.6%と認識に差が見られた。前回調査では、『男性優遇(男性42.2%、女性61.7%)』、「平等(男性41.9%、女性25.4%)」であったことから、男女間の意識の隔たりがより大きくなっていると言える。

なお、年代別で見ると、若い世代ほど『男性優遇』の割合が低く、「平等」の割合が比較的高い傾向にあることから、家庭における男女平等の意識が高まってきていることが伺える。

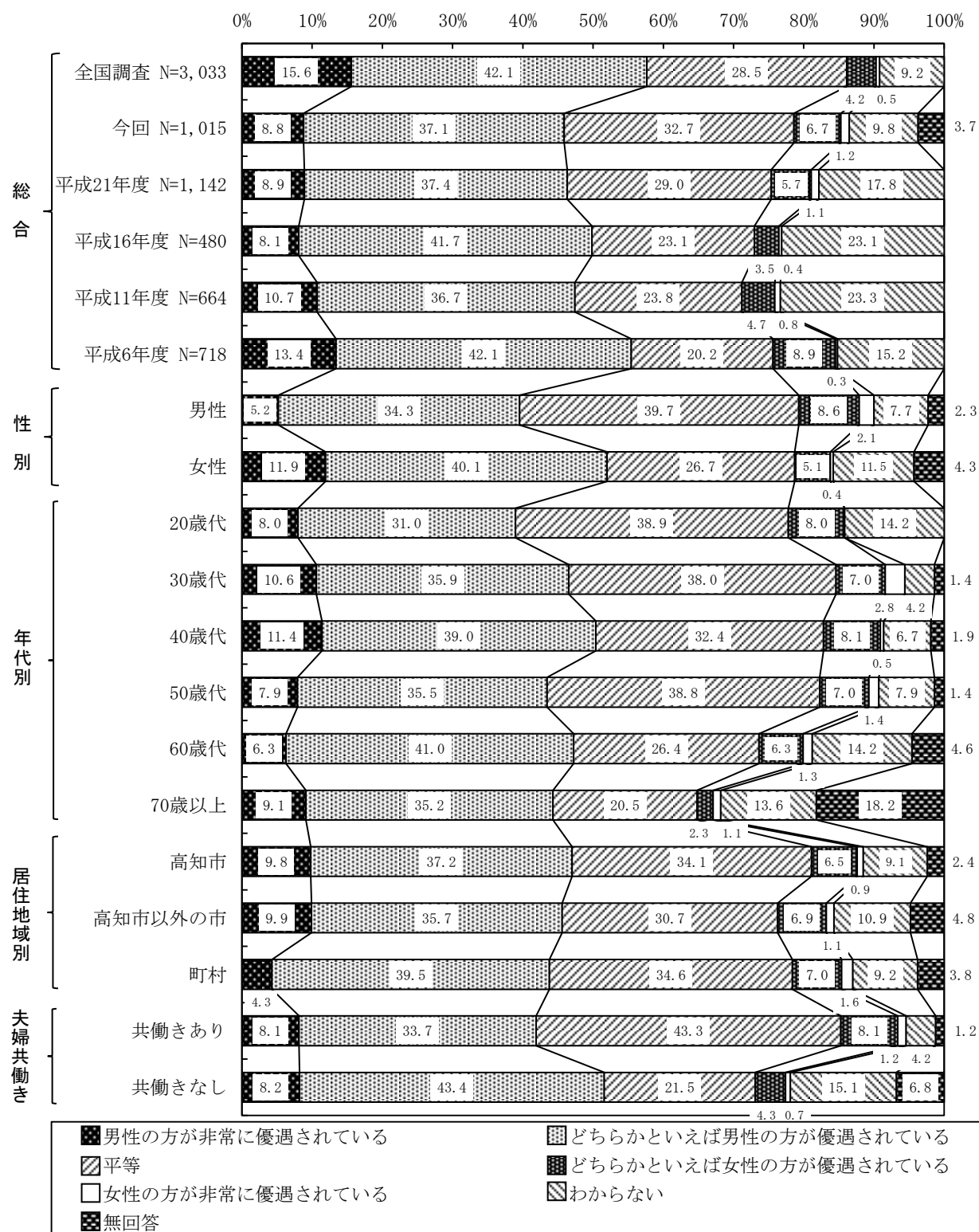
図表 1-4 分類別の男女平等意識「家庭生活」(職業別) [職業別：N=1,015、選択数：1]



職業別でみると、『男性優遇』の割合が低いのは「学生 (23.8%)」と「自由業 (29.4%)」で、平等意識についても「自由業 (64.7%)」「学生 (47.6%)」の順で高かった。一方、『男性優遇』の割合が最も高かったのは、「主婦・主夫 (72.2%)」であった。

(イ) 職場生活

図表 1-5 分野別の男女平等意識「職場生活」 [総合：N=1,015、選択数：1]

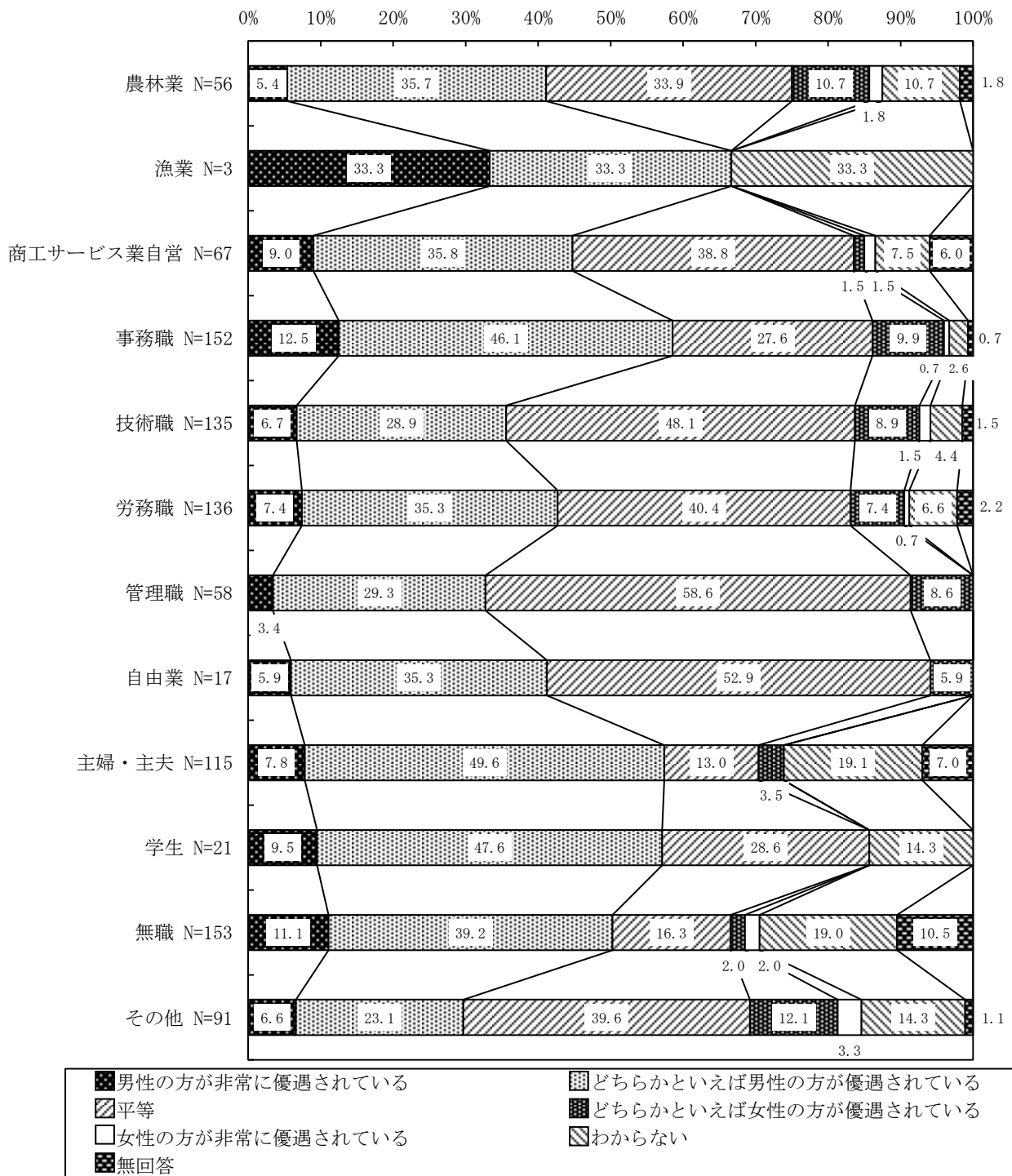


平成6年度の調査結果と比較すると『男性優遇』の割合は減っているが、平成11年度以降はほぼ横ばいの状態が続いている。ただし、「わからない」の割合が減り、「平等」とした割合はわずかながら増加傾向にある。

性別では、『男性優遇』が男性39.5%、女性52.0%と12.5ポイント、「平等」が男性39.7%、女性26.7%と13ポイントの開きがあった。

夫婦共働きの有無では、「共働き」が『男性優遇』41.8%、「平等」43.3%であったのに対し、「共働きでない」は『男性優遇』51.6%、「平等」21.5%となっており、共働き家庭の方が平等意識が高いことがわかった。

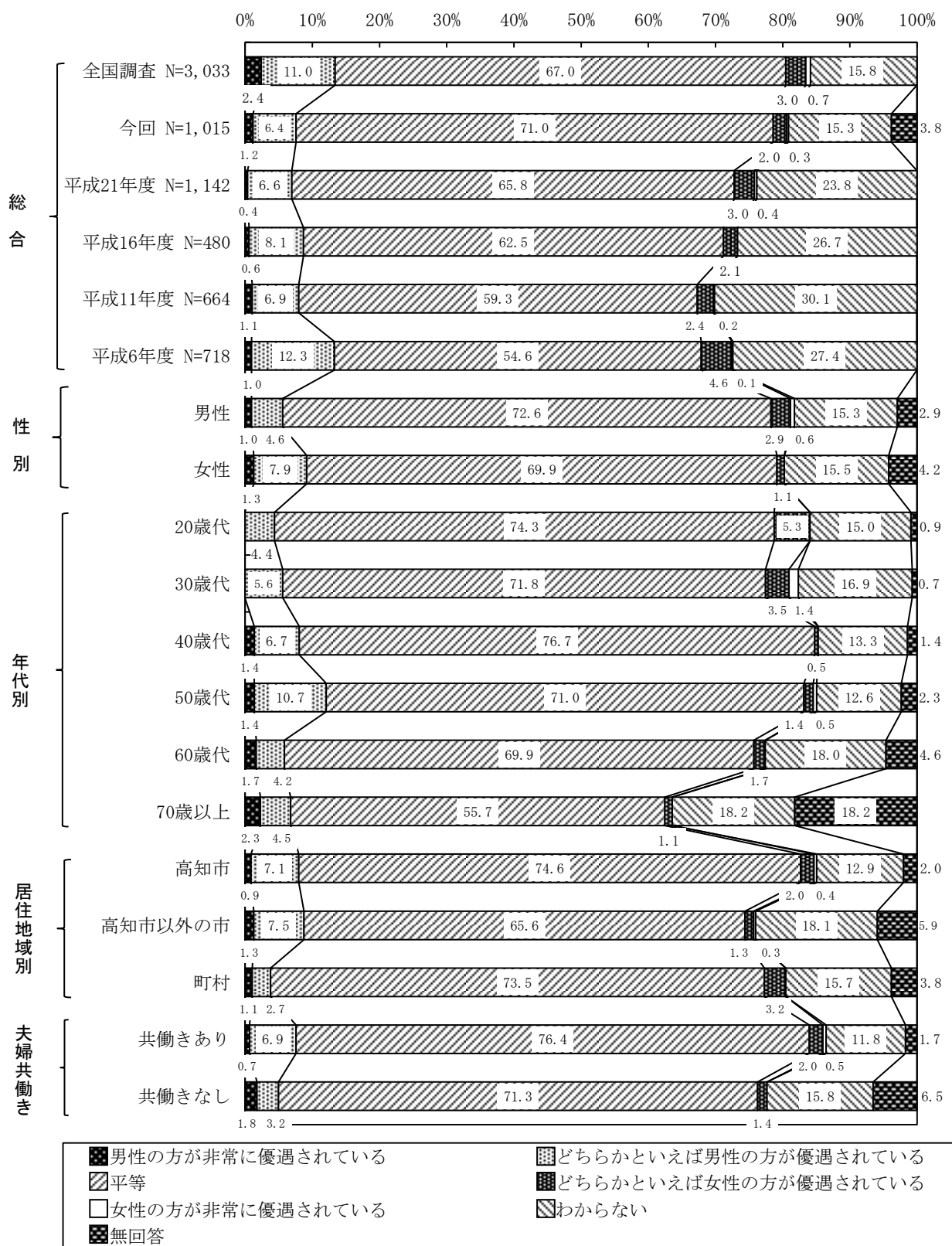
図表 1-6 分野別の男女平等意識「職場生活」(職業別) [職業別：N=1,015、選択数：1]



職業別でみると、「家庭生活」分野で『男性優遇』の割合が低く、「平等」の割合が高かった「自由業」と「学生」で『男性優遇』の割合が大きく増え、逆に「家庭生活」分野では『男性優遇』の割合が高かった「管理職」で「平等」の割合が大きく増えている (36.2%→58.6%)。

(ウ) 学校教育

図表 1-7 分野別の男女平等意識「学校教育」 [総合：N=1,015、選択数：1]

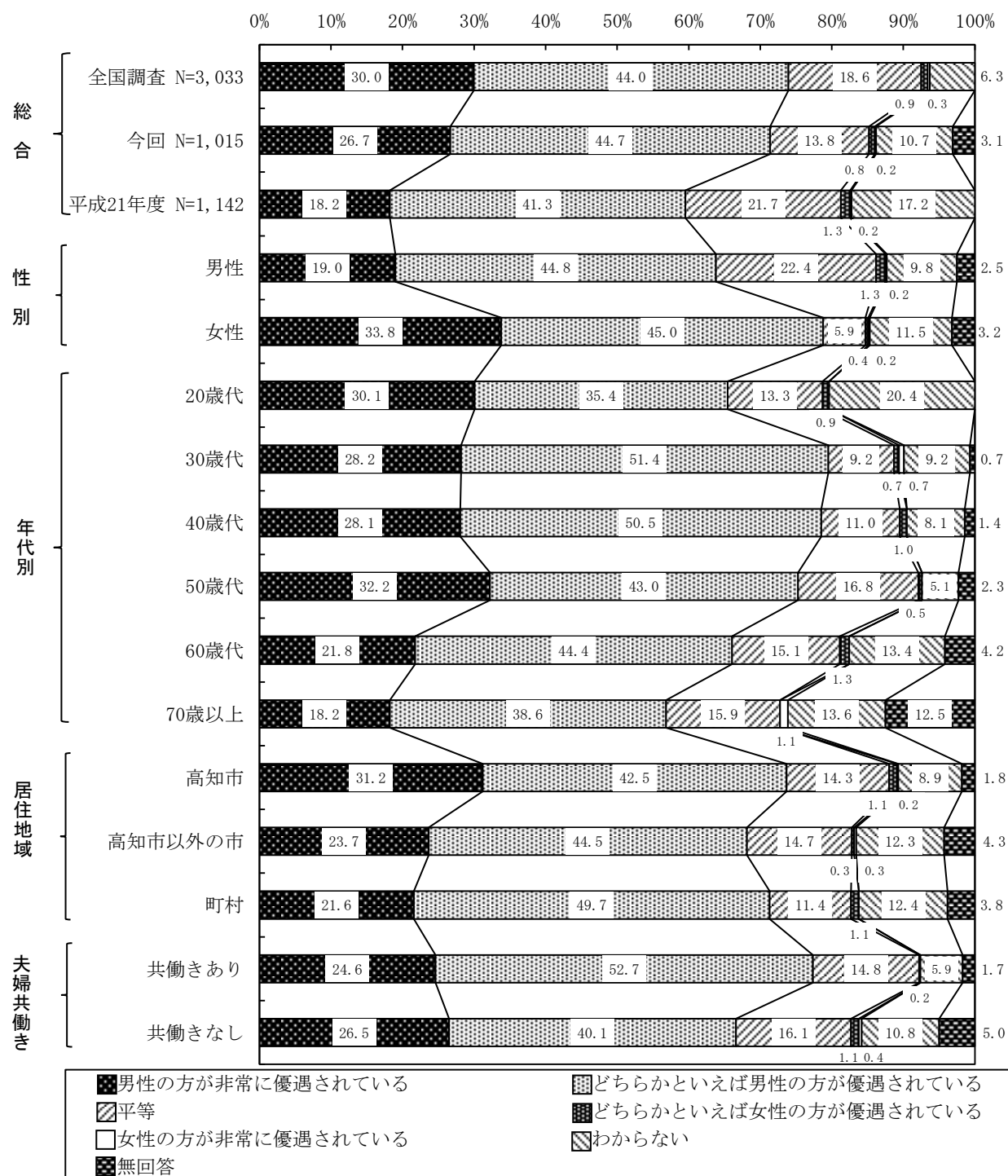


学校教育の分野では、平成6年度調査以降、一貫して「平等」の割合が伸びており、全国と比較しても『男性優遇』の割合が低く（県7.6%、全国13.4%）、「平等」の割合が高い（県71.0%、全国67.0%）。

70歳以上の層で「平等」の割合が55.7%になっている他は、いずれの層でも7割程度が「平等」を選択しており、最も平等意識が高い項目となっている。

(工) 政治の場

図表 1-8 分野別の男女平等意識「政治の場」 [総合：N=1,015、選択数：1]



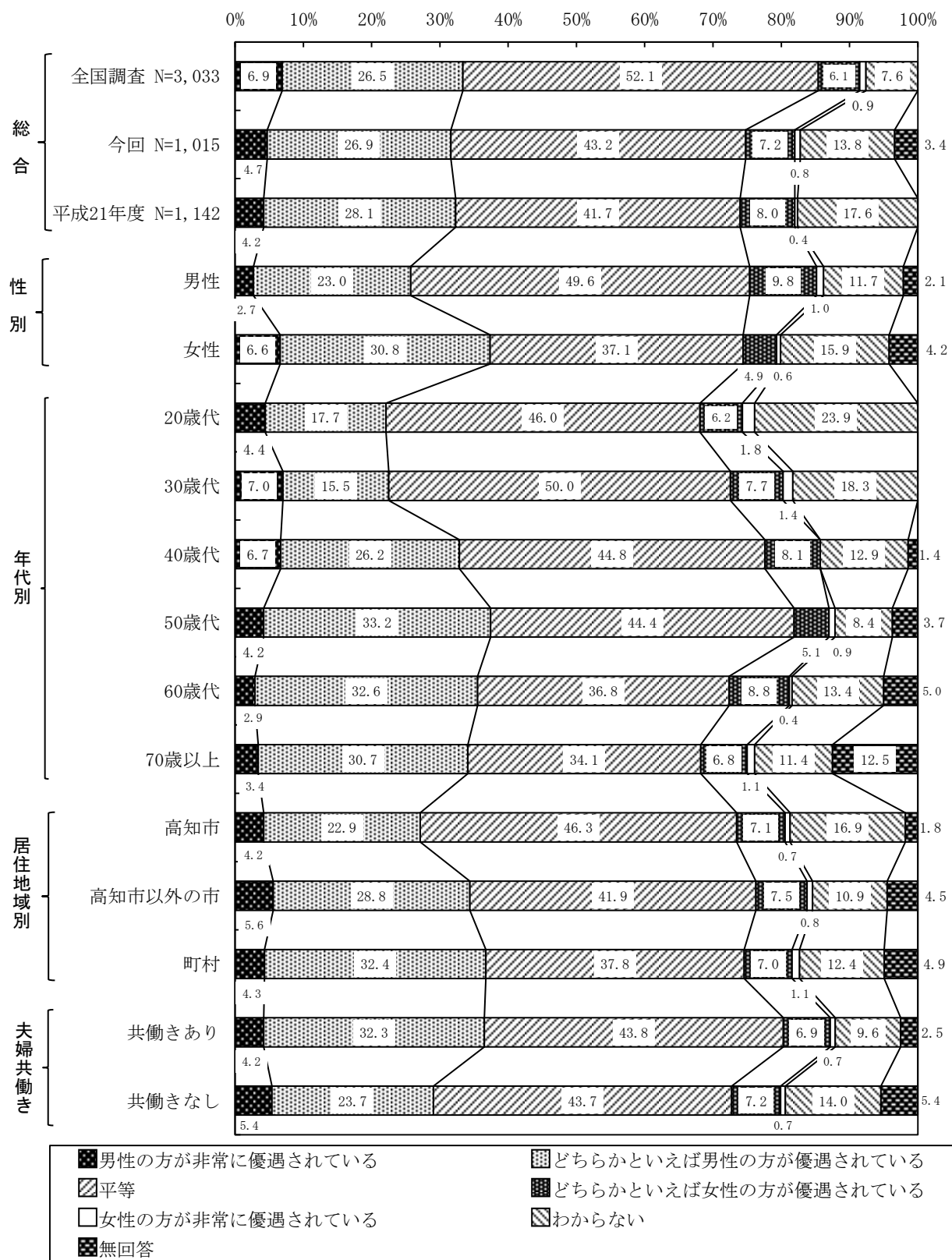
『男性優遇』の割合が最も高い分野であり、前回調査と比較しても『男性優遇』の割合が増えている(59.5→71.4%)。性別では、「男性の方が非常に優遇されている」(男性19.0%、女性33.8%)、「平等」(男性22.4%、女性5.9%)で男女間に違いが見られる。

年代別では、20歳代から50歳代では約3割が「男性の方が非常に優遇されている」と回答した一方、60歳代、70歳以上では約2割と低くなっている。

夫婦共働き有無別では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」で「共働きあり」(52.7%)、「共働きなし」(40.1%)と12.6ポイントの差が見られるが、ほかの選択肢ではほとんど差が見られない。

(オ) 地域活動の場

図表 1-9 分野別の男女平等意識「地域活動の場」 [総合：N=1,015、選択数：1]

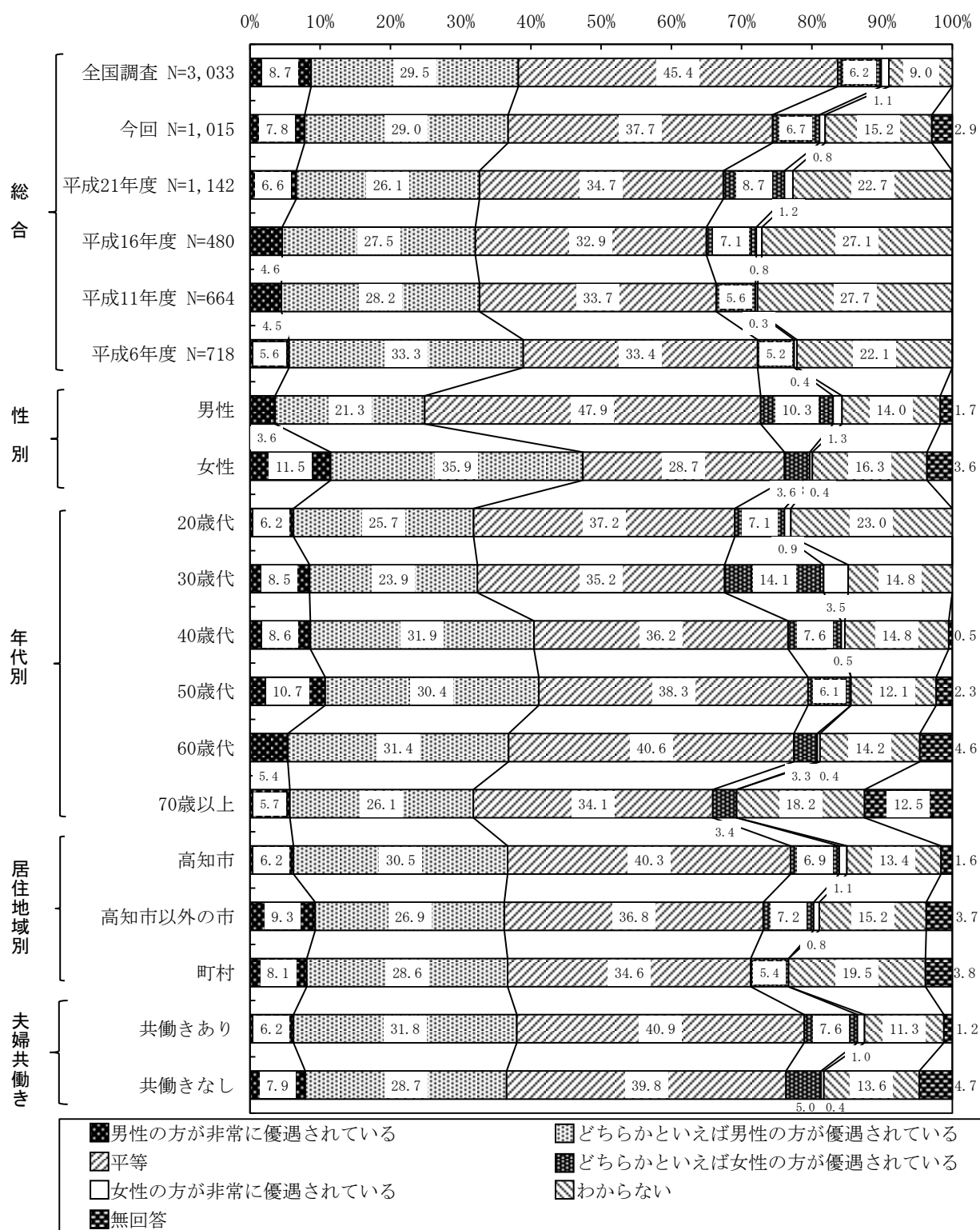


地域活動の場における男女平等の意識については、前回調査と比較していずれもほぼ横ばいの状態で、ほとんど変化は見られず、「平等」(43.2%)は「学校生活」分野に次いで高い。

性別では、『男性優遇』11.7ポイント(男性25.7%、女性37.4%)、「平等」12.5ポイント(男性49.6%、37.1%)と男女差が見られ、また、年代別では、『男性優遇』の割合が若い世代ほど低くなっている。

(カ) 法律や制度の上

図表 1-10 分野別の男女平等意識「法律や制度の上」 [総合：N=1,015、選択数：1]



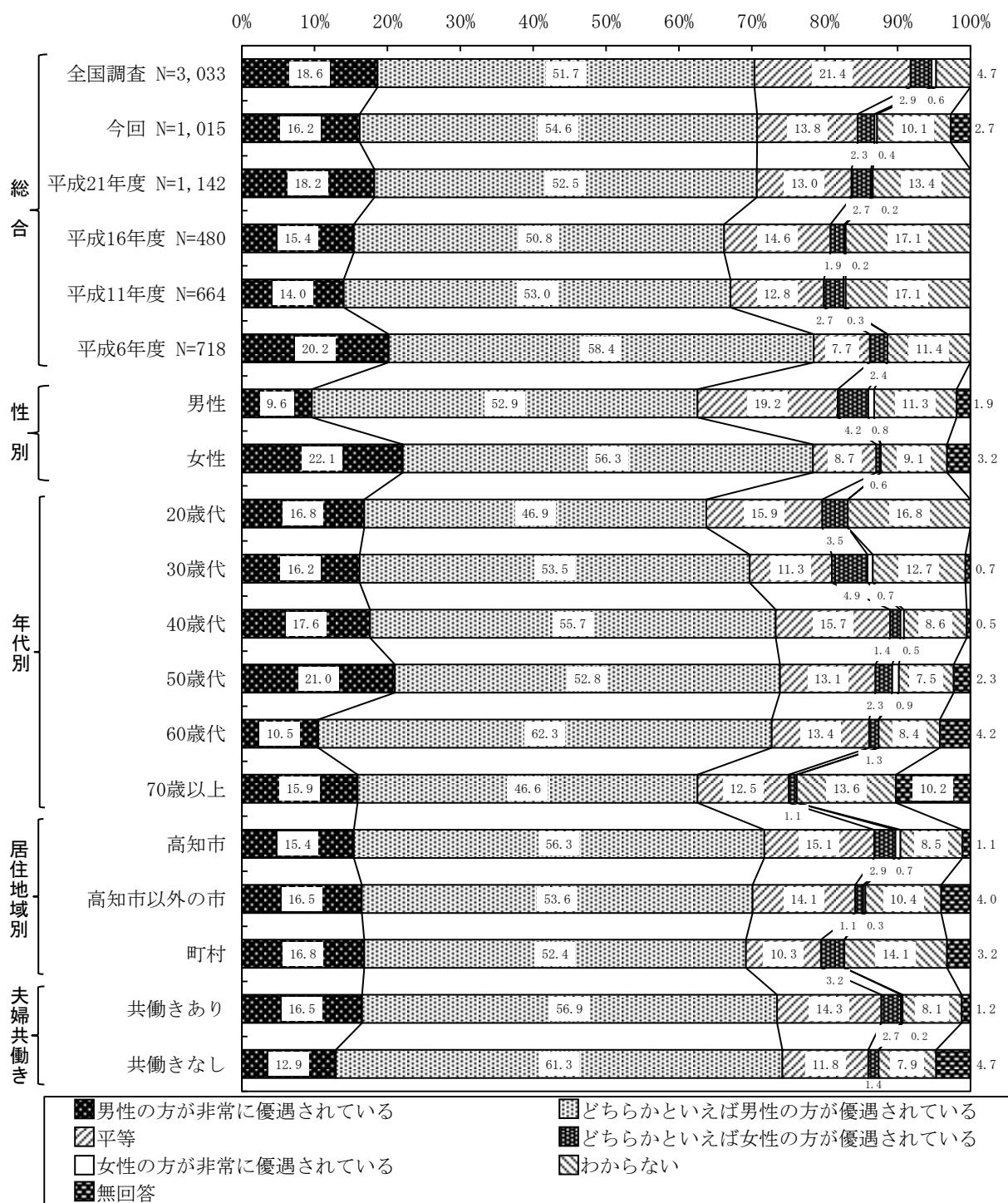
法律や制度上における男女平等の意識については、『男性優遇』の割合が平成11年度以降、ほぼ横ばい傾向にあったものが約4ポイント増加した。

性別では、『男性優遇』とした割合が男性の24.9%に対し、女性は47.4%とほぼ半数が『男性優遇』だと感じている。一方「平等」とした割合は、女性が28.7%であるのに対して、男性は47.9%と約半数と逆転している。

年代別でみると、20歳代、30歳代、70歳以上は『男性優遇』とした割合が約32%だが、40歳代から50歳代は約41%、60歳代は36.8%と比較的高い。

(キ) 社会通念・慣習・しきたり

図表 1-11 分野別の男女平等意識「社会通念・慣習・しきたり」 [総合：N=1,015、選択数：1]



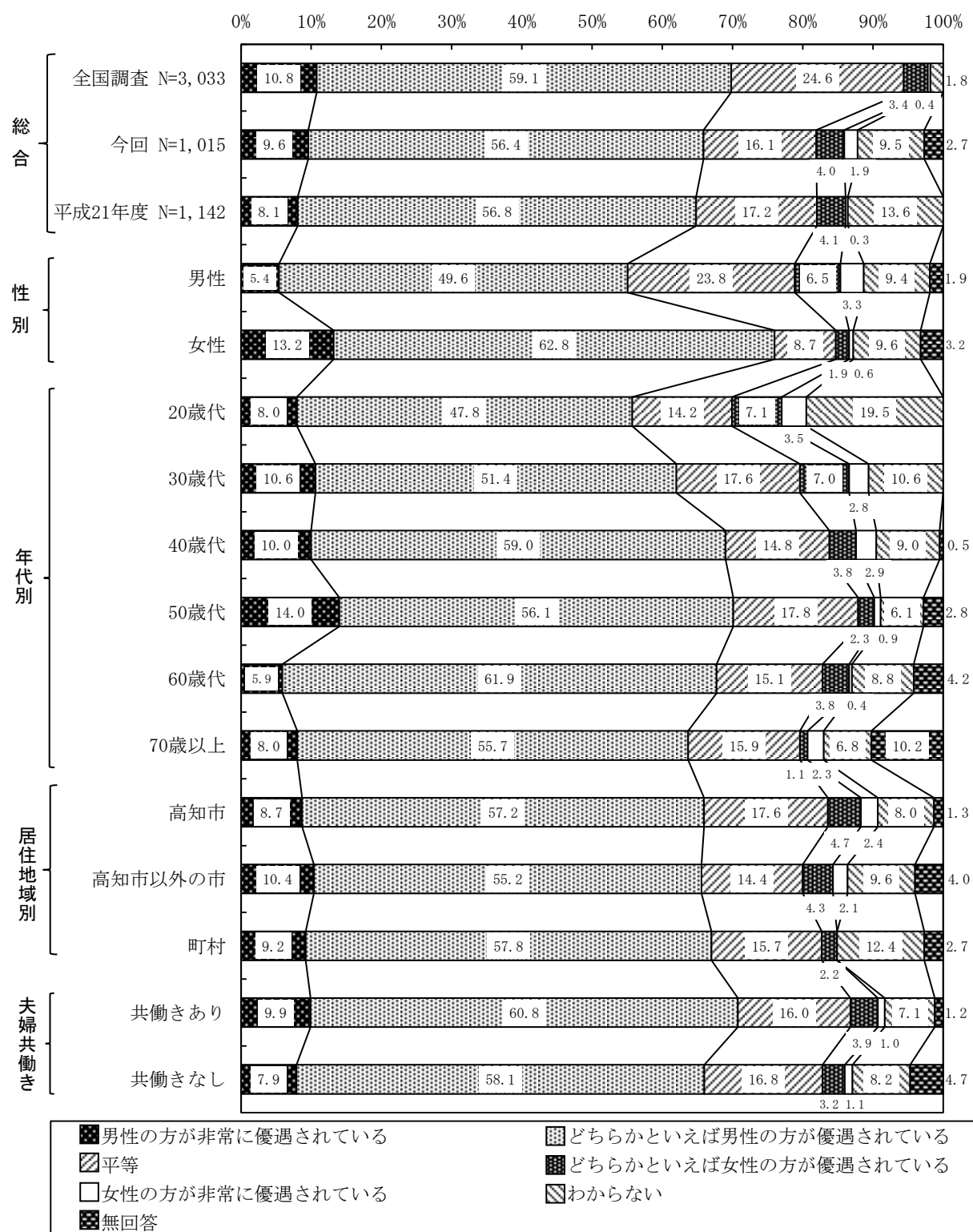
「社会通念・慣習・しきたり」の分野は、「政治の場」に次いで『男性優遇』の割合が高い。

県民の70.8%が『男性優遇』だと感じており、平成6年度調査時点の78.6%をピークに、平成11年度、16年度調査で一旦減少した後、前回調査より増加し、横ばいで推移している。

性別では、『男性優位』が男性62.5%、女性78.4%と15.9ポイント差が生じている。「平等」の意識は、男性19.2%、女性8.7%で、10.5ポイント差があるものの、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合では、男性52.9%、女性56.3%と、大きな差は見られない。

(ク) 社会全体

図表 1-12 分野別の男女平等意識「社会全体」 [総合：N=1,015、選択数：1]

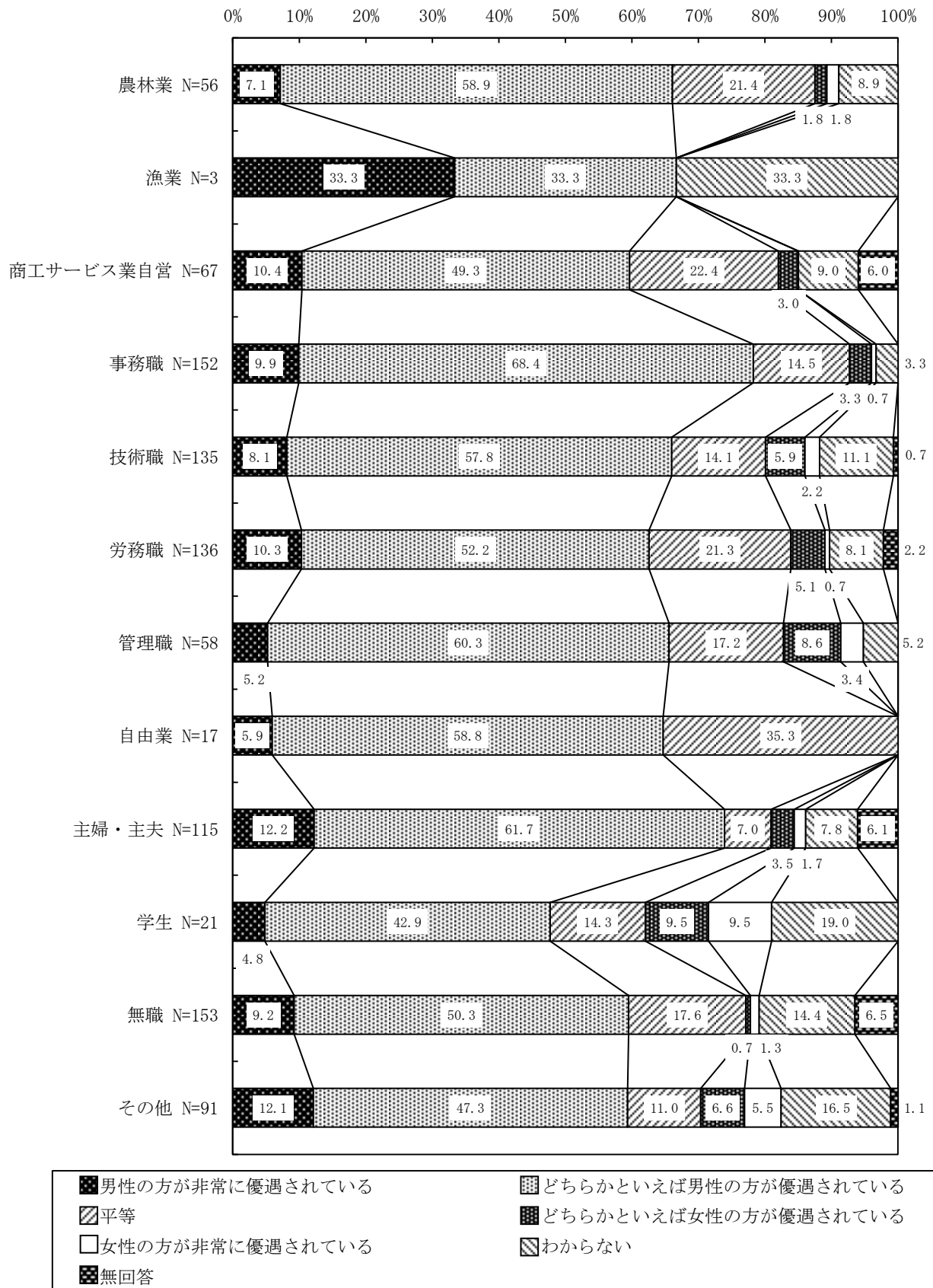


全般的に『男性優遇』の割合が高く、66.0%が『男性優遇』としており、前回調査結果（64.9%）と比較して横ばいである。いずれの項目も前回の調査結果とほぼ同様の数字が出ており、変化がほとんど見られない。

性別では、『男性優遇』が男性の55.0%、女性の76.0%、「平等」と感じているのは、男性23.8%、女性8.7%と男女差が見られる。

年代別では、『男性優遇』と回答した割合は、20歳代55.8%、30歳代62.0%と若い世代ほど低くなっているが、「平等」の割合はどの世代も大きな差は見られない。

図表 1-13 分野別の男女平等意識「社会全体」(職業別) [職業別：N=1,015、選択数：1]



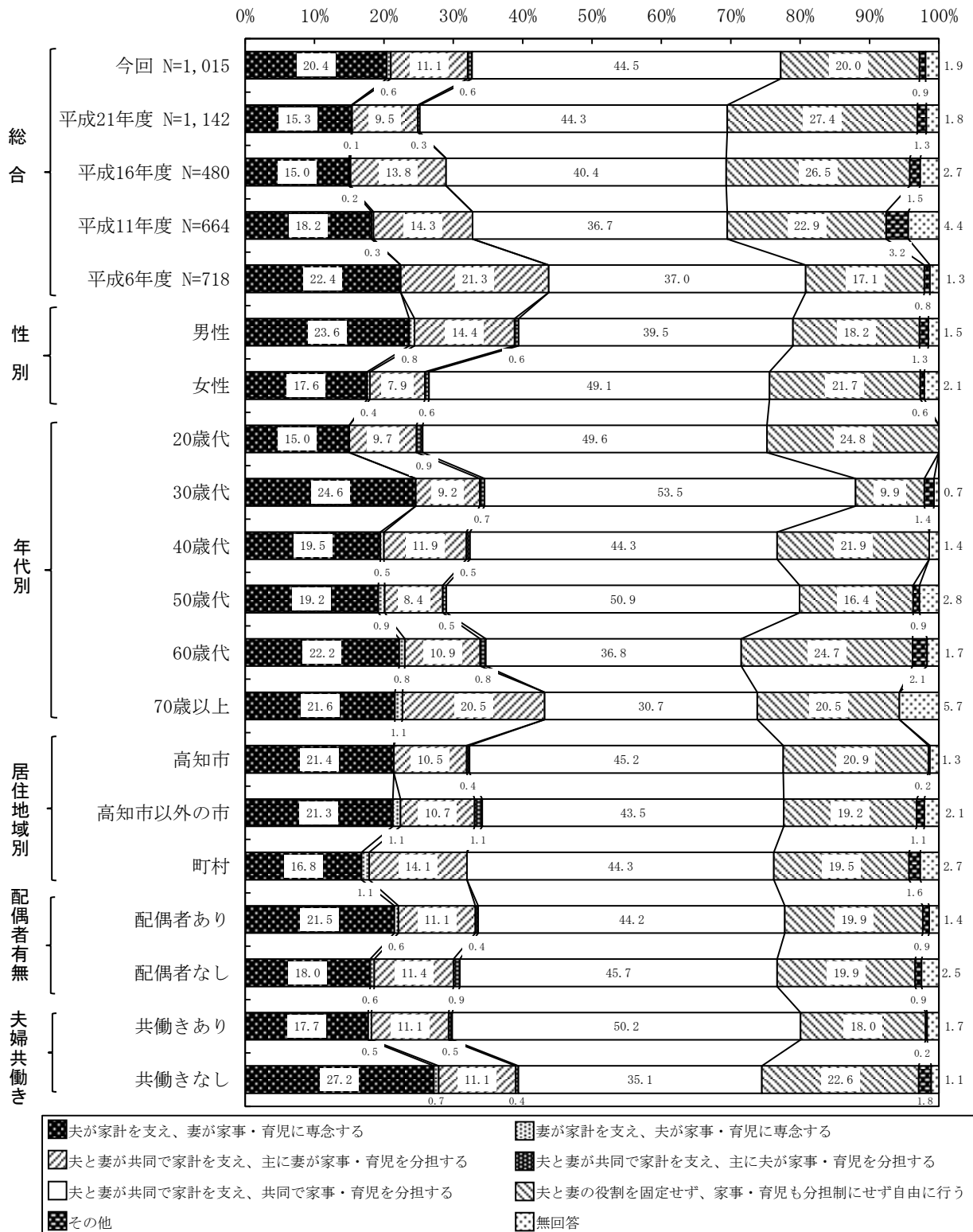
職業別では、『男性優遇』の割合は、「事務職 (78.3%)」と「主婦・主夫 (73.9%)」が高く、「平等」の割合が最も高いのは「自由業 (35.3%)」であった。

◆ 2. 家庭生活について

★ (1) は全員、(2) は結婚している (またはしたことがある) 方のみお答えください。

問2 (1) 家庭における男女の役割分担の理想と現実について、あなたの理想に最も近いものはどれですか。
【全員回答】 [N=1,015、選択数：1]

図表2 (1) - 1 家庭における男女の理想的な役割分担 [総合：N=1,015、選択数：1]



夫婦の理想の役割分担としては、「夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する(44.5%、前回44.3%)」を選択した県民が最も多く、「夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する(20.4%、前回15.3%)」、「夫と妻の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う(19.7%、前回27.4%)」など、2位以下を大きく引き離れた。

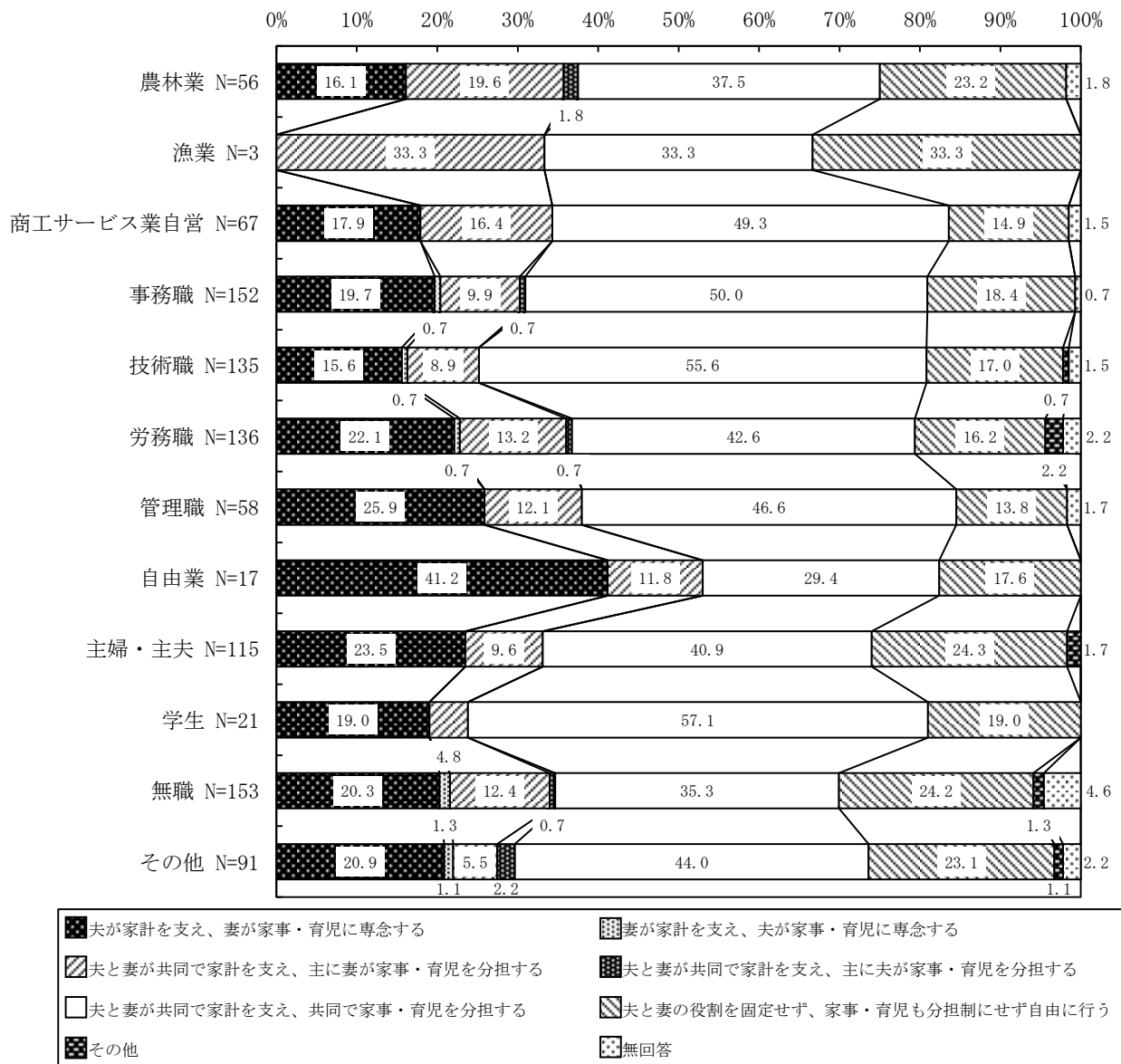
平成6年度からの経年変化を見てみると、「夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する」と「夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する」が減少傾向にあったものの、今回調査では若干増加している。

年代別では、「夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する」割合はほとんどの層で20%前後だが、20歳代が15.0%、30歳代が24.6%と若干差が見られる。「夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する」割合は、ほとんどの層で10%前後だが、70歳以上の層では20.5%と高くなっている。また、「夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」割合は、30歳代の53.5%をピークに、70歳以上の30.7%までとバラつきが見られる。

夫婦共働き有無別では、「夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する」(共働きあり17.7%、共働きなし27.2%)と、「夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」(共働きあり50.2%、共働きなし35.1%)に違いが見られる。

図表2(1)-2 家庭における男女の理想的な役割分担(職業別)

[職業別：N=1,015、選択数：1]

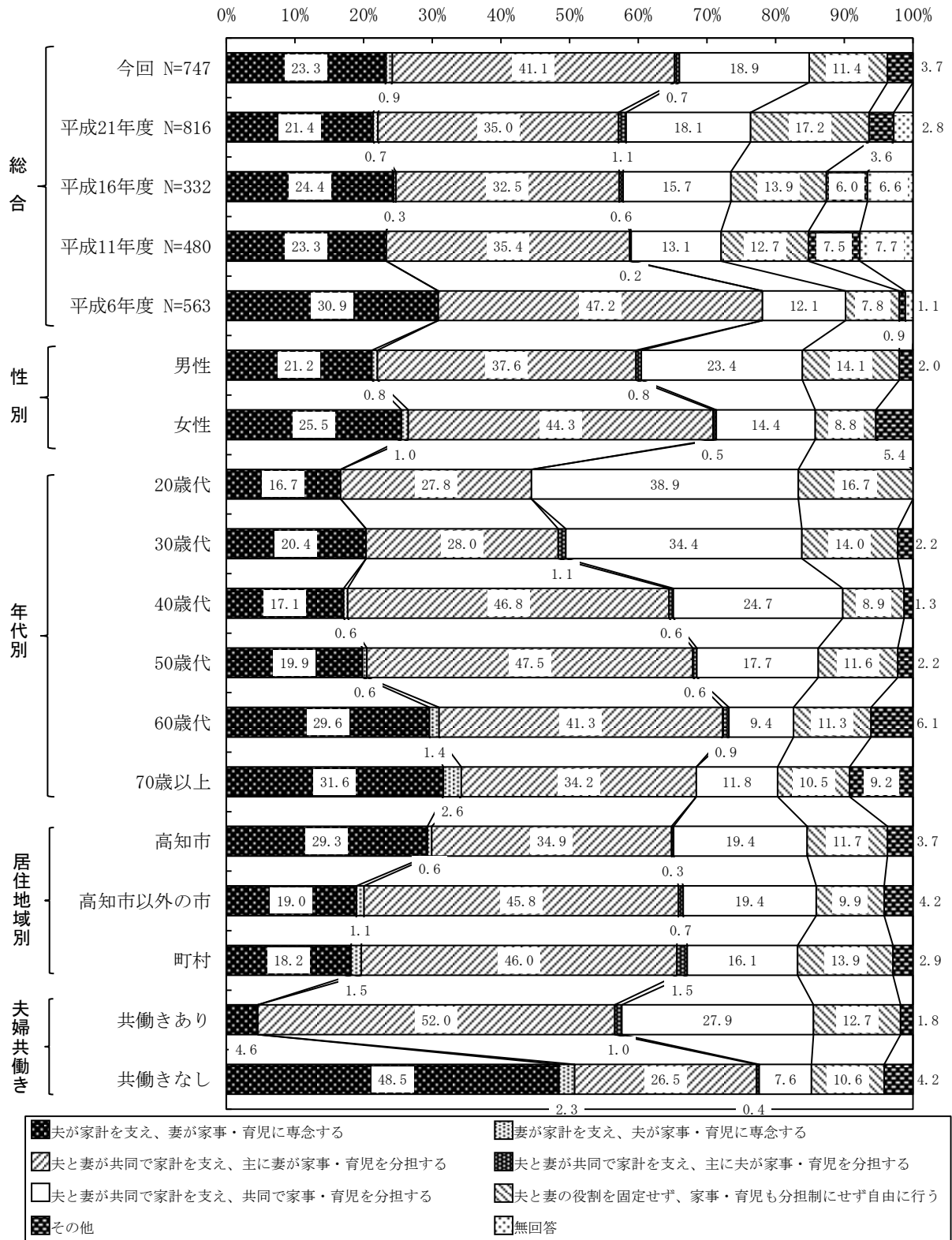


問2 (2) 男女の役割分担の理想と現実について、実際にあなたの家庭では夫婦の役割分担をどのようにしていますか (していましたか)。

【結婚している (またはしたことがある) 方のみ回答】

[N=747、選択数：1]

図表2 (2) - 1 家庭における男女の現実の役割分担 [総合：N=747、選択数：1]



家庭における夫婦の現実の役割分担は、「夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する（41.1%、前回35.0%）」、「夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する（23.3%、前回21.4%）」、「夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する（18.9%、前回18.1%）」の順になっている。

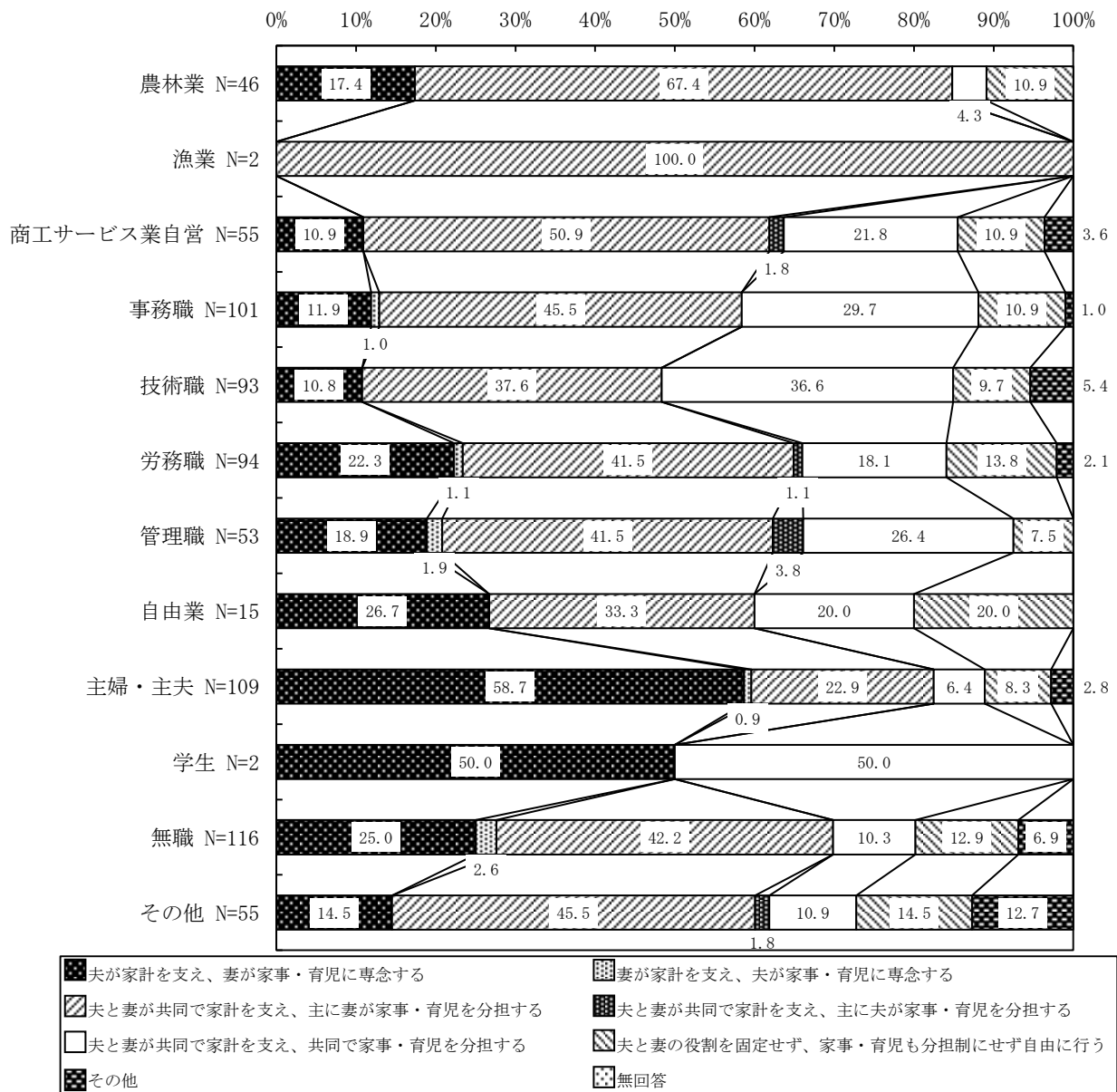
平成6年度からの経年変化を見てみると、「夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する」、「夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する」とともに、平成11年度に大きく減少した後は、ほぼ横ばいの状態である。一方、「夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」については緩やかな増加傾向が見られる。

年代別では、60歳代、70歳以上の層で「夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する」の割合が高くなっている一方、若い世代ほど、「夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」割合が高い傾向にあり、共働きで家事を分担している様子が伺える。

居住地域別では、「高知市」で「夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する」割合が他の地域に比べて10ポイント以上高く、逆に「夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する」割合は10ポイント以上低い。

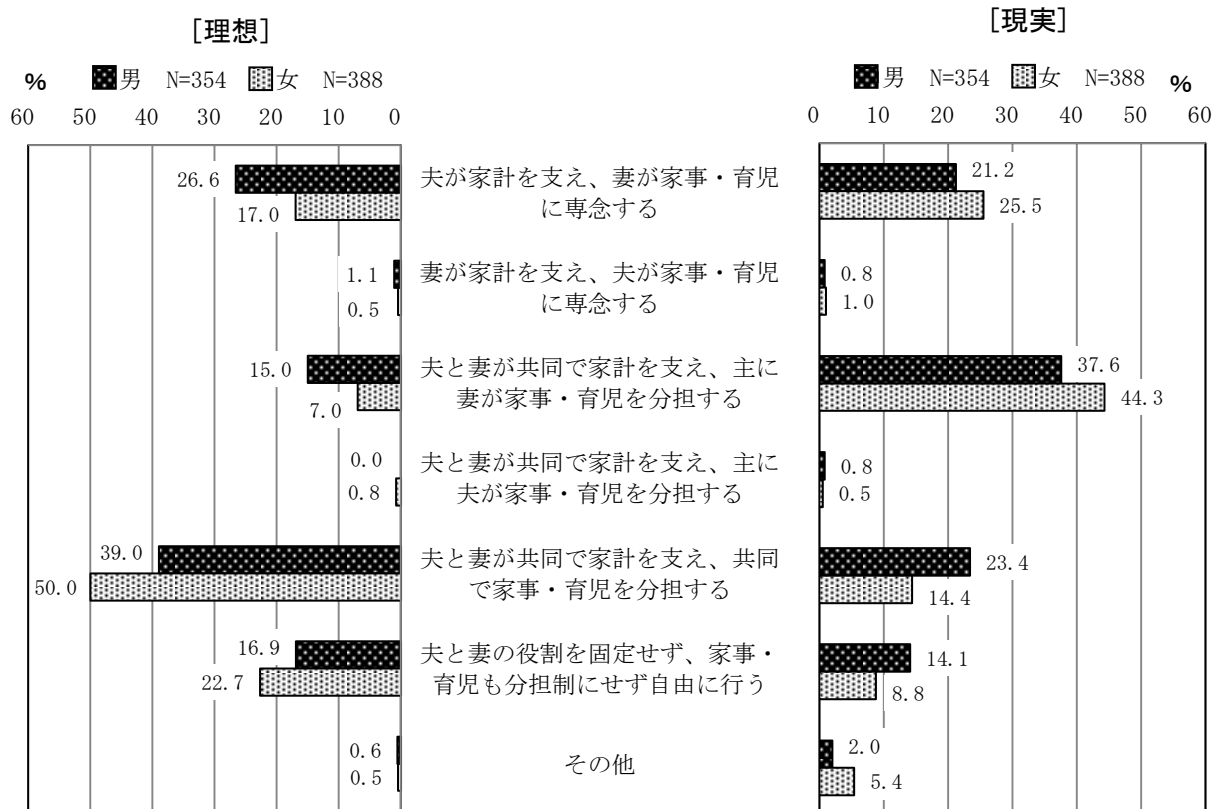
夫婦共働き有無別で見ると、「共働きあり」の層でも、「夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する」（4.6%）と「夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する」（52.0%）のあわせて56.6%が妻が家事を担っている状況にある。

図表2（2）－2 家庭における男女の現実の役割分担（職業別） [職業別：N=747、選択数：1]



図表2（2）－3 家庭における男女の役割分担の理想と現実（性別）

〔結婚している（またはしたことがある）方（男性（N=354）、女性（N=388））、選択数：1〕



結婚している（または結婚したことのある）県民を対象に、家庭における男女の役割分担の理想と現実を比較した。

まず、理想の役割分担については、「夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する」（男性39.0%、女性50.0%）の割合が男女とも最も高く、次いで、男性は「夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する」（26.6%）、女性は「夫と妻の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う」（22.7%）と続いた。

一方、現実の働き方は、「夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する」（男性37.6%、女性44.3%）が最も高率で、次いで「夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する」（男性21.2%、女性25.5%）、「夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」（男性23.4%、女性14.4%）の順であった。

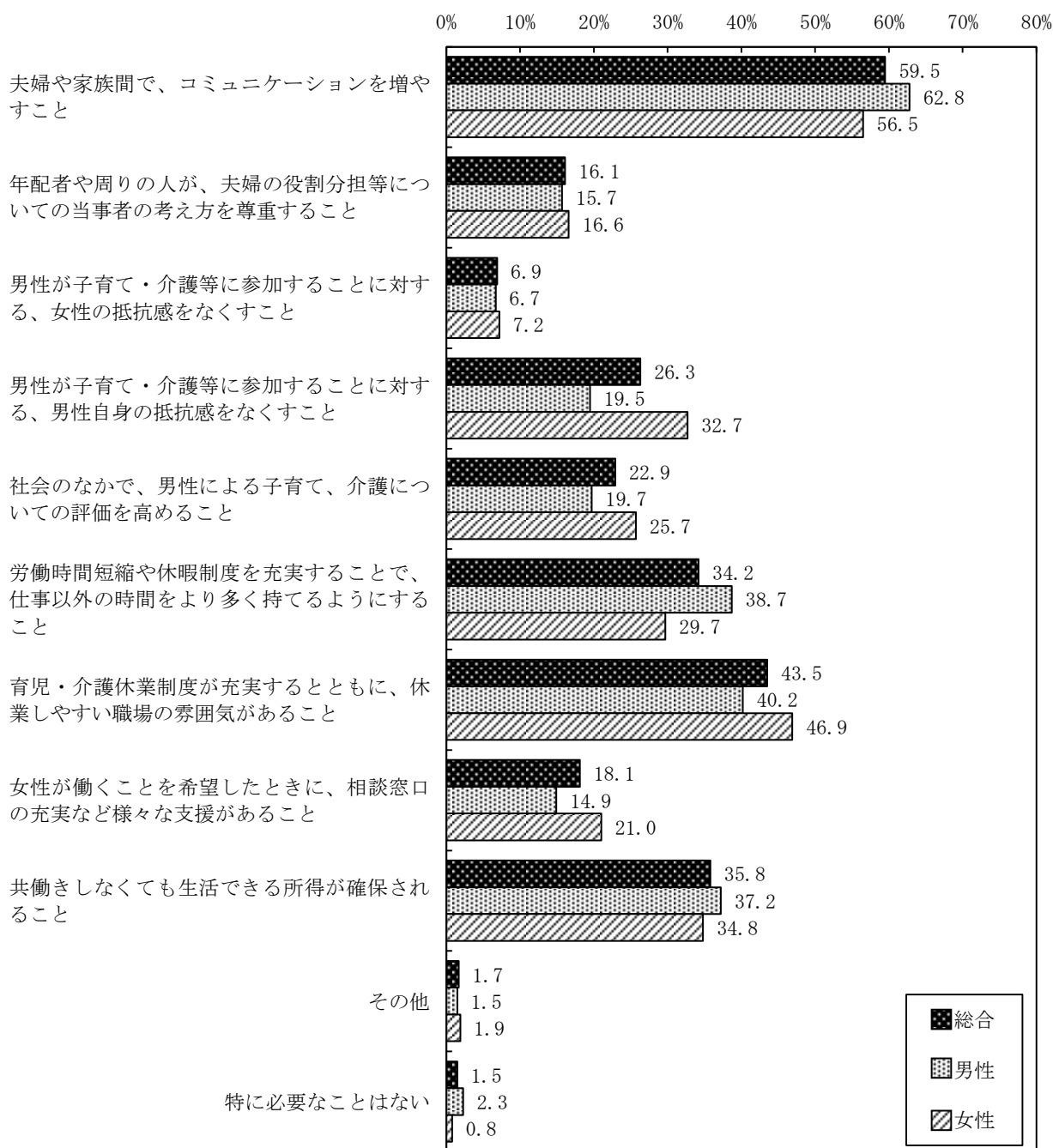
「夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する」姿を男女とも最も高率で理想的としたが、実際には、「夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する」割合が最も高くなっており、妻に家事と育児の負担がかかっていると見える。

問3 あなたが考える理想的な男女の役割分担が実現するためには、どんなことが必要だと思いますか。

3つまで選択してください。【全員回答】

[N=1,015、選択数：3つ以内]

図表3-1 家庭における男女の理想的な役割分担実現に必要なこと [総合 (N=1,015)、選択数：3つ以内]



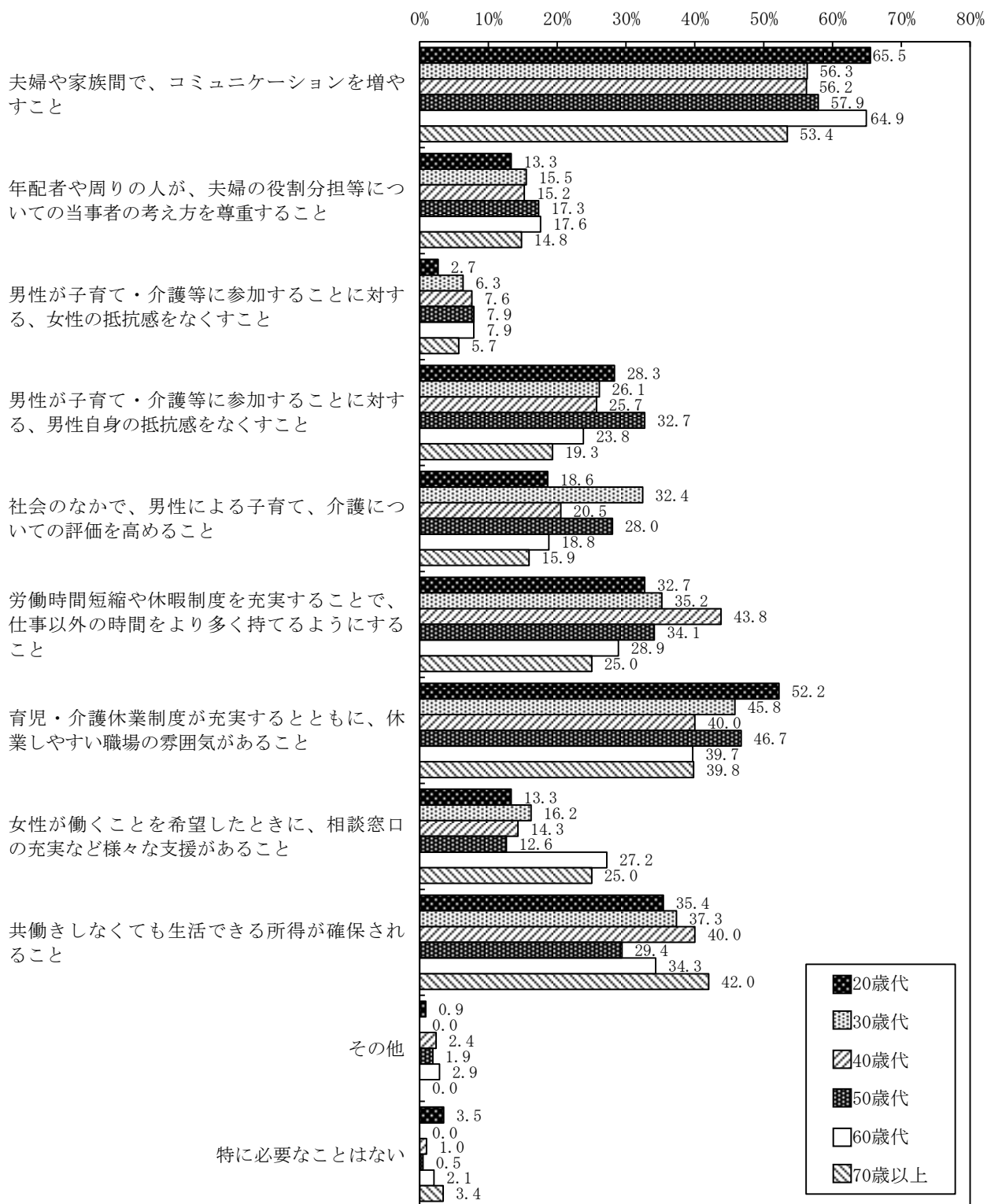
今回新たに追加された質問である。

家庭における夫婦の理想的な役割分担を実現するために必要だと考えることを、複数回答で確認したところ、6割近くもの県民が「夫婦や家族間で、コミュニケーションを増やすこと」と回答している。

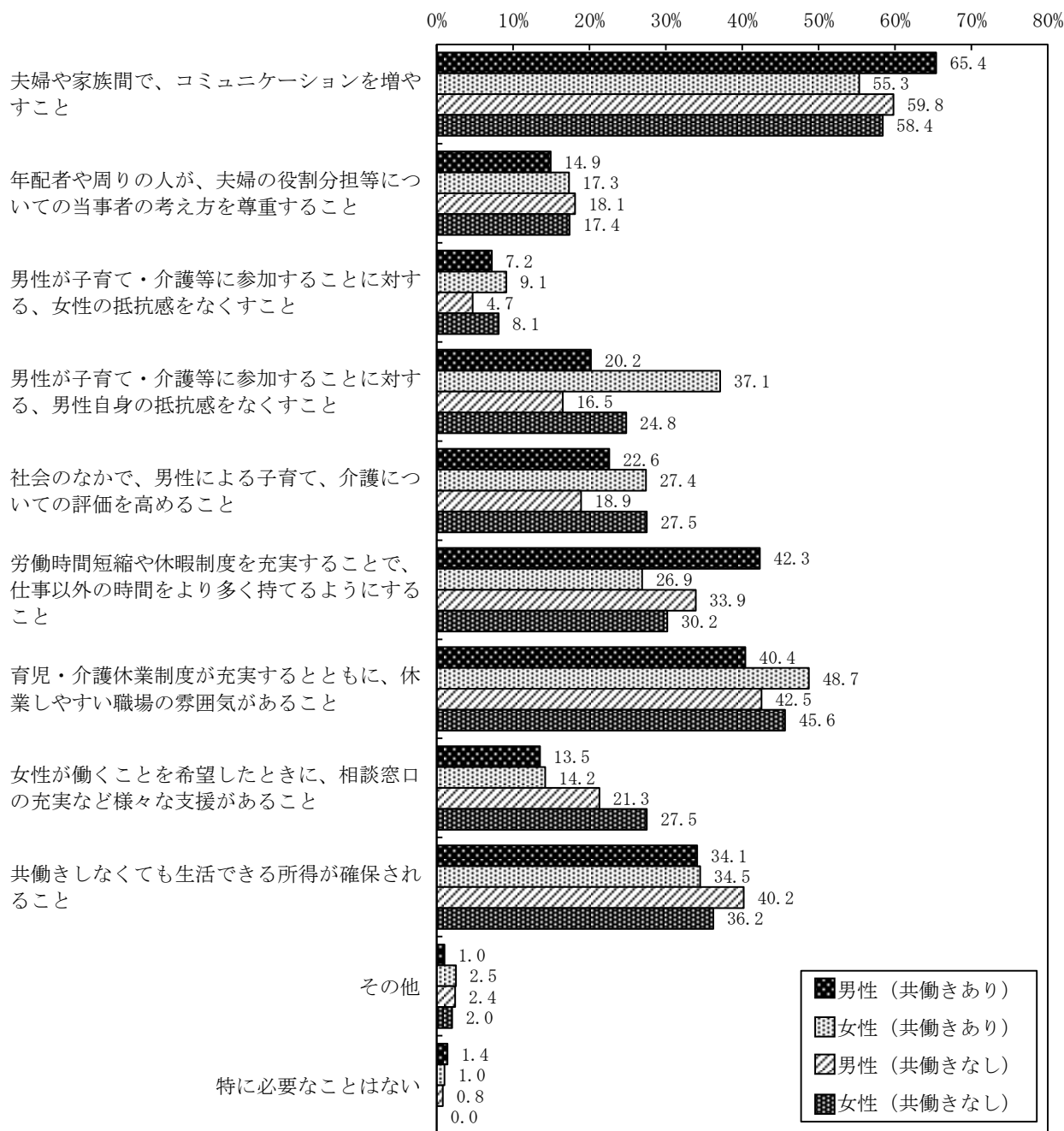
次いで「育児・介護休業制度が充実するとともに、休業しやすい職場の雰囲気があること (43.5%)」、「共働きしなくても生活できる所得が確保されること (35.8%)」、「労働時間短縮や休暇制度を充実することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること (34.2%)」の順になっており、働き続けながら育児や介護が出来る環境づくりを求める一方、3割以上の県民から専業主婦(夫)として家事・育児等に専念できるよう十分な収入の確保を求める意見も出ている。

図表3-2 家庭における男女の理想的な役割分担実現に必要なこと（年代別）

[年代別：N=1,015、選択数：3つ以内]



図表3-3 家庭における男女の理想的な役割分担実現に必要なこと（性別×夫婦共働き有無別）
 [男性（共働きあり）（N=208）、女性（共働きあり）（N=197）、
 男性（共働きのなし）（N=127）、女性（共働きのなし）（N=149）、選択数：3つ以内]



共働き有無別、性別の比較では、いずれの属性でも「夫婦や家族間で、コミュニケーションを増やすこと」を選択した割合が最も高かった。特に「男性（共働きあり）」の層は65.4%と、「女性（共働きあり）」の55.3%と比較して10.1ポイント差が見られた。また、「労働時間短縮や休暇制度を充実することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」においても、男性（共働きあり42.3%、共働きのなし33.9%）の方が女性（共働きあり26.9%、共働きのなし30.2%）よりも割合が高い。

逆に、「男性が子育て・介護等に参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと」では、女性（共働きあり37.1%、共働きのなし24.8%）の方が男性（配偶者あり20.2%、配偶者なし16.5%）よりも高率である。

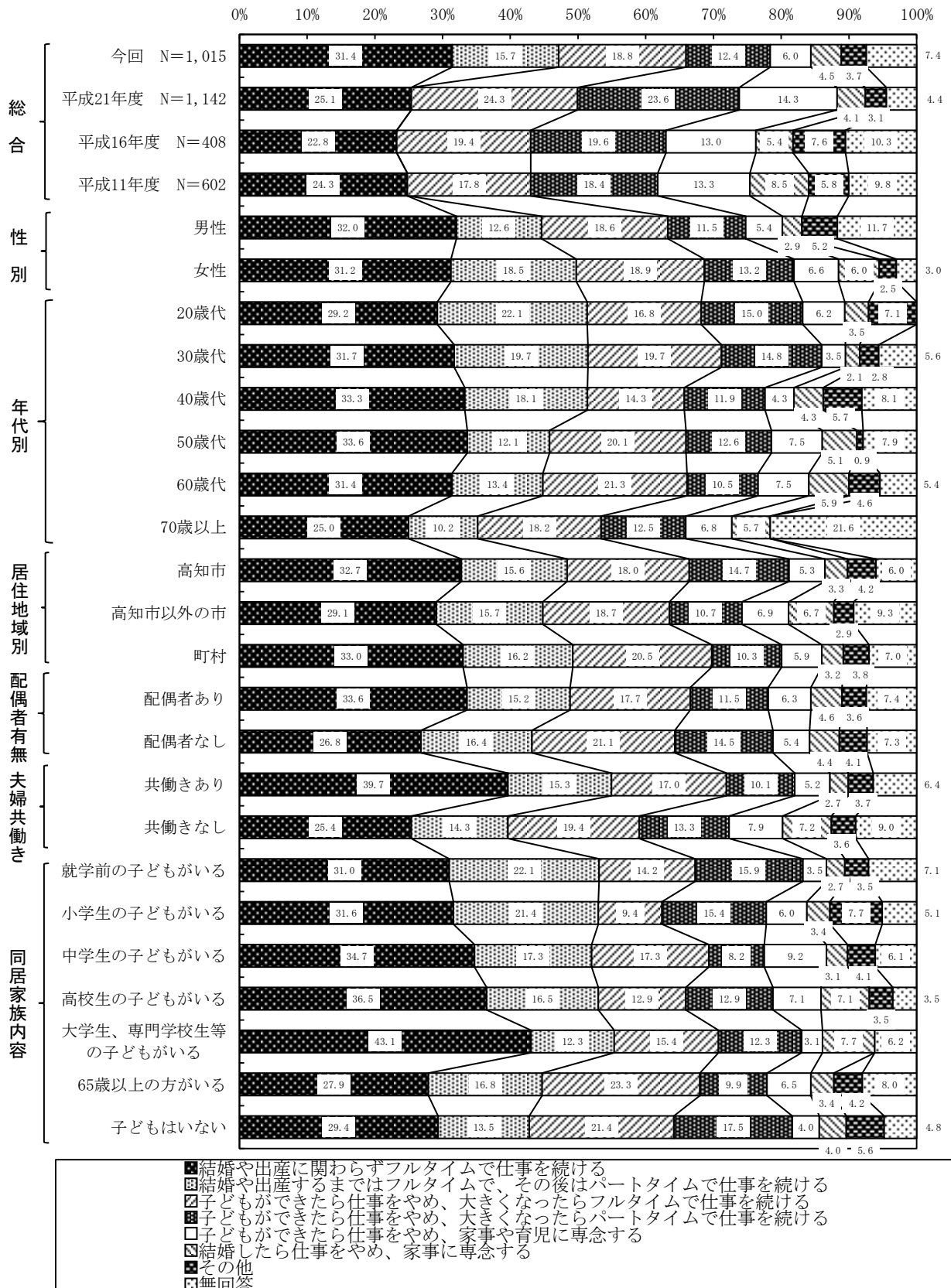
ここから、男女ともにコミュニケーションを重視しつつも、男性は仕事が忙しいため、女性は男性が子育てや介護に抵抗感を持っているために理想的な役割分担が実現できないと考えていることが伺える。

◆ 3. 女性が働きやすい環境づくりについて

問4 (1) 女性の働き方について、あなたの理想に最も近いものはどれですか。【全員回答】

[N=1,015、選択数：1]

図表4 (1) - 1 理想に近い女性の働き方 [総合：N=1,015、選択数：1]



女性の働き方の望ましい形については、「結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける（31.4%、前回25.1%）」、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらフルタイムで仕事を続ける（18.8%、前回24.3%）」、「結婚や出産するまではフルタイムで、その後はパートタイムで仕事を続ける（15.7%、前回なし）」の順になっている。

「結婚・出産後もフルタイムで仕事を続ける」の割合が前回調査と比較して6.3ポイント増加しており、今回追加された選択肢の「結婚や出産するまではフルタイムで、その後はパートタイムで仕事を続ける（15.7%）」を合わせた45%以上が、「結婚・出産後も何らかの形で働き続ける」を理想の働き方としている。また、「子どもができたら仕事をやめる（子どもが大きくなったら仕事に復帰を含む）」の割合が前回調査と比較して、25ポイント減少している。

※21年度調査時の選択肢は、「①結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」「②子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」「③子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」「④学校卒業後は仕事をせず、結婚後または子育て終了後から仕事をする」「⑤出産するまでは仕事を持つが、子どもができたら家事や育児に専念する」「⑥結婚するまでは仕事をして、結婚後は家事に専念する」「⑦仕事をしない」「⑧その他」のため、26年度調査選択肢と以下のとおり対比させた。

「1=①」「2該当なし」「3=②」「4=③」「5=⑤」「6=⑥」「7=④+⑦+⑧」

(26年度調査時 選択肢)

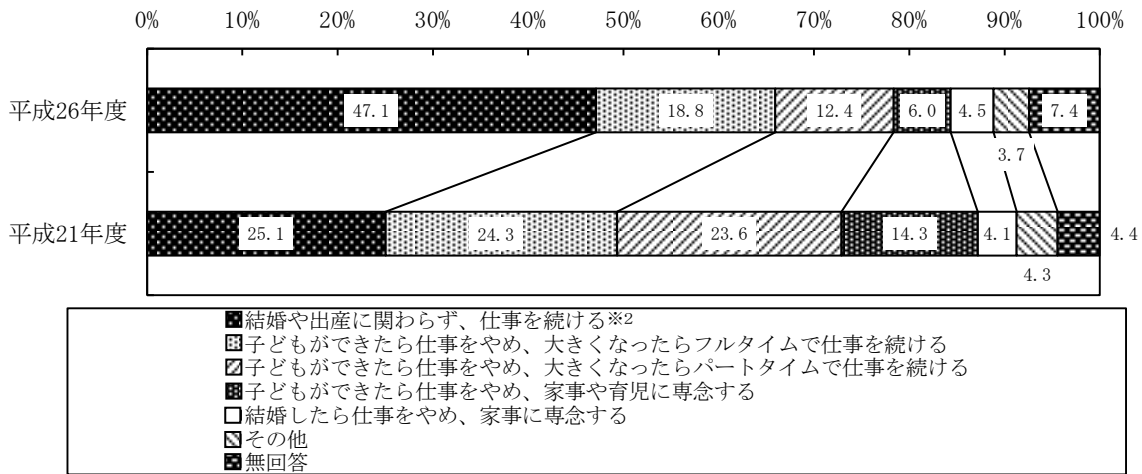
1. 結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける（続けた）
2. 結婚や出産するまではフルタイムで、その後はパートタイムで仕事を続ける（続けた）
3. 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらフルタイムで仕事を続ける（続けた）
4. 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらパートタイムで仕事を続ける（続けた）
5. 子どもができたら仕事をやめ、家事や育児に専念する（専念した）
6. 結婚したら仕事をやめ、家事に専念する（専念した）
7. その他

性別による比較でも、「結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける」（男性：32.0%、女性：31.2%）、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらフルタイムで仕事を続ける」（男性：18.6%、女性：18.9%）、「結婚や出産するまではフルタイムで、その後はパートタイムで仕事を続ける」（男性：12.6%、女性：18.5%）、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらパートタイムで仕事を続ける」（男性：11.5%、13.2%）の順番になっており、男女間での大きな乖離は見られない。

図表4(1)-2 (参考)理想に近い女性の働き方(全国調査※1との比較)

[高知県(26年度:N=1,015、21年度:N=1,142)、
 全国(26年度:N=3,037、21年度:N=3,240)、選択数:各1]

高知県



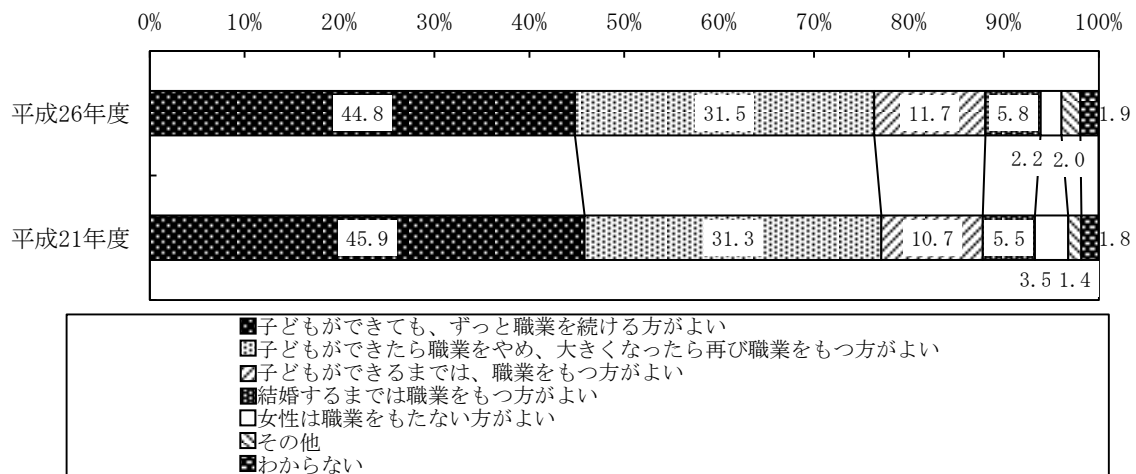
※2 21年度調査と26年度調査の選択肢が異なるため、以下のとおり比較している。

- ・26年度「結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける」+「結婚や出産するまではフルタイムで、その後はパートタイムで仕事を続ける」→「結婚や出産に関わらず、仕事を続ける」
- ・26年度「その他」=21年度「その他」+「仕事をしない」
 +「学校卒業後は仕事をせず、結婚後または子育て終了後から仕事をする」

参考(21年度調査選択肢)

- ①結婚や出産に関わらず、仕事を続ける
- ②子育ての時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
- ③子育ての時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
- ④学校卒業後は仕事をせず、結婚後または子育て終了後から仕事をする
- ⑤出産するまでは仕事を持つが、子どもができたら家事や育児に専念する
- ⑥結婚するまでは仕事をして、結婚後は家事に専念する
- ⑦仕事をしない
- ⑧その他

全国



※1「全国調査」出典:いずれも内閣府男女共同参画局調べ

- ・平成26年度:「女性の活躍推進に関する世論調査」
- ・平成21年度:「男女共同参画社会に関する世論調査」

全国調査の質問は「一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうかお考えですか。この中から1つだけお答えください。」となっており、また選択肢も異なるため、単純比較は出来ないが、平成26年度と21年度の調査結果をそれぞれ同種の質問と比較すると、以下のとおりとなった。

高知県の「結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける」31.4%、「結婚や出産するまではフルタイムで、その後はパートタイムで仕事を続ける」15.7%の計47.1%であるに対し、全国調査の「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は44.8%となっており、高知県の方がわずかではあるが、子育て中も働き続けることを望む人が多いことが分かる。

次に、全国調査の「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」31.5%に対しては、高知県では「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったらフルタイムで仕事を続ける」(18.8%)、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったらパートタイムで仕事を続ける」(12.4%)の計31.2%とほぼ同率である。

一方、高知県の「子どもができたなら仕事をやめ、家事や育児に専念する」(6.0%)に対して、全国調査の「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」(11.7%)であり、出産後は仕事をやめて家事・育児に専念することを望む割合が、高知県の方がわずかながら低くなっている。21年度調査時点では、高知県は14.3%、全国調査は10.7%であり、出産後は家事や育児に専念することを望む割合は、全国は微増だが、高知県では8.3ポイントダウンしている。

また、高知県の「結婚したら仕事をやめ、家事に専念する」(4.5%)に対して、全国調査では「結婚するまでは職業をもつ方がよい」(5.8%)になっており、これは21年度調査の高知県(4.1%)と全国調査(5.5%)と比較すると、いずれも微増となっている。

以上から、高知県では結婚や出産に関わらず働き続ける形を理想と考える割合が大きく増えるなど、県民の意識の変化が見られたものの、全国調査では大きな変化が見られないことが分かる。

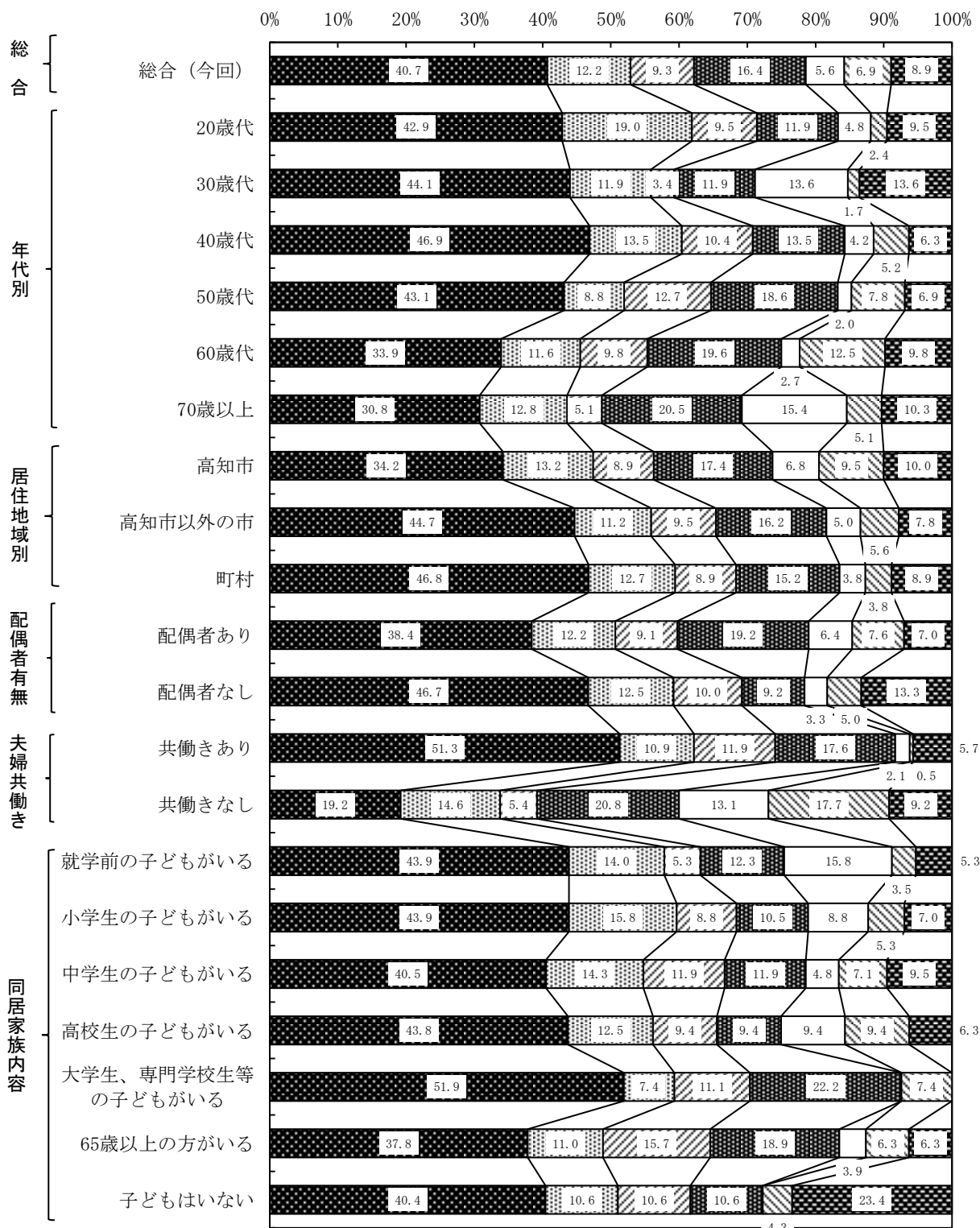
問4 (2) 女性の働き方について、実際のあなたの働き方で、あてはまるものはどれですか。

【働いている（または働いたことのある）女性の方のみ】

[N=450、選択数：1]

図表4 (2) - 1 実際の女性の働き方

【働いている（または働いたことのある）女性：N=450、選択数：1】



- 結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける (続けた)
- ▨結婚や出産するまではフルタイムで、その後はパートタイムで仕事を続ける (続けた)
- ▩子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらフルタイムで仕事を続ける (続けた)
- ▧子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらパートタイムで仕事を続ける (続けた)
- 子どもができたら仕事をやめ、家事や育児に専念する (専念した)
- ▨結婚したら仕事をやめ、家事に専念する (専念した)
- その他

今回新たに追加した質問である。

「結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける（続けた）（39.8%）」、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらパートタイムで仕事を続ける（続けた）（16.4%）」、「結婚や出産するまではフルタイムで、その後はパートタイムで仕事を続ける（続けた）（12.2%）」、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらフルタイムで仕事を続ける（続けた）（9.1%）」の順となっている。

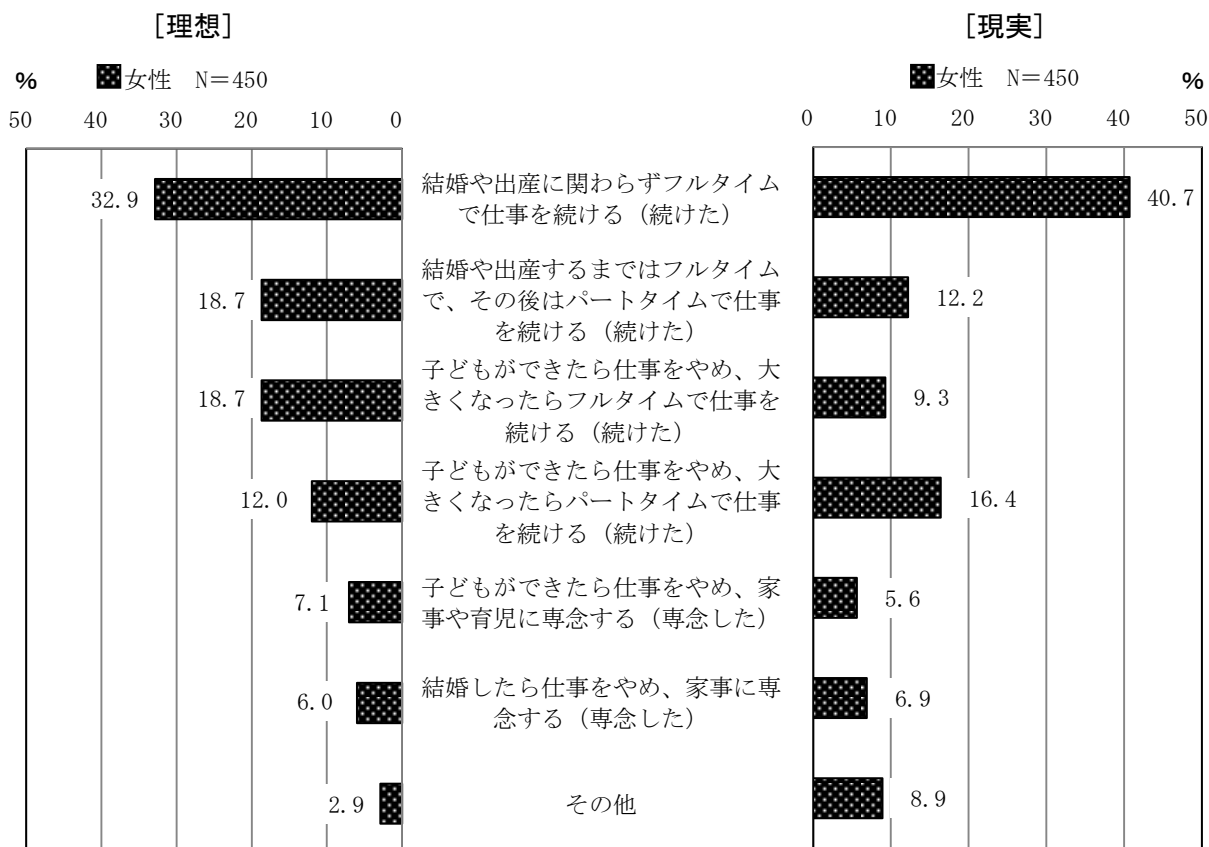
年代別では、60歳未満の層では4割を超える女性が、60歳以上の層でも3割を超える女性が「結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける（続けた）」と回答しており、「結婚や出産するまではフルタイムで、その後はパートタイムで仕事を続ける（続けた）」とあわせると、4割から6割の女性が結婚や出産に関わらず働き続ける（続けた）と回答している。

居住地域別で見ると、高知市では「結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける（続けた）」（34.2%）、「結婚や出産するまではフルタイムで、その後はパートタイムで仕事を続ける（続けた）」（13.2%）となっており、他の地域よりも、結婚や出産後も働き続ける（続けた）割合が他の市より8.5ポイント、町村より12ポイント低い。

同居家族内容別では、「大学生、専門学校生の等の子どもがいる」層で「結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける（続けた）」を選択したのが51.9%と最も高率になっている。その他の層では概ね4割が「結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける（続けた）」を、また、約10%から15%が「結婚や出産するまではフルタイムで、その後はパートタイムで仕事を続ける（続けた）」としている。両選択肢をあわせると、いずれの層でも5割から6割の県民が結婚や出産に関わらず何らかの形で働き続けていると言える。

図表4（2）－2 女性の働き方の理想と現実の比較

【働いている（または働いたことのある）女性：N=450、選択数：1】



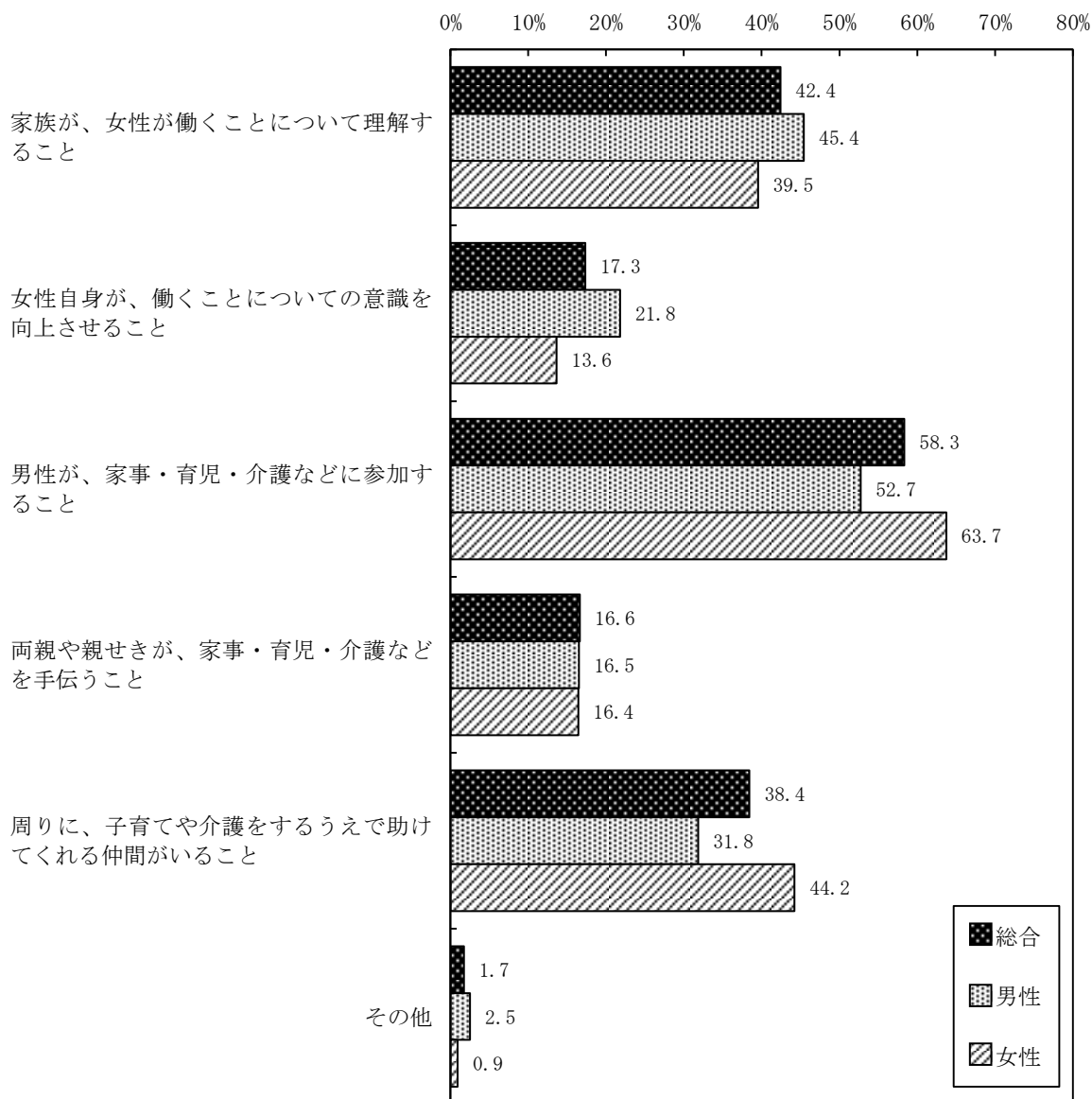
問2（1）「理想に近い女性の働き方」と問2（2）「実際の女性の働き方」を比較することで、結婚や出産に関わらずフルタイムの勤務を望み、実際にその働き方を選択している女性が多い一方、子育て終了後の再就職（フルタイム及びパートタイム）など柔軟な働き方を理想としながらも、様々な事情からフルタイムで働き続けざるを得ない女性が少なからずいる状況が見受けられる。

問5（1） あなたが考える理想的な女性の働き方が実現するために、家族や地域においてどんなことが必要だと思いますか。2つまで選択して下さい。【全員回答】

[N=1,015、選択数：2つ以内]

図表5（1）－1 理想的な女性の働き方実現のために、家族や地域で必要なこと（総合・性別）

[総合・性別：N=1,015、選択数：2つ以内]



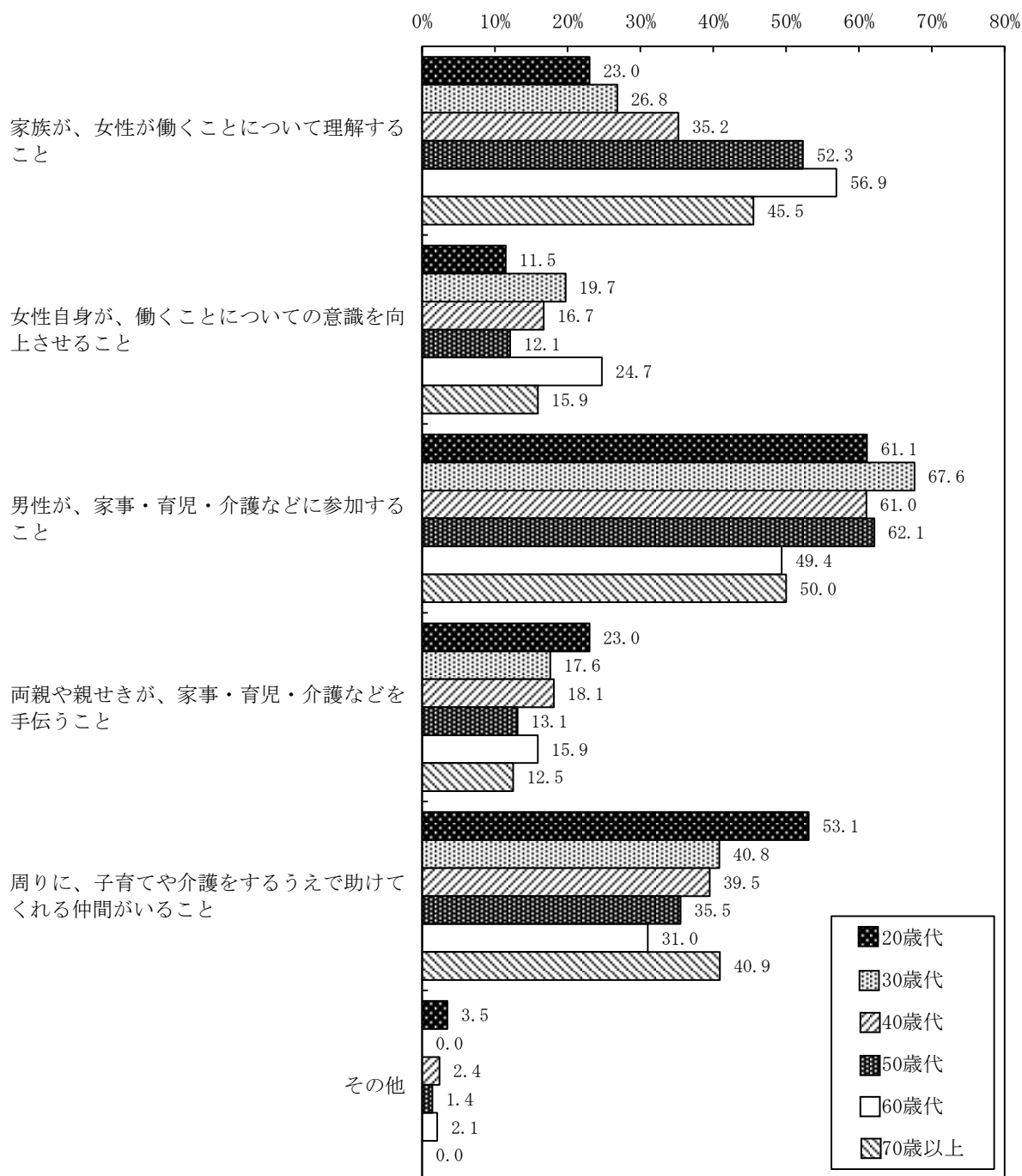
今回新たに追加した質問である。

最も高率だったのが、「男性が、家事・育児・介護などに参加すること（58.3%）」で、6割近くの県民が選択している。次いで、「家族が、女性が働くことについて理解すること（42.4%）」、「周りに、子育てや介護をするうえで助けてくれる仲間がいること（38.4%）」と続いており、ここからも、家事・育児・介護を主に女性が担っており、家族等の理解・協力がないと働き続けることが難しいと考えていることが分かる。

性別では、「男性が、家事・育児・介護などに参加すること」が男女とも最も高率であったが、男性52.7%、女性63.7%と女性が11ポイント高く、女性の方が男性の家事等参加を重視していると言える。次いで、男性は「家族が、女性が働くことについて理解すること（45.4%、女性39.5%）」、女性は「周りに、子育てや介護をするうえで助けてくれる仲間がいること（44.2%、男性31.8%）」と続き、女性が働くことについて、男性は自分も含めた家族の理解が必要であると考え、一方、女性は周囲の手助けを重視していることが分かる。

図表5（1）－2 理想的な女性の働き方実現のために、家族や地域で必要なこと（年代別）

[年代別：N=1,015、選択数：2つ以内]

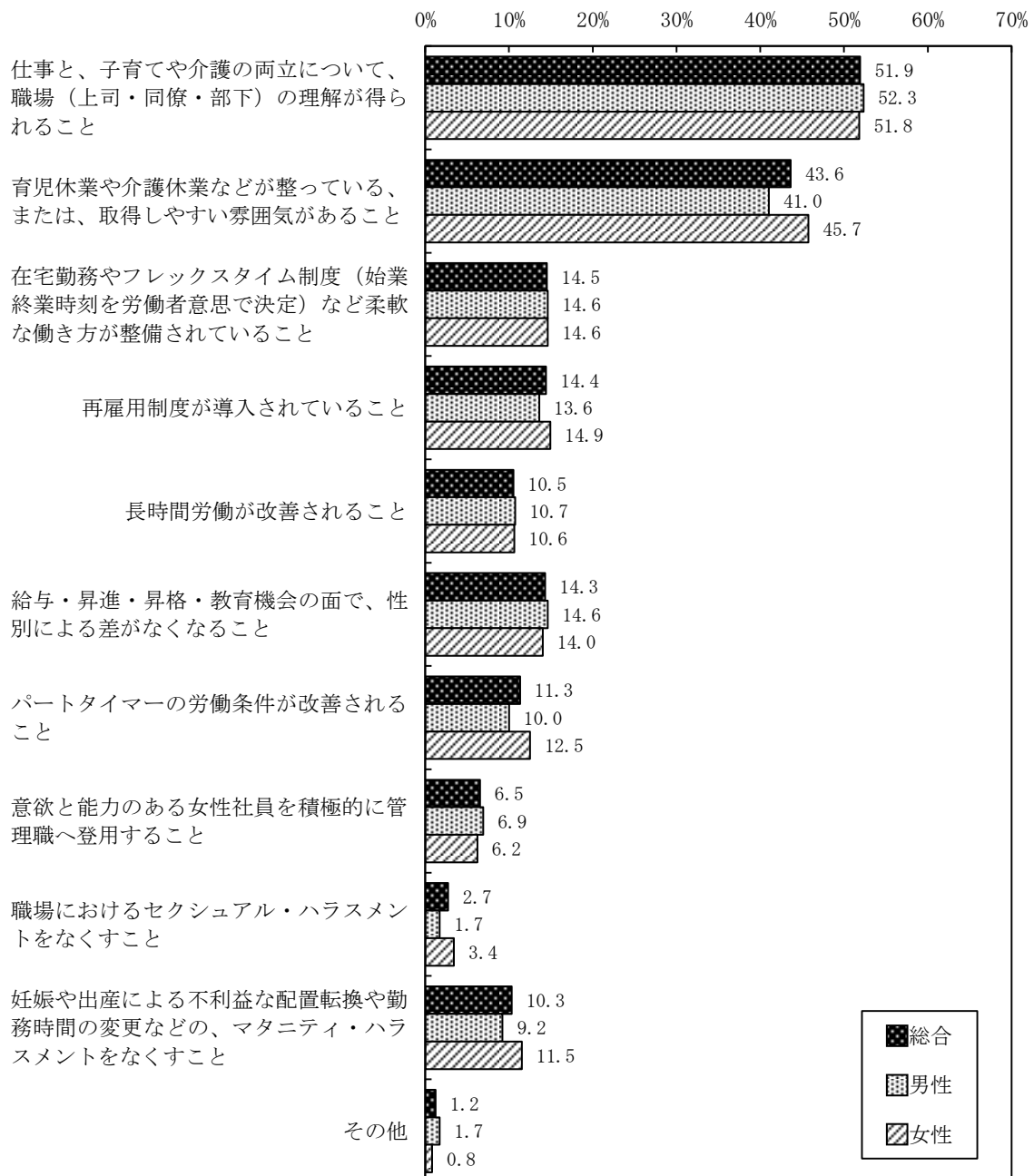


年代別では、「男性が、家事・育児・介護などに参加すること」の割合が、いずれの世代でも高率となっているが、特に30歳代が67.6%と最も高くなっている。世代間の特徴としては、若い世代ほど「両親や親せきが、家事・育児・介護などを手伝うこと」、「周りに、子育てや介護をするうえで助けてくれる仲間がいること」の割合が高いことから、周囲の手助けの有無を重視する傾向がある一方、年齢の高い世代ほど「家族が、女性が働くことについて理解すること」の割合が高くなる傾向があり、家族の理解を重要視していることが分かる。

問5（2） あなたが考える理想的な女性の働き方が実現するために、企業など職場においてどんなことが必要だと思いますか。2つまで選択してください。【全員回答】

[N=1,015、選択数：2つ以内]

図表5（2）—1 理想的な女性の働き方実現のために、企業など職場で必要なこと（総合・性別）
[総合・性別：N=1,015、選択数：2つ以内]



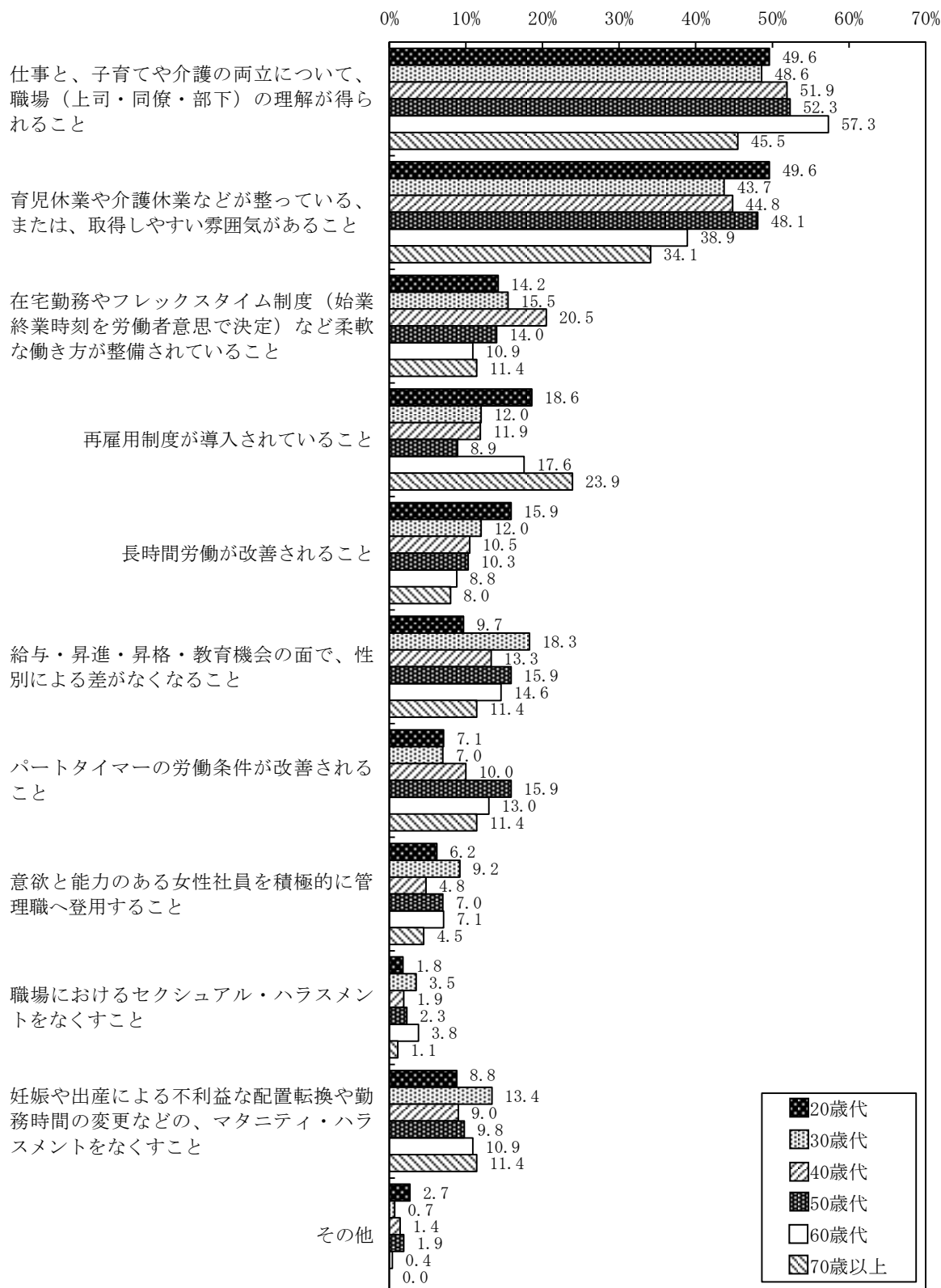
「仕事と子育てや介護の両立について、職場（上司・同僚・部下）の理解が得られること（51.9%）」及び「育児休業や介護休業などが整っている、または、取得しやすい雰囲気があること（43.6%）」の2つの項目が高率である。

性別では、「仕事と、子育てや介護の両立について、職場（上司・同僚・部下）の理解が得られること」が、男性52.3%、女性51.8%とほぼ同率で、「育児休業や介護休業などが整っている、または、取得しやすい雰囲気があること」は男性41.0%、女性45.7%と女性の方が約5ポイント高くなっている。

男女ともに、育児休業や介護休業などの制度の充実だけではなく、実際に制度を使えるかどうか（職場の理解）を重要だと認識していることが分かる。

図表5（2）－2 理想的な女性の働き方実現のために、企業など職場で必要なこと（年代別）

[年代別：N=1,015、選択数：2つ以内]



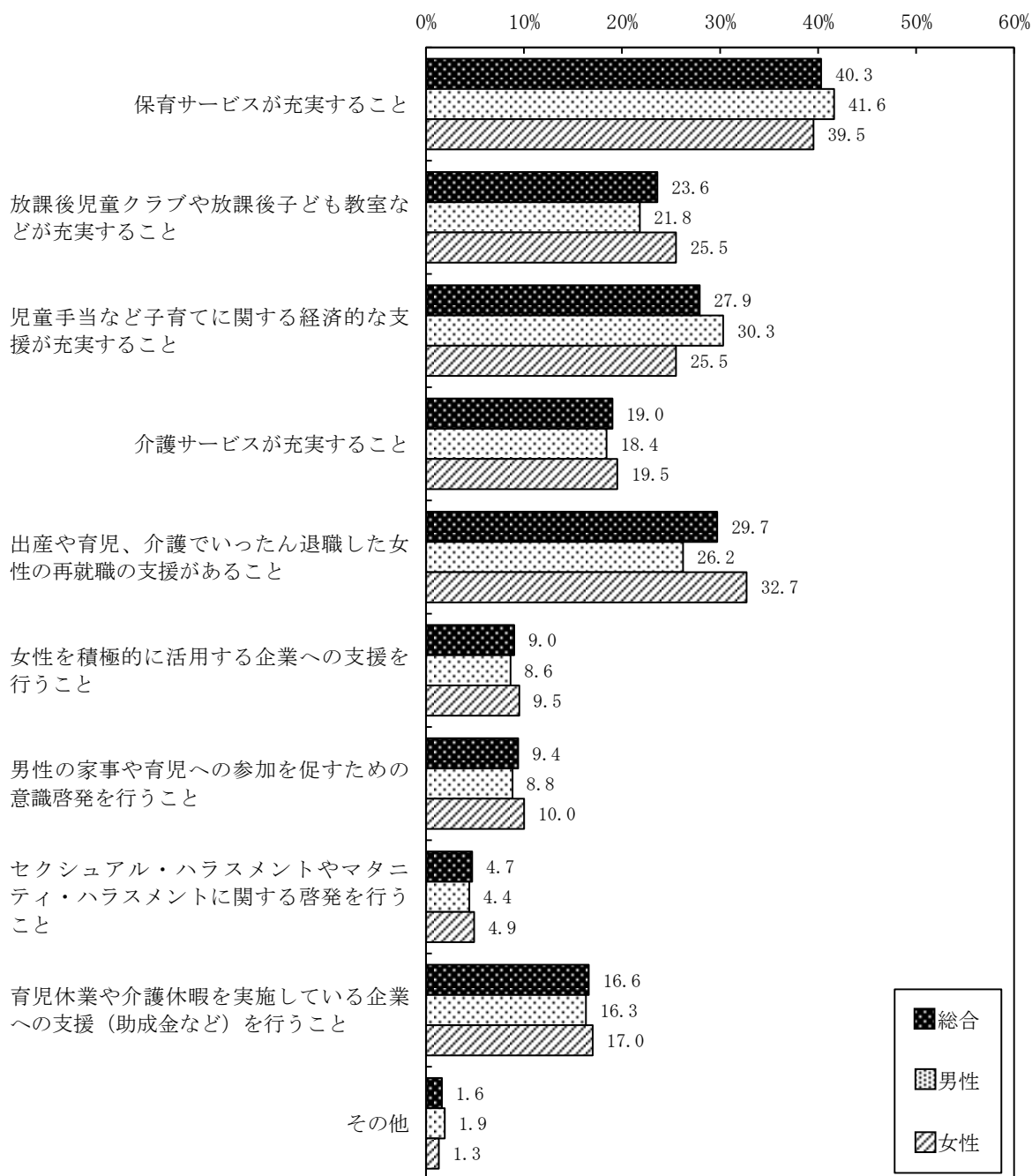
年代別では、「仕事と、子育てや介護の両立について、職場（上司・同僚・部下）の理解が得られること」の割合が、60歳代で57.3%、70歳以上で45.5%であったほか、50%を境に前後している程度で大きな差は見られなかった。「育児休業や介護休業などが整っている、または、取得しやすい雰囲気があること」については、20歳代と50歳代がそれぞれ49.6%、48.1%と高くなっており、70歳以上は34.1%と低めになっている。

問5（3） あなたが考える理想的な女性の働き方が実現するために、行政の取組においてどんなことが必要だと思いますか。2つまで選択してください。【全員回答】

[N=1,015、選択数：2つ以内]

図表5（3）－1 理想的な女性の働き方実現のために必要な行政の取組（総合・性別）

[総合・性別：N=1,015、選択数：2つ以内]

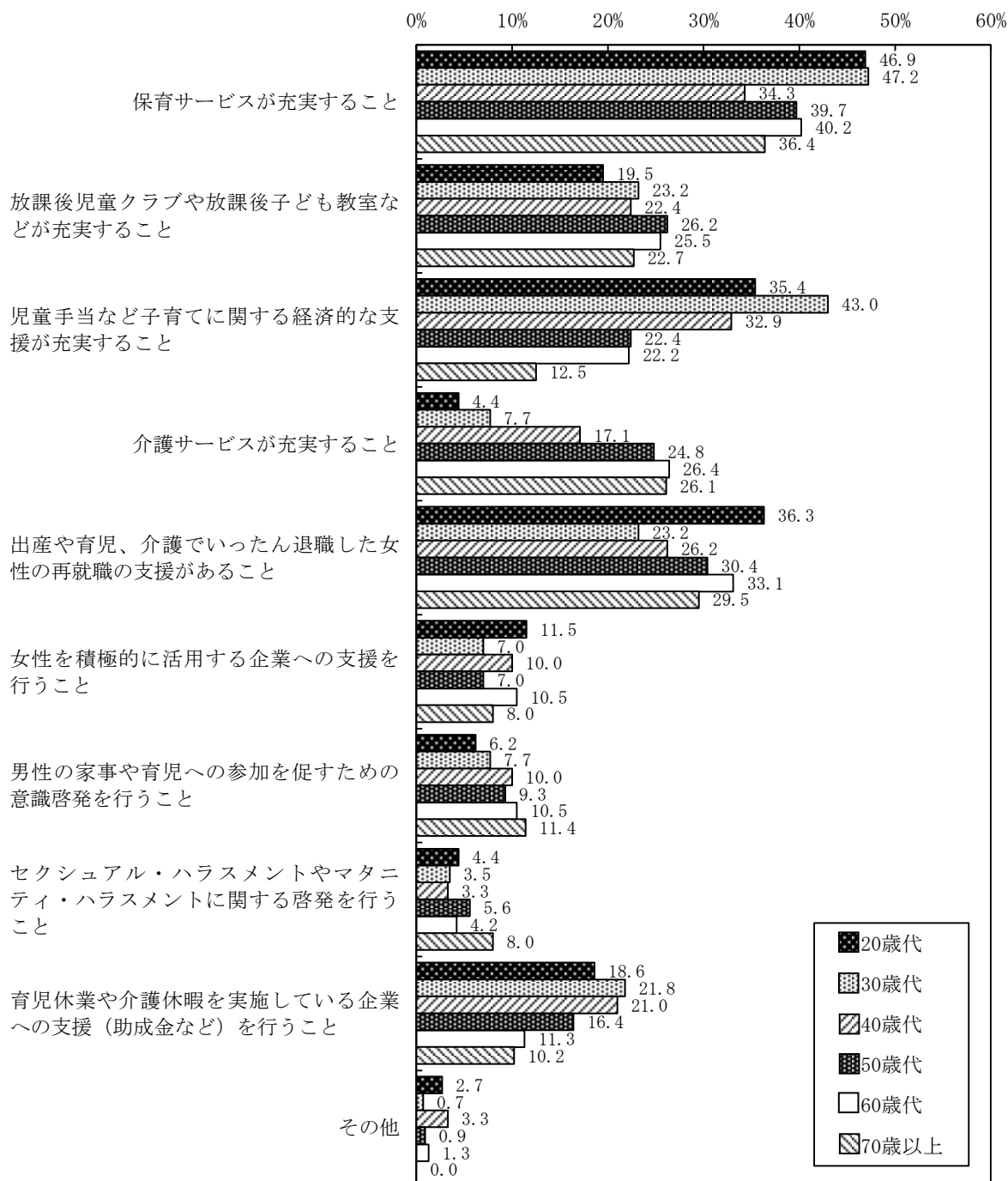


理想的な女性の働き方を実現するために、行政が行う必要があることとしては、「保育サービスの充実 (40.3%)」、「出産や育児、介護でいったん退職した女性の再就職の支援 (29.7%)」、「児童手当など子育てに関する経済的な支援の充実 (27.8%)」、「放課後児童クラブや放課後子ども教室などが充実すること (23.6%)」の順になっている。

性別で見ると、「出産や育児、介護でいったん退職した女性の再就職の支援」が男性 26.2%、女性 32.7%で 6.5 ポイント差、「児童手当など子育てに関する経済的な支援の充実」が男性 30.3%、女性 25.5%で 4.8 ポイント差となっている他は、項目ごとの男女差はほとんど見られない。

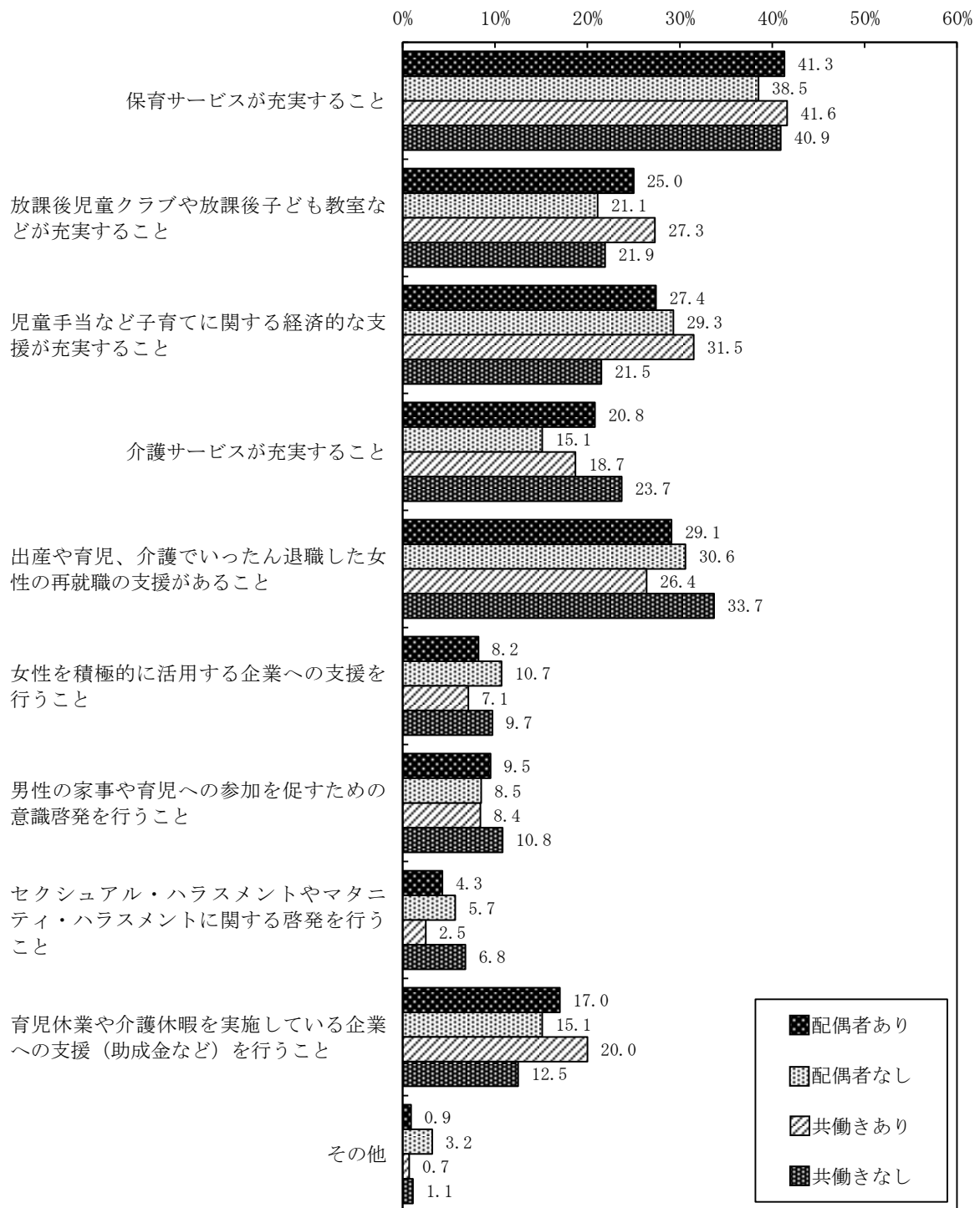
図表5（3）－2 理想的な女性の働き方実現のために必要な行政の取組（年代別）

[年代別：N=1,015、選択数：2つ以内]



年代別では、それぞれが現在抱えている問題点を選択したと考えられ、世代間で回答のバラつきが見られた。「保育サービスが充実すること」については、30歳代47.2%、20歳代46.9%に次いで、60歳代40.2%、50歳代39.7%と続いた。「児童手当など子育てに関する経済的な支援が充実すること」については、30歳代が43.0%で最も高く、20歳代35.4%、40歳代32.9%と続き、50歳代、60歳代は約22%、70歳以上は12.5%と子育て世代ほど要望が高い結果となった。また、「出産や育児、介護でいったん退職した女性の再就職の支援があること」については、20歳代が36.3%と最も高率で、次いで60歳代33.1%、50歳代30.4%となっている。

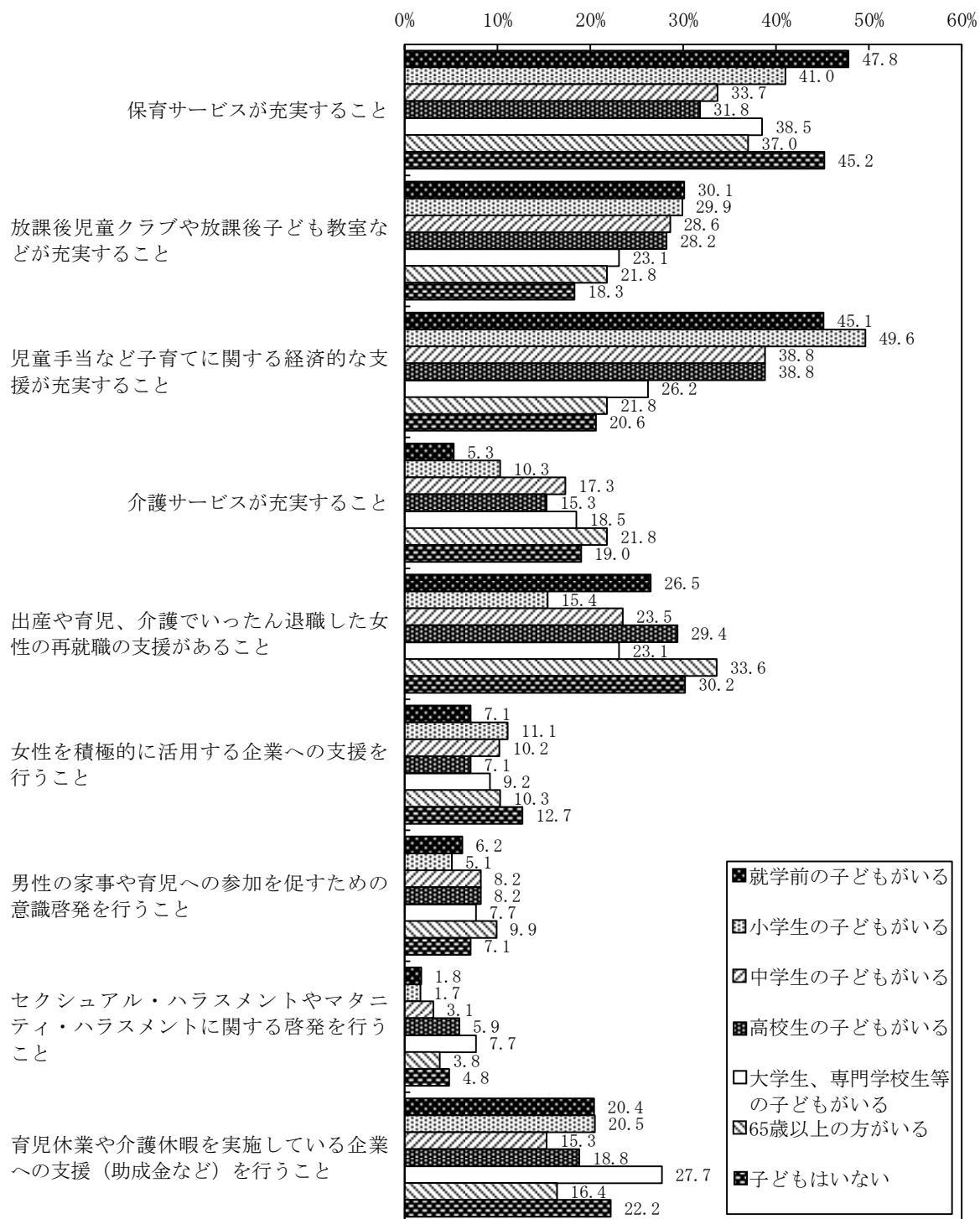
図表5 (3) - 3 理想的な女性の働き方実現のために必要な行政の取組（配偶者・夫婦共働き有無別）
 [配偶者有無別（N=1,015）、夫婦共働き有無別（N=693）、選択数：2つ以内]



配偶者有無別、夫婦共働き有無別のいずれの属性についても、「保育サービスが充実すること」の割合が最も高く、ニーズの高いことが分かる。次いで、「出産や育児、介護でいったん退職した女性の再就職の支援があること」、「児童手当など子育てに関する経済的な支援が充実すること」と続いた。特に夫婦共働きの層は、再就職の支援を求める割合が高い。

図表5（3）－4 理想的な女性の働き方実現のために必要な行政の取組（同居家族内容別）

[同居家族内容別：N=942、選択数：2つまで]



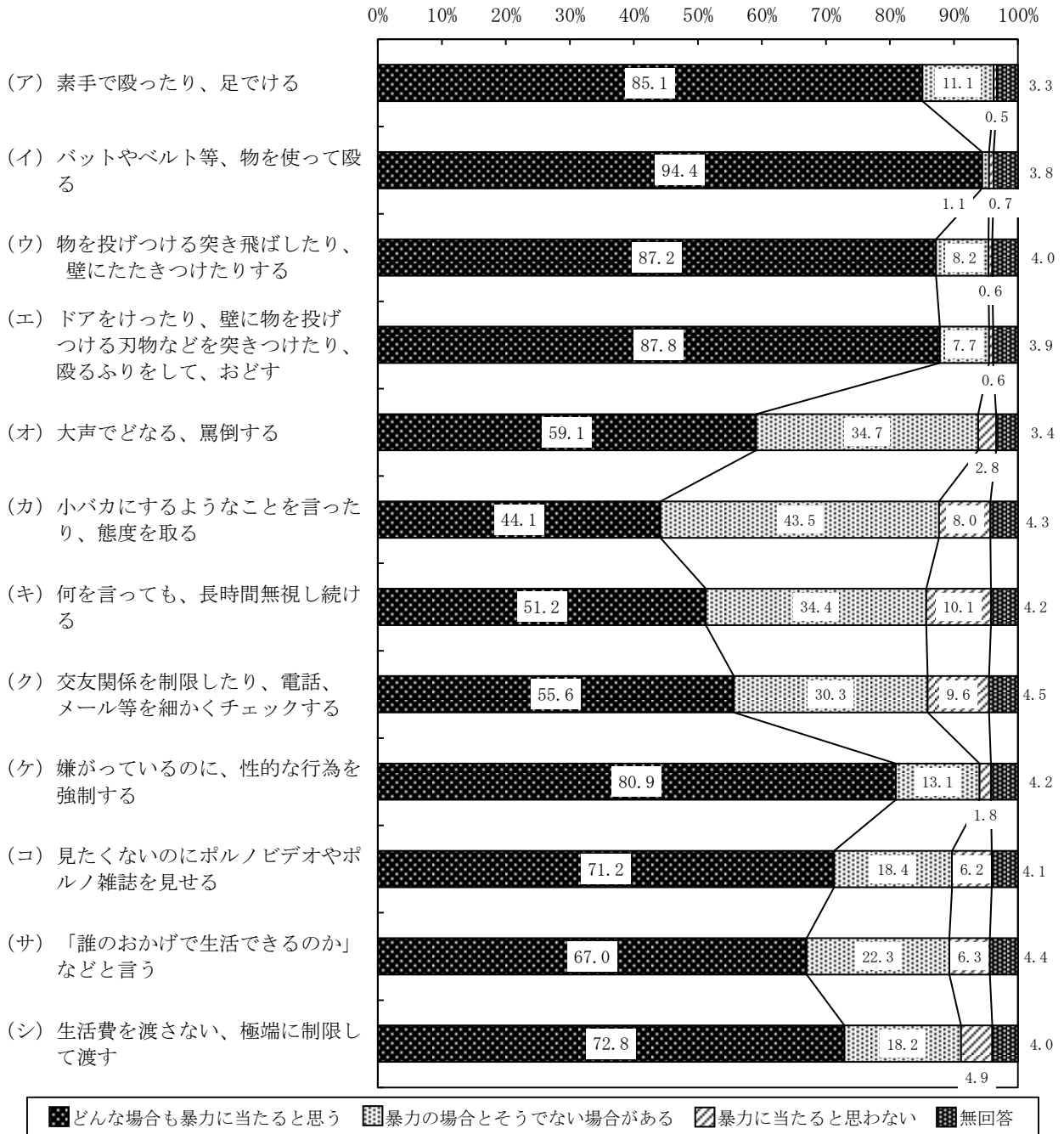
同居家族内容別で見ると、高校生までの子どもがいると回答した方で「児童手当など子育てに関する経済的な支援が充実すること」を選択した割合が高くなっている。中でも小学生や就学前の子どもがいるの方の割合が49.6%（小学生）、45.1%（就学前）と高率である。「保育サービスが充実すること」については、「就学前」（47.8%）、「子どもはいない」（45.2%）、「小学生」（41.0%）の順で高率であった。

◆4. ドメスティック・バイオレンス(夫婦・恋人間の暴力)/セクシャル・ハラスメントについて

問6 あなたは、配偶者や恋人があなたに対して、次のようなことをした場合、それを暴力だと思いますか。各項目ごとにあなたの気持ちに最も近い選択肢を1つだけ選択してください。【全員回答】

[N=1,015、選択数：各1]

図表6-1 配偶者・恋人からの行為に対する暴力認識 [総合：N=1,015、選択数：各1]



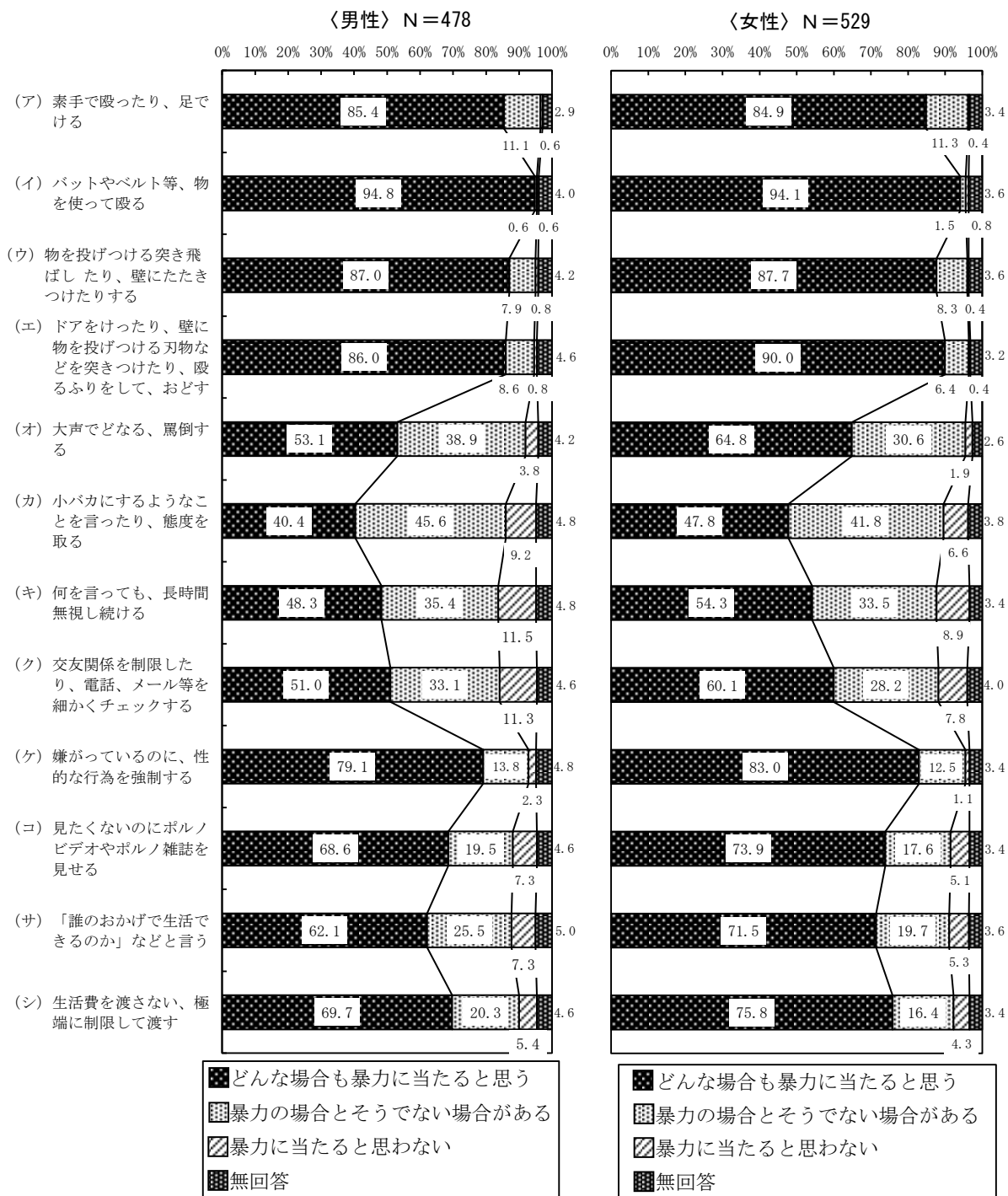
身体に直接的な被害を及ぼす行為については、「どんな場合も暴力に当たる」を選択した割合が高く（約 85%～95%）、「暴力の場合とそうでない場合がある」をあわせると、95%以上の県民が暴力だと認識している。

一方、身体に直接的な被害を及ぼさない精神的な行為等については、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が、身体に直接的な被害を及ぼす行為よりも高くなっているものの、85%以上の県民が暴力だと認識している。

前回調査と比較すると、ほとんどの項目で前回調査時点よりも「暴力に該当する（「どんな場合も」「時により」）」と回答する割合が高くなっており、DVに対する県民の理解、認識が高まっていることが伺える。

図表6-2 配偶者・恋人からの行為に対する暴力認識（性別）

[性別：N=1,015、選択数：各1]

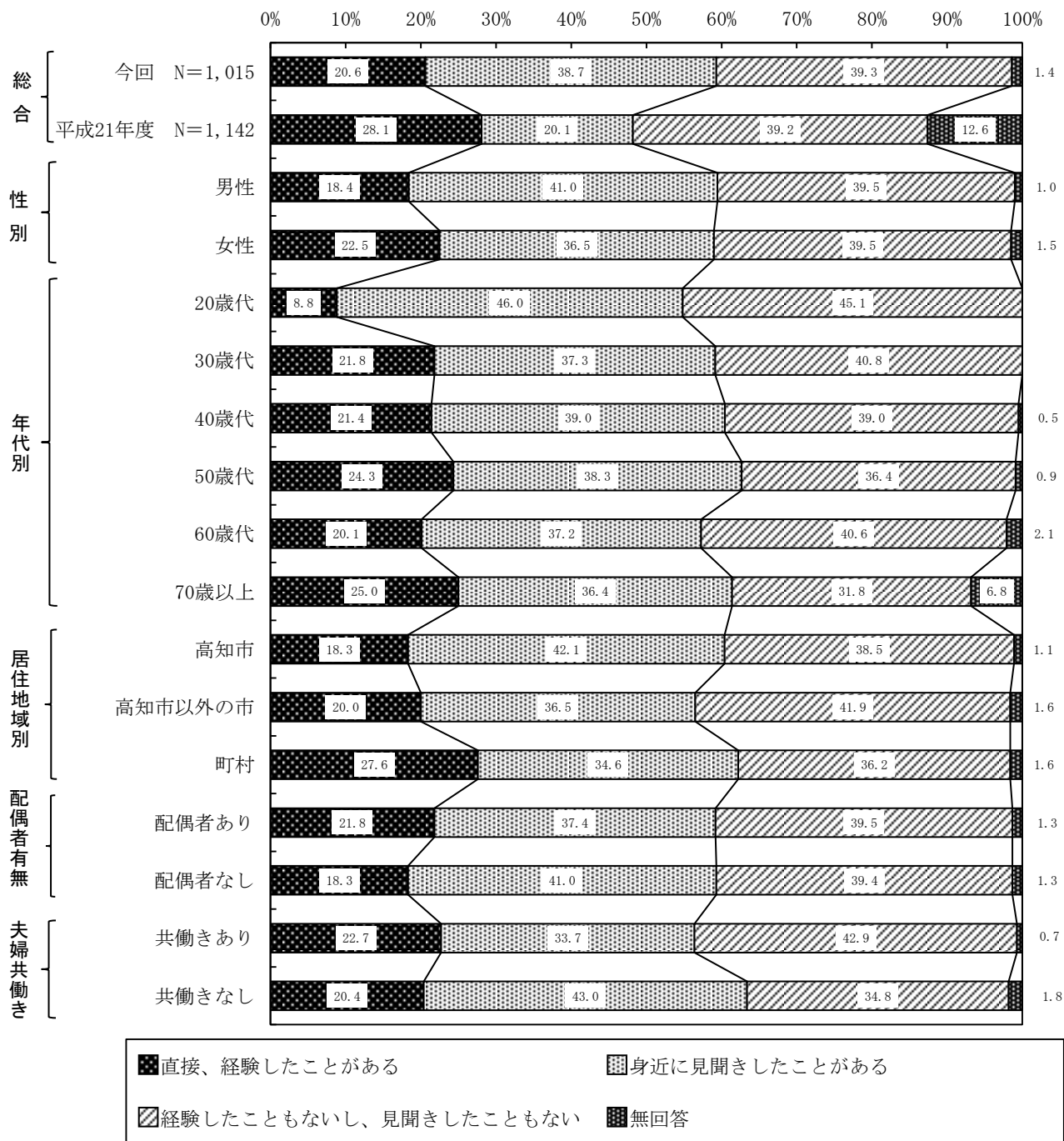


性別では、ほとんどの項目で女性の方がより高率で暴力に該当すると認識している。「どんな場合も暴力に当たると思う」の男女差が最も大きい項目は、「大声でどなる、罵倒する」で男性53.1%、女性64.8%で、差は11.7ポイントである。ただし、身体に直接的な被害を及ぼす行為の中には男性の方が高率で暴力と認識している項目が見られるなど、DVに対する男性の意識も高まっていると考えられる。

問7 問6のようなことをあなたは経験したり、見聞きしたことがありますか。【全員回答】

[N=1,015、選択数：各1]

図表7-1 配偶者・恋人からの暴力（DV）経験の有無 [総合：N=1,015、選択数：各1]



「直接、経験したことがある」と回答したのは20.6%で、前回調査時の28.1%と比較して7.5ポイント減少した。一方、「身近に見聞きしたことがある」と回答した割合は38.7%で、前回調査時の20.1%と比較すると2倍弱に増加していることから、周囲の人も問6に列挙した行為がDVだと認識するようになってきたことが想定される。

なお、「経験したこともないし、見聞きしたこともない」と回答した割合については39.3%と、前回調査の39.2%とはほぼ同率で推移している。

性別では、「直接、経験したことがある」は、男性18.4%、女性22.5%、「身近に見聞きしたことがある」は、男性41.0%、女性36.5%、「経験したこともないし、見聞きしたこともない」は、男女とも39.5%となっている。

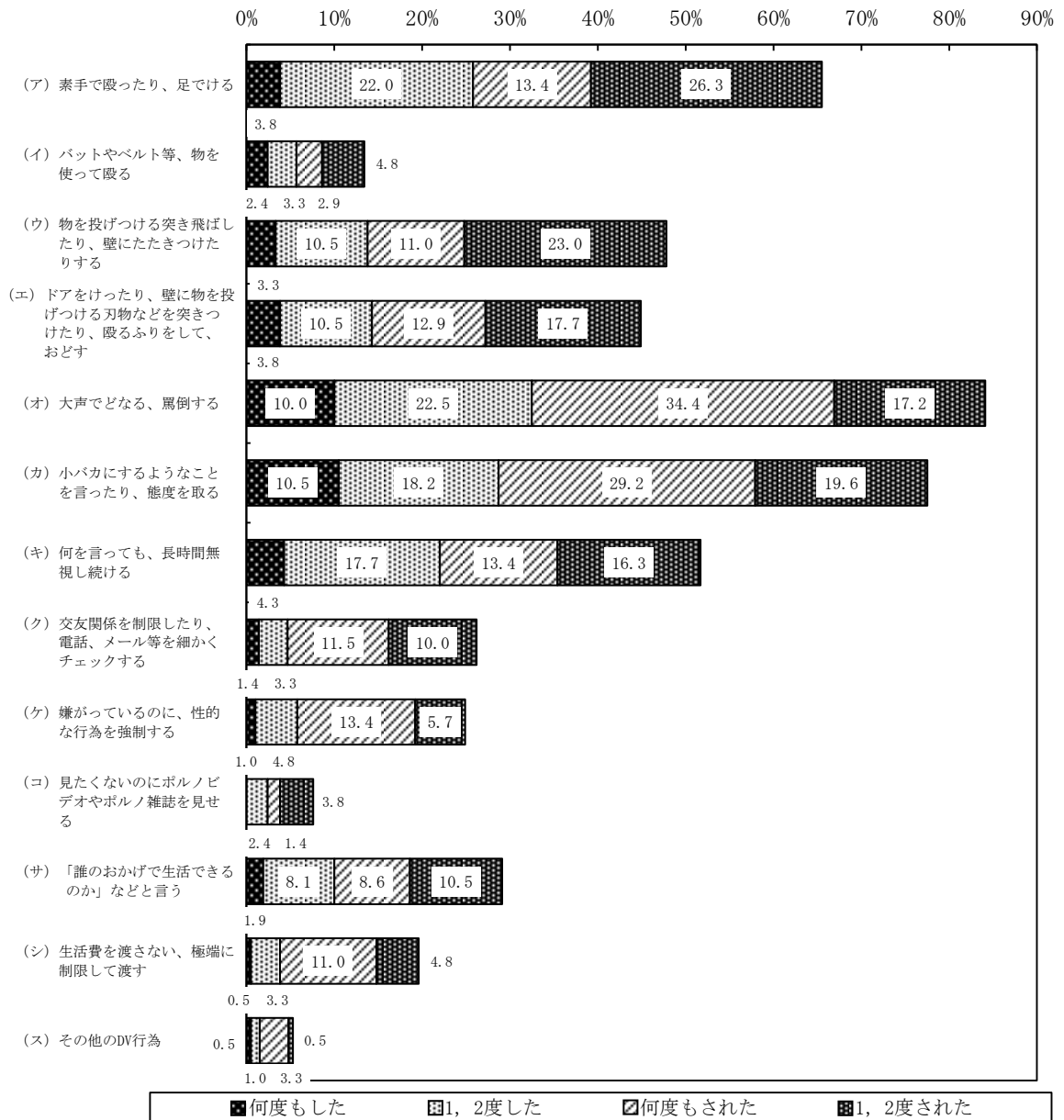
年代別では、20歳代が「直接、経験したことがある」が8.8%と最も少ない一方、「身近に見聞きしたことがある」は、46.0%と最も多くなっている。

★問7で「1. 直接、経験したことがある」を選んだ方のみお答えください。

問8 あなたは、あなたの配偶者や恋人に次のようなことをしたこと、またはされたことはありますか。したこと、あるいはされたことがある方は、項目ごとに、あなたの経験に最も近い選択肢を1つずつ選択して下さい。該当しない箇所は、選択不要です。【問7で「1. 直接、経験したことがある」を選んだ方のみ】
[N=209、選択数：項目別の「した」「された」ごとにいずれか1つ]

図表8-1 DV経験（加害、被害）の有無及び頻度（全体）

[総合：N=209、選択数：項目別の「した」「された」ごとにいずれか1つ]

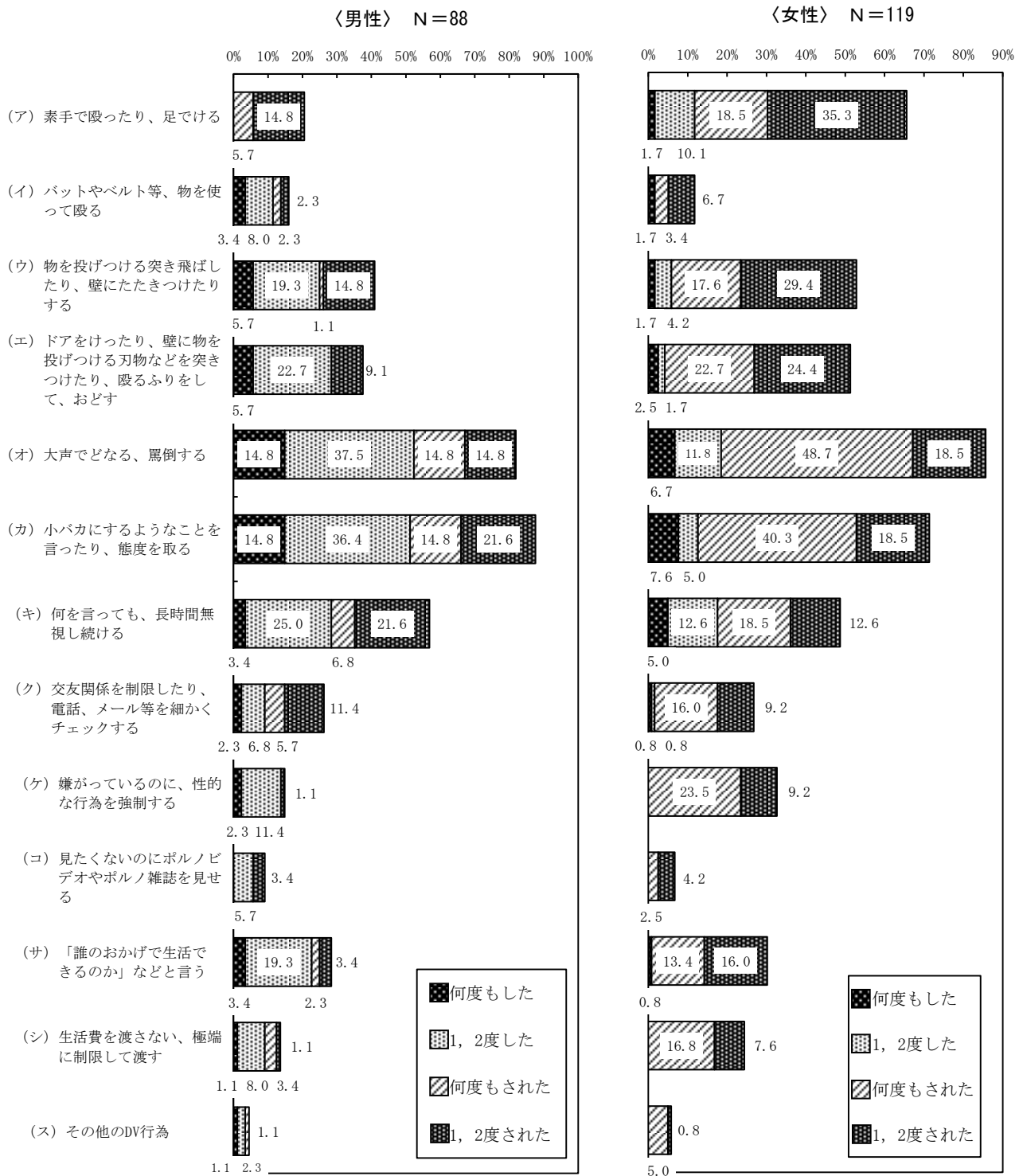


それぞれの項目において、何らかのDV経験があると回答した割合（全体から「どちらでもない・無回答」の割合を引いたもの）は、「大声でどなる、罵倒する」が70.8%、「小バカにするようなことを言ったり、態度を取る」が65.6%、「素手で殴ったり、足でける」が56.9%の順で高率となっている。

いずれの項目も「した」より「された」の割合が高くなっており、加害者と被害者の間に認識の違いが見られる。「大声でどなる、罵倒する」と「小バカにするようなことを言ったり、態度を取る」の2つの項目については、問6で「暴力の場合とそうでない場合がある」を選択した割合が比較的高いことから、自分の行っている行為はDVではないと認識して行っている可能性がある。

図表8-2 DV経験（加害、被害）の有無及び頻度（性別）

〔男性（N=88）、女性（N=119）、選択数：項目別の「した」「された」ごとにいずれか1つ〕



性別の加害、被害の状況を比較したところ、加害は男性が多く、被害は女性が多い。

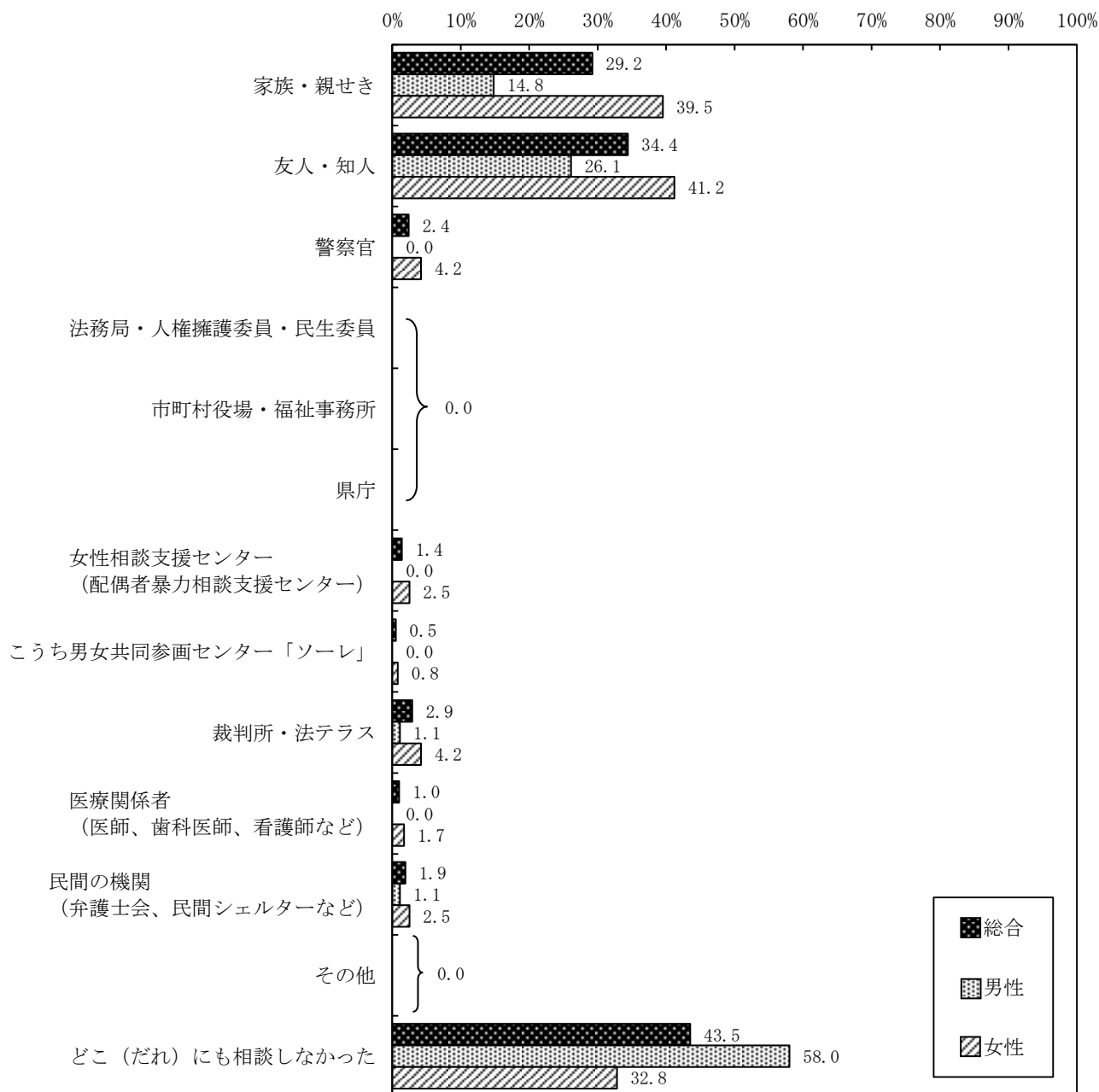
また、男性の加害と女性の被害、女性の加害と男性の被害のそれぞれの状況を比較したところ、加害者と被害者が直接リンクしないため単純な比較は難しいが、加害は軽く、被害は重く受け止める傾向があると考えられる。

問8 (副問1)

あなたは、問8のしたこと、されたことについて誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
該当するものをすべて選択して下さい。【問7で「1. 直接、経験したことがある」を選んだ方のみ】

[N=209、選択数：いくつでも]

図表8 (副1) - 1 配偶者・恋人からの暴力(DV)行為についての相談相手(総合・性別)
[総合(N=209)、男性(N=88)、女性(N=119)、選択数：いくつでも]

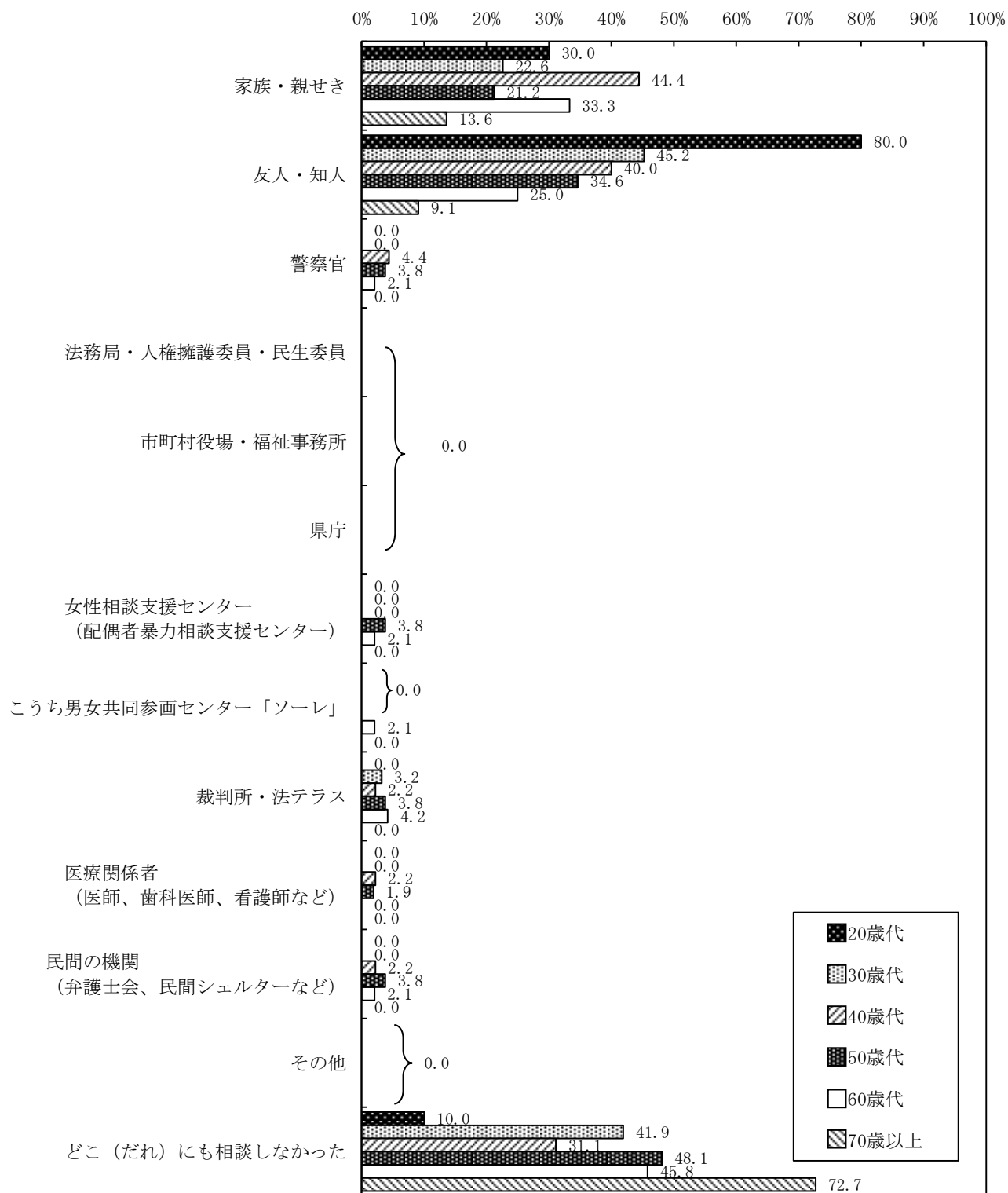


DV行為について、打ち明けたり、相談した相手について複数回答で質問したところ、「どこ(だれ)にも相談しなかった」割合が43.5% (男性58.0%、女性32.8%) で最も高率であるが、前回調査51.4%と比較すると7.9ポイント減少している。

また、「家族・親せき(29.2%、前回27.4%)」、「友人・知人(34.4%、前回26.5%)」に相談等を行った割合は増加した一方、「女性相談支援センター(1.4%、前回2.2%)」や「男女共同参画センター(0.5%、前回0.6%)」に相談した割合は減少、県庁、市町村役場・福祉事務所、法務局等の公的機関への相談件数はいずれもゼロだった。

図表8 (副1) -2 配偶者・恋人からの暴力(DV)行為についての相談相手(年代別)

[20代(N=10)、30代(N=31)、40代(N=45)、50代(N=52)、60代(N=48)、70代以上(N=22)、選択数:いくつでも]



年代別でみると、20歳代では80.0%「友人、知人」に、また30.0%が「家族・親せき」に相談しており、「どこ(だれ)にも相談しなかった」割合は10.0%、9割の方が何らかの形で相談をしている一方、70歳以上では72.7%が「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答するなど、年代による違いが見られた。

★副問1で「13 どこ（だれ）にも相談しなかった」を選んだ方のみお答えください。

問8（副問2）

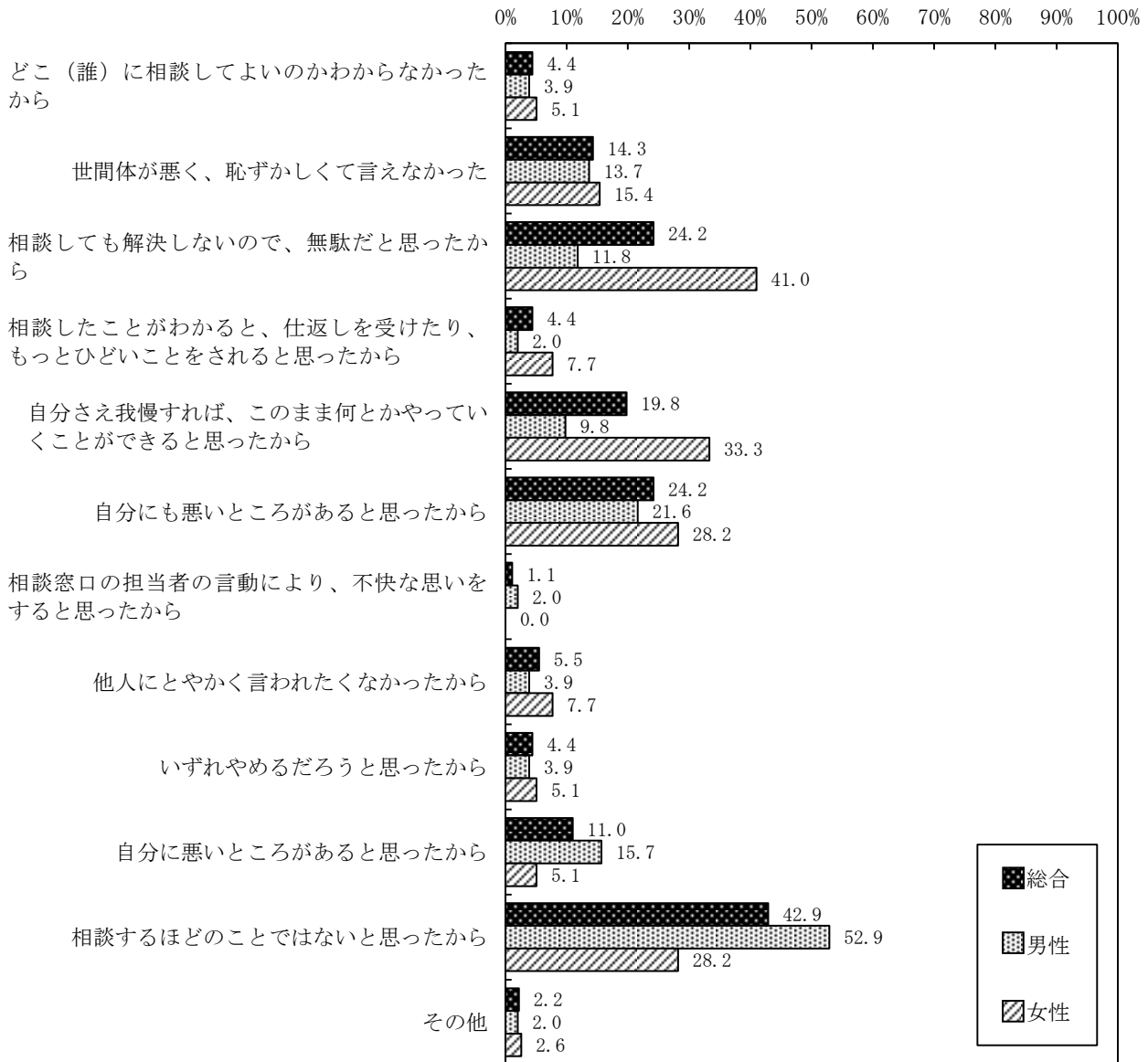
あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。

【副問1で「13 どこ（だれ）にも相談しなかった」を選択した方のみ回答】

[N=91、選択数：いくつでも]

図表8（副2）－1 相談しなかった理由（総合・性別）

[総合：N=91、男性（N=51）、女性（N=39）、選択数：いくつでも]



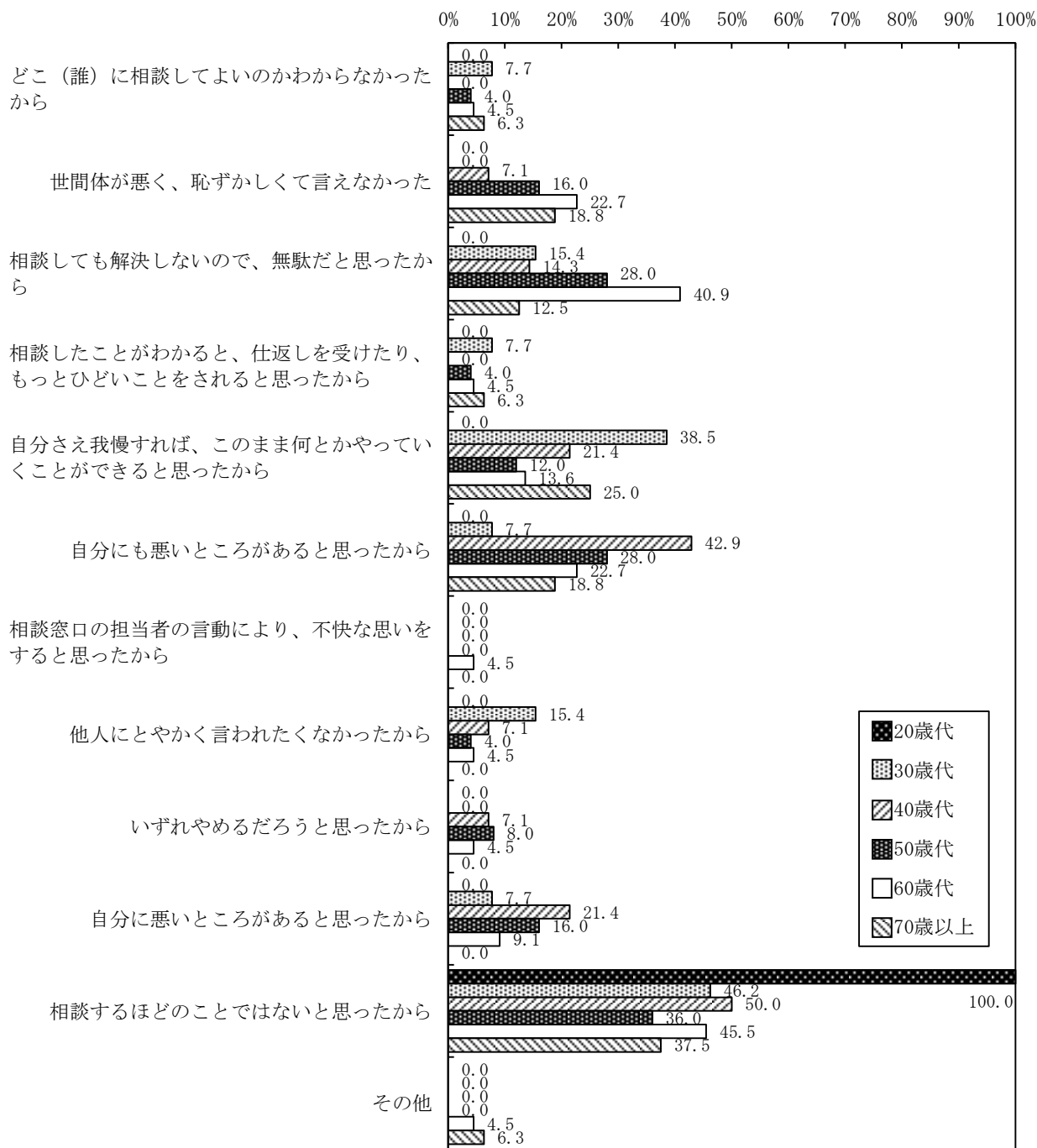
「相談するほどのことではないと思ったから（42.9%、前回 60.0%）」、「自分にも悪いところがあると思ったから（24.2%、前回 20.0%）」、「相談しても解決しないので、無駄だと思ったから（24.2%、前回 17.6%）」の順で高率であった。

性別では、女性は「相談しても解決しないので、無駄だと思ったから（41.0%）」、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから（33.3%）」、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」と「相談するほどのことではないと思ったから」が同率の 28.2%と続いた。

一方男性は、「相談するほどのことではないと思ったから（52.9%）」が半数以上を占め、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから（21.6%）」、「自分にも悪いところがあると思ったから（15.7%）」であった。

図表8 (副2) - 2 相談しなかった理由 (年代別)

[20代 (N=1)、30代 (N=13)、40代 (N=14)、50代 (N=25)、
60代 (N=22)、70代以上 (N=16)、選択数：いくつでも]



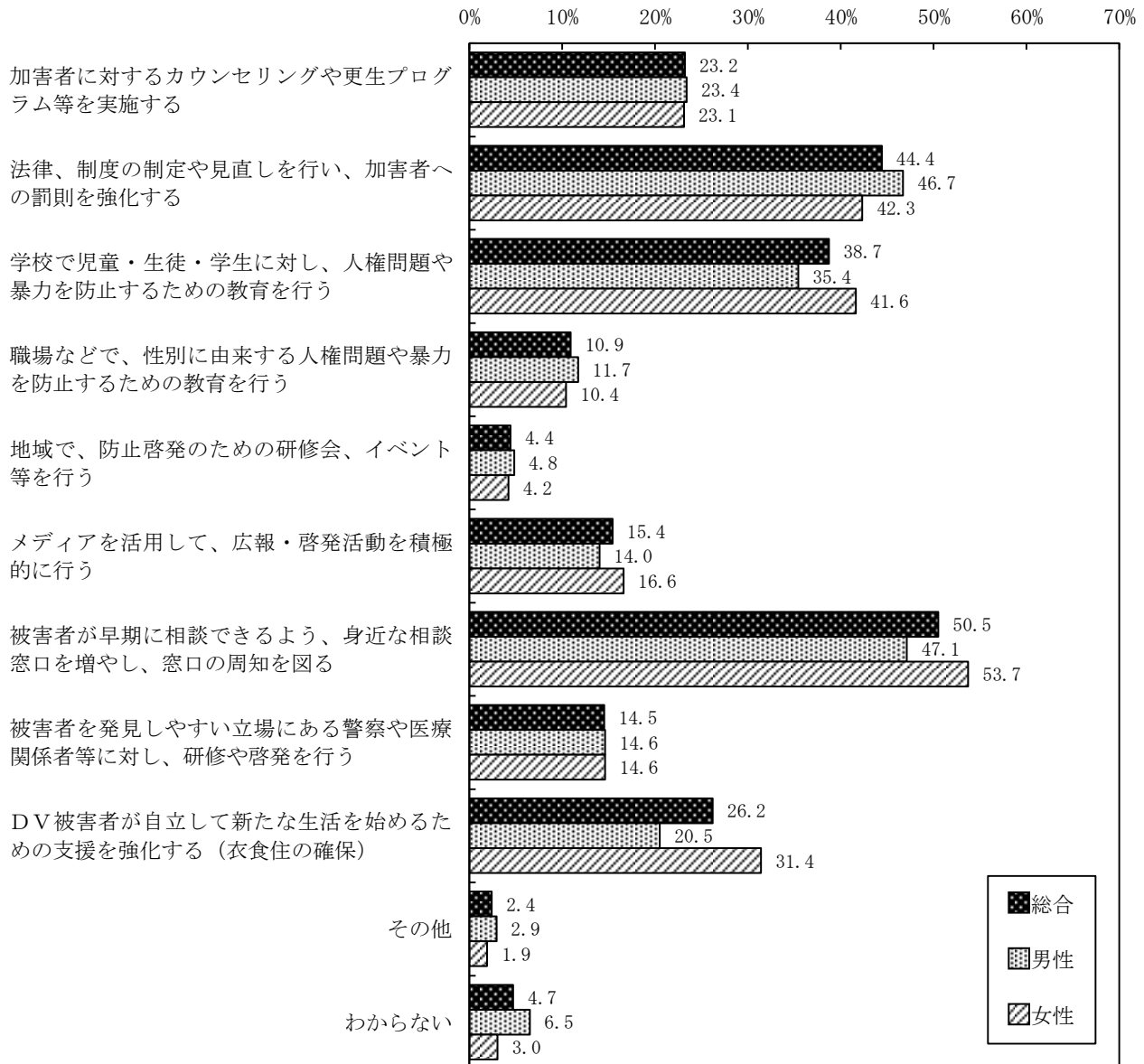
年代別では、割合にバラつきはあるものの、どこ (誰) にも相談しなかった理由としては「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高率であった。

問9 デートDV（交際相手からの暴力）、DV（配偶者等からの暴力）、性暴力などの行為が社会問題になっていますが、このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。3つまで選択してください。【全員回答】

[N=1,015、選択数：3つ以内]

図表9-1 DVなどを予防し、なくすために必要と思われること（総合・性別）

[総合・性別：N=1,015、選択数：3つ以内]



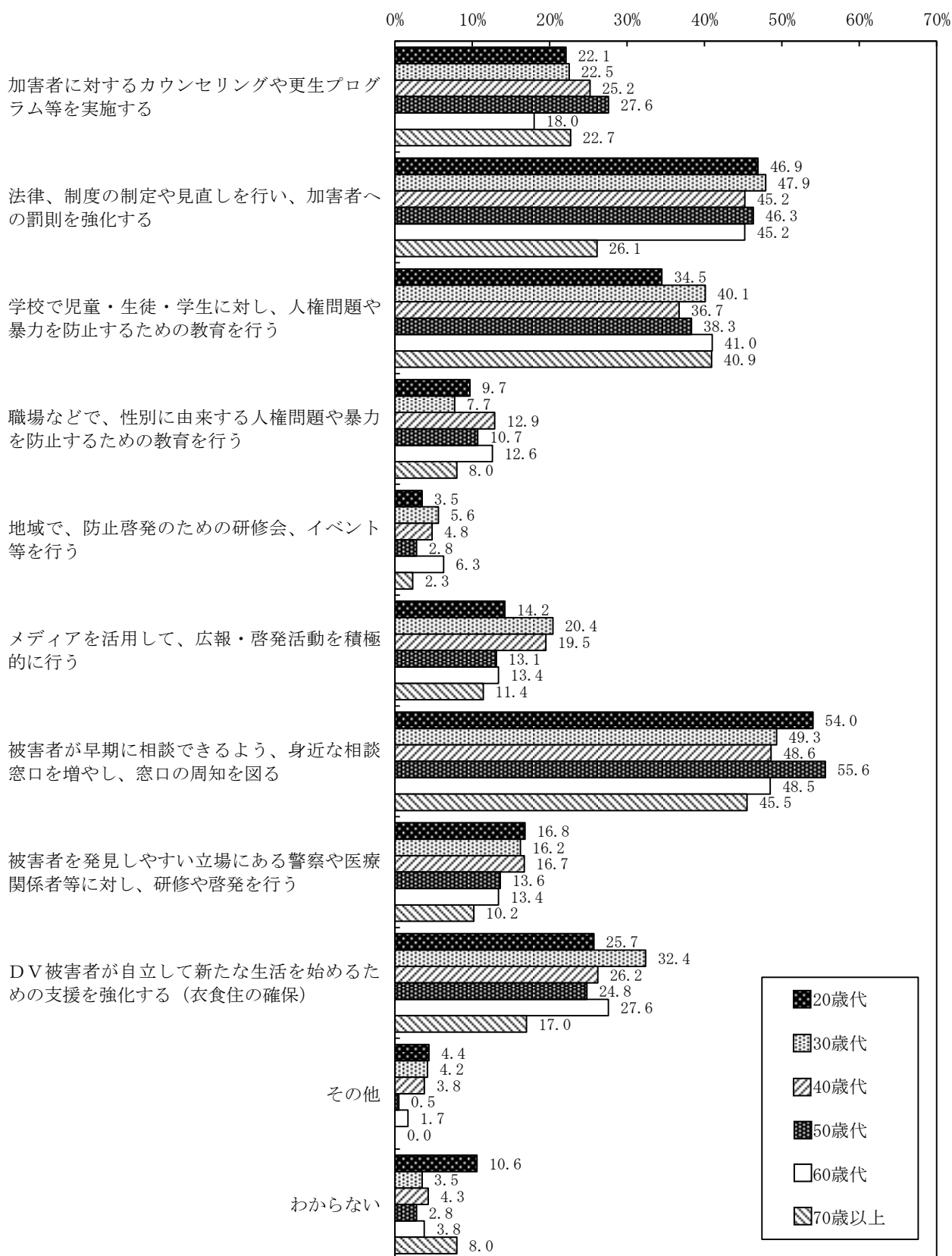
今回新たに追加した質問である。

DVや性暴力などの行為を予防し、なくすためには、何を行う必要があるのかを複数回答で質問したところ、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やし、窓口の周知を図る」が50.5%（男性47.1%、女性53.7%）、「法律、制度の制定や見直しを行い、加害者への罰則を強化する」が44.3%（男性46.7%、女性42.3%）、「学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や暴力を防止するための教育を行う」が38.7%（男性35.4%、女性41.6%）の順で高率であった。

性別でみると、「DV被害者が自立して新たな生活を始めるための支援を強化する（衣食住の確保）」（26.2%）で、女性31.4%、男性20.5%の10.9ポイント差が見られた他は、比較的近い割合であった。

図表9-2 DVなどを予防し、なくすために必要と思われること（年代別）

[年代別：N=1,015、選択数：3つ以内]



すべての年代で最も高率であったのは、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やし、窓口の周知を図る」で約45%から55%であり、次いで「法律、制度の制定や見直しを行い、加害者への罰則を強化する」でいずれも45%程度であった。

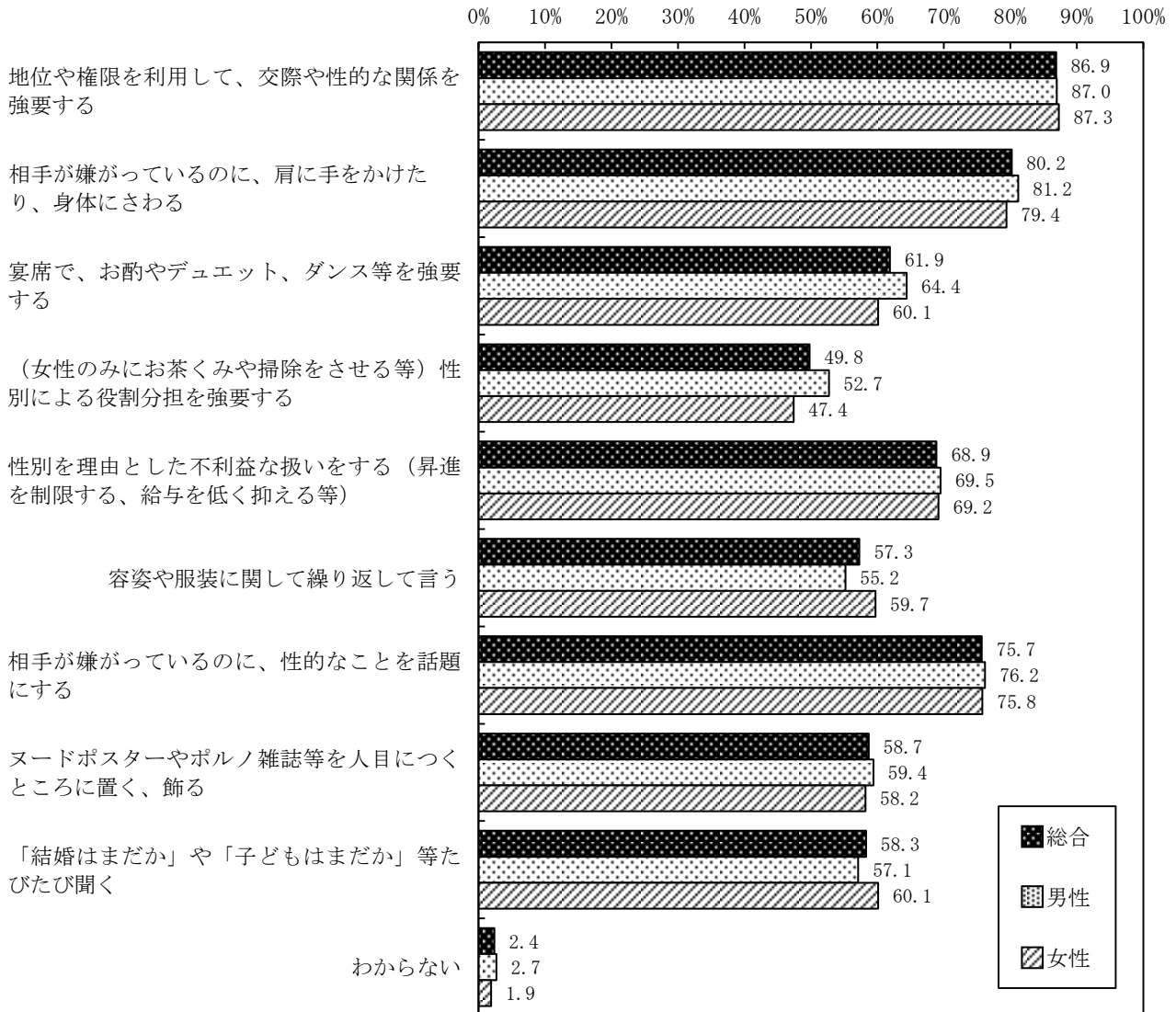
問10 次にあげるもののうち、あなたがセクシュアル・ハラスメントだと思うことはどれですか。

あてはまるものすべて選択してください。【全員回答】

[N=1,015、選択数：いくつでも]

図表 10-1 セクシュアル・ハラスメント認識（総合・性別）

【総合・性別：N=1,015、選択数：いくつでも】

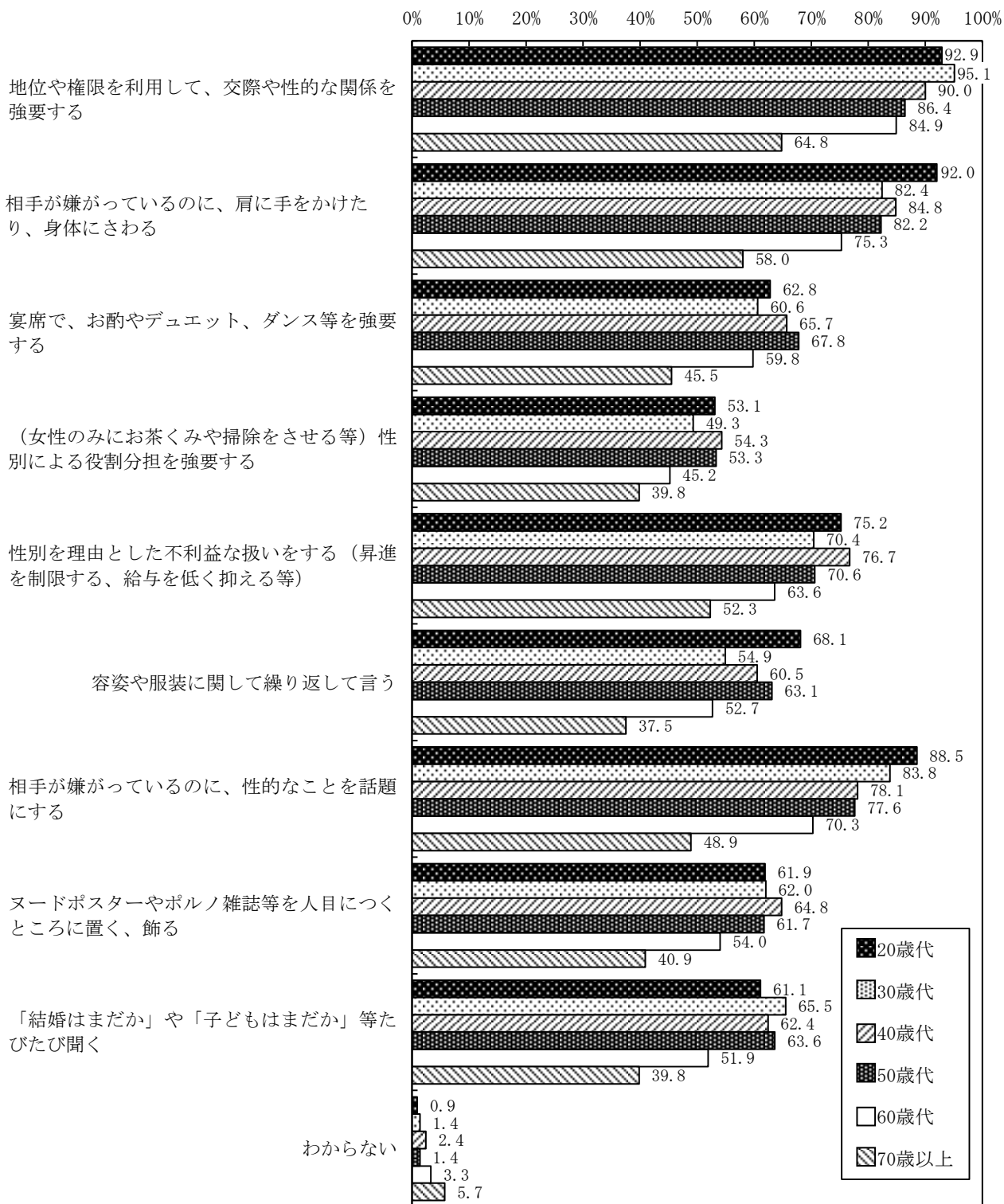


セクシュアル・ハラスメントに該当すると思う行為について複数回答で質問したところ、「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する（86.9%、前回 86.2%）」、「相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体にさわる（80.2%、前回 81.0%）」「相手が嫌がっているのに、性的なことを話題にする（75.7%、前回 73.8%）」の順であった。順位及び割合とも、前回調査時点とほぼ変わりはない。

一方、「宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する（61.9%、前回 53.8%）」は 8.1 ポイント、「容姿や服装に関して繰り返して言う（57.3%、前回 47.1%）」、「ヌードポスターやポルノ雑誌等を人目につくところに置く、飾る（58.7%、前回 47.2%）」は約 10 ポイント、「『結婚はまだか』や『子どもはまだか』等たびたび聞く（58.3%、前回 39.2%）」は約 20 ポイント割合が増えており、セクシュアル・ハラスメントに対する認識は全体的に高まってきていると考えられる。

性別でみると、「（女性のみにお茶くみや掃除をさせる等）性別による役割分担を強要する（男性 52.7%、女性 47.4%）」の男女差が 5.3 ポイントで最大になっている程度で、男女間に大きな違いは見られない。

図表 10-2 セクシャル・ハラスメント認識 (年代別)
 [年代別 : N=1,015、選択数 : いくつでも]



年代別では、20歳代と40歳代がいずれの項目でも比較的高率にある。逆に60歳代、70歳以上は比較的低率であり、特に70歳以上はいずれの項目でも最も低率になっている。例えば、「相手が嫌がっているのに、性的なことを話題にする」では、70歳以上は、最も高率の20歳代(88.5%)と比較して40%近く低くなっている。

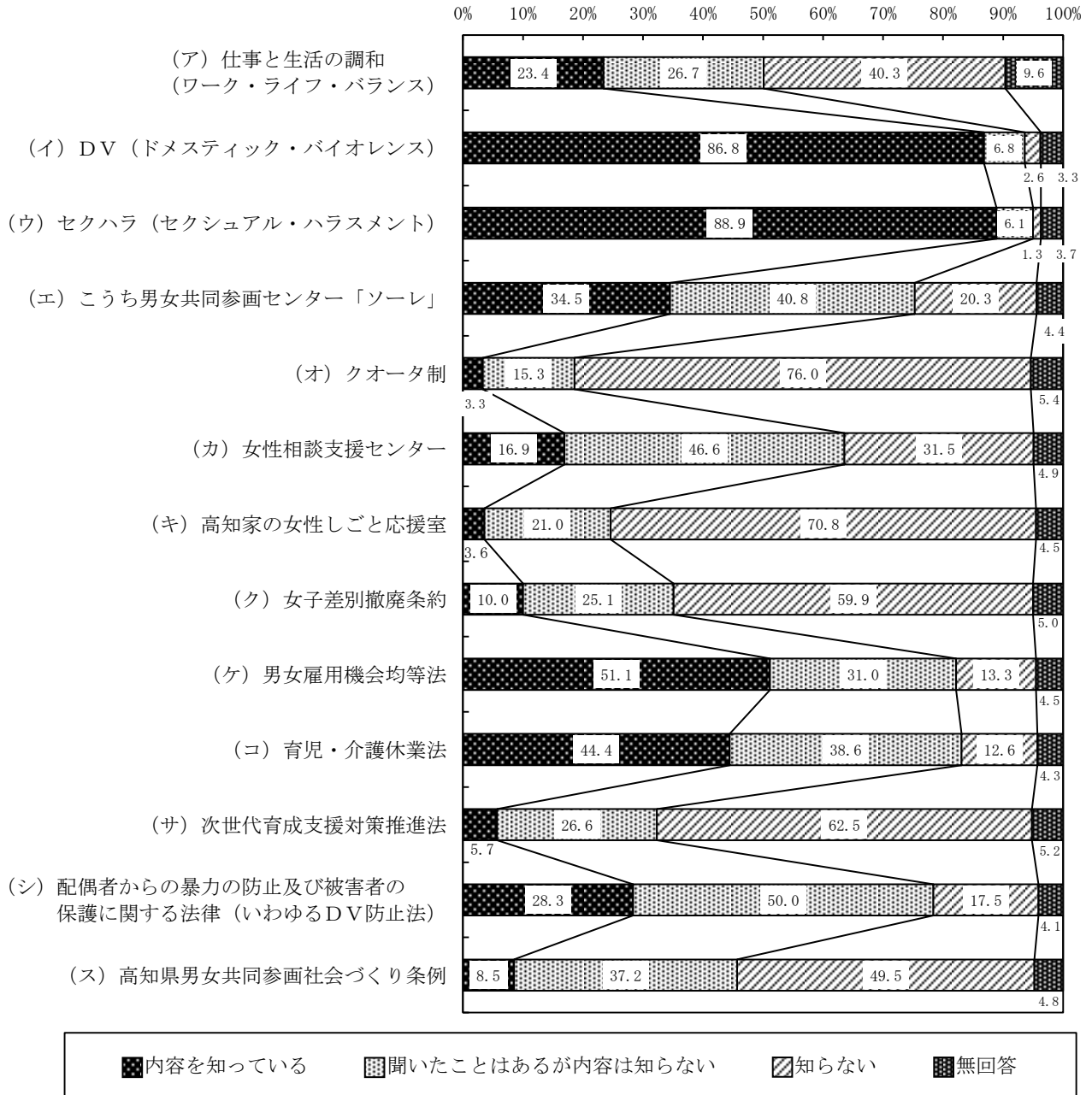
◆5. 男女共同参画の推進について

問11 あなたは、次にあげる言葉について、知っていますか。

それぞれの言葉について、該当するものを1つだけ選択してください。【全員回答】

[N=1,015、選択数：各1]

図表 11-1 男女共同参画関連用語等の周知度「全体」 [総合：N=1,015、選択数：各1]



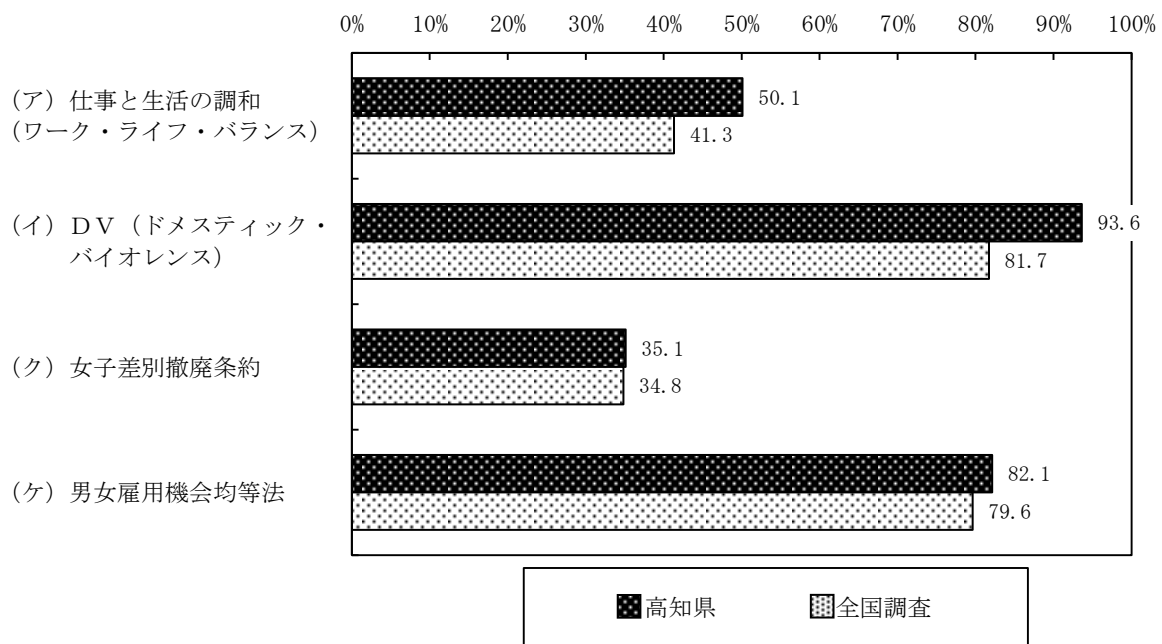
最も認識が高かったのは、「セクハラ (セクシュアル・ハラスメント)」で88.9%、次いで「DV (ドメスティック・バイオレンス)」86.8%と9割近くの県民が「内容を知っている」と回答した。その後は、「男女雇用機会均等法 (51.1%)」、「育児・介護休業法 (44.4%)」と続いた。

「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を足した割合では、「セクハラ (95.0%)」、「DV (93.6%)」、「育児・介護休業法 (83.0%)」、「男女雇用機会均等法 (82.1%)」の順で高い。

「内容を知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が最も低かったのは、「クオーター制 (3.3%+15.3%)」で、「高知家のしごと応援室 (3.6%+21.0%)」(H26.6 開所)、「次世代育成支援対策推進法 (5.7%+26.6%)」、「女子差別撤廃条約 (10.0%+25.1%)」と続いている。

図表 11-2 男女共同参画関連用語等の周知度「全国調査との比較※」

[高知：N=1,015、全国：N=3,033、選択数：各1]



※「全国調査」出典：

・平成24年度「男女共同参画社会に関する世論調査」(内閣府男女共同参画局調べ)

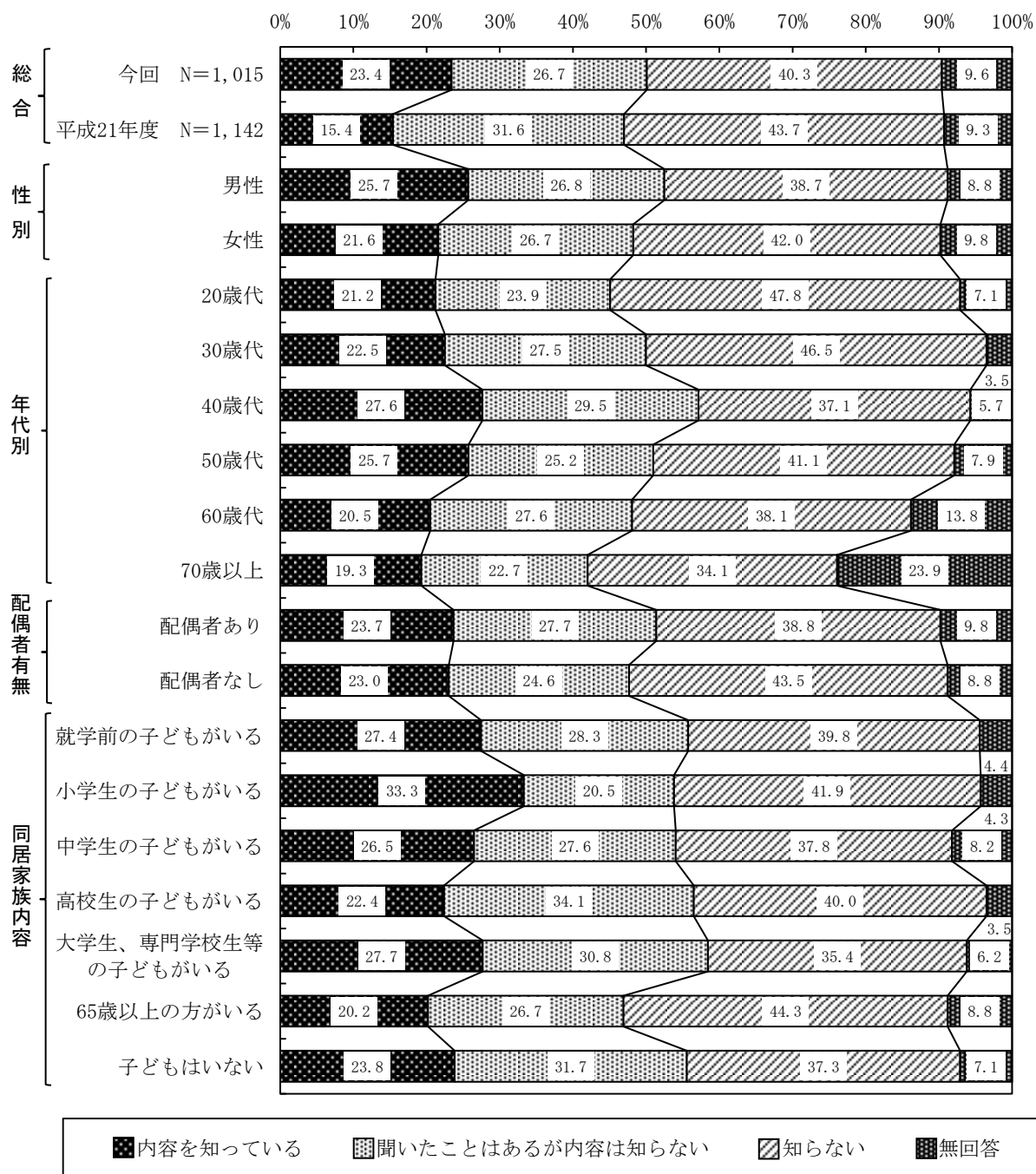
※全国調査の質問文は「これらの言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことのあるものを全てあげてください。」となっているため、高知県の数値は「内容を知っている」「聞いたことがあるが内容は知らない」の回答を合わせたものを表示している

全国と比較すると、「仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)」(高知：50.1%、全国：41.3%)、「DV」(高知：93.6%、全国：81.7%)、「女子差別撤廃条約」(高知：35.1%、34.8%)、「男女雇用機会均等法」(高知82.1%、全国79.6%)と、いずれの文言も高知県の方が認識が高い結果となった。これは、前回調査(21年度)時点と同様である。

(ア) 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)

図表 11-3 男女共同参画関連用語等の周知度「仕事と生活の調和」

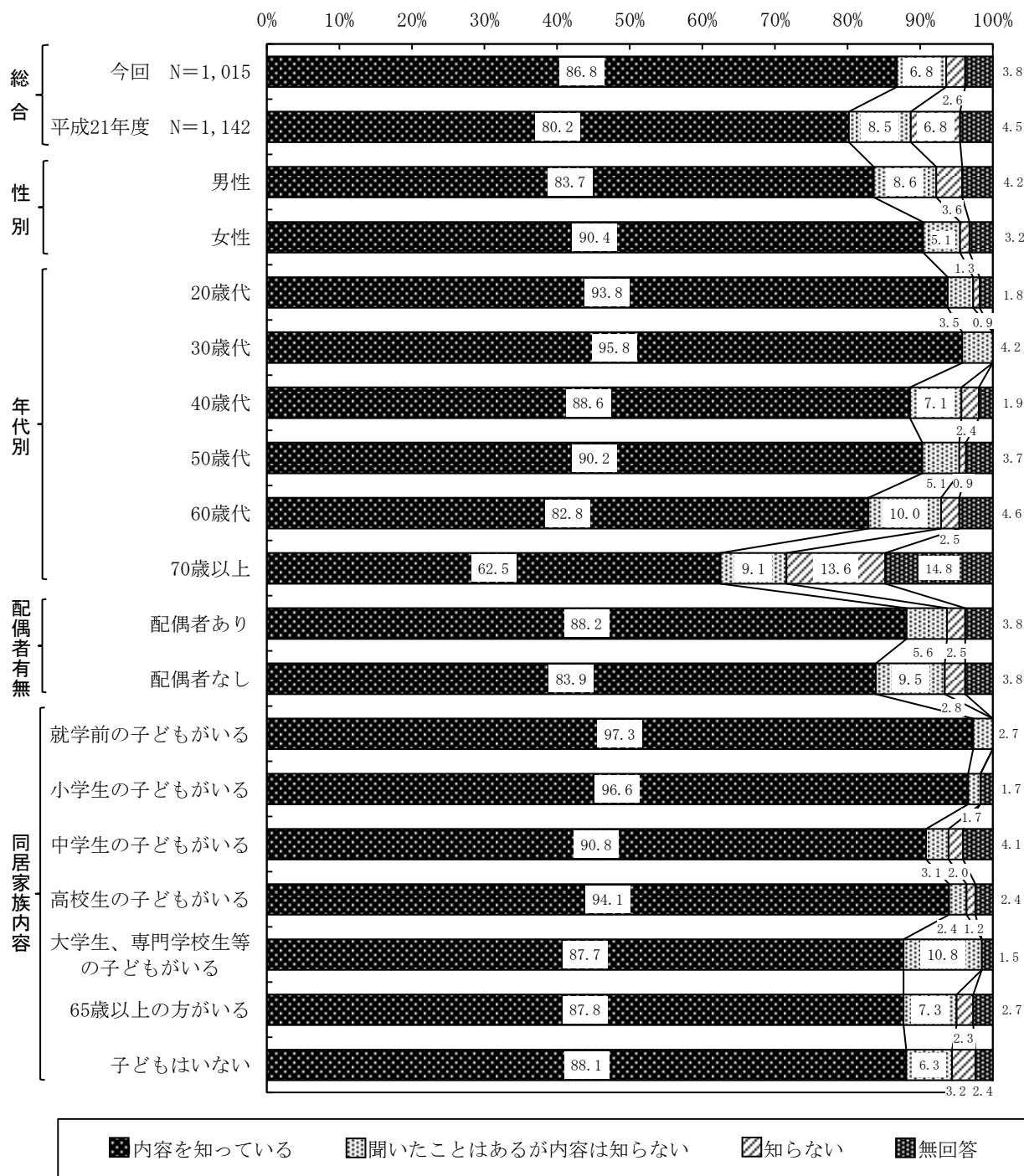
[総合 : N=1,015、選択数 : 1]



「仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)」については、前回と比較して、「内容を知っている」の割合が増えた (15.4%→23.4%) ものの、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が下がった (31.6%→26.7%) ため、全体としては3.1%のアップにとどまった。

(イ) DV (ドメスティック・バイオレンス)

図表 11-4 男女共同参画関連用語等の周知度「DV」 [総合：N=1,015、選択数：1]



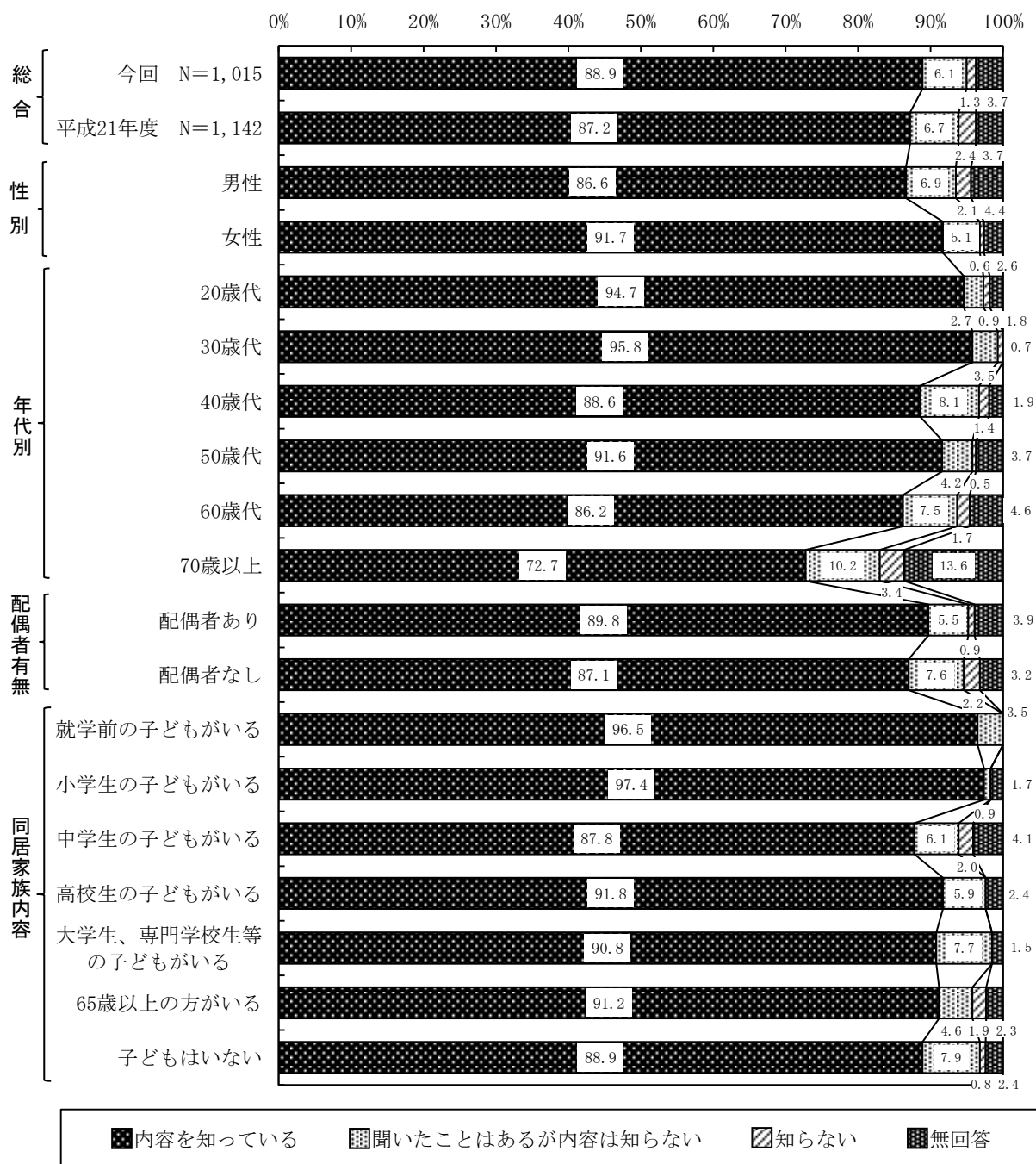
「DV (ドメスティック・バイオレンス)」については、「内容を知っている」(86.8%、前回 80.2%)と「聞いたことはあるが内容は知らない」(6.8%、前回 8.5%)を足すと、93.6%の県民が周知している。

性別では、「知っている」割合は、女性(90.4%)の方が男性(83.7%)よりも高率である。

年代別では、年代が上がるほど周知度が下がる傾向があり、20歳代(93.8%)、30歳代(95.8%)に対して、60歳代(82.8%)、70歳以上(62.5%)であった。

(ウ) セクハラ (セクシュアル・ハラスメント)

図表 11-5 男女共同参画関連用語等の周知度「セクハラ」 [総合：N=1,015、選択数：1]



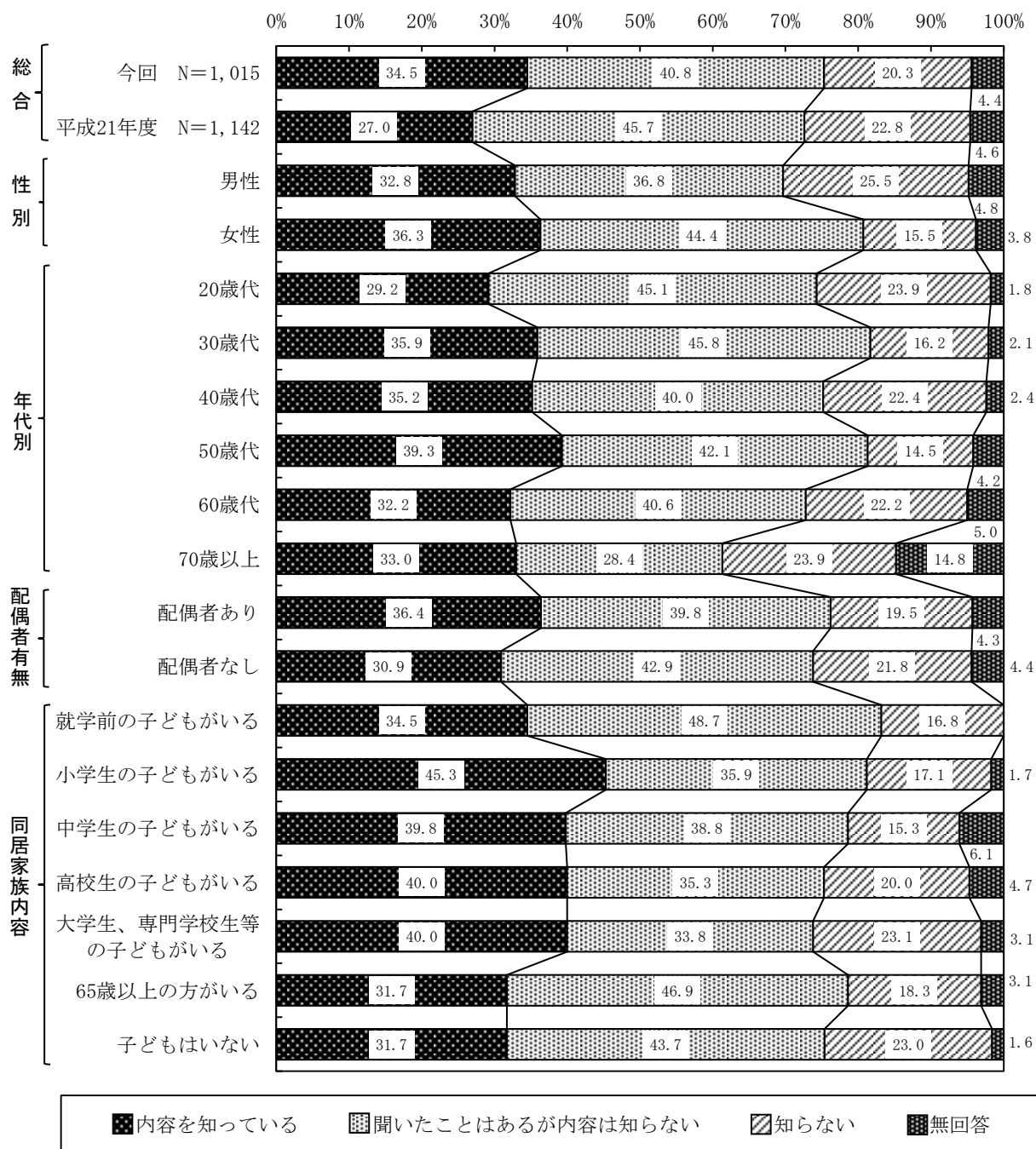
「セクハラ (セクシャル・ハラスメント)」については、「内容を知っている」(88.9%、前回 87.2%) の割合が最も高率で、「聞いたことはあるが内容は知らない」(6.1%、前回 6.7%) を足すと、95.0%の県民が周知している。

年代別では、「内容を知っている」の割合が、20歳代(94.7%)、30歳代(95.8%) で高い一方、70歳以上は72.7%と20%以上低い。

(エ) こうち男女共同参画センター「ソーレ」

図表 11-6 男女共同参画関連用語等の周知度「こうち男女共同参画センター」

[総合：N=1,015、選択数：1]



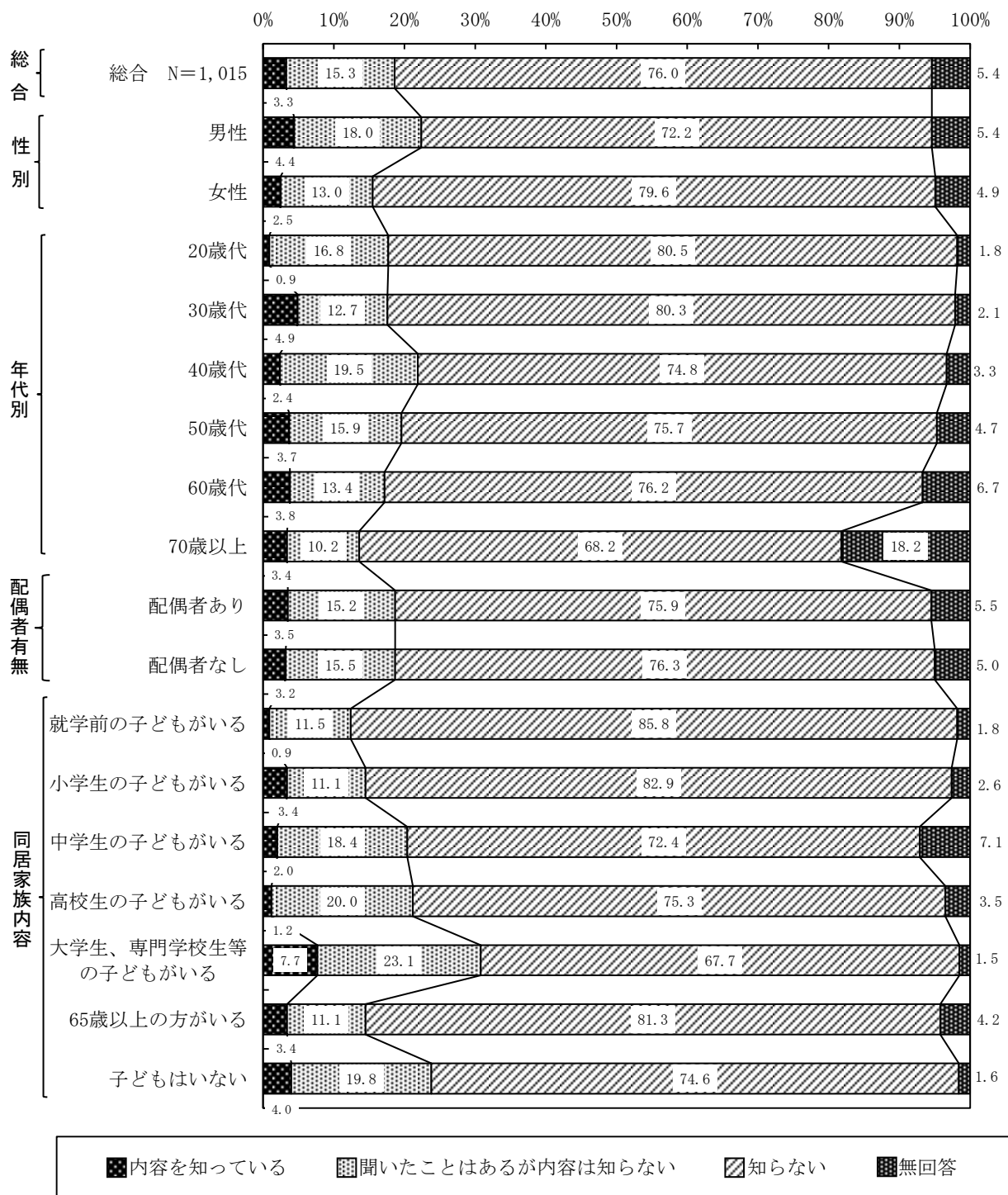
「こうち男女共同参画センター」については、前回調査よりも周知度がアップしており、「内容を知っている」の割合が27.0%から34.5%へと7.5ポイント増えたものの、全体的にはまだまだ十分周知されていない。

年代別では、「内容を知っている」に割合が50歳代で39.3%と最も高くなっている一方、20歳代は29.2%と10.1ポイント低い。

同居家族内容では、「小学生の子どもがいる」層の周知度が45.3%と最も高く、「中学生」「高校生」「大学生・専門学校生等」の子どもがいる層では約40%である。

(オ) クオータ制

図表 11-7 男女共同参画関連用語等の周知度「クオータ制」 [総合：N=1,015、選択数：1]



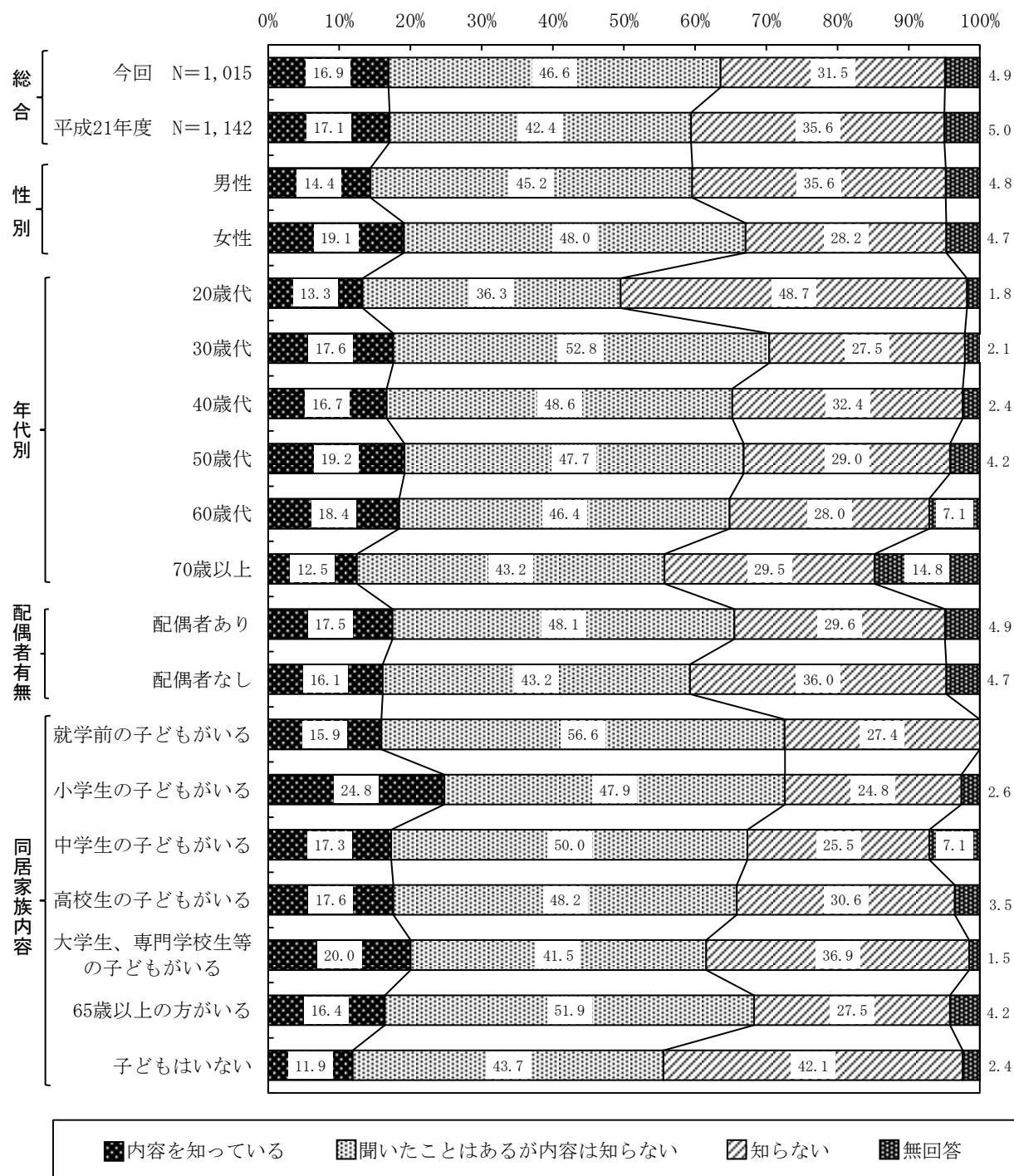
「クオータ制」については、今回の調査項目の中で、「内容を知っている」、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合とも、最も低い。

クオータ制とは、議会における女性議員の割合を高め、政治における男女平等を実現するために、議員・閣僚などの一定数を女性に割り当てる制度のことを差し、議席のうちの一定数を女性に割り当てたり、議員の候補者名簿の一定割合を女性にすること定めるもの（※内閣府男女共同参画局HP参照）だが、マスコミ等で取り沙汰されたのが最近であることや、露出度の低さからか周知度は低く、「内容を知っている」の割合は3.3%にとどまる。また、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合も15.3%で、76.0%もの県民が「知らない」と回答した。

(カ) 女性相談支援センター

図表 11-8 男女共同参画関連用語等の周知度「女性相談支援センター」

[総合：N=1,015、選択数：1]



「女性相談支援センター」については、「内容を知っている」(16.9%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(46.6%) 合わせて63.5%の周知度である。

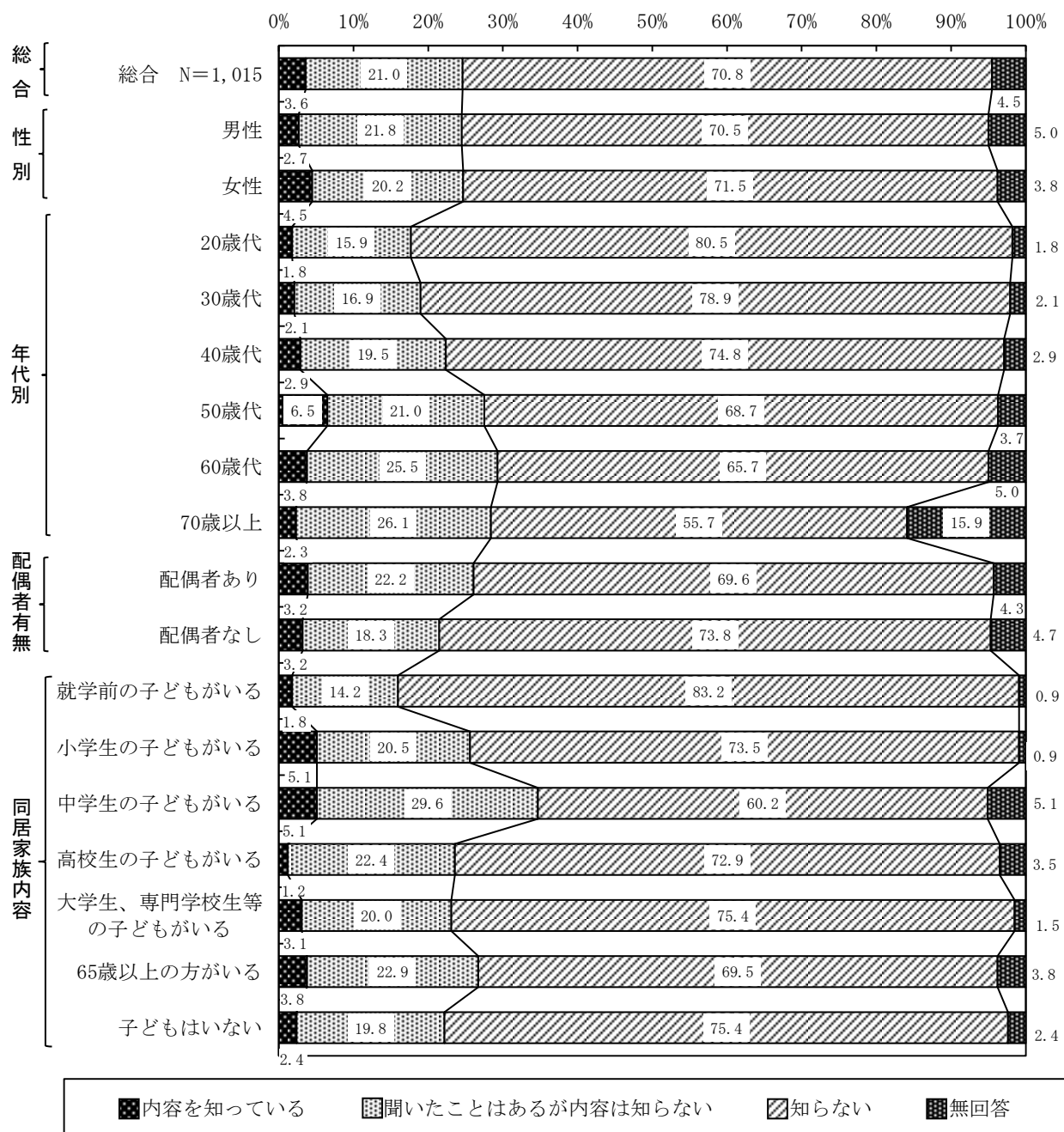
性別では、女性(19.1%)の方が男性(14.4%)よりも「内容を知っている」割合が高い。

同居家族内容別では、こうち男女共同参画センターと同様、「小学生の子どもがいる」層の周知度が24.8%と比較的高い。

(キ) 高知家の女性しごと応援室

図表 11-9 男女共同参画関連用語等の周知度「高知家の女性しごと応援室」

[総合：N=1,015、選択数：1]



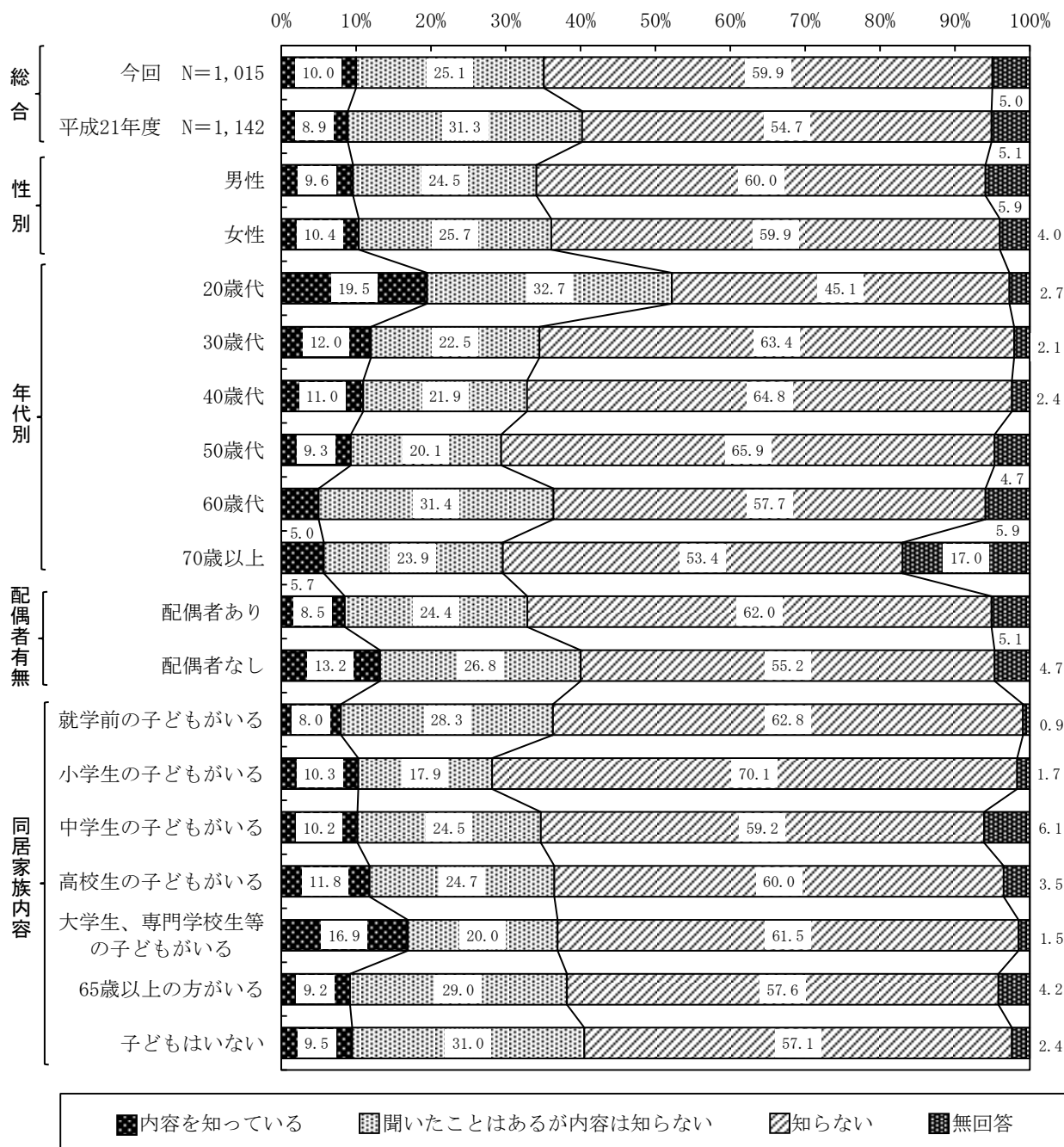
「高知家の女性しごと応援室」は、平成26年6月に、こうち男女共同参画センター内に開所した「働きたい女性を応援する」相談窓口（県設置）のことである。求人情報の他、スキルアップに必要な研修や講座、仕事と育児の両立に関する情報等を提供するほか、キャリアコンサルタントによるカウンセリングで職業適性検査等も実施している。

開所から半年ということも影響してか、「内容を知っている」はわずか3.6%で、「聞いたことはあるが内容は知らない」も21.0%にとどまり、「知らない」が70.8%となっている。

(ク) 女子差別撤廃条約

図表 11-10 男女共同参画関連用語等の周知度「女子差別撤廃条約」

[総合：N=1,015、選択数：1]



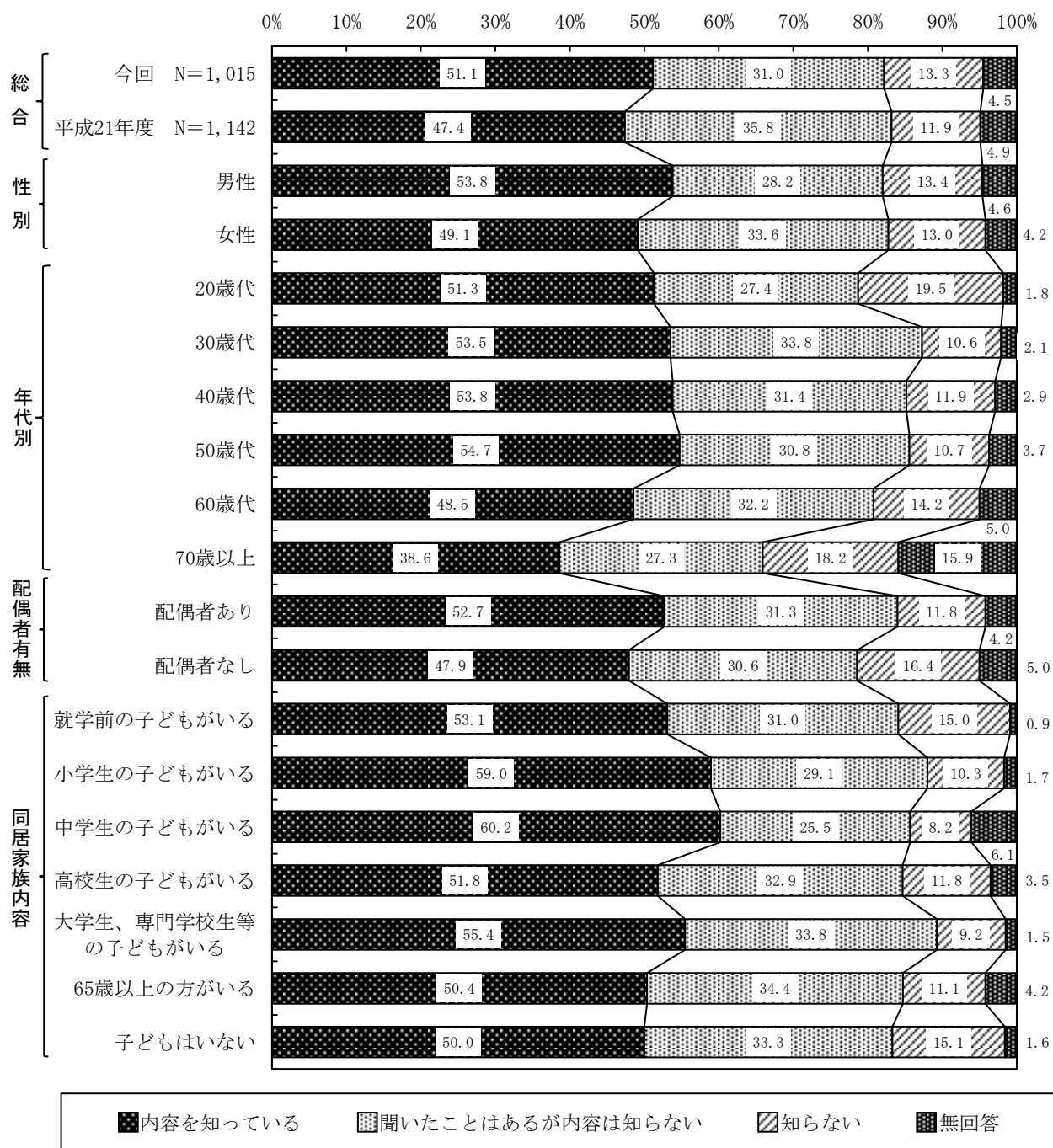
「女子差別撤廃条約」は、「内容を知っている」(10.0%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(25.1%)で、合わせて35.1%の周知度である。

性別による周知度の違いはほとんど無いが、年代別では20歳代が「内容を知っている」(19.5%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(32.7%)と52.2%の周知度で最も高い。

(ケ) 男女雇用機会均等法

図表 11-11 男女共同参画関連用語等の周知度「男女雇用機会均等法」

[総合：N=1,015、選択数：1]

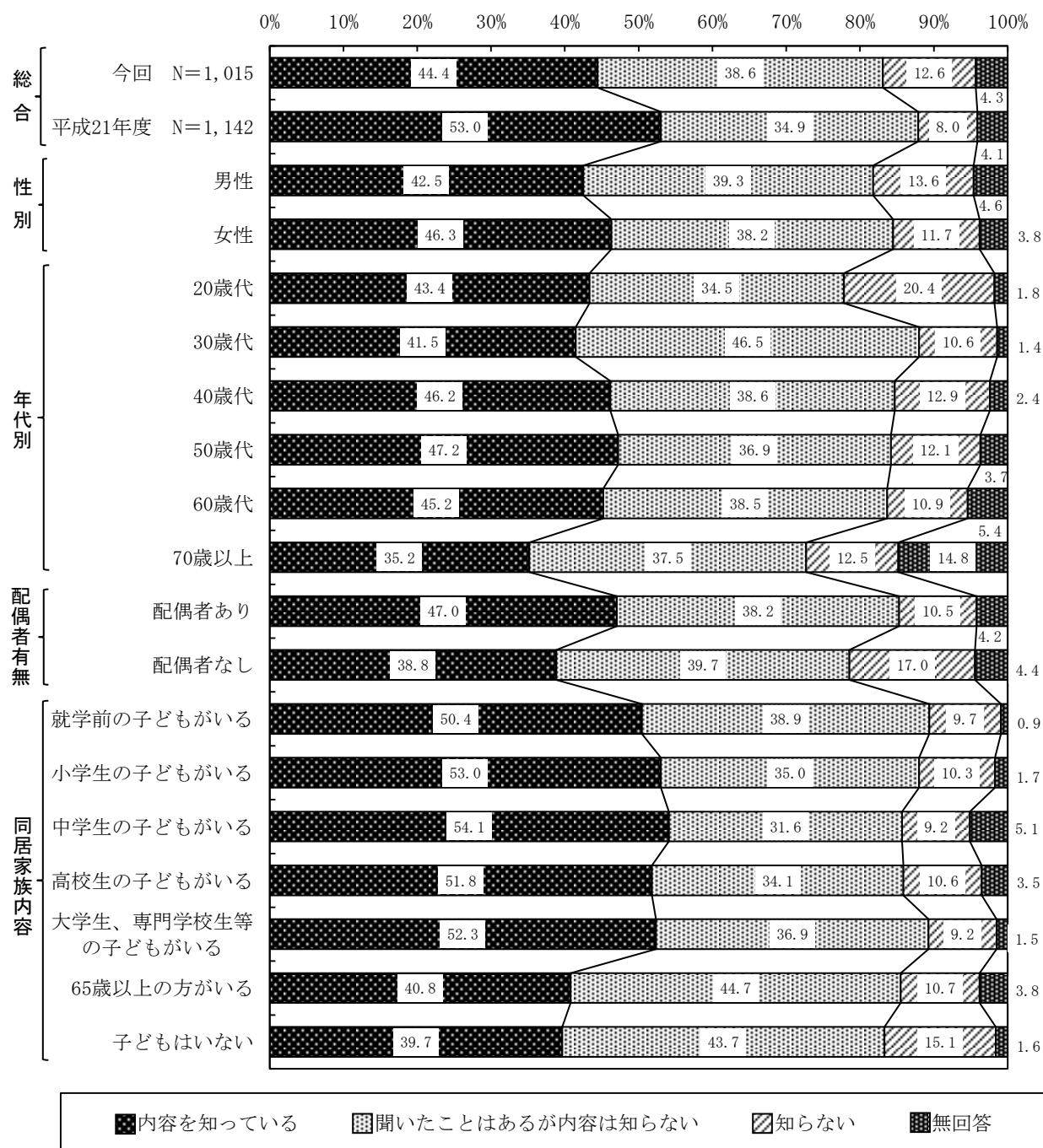


「男女雇用機会均等法」は、「内容を知っている」(51.1%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(31.0%)で合わせて82.1%の周知度である。なお、「内容を知っている」については、70歳以上で38.6%になっている他は、概ね50%から60%の周知度となっている。

(コ) 育児・介護休業法

図表 11-12 男女共同参画関連用語等の周知度「育児・介護休業法」

[総合：N=1,015、選択数：1]



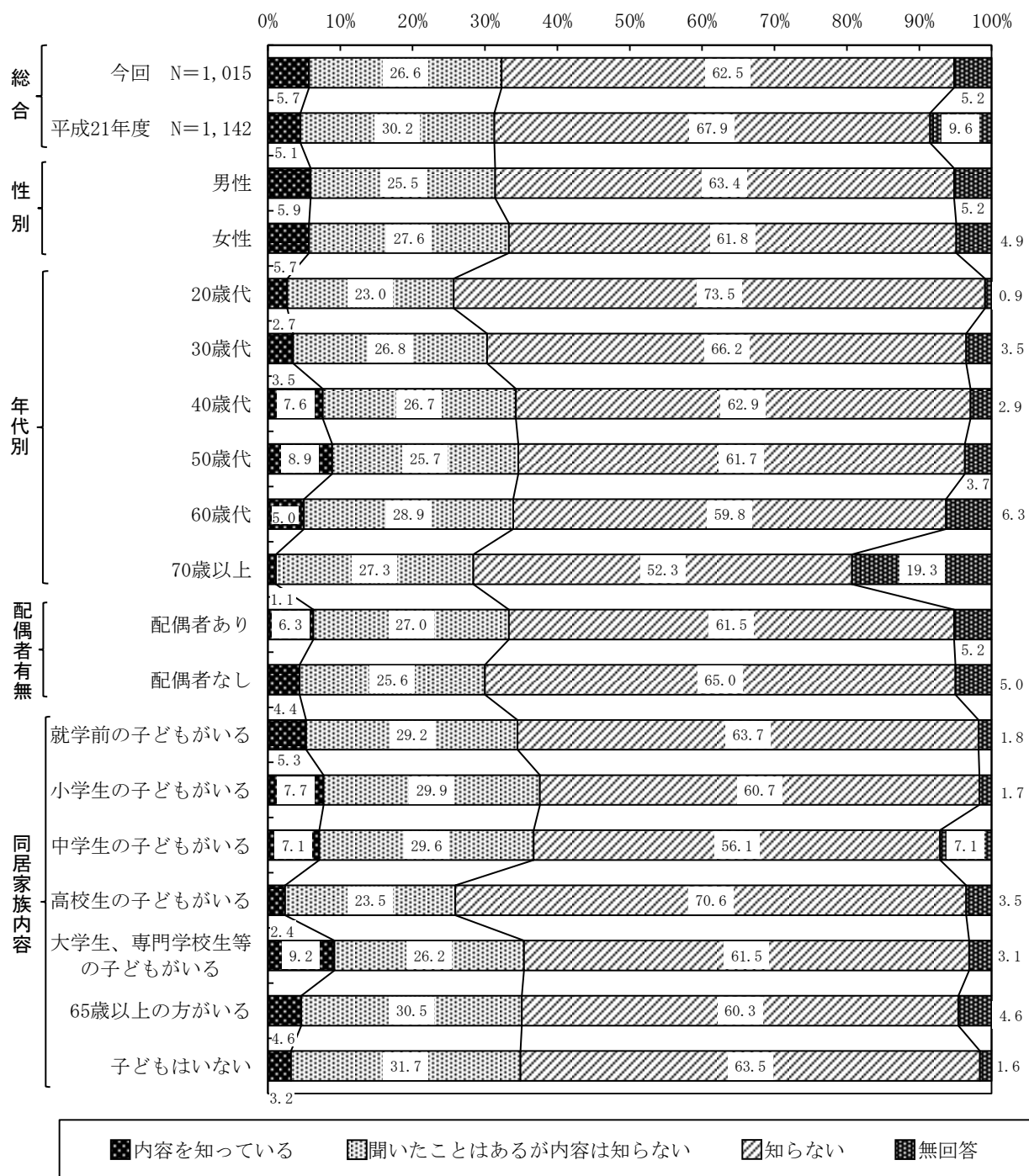
「育児・会議休業法」は、今回の調査項目の中で、唯一「内容を知っている」の割合が大きく減少しており、53.0%から44.4%へと8.6ポイント下がった。

特徴としては、「70歳以上」(35.2%)、「配偶者なし」(38.8%)、「子どもはいない」(39.7%)の層で「内容を知っている」割合が低く、逆に子どもがいる層では「内容を知っている」割合が50%を超えている。

(サ) 次世代育成支援対策推進法

図表 11-13 男女共同参画関連用語等の周知度「次世代育成支援対策推進法」

[総合：N=1,015、選択数：1]



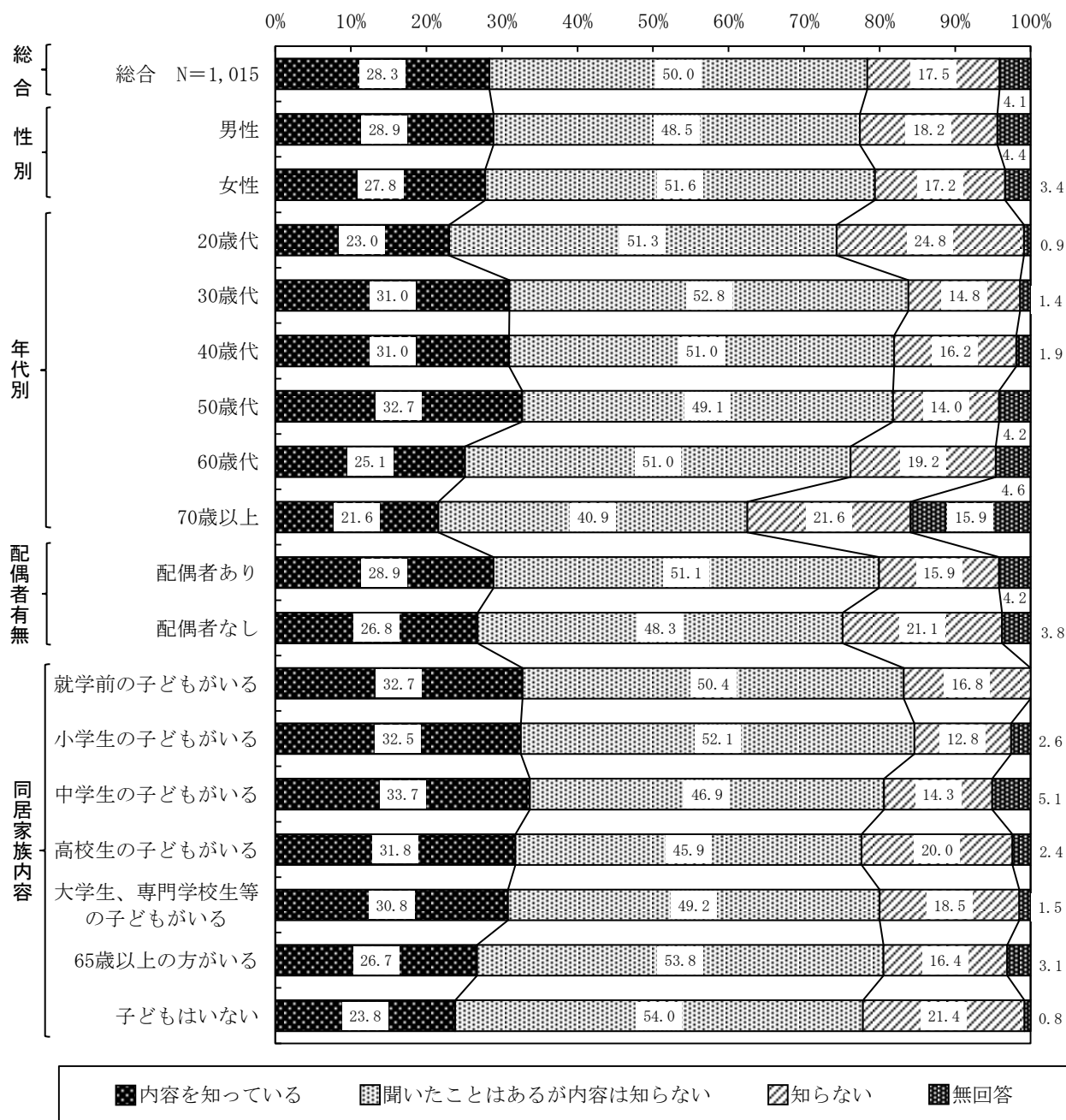
「次世代育成支援対策推進法」は、「内容を知っている」が5.7%、「聞いたことはあるが内容は知らない」が30.2%で、「知らない」としたのは59.2%で全般的に周知度は低い。

男女差はほとんど見られない。

(シ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（いわゆるDV防止法）

図表 11-14 男女共同参画関連用語等の周知度「DV防止法」

[総合：N=1,015、選択数：1]



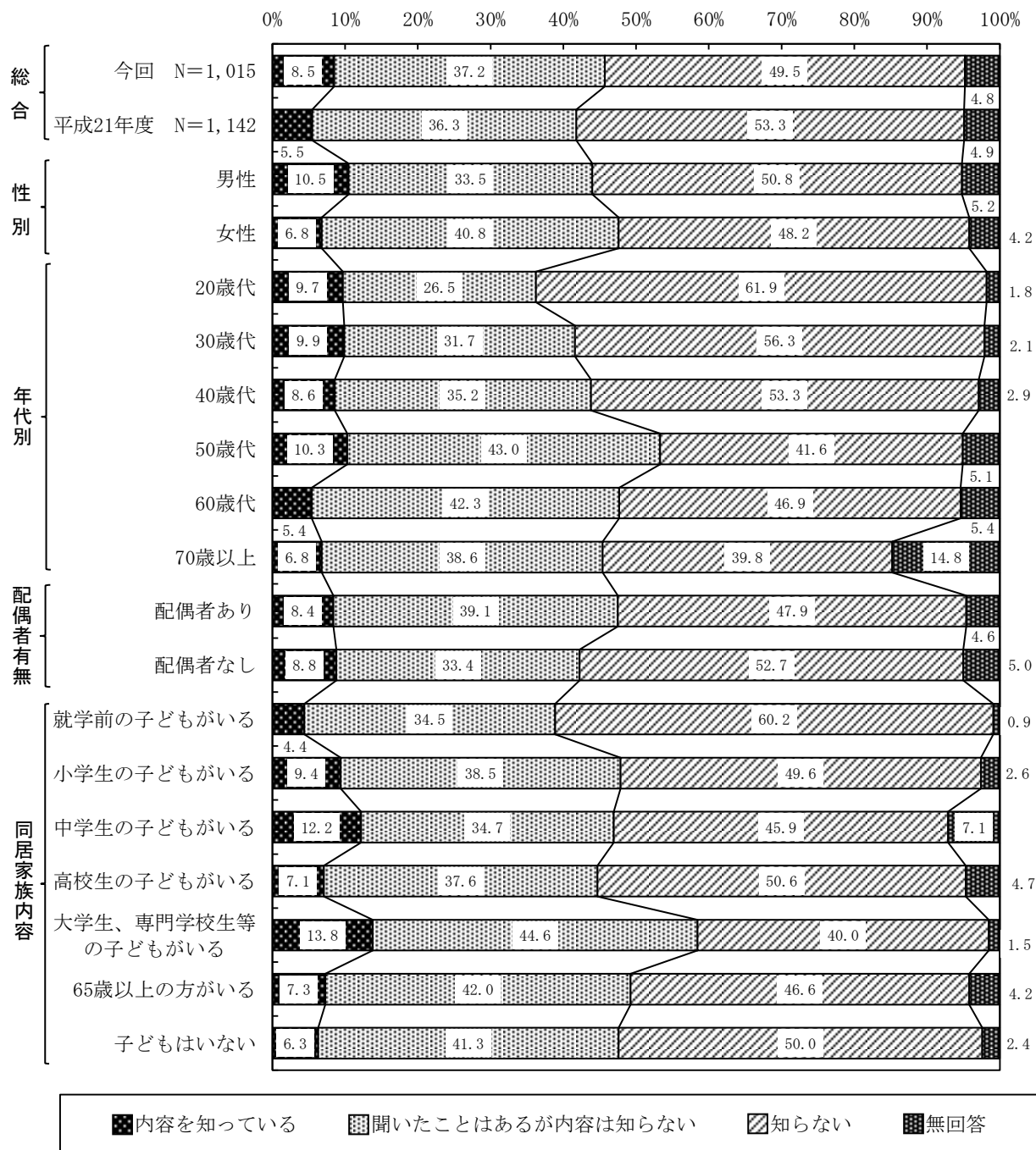
「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（いわゆるDV防止法）」については、「内容を知っている」（28.3%）、「聞いたことはあるが内容は知らない」（50.0%）で、約8割の県民が少なくとも名前は知っている状態である。

年代別では、「内容を知っている」の割合が、20歳代（23.0%）、60歳代（25.1%）、70歳以上（21.6%）で低く、30歳代から50歳代は30%を超えている。

(ス) 高知県男女共同参画社会づくり条例

図表 11-15 男女共同参画関連用語等の周知度「高知県男女共同参画社会づくり条例」

[総合：N=1,015、選択数：1]



「高知県男女共同参画社会づくり条例」については、「内容を知っている」8.5%、「聞いたことはあるが内容は知らない」37.2%で、約半数が「知らない」と回答している。

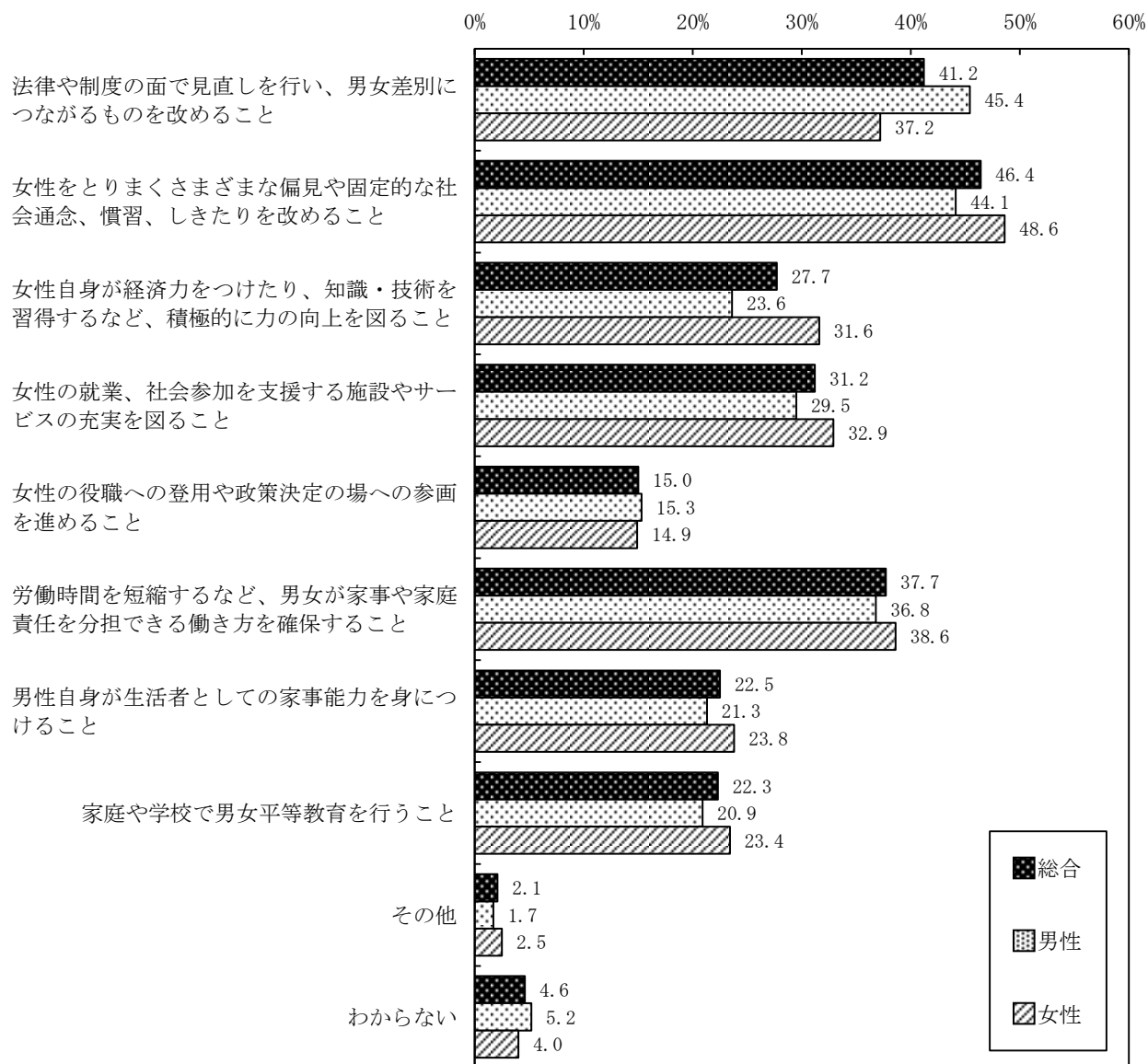
「内容を知っている」割合は、男性10.5%、女性6.8%で男性の方が高いが、「聞いたことはあるが内容は知らない」割合は、女性40.8%、男性33.5%で女性の方が高い。

問 12 あなたは、今まで以上に男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。3つまで選択してください。【全員回答】

[N=1,015、選択数：3つ以内]

図表 12-1 男女共同参画社会の実現のために力を入れていくべきこと

[総合：N=1,015、性別、選択数：3つ以内]



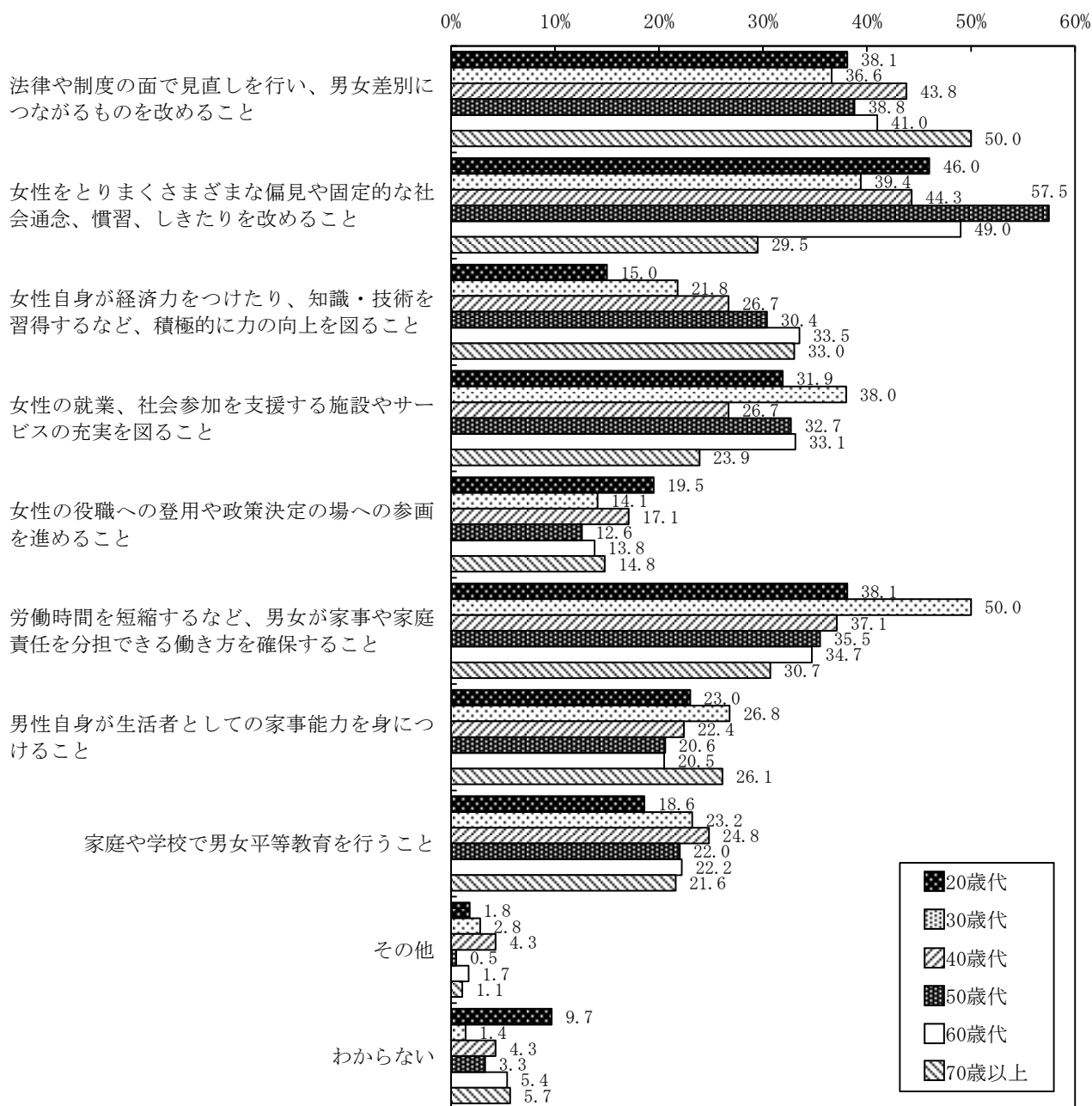
今回新たに追加した質問である。

男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきか、複数回答で質問したところ、「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること (46.4%)」、「法律や制度の面で見直しを行い、男女差別につながるものを改めること (41.2%)」、「労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること (37.7%)」と続いた。

性別では、「法律や制度の面で見直しを行い、男女差別につながるものを改めること」(男性 45.4%、女性 37.2%) で 8.2 ポイント、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(男性 23.6%、女性 31.6%) で 8.0 ポイント差が見られたほか、大きな男女差は認められない。

図表 12-2 男女共同参画社会の実現のために力を入れていくべきこと（年代別）

[年代別：N=1,015、選択数：3つ以内]



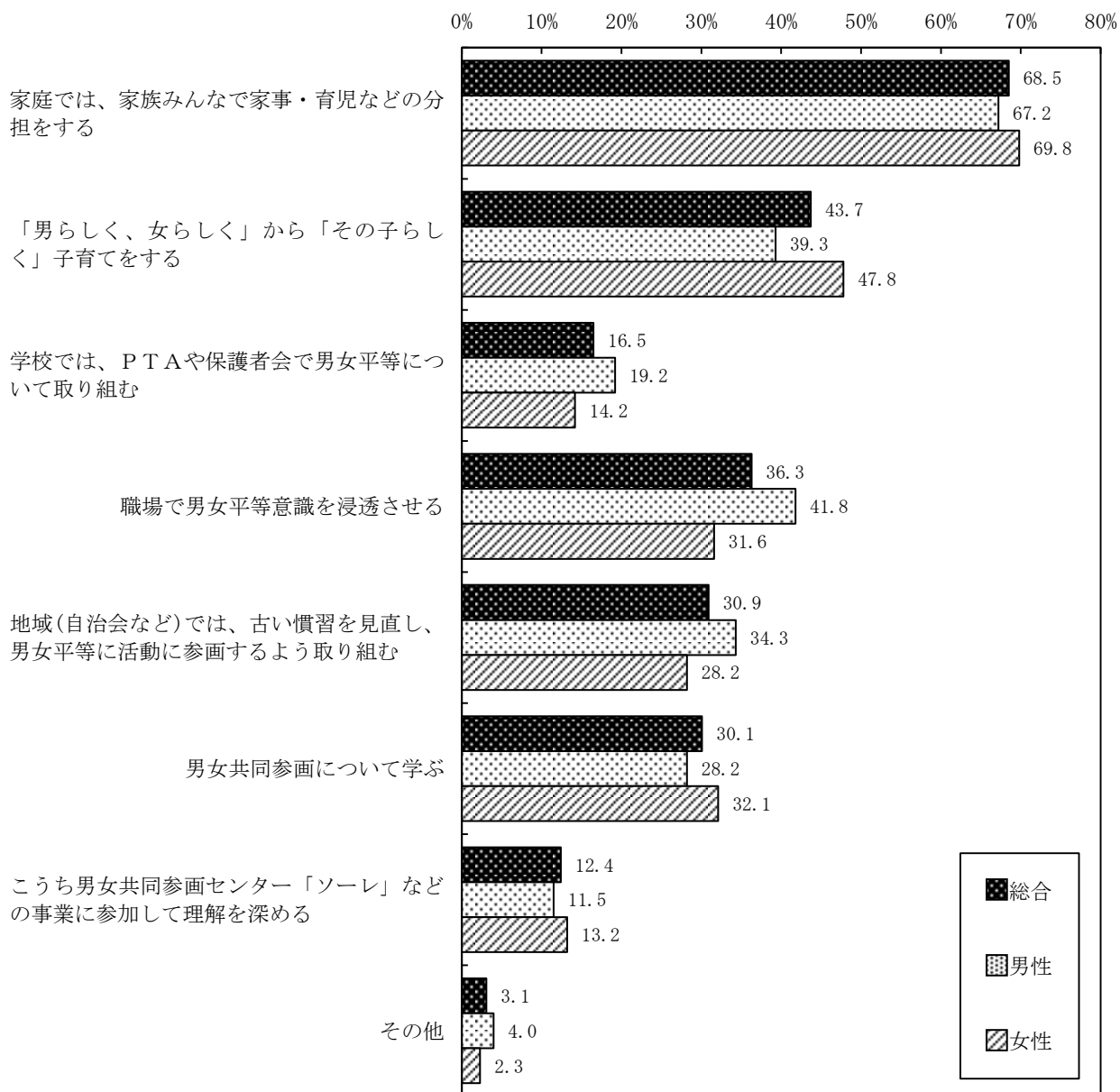
年代別で大きな違いが見られたのは、「女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」(50歳代57.5%、70歳以上29.5%)、「労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること」(30歳代50.0%、70歳以上30.7%)であった。

問 13 男女共同参画は、私たち一人ひとりの身近な課題です。まず自分にできることから始めることが大切ですが、あなたは、何ができますか。あてはまるものすべて選択してください。【全員回答】

[総合：N=1,015、選択数：いくつでも]

図表 13-1 男女共同参画社会の実現のために自分にできること（総合・性別）

[総合・性別：N=1,015、性別、選択数：いくつでも]



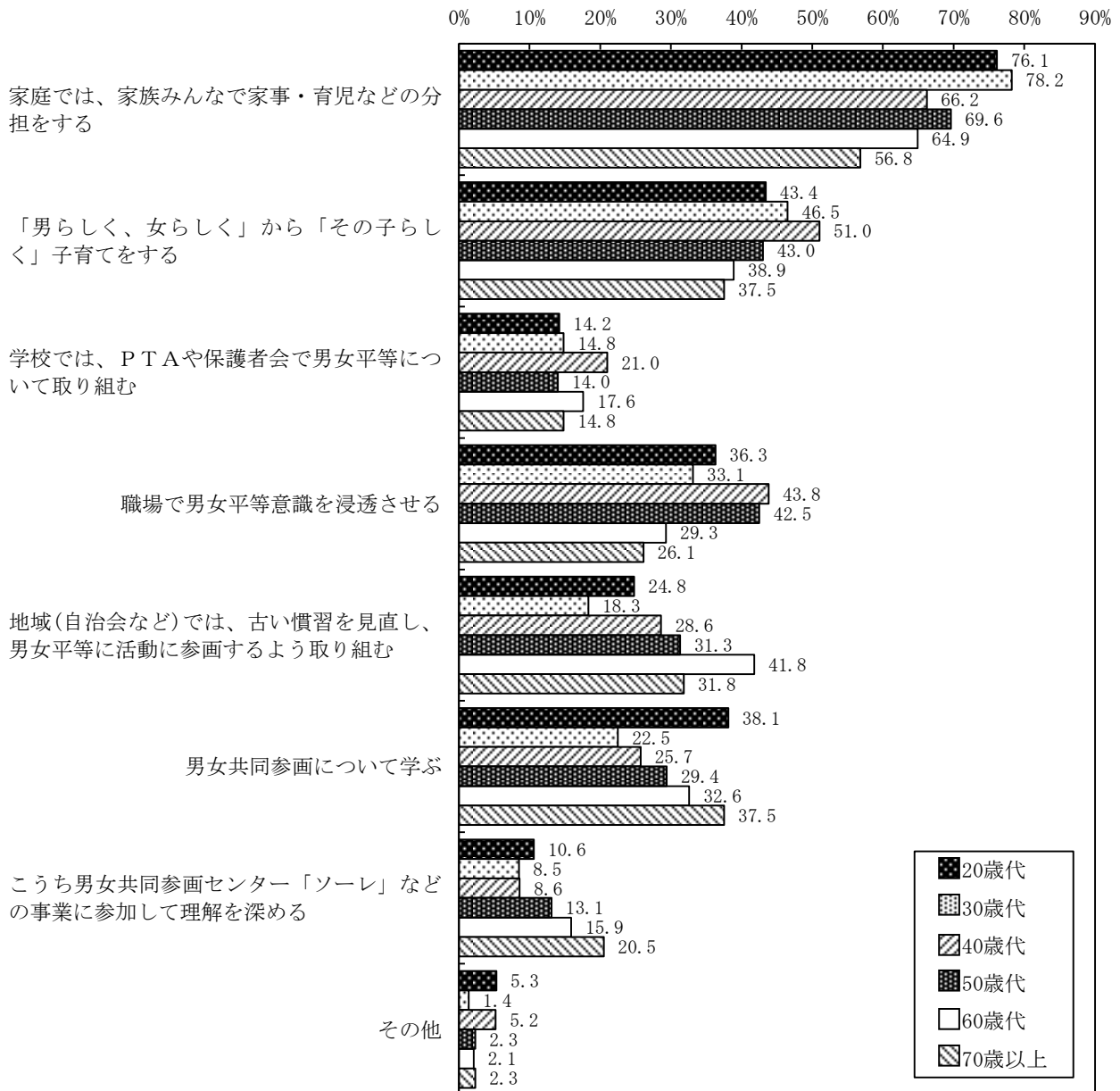
男女共同参画社会を実現するために自分に何ができるかについて、複数回答で質問を行ったところ、「家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする (68.5%、前回69.8%)」、「『男らしく、女らしく』から『その子らしく』子育てをする (43.7%、前回50.4%)」、「職場で男女平等意識を浸透させる (36.3%、前回27.6%)」の順であった。

前回調査と比較して、割合が伸びたのは上から、「職場で男女平等意識を浸透させる」で8.7ポイントアップ、「男女共同参画について学ぶ (30.1%、前回22.2%)」で7.9ポイントアップであった。逆に割合が下がったのは、「『男らしく、女らしく』から『その子らしく』子育てをする」で6.7ポイントダウンとなった。

性別では、「職場で男女平等意識を浸透させる」(男性41.8%、女性31.6%)の10.2ポイント差、「『男らしく、女らしく』から『その子らしく』子育てをする」(男性39.3%、女性47.8%)の8.5ポイント差が見られた他は、大きな差異は見られない。

図表 13-2 男女共同参画社会の実現のために自分にできること（年代別）

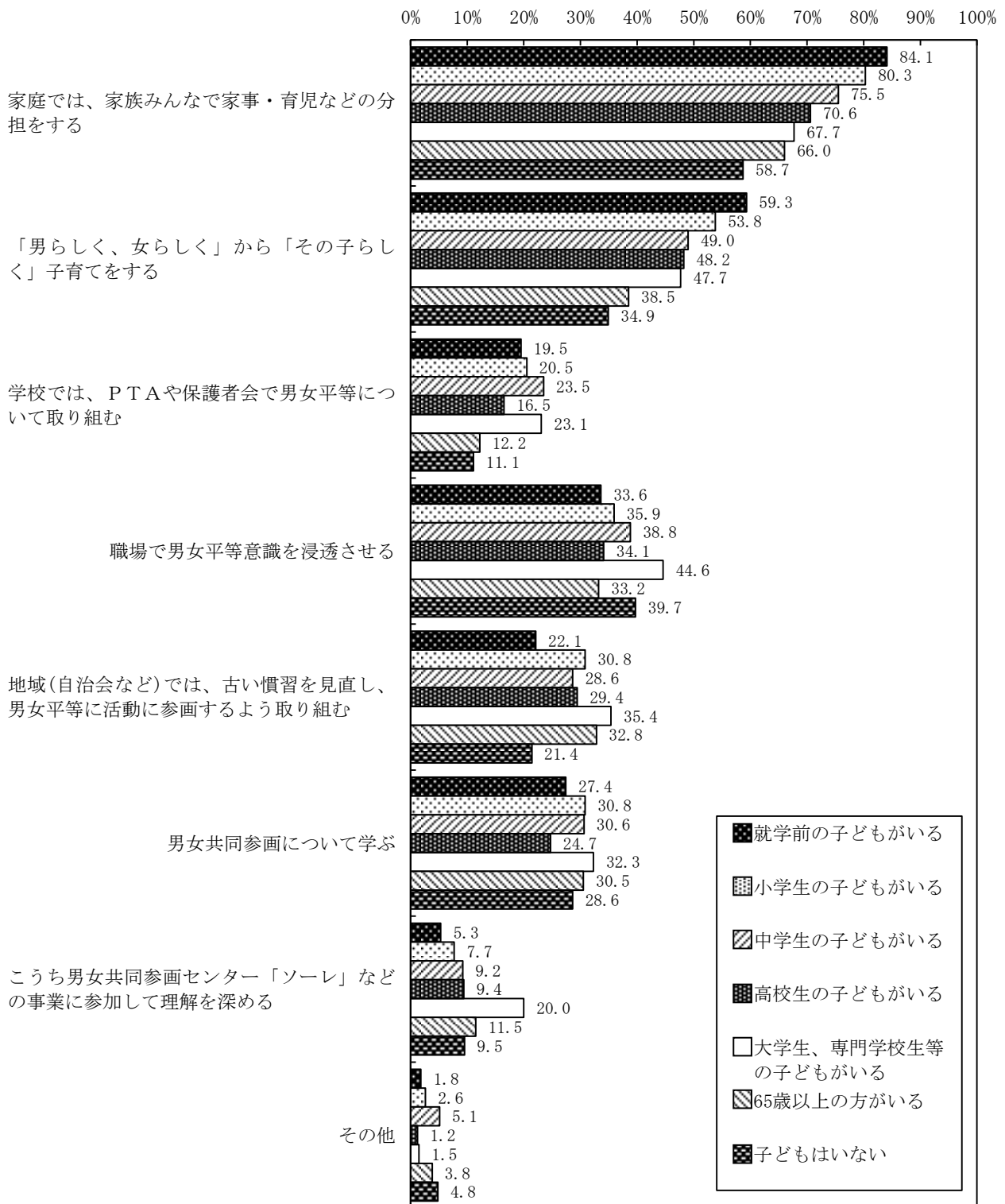
[年代別：N=1,015、選択数：いくつでも]



年代別で見ると、「家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする」については、若い層ほど割合が高い傾向がある一方、「男女共同参画について学ぶ」については、20歳代が38.1%で最大値になっていることを除き、年代の高い方の割合が高い傾向が見られた。

図表 13-3 男女共同参画社会の実現のために自分にできること（同居家族内容別）

[同居家族内容別：N=727、選択数：いくつでも]



同居家族内容別でみると、「家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする」（就学前の子どもがいる 84.1%、子どもはいない 58.7%）、「『男らしく、女らしく』から『その子らしく』子育てをする」（就学前の子どもがいる 59.3%、子どもはいない 34.9%）など、若い層ほど割合が高いことが分かる。

VI 調査結果

[数 表]

問1 次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
(ア)から(ク)まで、あなたの気持ちに最も近い番号(1～6)に1つだけ○印。

	サンプル	(ア)家庭生活						(イ)職場生活						(ウ)学校生活						(エ)政治の場											
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答									
総合	実数	1,015	90	432	349	61	13	58	12	89	377	332	68	12	99	38	12	65	721	20	3	155	39	271	454	140	8	2	109	31	
	%	100.0	8.9	42.6	34.4	6.0	1.3	5.7	1.2	8.8	37.1	32.7	6.7	1.2	9.8	3.7	1.2	6.4	71.0	2.0	0.3	15.3	3.8	26.7	44.7	13.8	0.8	0.2	10.7	3.1	
性別	男性	478	21	161	218	40	7	28	3	25	164	190	41	10	37	11	5	22	347	14	3	73	14	91	214	107	6	1	47	12	
	女性	529	68	268	130	21	6	28	8	63	212	141	27	2	61	23	7	42	370	6	0	82	22	179	238	31	2	1	61	17	
	無回答	8	1	3	1	0	0	2	1	1	1	1	0	0	1	4	0	1	4	0	0	0	3	1	2	2	0	0	1	2	
年代別	20歳代	113	10	31	51	10	1	10	0	9	35	44	9	0	16	0	0	5	84	6	0	17	1	34	40	15	1	0	23	0	
	30歳代	142	9	55	49	11	5	11	2	15	51	54	10	4	6	2	0	8	102	5	2	24	1	40	73	13	1	1	13	1	
	40歳代	210	18	85	80	13	1	13	0	24	82	68	17	1	14	4	3	14	161	1	0	28	3	59	106	23	2	0	17	3	
	50歳代	214	25	100	65	8	5	10	1	17	76	83	15	3	17	3	3	23	152	3	1	27	5	69	92	36	1	0	11	5	
	60歳代	239	14	124	73	14	1	9	4	15	98	63	15	3	34	11	4	10	167	4	0	43	11	52	106	36	3	0	32	10	
	70歳以上	88	14	33	27	5	0	5	4	8	31	18	2	1	12	16	2	4	49	1	0	16	16	16	34	14	0	1	12	11	
	無回答	9	0	4	4	0	0	0	1	1	4	2	0	0	0	2	0	1	6	0	0	0	2	1	3	3	0	0	1	1	
職業別	農林業	56	2	25	24	3	0	2	0	3	20	19	6	1	6	1	1	2	41	2	0	8	2	6	36	3	1	0	8	2	
	漁業	3	0	2	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	
	商工サービス業自営	67	7	24	26	4	2	3	1	6	24	26	1	1	5	4	0	7	43	2	0	10	5	13	36	6	0	0	8	4	
	事務職	152	13	72	53	8	2	3	1	19	70	42	15	1	4	1	0	6	125	1	1	18	1	44	80	18	0	0	10	0	
	技術職	135	10	52	51	11	0	8	3	9	39	65	12	2	6	2	1	10	96	3	0	24	1	34	71	20	0	0	9	1	
	労務職	136	10	52	52	9	2	10	1	10	48	55	10	1	9	3	2	13	88	5	0	25	3	43	48	22	3	0	17	3	
	管理職	58	2	28	21	4	1	2	0	2	17	34	5	0	0	0	0	2	50	0	0	6	0	9	29	17	0	0	3	0	
	自由業	17	3	2	11	1	0	0	0	1	6	9	1	0	0	0	0	1	14	0	0	2	0	4	7	5	0	0	1	0	
	主婦・主夫	115	16	67	28	1	0	3	0	9	57	15	4	0	22	8	2	5	85	0	0	14	9	40	42	14	1	0	10	8	
	学生	21	1	4	10	3	1	2	0	2	10	6	0	0	3	0	1	1	15	2	0	2	0	6	9	1	1	0	4	0	
	無職	153	12	65	44	13	2	12	5	17	60	25	3	3	29	16	2	10	100	2	1	24	14	40	53	24	2	2	22	10	
	その他	91	13	33	27	4	3	11	0	6	21	36	11	3	13	1	2	5	58	3	1	20	2	27	37	10	0	0	15	2	
	無回答	11	1	6	2	0	0	1	1	4	4	0	0	0	1	2	1	2	5	0	0	1	2	4	5	0	0	0	1	1	
配偶者の有無	いる	693	63	308	244	39	9	25	5	57	261	237	46	7	60	25	8	38	512	12	2	96	25	177	330	105	4	1	55	21	
	いない	317	26	121	105	22	4	33	6	31	115	95	22	5	39	10	4	26	208	8	1	59	11	92	123	35	4	1	54	8	
	無回答	5	1	3	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3	0	1	1	0	0	0	3	2	1	0	0	0	0	2	
夫婦共働きか	はい	406	41	177	145	23	4	14	2	33	137	176	33	5	17	5	3	28	310	8	2	48	7	100	214	60	1	0	24	7	
	いいえ	279	20	127	98	16	4	11	3	23	121	60	12	2	42	19	5	9	199	4	0	44	18	74	112	45	3	1	30	14	
	無回答	8	2	4	1	0	1	0	0	1	3	1	1	0	1	1	0	1	3	0	0	4	0	3	4	0	0	0	1	0	
居住地域別	高知市	449	31	184	173	26	6	26	3	44	167	153	29	4	41	11	4	32	335	9	2	58	9	140	191	64	5	1	40	8	
	高知市以外の市	375	38	165	124	19	3	21	5	37	134	115	26	4	41	18	5	28	246	5	1	68	22	89	167	55	1	1	46	16	
	町村	185	21	80	50	15	4	11	4	8	73	64	13	3	17	7	2	5	136	6	0	29	7	40	92	21	2	0	23	7	
	無回答	6	0	3	2	1	0	0	0	0	3	0	0	1	0	2	1	0	4	0	0	0	1	2	4	0	0	0	0	0	
世帯構成別	単身世帯(一人住まい)	83	6	35	18	8	0	13	3	11	26	25	3	2	12	4	1	10	52	2	0	14	4	20	29	14	1	0	16	3	
	夫婦のみの世帯	200	21	79	75	11	3	6	5	13	77	54	11	2	22	21	2	7	141	1	0	29	20	42	97	29	1	1	12	18	
	親と子の世帯(二世帯世帯)	604	51	267	209	33	8	33	3	55	230	211	45	8	48	7	8	35	444	15	3	88	11	171	277	82	3	1	62	8	
	三世帯世帯(親、子、孫の世帯)	105	11	40	41	7	1	5	0	10	36	39	6	0	12	2	1	13	69	1	0	20	1	31	43	13	2	0	15	1	
	その他	18	1	9	5	1	1	1	0	0	6	2	2	0	5	3	0	0	12	1	0	3	2	6	6	2	1	0	3	0	
	無回答	5	0	2	1	1	0	0	1	0	2	1	1	0	0	1	0	0	3	0	0	1	1	1	2	2	0	0	0	1	1
同居家族内容別	就学前の子どもがいる	113	6	49	46	6	1	5	0	11	39	46	7	1	9	0	0	2	93	4	1	13	0	32	55	15	2	0	9	0	
	小学生の子どもがいる	117	10	43	48	8	3	4	1	9	37	50	13	0	6	2	1	8	93	4	2	9	0	36	57	13	2	0	9	0	
	中学生の子どもがいる	98	9	40	36	7	2	4	0	9	33	38	8	2	5	3	2	8	77	3	1	6	1	26	55	10	2	0	4	1	
	高校生の子どもがいる	85	13	34	28	4	1	5	0	9	33	34	8	1	0	0	3	7	65	2	0	8	0	20	45	12	0	0	8	0	
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	65	9	24	26	3	1	2	0	6	20	32	4	0	2	1	0	5	51	2	0	6	1	16	24	19	0	0	5	1	
	65歳以上の方がいる	262	20	118	89	18	3	13	1	22	101	88	17	3	25	6	4	20	182	3	0	47	6	83	109	26	0	0	40	4	
	子どもはいない	126	9	52	45	5	3	11	1	12	49	34	11	3	17	0	2	6	82	6	1	28	1	35	56	14	2	1	18	0	
	無回答	76	7	41	20	4	0	3	1	5	33	22	3	1	9	3	2	8	45	1	0	15	5	22	29	15	0	0	7	3	

(単位:人、%)

(オ)地域活動の場						(カ)法律や制度の上						(キ)社会通念・慣習・しきたり						(ク)社会全体					
男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答			
48	273	438	73	8	140	35	79	294	383	68	8	154	29	164	554	140	23	4	103	27			
4.7	26.9	43.2	7.2	0.8	13.8	3.4	7.8	29.0	37.7	6.7	0.8	15.2	2.9	16.2	54.6	13.8	2.3	0.4	10.1	2.7			
13	110	237	47	5	56	10	17	102	229	49	6	67	8	46	253	92	20	4	54	9			
35	163	196	26	3	84	22	61	190	152	19	2	86	19	117	298	46	3	0	48	17			
0	0	5	0	0	0	3	1	2	2	0	0	1	2	1	3	2	0	0	1	1			
5	20	52	7	2	27	0	7	29	42	8	1	26	0	19	53	18	4	0	19	0			
10	22	71	11	2	26	0	12	34	50	20	5	21	0	23	76	16	7	1	18	1			
14	55	94	17	0	27	3	18	67	76	16	1	31	1	37	117	33	3	1	18	1			
9	71	95	11	2	18	8	23	65	82	13	0	26	5	45	113	28	5	2	16	5			
7	78	88	21	1	32	12	13	75	97	8	1	34	11	25	149	32	3	0	20	10			
3	27	30	6	1	10	11	5	23	30	3	0	16	11	14	41	11	1	0	12	9			
0	0	8	0	0	0	1	1	1	6	0	0	0	1	1	5	2	0	0	1	1			
3	22	19	6	0	4	2	5	22	24	0	0	4	1	9	33	8	1	0	4	1			
0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	1	0			
3	19	30	4	0	7	4	5	14	25	6	0	13	4	7	34	11	2	0	9	4			
9	44	69	10	0	20	0	11	44	66	10	3	18	0	29	93	18	2	0	10	0			
11	37	61	8	1	15	2	10	47	46	15	0	15	2	24	72	20	5	1	12	1			
5	33	61	11	2	21	3	9	39	45	10	3	28	2	22	71	23	5	0	13	2			
0	10	35	6	1	6	0	3	10	35	5	0	5	0	7	35	10	2	0	4	0			
0	5	8	3	0	1	0	1	4	11	1	0	0	0	2	12	2	0	0	1	0			
8	33	45	7	0	15	7	14	42	34	5	1	12	7	23	69	10	0	0	7	6			
1	3	10	1	1	5	0	1	5	10	2	0	3	0	3	12	1	1	0	4	0			
4	42	58	8	2	26	13	8	42	56	3	1	32	11	22	72	23	2	1	23	10			
4	22	37	8	1	17	2	10	20	29	10	0	21	1	15	43	13	3	2	14	1			
0	2	5	1	0	2	1	1	5	2	1	0	1	1	1	7	0	0	0	1	2			
33	202	302	48	5	78	25	48	212	279	45	5	86	18	106	406	91	15	1	56	18			
14	71	134	25	3	62	8	30	81	103	23	3	68	9	57	146	49	8	3	47	7			
1	0	2	0	0	0	2	1	1	1	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	2			
17	131	178	28	3	39	10	25	129	166	31	4	46	5	67	231	58	11	1	33	5			
15	66	122	20	2	39	15	22	80	111	14	1	38	13	36	171	33	4	0	22	13			
1	5	2	0	0	0	0	1	3	2	0	0	2	0	3	4	0	0	0	1	0			
19	103	208	32	3	76	8	28	137	181	31	5	60	7	69	253	68	13	3	38	5			
21	108	157	28	3	41	17	35	101	138	27	3	57	14	62	201	53	4	1	39	15			
8	60	70	13	2	23	9	15	53	64	10	0	36	7	31	97	19	6	0	26	6			
0	2	3	0	0	0	1	1	3	0	0	0	1	1	2	3	0	0	0	1	2			
4	18	32	10	0	15	4	9	18	31	4	0	15	6	17	31	15	2	1	13	4			
3	57	77	18	2	26	17	16	61	78	10	0	21	14	31	110	30	3	0	13	13			
36	155	283	34	4	81	11	43	174	227	47	8	98	7	90	348	77	14	3	64	8			
4	37	38	8	2	14	2	10	35	38	5	0	16	1	22	54	15	3	0	10	1			
1	4	7	2	0	4	0	1	4	8	2	0	3	0	3	10	2	0	0	3	0			
0	2	1	1	0	0	1	0	2	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	1	1			
10	27	49	7	0	19	1	6	29	42	16	3	17	0	16	67	13	4	0	12	1			
10	31	49	13	0	14	0	10	34	41	13	3	16	0	26	64	16	3	1	7	0			
5	34	40	9	0	7	3	7	41	29	6	1	12	2	19	56	14	1	1	5	2			
5	26	38	8	0	6	2	6	22	37	5	0	14	1	12	47	12	2	0	11	1			
3	15	35	2	1	7	2	7	16	29	6	0	6	1	11	34	13	1	0	5	1			
18	76	113	16	3	33	3	24	84	90	19	1	41	3	50	145	30	6	1	27	3			
7	20	65	3	2	27	2	10	30	47	9	3	27	0	22	68	14	2	1	19	0			
2	23	35	3	1	10	2	5	22	30	3	1	13	2	10	41	12	2	0	9	2			

★(1)は全員、(2)は結婚している(またはしたことがある)方のみお答えください。
問2 男女の役割分担の理想と現実について、伺います。(1つだけ○印)

(単位:人、%)

		サンプル	(1)あなたの理想に最も近いものはどれですか 【全員回答】							
			夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する	妻が家計を支え、夫が家事・育児に専念する	夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する	夫と妻が共同で家計を支え、主に夫が家事・育児を分担する	夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する	夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する	夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する	夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する
総合	突数	1,015	207	6	113	6	452	203	9	19
	%	100.0	20.4	0.6	11.1	0.6	44.5	20.0	0.9	1.9
性別	男性	478	113	4	69	3	189	87	6	7
	女性	529	93	2	42	3	260	115	3	11
	無回答	8	1	0	2	0	3	1	0	1
年代別	20歳代	113	17	0	11	1	56	28	0	0
	30歳代	142	35	0	13	1	76	14	2	1
	40歳代	210	41	1	25	1	93	46	0	3
	50歳代	214	41	2	18	1	109	35	2	6
	60歳代	239	53	2	26	2	88	59	5	4
	70歳以上	88	19	1	18	0	27	18	0	5
	無回答	9	1	0	2	0	3	3	0	0
職業別	農林業	56	9	0	11	1	21	13	0	1
	漁業	3	0	0	1	0	1	1	0	0
	商工サービス業自営	67	12	0	11	0	33	10	0	1
	事務職	152	30	1	15	1	76	28	0	1
	技術職	135	21	1	12	0	75	23	1	2
	労務職	136	30	1	18	1	58	22	3	3
	管理職	58	15	0	7	0	27	8	0	1
	自由業	17	7	0	2	0	5	3	0	0
	主婦・主夫	115	27	0	11	0	47	28	2	0
	学生	21	4	0	1	0	12	4	0	0
	無職	153	31	2	19	1	54	37	2	7
	その他	91	19	1	5	2	40	21	1	2
無回答	11	2	0	0	0	3	5	0	1	
配偶者の有無	いる	693	149	4	77	3	306	138	6	10
	いない	317	57	2	36	3	145	63	3	8
	無回答	5	1	0	0	0	1	2	0	1
夫婦共働きか	はい	406	72	2	45	2	204	73	1	7
	いいえ	279	76	2	31	1	98	63	5	3
	無回答	8	1	0	1	0	4	2	0	0
居住地域別	高知市	449	96	0	47	2	203	94	1	6
	高知市以外の市	375	80	4	40	4	163	72	4	8
	町村	185	31	2	26	0	82	36	3	5
	無回答	6	0	0	0	0	4	1	1	0
世帯構成別	単身世帯(一人住まい)	83	16	0	11	1	30	19	2	4
	夫婦のみの世帯	200	42	3	20	3	76	47	3	6
	親と子の世帯(二世帯世帯)	604	126	2	66	1	290	110	4	5
	三世帯世帯(親、子、孫の世帯)	105	16	1	16	1	47	21	0	3
	その他	18	6	0	0	0	7	5	0	0
無回答	5	1	0	0	0	2	1	0	1	
同居家族内容別	就学前の子どもがいる	113	26	0	9	1	56	18	2	1
	小学生の子どもがいる	117	29	1	10	0	55	20	1	1
	中学生の子どもがいる	98	20	1	16	0	40	18	1	2
	高校生の子どもがいる	85	18	1	8	0	42	13	2	1
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	65	12	0	7	0	31	14	0	1
	65歳以上の方がいる	262	42	1	36	1	119	61	0	2
子どもはいない	126	29	0	10	0	61	25	0	1	
無回答	76	16	1	11	0	39	8	0	1	

★(1)は全員、(2)は結婚している(またはしたことがある)方のみお答えください。
問2 男女の役割分担の理想と現実について、伺います。(1つだけ○印)

(単位:人、%)

	サンプル	(2)実際にあなたの家庭では夫婦の役割分担をどのようにしていますか(していましたか)【結婚している(またはしたことがある)方のみ】							その他
		夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する	妻が家計を支え、夫が家事・育児に専念する	夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する	夫と妻が共同で家計を支え、主に夫が家事・育児を分担する	夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する	夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する	夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する	
総合	突数	747	174	7	307	5	141	85	28
	%	100.0	23.3	0.9	41.1	0.7	18.9	11.4	3.7
性別	男性	354	75	3	133	3	83	50	7
	女性	388	99	4	172	2	56	34	21
	無回答	5	0	0	2	0	2	1	0
年代別	20歳代	18	3	0	5	0	7	3	0
	30歳代	93	19	0	26	1	32	13	2
	40歳代	158	27	1	74	1	39	14	2
	50歳代	181	36	1	86	1	32	21	4
	60歳代	213	63	3	88	2	20	24	13
	70歳以上	76	24	2	26	0	9	8	7
	無回答	8	2	0	2	0	2	2	0
職業別	農林業	46	8	0	31	0	2	5	0
	漁業	2	0	0	2	0	0	0	0
	商工サービス業自営	55	6	0	28	1	12	6	2
	事務職	101	12	1	46	0	30	11	1
	技術職	93	10	0	35	0	34	9	5
	労務職	94	21	1	39	1	17	13	2
	管理職	53	10	1	22	2	14	4	0
	自由業	15	4	0	5	0	3	3	0
	主婦・主夫	109	64	1	25	0	7	9	3
	学生	2	1	0	0	0	1	0	0
	無職	116	29	3	49	0	12	15	8
	その他	55	8	0	25	1	6	8	7
	無回答	6	1	0	0	0	3	2	0
配偶者の有無	いる	665	147	6	277	5	131	79	20
	いない	81	27	1	30	0	9	6	8
	無回答	1	0	0	0	0	1	0	0
夫婦共働きか	はい	394	18	0	205	4	110	50	7
	いいえ	264	128	6	70	1	20	28	11
	無回答	7	1	0	2	0	1	1	2
居住地域別	高知市	324	95	2	113	1	63	38	12
	高知市以外の市	284	54	3	130	2	55	28	12
	町村	137	25	2	63	2	22	19	4
	無回答	2	0	0	1	0	1	0	0
世帯構成別	単身世帯(一人住まい)	29	9	0	10	0	4	3	3
	夫婦のみの世帯	190	52	7	66	2	25	29	9
	親と子の世帯(二世帯世帯)	440	97	0	193	3	95	41	11
	三世帯世帯(親、子、孫の世帯)	75	11	0	34	0	15	12	3
	その他	11	4	0	4	0	1	0	2
	無回答	2	1	0	0	0	1	0	0
同居家族内容別	就学前の子どもがいる	110	27	0	39	0	33	10	1
	小学生の子どもがいる	112	20	0	45	1	33	11	2
	中学生の子どもがいる	90	12	0	44	2	25	5	2
	高校生の子どもがいる	74	14	0	38	0	14	7	1
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	55	7	0	25	0	15	3	5
	65歳以上の方がいる	174	40	0	79	0	23	26	6
	子どもはいない	29	9	0	15	0	3	2	0
無回答	64	17	0	26	1	12	4	4	

問3 あなたが考える理想的な男女の役割分担が実現するためには、どんなことが必要だと思いますか。
(3つまで○印)

(単位:人、%)

	サンプル	と夫婦や家族間で、コミュニケーションを増やすこと	の当記者や周りの人が、夫婦の役割分担等について	女性自身が子育て・介護等に参加することに対する、女性の抵抗感をなくすこと	男性自身が子育て・介護等に参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと	社会のなかで、男性による子育て、介護についての評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を充実すること、仕事以外の時間をより多く持つようにすること	育児・介護休業制度が充実すること、休業しやすい職場の雰囲気があること	女性が働くことを希望したときに、相談窓口の充実など様々な支援があること	と共働きしなくても生活できる所得が確保されること	その他	特に必要なことはない	無回答	
総合	実数	1,015	604	163	70	267	232	347	442	184	363	17	15	11
	%		59.5	16.1	6.9	26.3	22.9	34.2	43.5	18.1	35.8	1.7	1.5	1.1
性別	男性	478	300	75	32	93	94	185	192	71	178	7	11	4
	女性	529	299	88	38	173	136	157	248	111	184	10	4	5
	無回答	8	5	0	0	1	2	5	2	2	1	0	0	2
年代別	20歳代	113	74	15	3	32	21	37	59	15	40	1	4	0
	30歳代	142	80	22	9	37	46	50	65	23	53	0	0	0
	40歳代	210	118	32	16	54	43	92	84	30	84	5	2	1
	50歳代	214	124	37	17	70	60	73	100	27	63	4	1	2
	60歳代	239	155	42	19	57	45	69	95	65	82	7	5	2
	70歳以上	88	47	13	5	17	14	22	35	22	37	0	3	6
	無回答	9	6	2	1	0	3	4	4	2	4	0	0	0
VI (数調査結果)	農林業	56	33	14	10	15	11	14	19	11	18	0	1	0
	漁業	3	2	0	0	1	1	1	2	2	0	0	0	0
	商工サービス業自営	67	42	13	3	21	13	18	23	13	24	2	0	0
	事務職	152	79	27	9	47	50	58	73	18	51	4	1	0
	技術職	135	92	26	6	28	40	55	70	18	42	2	1	1
	労務職	136	83	21	7	32	24	51	58	24	60	1	3	1
	管理職	58	36	5	4	15	14	23	24	7	13	1	0	1
	自由業	17	12	2	1	2	2	4	8	4	5	1	0	0
	主婦・主夫	115	66	15	10	35	34	33	49	32	42	1	0	1
	学生	21	14	2	1	8	2	5	11	1	8	0	0	0
	無職	153	91	28	10	33	23	45	59	29	59	3	6	6
その他	91	49	7	9	29	14	34	41	22	38	2	3	0	
無回答	11	5	3	0	1	4	6	5	3	3	0	0	1	
配偶者の有無	いる	693	415	114	51	175	169	235	307	126	249	13	6	6
	いない	317	187	48	19	90	62	111	134	55	113	4	9	4
	無回答	5	2	1	0	2	1	1	1	3	1	0	0	1
夫婦共働きか	はい	406	245	65	33	115	101	141	180	56	139	7	5	2
	いいえ	279	166	49	18	58	66	91	123	69	105	6	1	4
	無回答	8	4	0	0	2	2	3	4	1	5	0	0	0
居住地域別	高知市	449	260	65	28	108	102	181	202	78	169	9	7	2
	高知市以外の市	375	225	67	32	113	92	104	162	66	127	4	6	6
	町村	185	117	30	10	45	37	58	77	37	64	4	2	3
	無回答	6	2	1	0	1	1	4	1	3	3	0	0	0
世帯構成別	単身世帯(一人住まい)	83	48	11	5	26	20	28	27	21	27	0	4	1
	夫婦のみの世帯	200	121	37	10	41	50	70	82	50	66	7	0	7
	親と子の世帯(二世帯世帯)	604	356	87	47	165	136	210	278	89	223	7	10	2
	三世帯世帯(親、子、孫の世帯)	105	64	23	6	26	25	33	49	19	39	3	0	0
	その他	18	13	4	1	8	1	4	5	2	8	0	1	0
無回答	5	2	1	1	1	0	2	1	3	0	0	0	1	
同居家族内容別	就学前の子どもがいる	113	62	11	8	32	36	39	55	21	43	0	1	0
	小学生の子どもがいる	117	64	15	7	28	38	52	42	13	41	2	1	0
	中学生の子どもがいる	98	55	20	9	25	22	40	36	13	39	2	1	0
	高校生の子どもがいる	85	46	14	5	20	17	28	41	19	36	2	0	0
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	65	44	10	6	20	12	19	28	7	19	1	1	0
	65歳以上の方がいる	262	159	50	15	70	55	78	117	41	100	4	5	0
	子どもはいない	126	74	25	6	35	28	44	63	15	43	2	2	1
無回答	76	48	8	10	24	10	24	39	11	30	1	2	1	

★(1)は全員、(2)は働いている(または働いたことのある)女性の方のみお答えください。
問4 女性の働き方の理想と現実について、伺います。(1つだけ選択)

(単位:人、%)

	サンプル	(1)女性の働き方について、あなたの理想に最も近いものはどれですか。【全員回答】								
		結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける(続けた)	結婚や出産するまではフルタイムで、その後はパートタイムで仕事を続ける(続けた)	子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらフルタイムで仕事を続ける(続けた)	子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらパートタイムで仕事を続ける(続けた)	子どもができたら仕事をやめ、家事や育児に専念する(専念した)	結婚したら仕事をやめ、家事に専念する(専念した)	その他	無回答	
総合	実数	1,015	319	159	191	126	61	46	38	75
	%	100.0	31.4	15.7	18.8	12.4	6.0	4.5	3.7	7.4
性別	男性	478	153	60	89	55	26	14	25	56
	女性	529	165	98	100	70	35	32	13	16
	無回答	8	1	1	2	1	0	0	0	3
年代別	20歳代	113	33	25	19	17	7	4	8	0
	30歳代	142	45	28	28	21	5	3	4	8
	40歳代	210	70	38	30	25	9	9	12	17
	50歳代	214	72	26	43	27	16	11	2	17
	60歳代	239	75	32	51	25	18	14	11	13
	70歳以上	88	22	9	16	11	6	5	0	19
	無回答	9	2	1	4	0	0	0	1	1
職業別	農林業	56	14	8	18	4	5	1	0	6
	漁業	3	0	0	1	0	1	0	1	0
	商工サービス業自営	67	18	5	19	14	4	1	1	5
	事務職	152	63	21	24	21	5	7	8	3
	技術職	135	59	25	19	13	5	2	5	7
	労務職	136	34	22	28	20	9	4	4	15
	管理職	58	27	11	4	4	2	2	1	7
	自由業	17	4	2	3	2	0	1	3	2
	主婦・主夫	115	28	18	24	21	8	13	1	2
	学生	21	5	3	4	4	1	2	2	0
	無職	153	40	24	30	9	14	8	8	20
	その他	91	25	18	13	13	7	5	4	6
無回答	11	2	2	4	1	0	0	0	2	
配偶者の有無	いる	693	233	105	123	80	44	32	25	51
	いない	317	85	52	67	46	17	14	13	23
	無回答	5	1	2	1	0	0	0	0	1
夫婦共働きか	はい	406	161	62	69	41	21	11	15	26
	いいえ	279	71	40	54	37	22	20	10	25
	無回答	8	1	3	0	2	1	1	0	0
居住地地域別	高知市	449	147	70	81	66	24	15	19	27
	高知市以外の市	375	109	59	70	40	26	25	11	35
	町村	185	61	30	38	19	11	6	7	13
	無回答	6	2	0	2	1	0	0	1	0
世帯構成別	単身世帯(一人住まい)	83	25	10	17	8	7	6	2	8
	夫婦のみの世帯	200	67	22	31	23	12	14	10	21
	親と子の世帯(二世帯世帯)	604	188	104	119	82	34	24	21	32
	三世帯世帯(親、子、孫の世帯)	105	36	18	18	11	7	1	4	10
	その他	18	2	3	6	2	1	1	1	2
無回答	5	1	2	0	0	0	0	0	2	
同居家族内容別	就学前の子どもがいる	113	35	25	16	18	4	3	4	8
	小学生の子どもがいる	117	37	25	11	18	7	4	9	6
	中学生の子どもがいる	98	34	17	17	8	9	3	4	6
	高校生の子がいる	85	31	14	11	11	6	6	3	3
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	65	28	8	10	8	2	5	0	4
	65歳以上の方がいる	262	73	44	61	26	17	9	11	21
	子どもはいない	126	37	17	27	22	5	5	7	6
無回答	76	23	14	19	11	2	3	0	4	

★(1)は全員、(2)は働いている(または働いたことのある)女性の方のみお答えください。
問4 女性の働き方の理想と現実について、伺います。(1つだけ選択)

(単位:人、%)

	サンプル	(2)実際のあなたの働き方で、あてはまるものはどれですか。 【働いている(または働いたことのある)女性の方のみ】							
		(結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける)	結婚や出産するまではフルタイムで、その後はパートタイムで仕事を続ける(続けた)	子どもができたら仕事を続ける(続けた)	子どもができたら仕事をやめ、大きくならなければパートタイムで仕事を続ける(続けた)	子どもができたら仕事をやめ、家事や育児に専念する(専念した)	結婚したら仕事をやめ、家事に専念する(専念した)	その他	
総合	突数	450	183	55	42	74	25	31	40
	%	100.0	40.7	12.2	9.3	16.4	5.6	6.9	8.9
性別	男性	0	0	0	0	0	0	0	0
	女性	450	183	55	42	74	25	31	40
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
年代別	20歳代	42	18	8	4	5	2	1	4
	30歳代	59	26	7	2	7	8	1	8
	40歳代	96	45	13	10	13	4	5	6
	50歳代	102	44	9	13	19	2	8	7
	60歳代	112	38	13	11	22	3	14	11
	70歳以上	39	12	5	2	8	6	2	4
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
	職業別	農林業	22	13	1	2	4	0	0
漁業		1	0	1	0	0	0	0	0
商工サービス業自営		29	12	3	5	4	0	0	5
事務職		86	50	6	7	10	2	3	8
技術職		58	39	6	6	4	0	0	3
労務職		39	12	9	5	6	2	1	4
管理職		12	11	0	1	0	0	0	0
自由業		3	0	2	0	1	0	0	0
主婦・主夫		99	12	13	6	25	15	22	6
学生		0	0	0	0	0	0	0	0
無職		48	18	6	4	8	4	3	5
その他		49	13	8	6	12	1	2	7
無回答		4	3	0	0	0	1	0	0
配偶者の有無	いる	328	126	40	30	63	21	25	23
	いない	120	56	15	12	11	4	6	16
	無回答	2	1	0	0	0	0	0	1
夫婦共働きか	はい	193	99	21	23	34	4	1	11
	いいえ	130	25	19	7	27	17	23	12
	無回答	5	2	0	0	2	0	1	0
居住地域別	高知市	190	65	25	17	33	13	18	19
	高知市以外の市	179	80	20	17	29	9	10	14
	町村	79	37	10	7	12	3	3	7
	無回答	2	1	0	1	0	0	0	0
世帯構成別	単身世帯(一人住まい)	31	12	3	3	4	2	2	5
	夫婦のみの世帯	93	36	11	3	16	5	12	10
	親と子の世帯(二世帯世帯)	269	112	34	27	43	17	16	20
	三世帯世帯(親、子、孫の世帯)	48	21	7	7	8	1	1	3
	その他	7	1	0	2	2	0	0	2
	無回答	2	1	0	0	1	0	0	0
同居家族内容別	就学前の子どもがいる	57	25	8	3	7	9	2	3
	小学生の子どもがいる	57	25	9	5	6	5	3	4
	中学生の子どもがいる	42	17	6	5	5	2	3	4
	高校生の子どもがいる	32	14	4	3	3	3	3	2
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	27	14	2	3	6	0	2	0
	65歳以上の方がいる	127	48	14	20	24	5	8	8
	子どもはいない	47	19	5	5	5	0	2	11
無回答	37	13	7	5	7	2	0	3	

問5 あなたが考える理想的な女性の働き方が実現するためには、どんなことが必要だと思いますか。
 (1) 家族や地域において、(2) 企業など職場において、(3) 行政の取組において、についてどう思いますか。(それぞれ2つまで○印)

	サンプル	(1) 家族や地域において必要なこと							(2) 企業など職場において必要なこと												
		家族が、女性が働くことについて理解すること	女性が自身、働くことについての意識を向上させること	男性が、家事・育児・介護などに参加すること	両親や親せきが、家事・育児・介護などを手伝うこと	周りに、子育てや介護をするうえで助けてくれる人がいること	その他	無回答	再雇用制度が導入されていること	在宅勤務やフレックスタイトム制度へ始業終業時刻を労働者意思で決定など柔軟な働き方が整備されていること	育児休業や介護休業などが整っている、または育児・取得しやすい雰囲気があること	仕事と、子育てや介護の両立について、職場(上司・同僚・部下)の理解が得られること	無回答	長時間労働が改善されること	給与・昇進・昇格・教育機会の面で、性別による差がなくなる	パートタイムの労働条件が改善されること	登壇と能力のある女性社員を積極的に管理職へ登用すること	職場におけるセクシュアル・ハラスメントをなくすこと	妊娠や出産による不利益な配置転換や勤務時間の変更などの、マタニティ・ハラスメントをなくすこと	その他	無回答
総合	実数	1,015	430	176	592	168	390	17	17	527	443	147	146	107	145	115	66	27	105	12	24
	%		42.4	17.3	58.3	16.6	38.4	1.7	1.7	51.9	43.6	14.5	14.4	10.5	14.3	11.3	6.5	2.7	10.3	1.2	2.4
性別	男性	478	217	104	252	79	152	12	8	250	196	70	65	51	70	48	33	8	44	8	13
	女性	529	209	72	337	87	234	5	8	274	242	77	79	56	74	66	33	18	61	4	10
	無回答	8	4	0	3	2	4	0	1	3	5	0	2	0	1	1	0	1	0	0	1
年代別	20歳代	113	26	13	69	26	60	4	1	56	56	16	21	18	11	8	7	2	10	3	1
	30歳代	142	38	28	96	25	58	0	0	69	62	22	17	17	26	10	13	5	19	1	0
	40歳代	210	74	35	128	38	83	5	6	109	94	43	25	22	28	21	10	4	19	3	5
	50歳代	214	112	26	133	28	76	3	2	112	103	30	19	22	34	34	15	5	21	4	3
	60歳代	239	136	59	118	38	74	5	2	137	93	26	42	21	35	31	17	9	26	1	6
	70歳以上	88	40	14	44	11	36	0	6	40	30	10	21	7	10	10	4	1	10	0	8
	無回答	9	4	1	4	2	3	0	0	4	5	0	1	0	1	1	0	1	0	0	1
職業別	農林業	56	29	8	32	11	18	0	3	24	24	2	11	4	12	10	3	2	8	0	4
	漁業	3	1	0	2	0	2	0	0	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	商工サービス業自営	67	35	14	39	8	26	0	0	41	29	12	12	5	8	3	5	2	6	1	0
	事務職	152	49	27	96	39	63	0	0	76	79	34	22	14	26	14	11	7	8	0	0
	技術職	135	54	18	86	18	63	1	2	75	69	24	9	21	17	8	4	3	11	3	2
	労務職	136	64	26	76	21	53	2	2	77	53	16	17	13	20	20	10	3	19	1	3
	管理職	58	23	14	28	7	19	3	1	23	29	6	5	4	9	5	11	1	8	2	1
	自由業	17	8	4	8	3	4	1	0	12	4	5	2	1	2	0	4	1	0	0	0
	主婦・主夫	115	50	18	74	19	43	2	2	57	48	14	19	16	11	20	3	4	18	1	4
	学生	21	4	4	15	5	5	1	0	9	12	4	4	2	3	0	1	0	3	0	0
	無職	153	75	27	79	23	50	4	3	80	57	17	30	17	21	15	4	4	13	3	8
	その他	91	36	15	50	12	40	3	1	45	34	12	12	9	14	20	7	0	9	1	1
無回答	11	2	1	7	2	4	0	3	5	5	1	2	1	1	0	3	0	2	0	1	
配偶者の有無	いる	693	319	118	415	113	243	9	9	372	309	106	98	73	90	77	38	21	76	5	14
	いない	317	108	58	175	54	146	8	7	155	132	40	48	34	54	37	28	6	27	7	9
	無回答	5	3	0	2	1	1	0	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0	2	0	1
夫婦共働きか	はい	406	173	62	253	72	150	4	6	225	182	63	50	45	51	44	28	12	43	3	6
	いいえ	279	142	55	158	39	90	5	3	142	123	43	48	28	37	31	9	9	31	2	8
	無回答	8	4	1	4	2	3	0	0	5	4	0	0	0	2	2	1	0	2	0	0
居住地域別	高知市	449	171	82	281	69	174	10	4	228	199	73	62	57	54	52	32	11	45	6	8
	高知市以外の市	375	168	62	207	62	149	5	9	203	166	48	58	30	53	39	25	13	37	5	10
	町村	185	88	31	103	34	65	1	4	94	75	26	25	19	36	23	9	3	22	1	6
	無回答	6	3	1	1	3	2	1	0	2	3	0	1	1	2	1	0	0	1	0	0
世帯構成別	単身世帯(一人住まい)	83	37	22	36	10	36	2	2	38	32	9	19	12	10	9	8	2	5	1	4
	夫婦のみの世帯	200	96	41	112	34	65	2	5	95	85	30	30	20	31	28	16	4	17	0	9
	親と子の世帯(二世帯世帯)	604	244	97	371	102	239	11	6	323	276	94	87	63	84	65	30	16	62	10	7
	三世帯世帯(親、子、孫の世帯)	105	44	11	65	18	40	1	3	56	45	12	7	12	19	8	8	5	18	1	2
	その他	18	7	2	8	4	8	1	0	11	4	1	3	0	0	5	3	0	3	0	1
無回答	5	2	3	0	0	2	0	1	4	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
同居家族内内容別	就学前の子どもがいる	113	35	16	77	22	43	0	0	61	53	25	11	13	13	4	7	3	20	0	0
	小学生の子どもがいる	117	52	16	69	18	45	2	1	64	44	27	9	16	19	8	5	2	19	2	0
	中学生の子どもがいる	98	41	10	59	16	35	2	2	58	38	14	11	10	17	13	4	2	11	0	2
	高校生の子どもがいる	85	34	10	52	14	35	2	2	47	44	14	11	4	11	12	1	3	7	1	1
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	65	27	13	35	9	29	1	0	36	28	9	6	5	12	5	8	5	5	1	0
	65歳以上の方がいる	262	112	39	153	48	95	7	6	131	121	27	30	28	45	28	16	9	33	4	6
	子どもはいない	126	42	21	75	22	62	3	1	68	62	19	16	16	14	18	7	2	7	2	1
無回答	76	38	12	47	11	25	1	1	36	28	6	17	9	11	9	6	2	8	3	3	

(単位:人、%)

(3) 行政の取組において必要なこと											
保育サービスが充実すること	放課後児童クラブや放課後子ども教室などが充実すること	児童手当など子育てに関する経済的な支援が充実すること	介護サービスが充実すること	就職や育児、介護といった退職した女性の再就職の支援があること	と女性を積極的に活用する企業への支援を行うこと	男性の家事や育児への参加を促すための意識啓発を行うこと	ラッシュメントに関する啓発を行うこと	セクシュアル・ハラスメントやマタニティ・ハラッシュメントに関する啓発を行うこと	育児休業や介護休業を実施している企業への支援(助成金など)を行うこと	その他	無回答
409	240	283	193	301	91	95	48	168	16	22	
40.3	23.6	27.9	19.0	29.7	9.0	9.4	4.7	16.6	1.6	2.2	
199	104	145	88	125	41	42	21	78	9	10	
209	135	135	103	173	50	53	26	90	7	10	
1	1	3	2	3	0	0	1	0	0	2	
53	22	40	5	41	13	7	5	21	3	0	
67	33	61	11	33	10	11	5	31	1	1	
72	47	69	36	55	21	21	7	44	7	4	
85	56	48	53	65	15	20	12	35	2	7	
96	61	53	63	79	25	25	10	27	3	2	
32	20	11	23	26	7	10	7	9	0	8	
4	1	1	2	2	0	1	2	1	0	0	
19	19	12	12	18	5	5	1	9	0	3	
0	1	2	0	1	0	1	0	0	0	0	
27	12	21	10	24	6	8	4	10	1	0	
69	45	47	21	37	16	15	6	32	1	0	
60	24	48	23	31	13	4	4	35	3	2	
47	31	49	31	32	12	11	8	18	4	4	
22	18	10	8	22	6	4	4	13	1	1	
9	3	6	2	5	0	1	1	4	0	0	
45	36	20	23	44	7	20	7	14	1	3	
9	4	7	0	11	1	4	0	3	1	0	
55	26	32	42	47	16	14	8	17	4	5	
42	20	25	19	25	9	8	4	12	0	2	
5	1	4	2	4	0	0	1	1	0	2	
286	173	190	144	202	57	66	30	118	6	11	
122	67	93	48	97	34	27	18	48	10	10	
1	0	0	1	2	0	2	0	2	0	1	
169	111	128	76	107	29	34	10	81	3	6	
114	61	60	66	94	27	30	19	35	3	5	
3	1	2	2	1	1	2	1	2	0	0	
188	108	132	84	136	37	40	24	68	9	7	
146	90	100	74	108	32	36	20	62	6	11	
70	42	50	33	55	22	18	3	38	1	4	
5	0	1	2	2	0	1	1	0	0	0	
32	13	23	16	22	8	10	9	8	3	4	
84	46	45	51	63	12	25	10	26	1	5	
254	151	165	111	179	52	51	25	113	10	8	
34	26	42	12	27	15	8	4	17	2	4	
3	2	8	3	7	4	1	0	4	0	0	
2	2	0	0	3	0	0	0	0	0	1	
54	34	51	6	30	8	7	2	23	0	0	
48	35	58	12	18	13	6	2	24	1	0	
33	28	38	17	23	10	8	3	15	1	1	
27	24	33	13	25	6	7	5	16	0	1	
25	15	17	12	15	6	5	5	18	1	1	
97	57	57	57	88	27	26	10	43	7	8	
57	23	26	24	38	16	9	6	28	3	1	
32	17	12	24	26	8	4	2	11	2	3	

問6 あなたは、配偶者や恋人があなたに対して、次のようなことをした場合、それを暴力だと思いませんか。
(あなたの気持ちに最も近い番号(1~3)に1つだけ○印)

	サンプル	(ア)素手で殴ったり、足でける					(イ)ハットやベルト等、物を使って殴る				(ウ)物を投げつける。突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする				(エ)ドアをけったり、壁に物を投げつける刃物などを突きつけたり、殴るふりをして、おどす				(オ)大声でどなる、罵倒する				(カ)小バカにするようなことを言ったり、態度を取る			
		どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	無回答
総合	実数	1,015	864	113	5	33	958	11	7	39	885	83	6	41	891	78	6	40	600	352	28	35	448	442	81	44
	%	100.0	85.1	11.1	0.5	3.3	94.4	1.1	0.7	3.8	87.2	8.2	0.6	4.0	87.8	7.7	0.6	3.9	59.1	34.7	2.8	3.4	44.1	43.5	8.0	4.3
性別	男性	478	448	53	3	14	453	3	3	19	416	38	4	20	411	41	4	22	254	186	18	20	193	218	44	23
	女性	529	449	60	2	18	498	8	4	19	464	44	2	19	476	34	2	17	343	162	10	14	253	221	35	20
	無回答	8	7	0	0	1	7	0	0	1	5	1	0	2	4	3	0	1	3	4	0	1	2	3	2	1
年代別	20歳代	113	91	21	1	0	111	1	1	0	102	9	2	0	106	6	1	0	67	41	5	0	43	55	14	1
	30歳代	142	122	18	1	1	136	3	1	2	119	20	1	2	119	19	3	1	75	59	7	1	50	74	15	3
	40歳代	210	189	18	0	3	202	2	2	4	194	13	0	3	193	14	0	3	139	66	2	3	91	105	11	3
	50歳代	214	187	17	0	10	202	1	2	9	185	18	1	10	186	19	1	8	138	61	7	8	110	81	15	8
	60歳代	239	201	30	2	6	228	1	1	9	207	18	2	12	211	14	1	13	128	95	5	11	110	96	19	14
	70歳以上	88	66	9	1	12	71	3	0	14	70	5	0	13	68	6	0	14	46	29	2	11	38	29	7	14
	無回答	9	8	0	0	1	8	0	0	1	8	0	0	1	8	0	0	1	7	1	0	1	6	2	0	1
	職業別	農林業	56	45	7	0	4	51	0	0	5	49	2	0	5	47	4	0	5	29	20	2	5	20	24	6
漁業		3	2	1	0	0	3	0	0	0	2	1	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	1	2	0	0
商工サービス業自営		67	58	6	0	3	64	0	0	3	59	5	0	3	62	2	0	3	38	25	1	3	28	33	3	3
事務職		152	139	12	0	1	151	0	0	1	137	13	0	2	141	10	0	1	102	48	1	1	82	63	7	0
技術職		135	117	15	2	1	127	3	2	3	116	15	3	1	115	18	1	1	82	48	4	1	55	66	12	2
労務職		136	116	14	0	6	128	1	0	7	111	17	0	8	117	9	2	8	76	47	6	7	52	63	13	8
管理職		58	53	5	0	0	58	0	0	0	57	1	0	0	56	2	0	0	39	18	1	0	29	27	2	0
自由業		17	16	1	0	0	17	0	0	0	17	0	0	0	17	0	0	0	12	5	0	0	10	6	1	0
主婦・主夫		115	103	9	1	2	109	2	2	2	102	10	1	2	104	7	1	3	68	44	2	1	59	47	7	2
学生		21	16	5	0	0	21	0	0	0	20	1	0	0	20	1	0	0	14	6	1	0	6	12	2	1
無職		153	117	25	2	9	136	3	2	12	131	6	2	14	123	15	2	13	79	57	5	12	66	58	14	15
その他		91	75	12	0	4	84	2	1	4	76	10	0	5	78	8	0	5	55	27	5	4	39	33	13	6
無回答		11	7	1	0	3	9	0	0	2	8	2	0	1	8	2	0	1	6	4	0	1	1	8	1	1
配偶者の有無	いる	693	601	68	3	21	661	5	4	23	602	63	3	25	612	52	4	25	410	244	18	21	314	307	48	24
	いない	317	260	45	2	10	294	6	3	14	280	20	3	14	276	26	2	13	187	108	10	12	132	134	33	18
	無回答	5	3	0	0	2	3	0	0	2	3	0	0	2	3	0	0	2	3	0	0	2	2	1	0	2
夫婦共働きか	はい	406	357	39	1	9	391	2	1	12	354	40	1	11	357	37	2	10	248	137	11	10	178	191	26	11
	いいえ	279	237	29	2	11	263	3	3	10	241	23	2	13	248	15	2	14	158	104	7	10	132	113	22	12
	無回答	8	7	0	0	1	7	0	0	1	7	0	0	1	7	0	0	1	4	3	0	1	4	3	0	1
居住地域別	高知市	449	394	46	1	8	435	2	2	10	412	26	2	9	410	30	2	7	279	153	10	7	204	205	32	8
	高知市以外の市	375	314	43	1	17	347	7	0	21	317	35	0	23	325	28	1	21	215	132	9	19	166	150	33	26
	町村	185	150	24	3	8	171	1	5	8	151	22	3	9	151	20	3	11	103	65	9	8	77	83	16	9
	無回答	6	6	0	0	0	5	1	0	0	5	0	1	0	5	0	0	1	3	2	0	1	1	4	0	1
世帯構成別	単身世帯(一人住まい)	83	67	10	1	5	73	1	2	7	72	4	2	5	70	7	1	5	52	24	3	4	43	25	7	8
	夫婦のみの世帯	200	168	20	2	10	184	2	2	12	171	14	1	14	174	11	2	13	114	71	5	10	92	81	16	11
	親と子の世帯(二世帯世帯)	604	532	57	2	13	581	6	3	14	537	48	3	16	543	44	3	14	368	205	17	14	264	280	45	15
	三世帯世帯(親、子、孫の世帯)	105	83	20	0	2	101	2	0	2	92	12	0	1	90	13	0	2	59	43	1	2	44	46	11	4
	その他	18	11	6	0	1	16	0	0	2	11	4	0	3	11	3	0	4	7	6	2	3	5	7	2	4
	無回答	5	3	0	0	2	3	0	0	2	2	1	0	2	3	0	0	2	0	3	0	2	0	3	0	2
同居家族内内容別	就学前の子どもがいる	113	101	12	0	0	113	0	0	0	99	13	0	1	102	9	2	0	63	47	3	0	48	58	7	0
	小学生の子どもがいる	117	99	14	0	4	111	0	1	5	97	17	0	3	98	13	1	5	74	36	2	5	53	51	7	6
	中学生の子どもがいる	98	83	11	0	4	91	1	0	6	86	7	1	4	85	7	0	6	60	30	2	6	39	50	3	6
	高校生の子どもがいる	85	77	6	0	2	83	1	0	1	76	7	1	1	77	6	0	2	54	27	3	1	33	42	8	2
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	65	59	5	0	1	64	0	0	1	60	4	0	1	59	5	0	1	44	19	1	1	32	26	6	1
	65歳以上の方がいる	262	221	32	1	8	249	3	1	9	230	21	1	10	227	24	0	11	148	99	4	11	112	116	21	13
	子どもはいない	126	107	17	1	1	122	1	2	1	110	12	2	2	112	13	1	0	74	46	5	1	54	55	16	1
無回答	76	68	6	0	2	71	3	0	2	69	5	0	2	68	6	0	2	47	25	3	1	38	29	7	2	

(単位:人、%)

(キ)何を言っても、長時間無視し続ける				(ク)交友関係を制限したり、電話、メール等を細かくチェックする				(ケ)嫌がっているのに、性的な行為を強制する				(コ)見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる				(カ)誰のおかげで生活できるのか!などと言う				(シ)生活費を減さない、極端に制限して渡す			
どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答	どんな場合も暴力に当たると思う	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力に当たると思わない	無回答				
520	349	103	43	564	308	97	46	821	133	18	43	723	187	63	42	680	226	64	45	739	185	50	41
51.2	34.4	10.1	4.2	55.6	30.3	9.6	4.5	80.9	13.1	1.8	4.2	71.2	18.4	6.2	4.1	67.0	22.3	6.3	4.4	72.8	18.2	4.9	4.0
231	169	55	23	244	158	54	22	378	66	11	23	328	93	35	22	297	122	35	24	333	97	26	22
287	177	47	18	318	149	41	21	439	66	6	18	391	93	27	18	378	104	28	19	401	87	23	18
2	3	1	2	2	1	2	3	4	1	1	2	4	1	1	2	5	0	1	2	5	1	1	1
62	38	13	0	64	40	9	0	101	10	2	0	92	15	6	0	79	27	7	0	88	17	8	0
73	46	22	1	65	60	16	1	110	30	1	1	92	35	14	1	91	34	16	1	101	29	11	1
116	79	12	3	118	68	19	5	178	28	1	3	153	47	7	3	146	53	7	4	155	49	3	3
113	72	19	10	131	56	17	10	177	22	6	9	160	33	12	9	150	42	13	9	163	33	9	9
115	84	27	13	137	63	26	13	186	31	8	14	167	40	19	13	147	59	18	15	168	41	17	13
37	27	9	15	43	20	9	16	61	12	0	15	51	17	5	15	60	11	2	15	57	16	1	14
4	3	1	1	6	1	1	1	8	0	0	1	8	0	0	1	7	0	1	1	7	0	1	1
25	18	7	6	32	13	6	5	42	7	1	6	35	13	2	6	32	11	7	6	36	10	4	6
1	2	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	3	0	0	0
36	23	5	3	39	24	1	3	55	8	0	4	50	12	2	3	46	15	2	4	53	10	1	3
92	48	11	1	91	47	13	1	137	13	1	1	126	22	3	1	117	28	5	2	120	26	5	1
72	49	12	2	84	36	12	3	116	16	2	1	101	24	9	1	94	33	7	1	101	27	6	1
61	49	18	8	62	47	18	9	112	14	2	8	92	25	11	8	83	33	12	8	88	27	13	8
31	23	4	0	36	19	2	1	47	10	1	0	45	12	1	0	39	16	3	0	44	12	2	0
12	5	0	0	11	4	2	0	15	2	0	0	15	1	1	0	13	4	0	0	15	2	0	0
60	42	10	3	65	33	15	2	93	19	1	2	80	25	8	2	86	23	4	2	94	13	6	2
11	8	2	0	12	9	0	0	20	1	0	0	18	2	1	0	12	8	1	0	15	5	1	0
71	47	21	14	80	42	15	16	107	24	7	15	92	30	16	15	91	32	15	15	96	36	7	14
47	26	13	5	48	27	11	5	67	16	3	5	61	17	8	5	57	20	8	6	68	13	5	5
1	9	0	1	3	6	1	1	8	2	0	1	7	3	0	1	8	2	0	1	6	4	0	1
356	240	70	27	388	207	71	27	555	100	11	27	487	136	44	26	473	157	36	27	508	126	34	25
162	108	33	14	174	100	26	17	263	33	7	14	233	51	19	14	204	69	28	16	228	59	16	14
2	1	0	2	2	1	0	2	3	0	0	2	3	0	0	2	3	0	0	2	3	0	0	2
213	142	39	12	236	121	38	11	330	58	6	12	292	79	24	11	282	91	21	12	304	72	19	11
138	97	30	14	146	85	33	15	218	42	5	14	189	56	20	14	186	64	15	14	197	54	15	13
5	1	1	1	6	1	0	1	7	0	0	1	6	1	0	1	5	2	0	1	7	0	0	1
250	152	38	9	271	133	36	9	375	60	5	9	340	77	24	8	317	95	29	8	350	69	23	7
186	125	42	22	195	115	41	24	295	50	7	23	252	74	26	23	237	90	25	23	257	77	18	23
81	70	23	11	95	58	20	12	146	23	6	10	126	36	13	10	122	40	10	13	128	38	9	10
3	2	0	1	3	2	0	1	5	0	0	1	5	0	0	1	4	1	0	1	4	1	0	1
48	18	10	7	46	20	10	7	65	7	6	5	56	13	9	5	55	15	8	5	63	9	6	5
90	74	22	14	106	55	25	14	149	31	6	14	126	44	16	14	129	42	14	15	137	36	14	13
321	214	55	14	341	200	47	16	508	75	6	15	456	101	32	15	417	137	33	17	444	118	27	15
53	34	16	2	59	29	14	3	86	16	0	3	73	25	5	2	68	27	8	2	78	22	3	2
8	6	0	4	9	4	1	4	10	4	0	4	9	4	1	4	9	4	1	4	14	0	0	4
0	3	0	2	3	0	0	2	3	0	0	2	3	0	0	2	2	1	0	2	3	0	0	2
61	40	12	0	59	39	14	1	86	25	1	1	76	29	8	0	79	24	10	0	85	20	8	0
75	28	9	5	70	31	11	5	92	20	0	5	91	15	6	5	85	21	6	5	94	14	4	5
58	29	5	6	56	32	4	6	80	11	1	6	71	17	4	6	67	23	2	6	70	20	2	6
46	29	8	2	52	25	6	2	77	5	1	2	65	15	3	2	54	25	4	2	62	19	2	2
40	19	5	1	44	16	4	1	56	8	0	1	51	11	2	1	49	10	5	1	53	10	1	1
125	95	31	11	145	79	26	12	220	29	1	12	192	48	11	11	168	64	17	13	187	51	13	11
65	49	12	0	73	44	8	1	103	20	2	1	91	26	8	1	83	32	9	2	91	28	6	1
39	26	9	2	44	22	8	2	60	13	1	2	58	10	6	2	55	12	7	2	52	21	1	2

問7 上記のようなことをあなたは経験したり、見聞きしたことがありますか。(1つだけ○印)

(単位:人、%)

		サンプル	直接、 経験した ことがある	身近に 見聞きした ことがある	経験した こともないし、 見聞きした こともない	無 回 答
総合	実数	1,015	209	393	399	14
	%	100.0	20.6	38.7	39.3	1.4
性別	男性	478	88	196	189	5
	女性	529	119	193	209	8
	無回答	8	2	4	1	1
年代別	20歳代	113	10	52	51	0
	30歳代	142	31	53	58	0
	40歳代	210	45	82	82	1
	50歳代	214	52	82	78	2
	60歳代	239	48	89	97	5
	70歳以上	88	22	32	28	6
	無回答	9	1	3	5	0
VI (数 調 査 結 果)	農林業	56	11	19	25	1
	漁業	3	2	0	1	0
	商工サービス業 自営	67	17	25	23	2
	事務職	152	27	53	72	0
	技術職	135	23	57	54	1
	労務職	136	34	52	48	2
	管理職	58	11	25	22	0
	自由業	17	3	6	8	0
	主婦・主夫	115	29	41	44	1
	学生	21	0	11	10	0
	無職	153	35	57	56	5
	その他	91	17	40	33	1
無回答	11	0	7	3	1	
配偶者の有無	いる	693	151	259	274	9
	いない	317	58	130	125	4
	無回答	5	0	4	0	1
夫婦共働きか	はい	406	92	137	174	3
	いいえ	279	57	120	97	5
	無回答	8	2	2	3	1
居住地 地域別	高知市	449	82	189	173	5
	高知市以外の市	375	75	137	157	6
	町村	185	51	64	67	3
	無回答	6	1	3	2	0
世帯 構成 別	単身世帯(一人住まい)	83	16	28	37	2
	夫婦のみの世帯	200	44	75	77	4
	親と子の世帯(二世 代世帯)	604	119	237	241	7
	三世 代世帯(親、子、孫 の世帯)	105	24	45	36	0
	その他	18	5	6	7	0
無回答	5	1	2	1	1	
同居 家族 内 容 別	就学前の子 どもがいる	113	23	40	50	0
	小学生の子 どもがいる	117	34	46	37	0
	中学生の子 どもがいる	98	22	39	37	0
	高校生の子 どもがいる	85	17	29	39	0
	大学生、専 門学校生等の子 どもがいる	65	21	27	17	0
	65歳以上 の方がいる	262	53	108	97	4
	子どもは いない	126	14	58	54	0
	無回答	76	16	29	28	3

★問7で「1. 直接、経験したことがある」を選んだ方のみお答えください。)

問8 あなたは、あなたの配偶者や恋人に次のようなことをしたこと、またはされたことはありますか。(あなたの経験に最も近い番号(1~4)に○印)

サンプル		(ア)素手で殴ったり、足でける				(イ)バットやベルト等、物を使って殴る				(ウ)物を投げつける、突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする				(エ)ドアをけったり、壁に物を投げつける刃物などを突きつけたり、殴るふりをして、おどす				(オ)大声でどなる、罵倒する				(カ)小バカにするようなことを言ったり、態度を取る										
		したことがある		されたことがある		したことがある		されたことがある		したことがある		されたことがある		したことがある		されたことがある		したことがある		されたことがある												
		何度もしました	1・2度しました	何度もしました	1・2度しました	何度もしました	1・2度しました	何度もしました	1・2度しました	何度もしました	1・2度しました	何度もしました	1・2度しました	何度もしました	1・2度しました	何度もしました	1・2度しました	何度もしました	1・2度しました	何度もしました	1・2度しました											
総数	209	8	46	28	55	90	5	7	6	10	183	7	22	23	48	121	8	22	27	37	123	21	47	72	36	61	22	38	61	41	72	
%		3.8	22.0	13.4	26.3	43.1	2.4	3.3	2.9	4.8	87.6	3.3	10.5	11.0	23.0	57.9	3.8	10.5	12.9	17.7	58.9	10.0	22.5	34.4	17.2	29.2	10.5	18.2	29.2	19.6	34.4	
性別	男性	88	6	34	5	13	40	3	7	2	2	75	5	17	1	13	58	5	20	0	8	58	13	33	13	13	29	13	32	13	19	26
女性	119	2	12	22	42	49	2	0	4	8	106	2	5	21	35	62	3	2	27	29	63	8	14	58	22	32	9	6	48	22	44	
無回答	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	
年 代 別	20歳代	10	1	2	6	1	1	1	0	1	0	8	1	2	2	0	5	0	1	3	1	5	1	2	5	1	2	0	2	6	0	2
30歳代	31	1	3	4	10	17	1	0	1	2	28	1	3	4	6	21	2	2	6	3	20	5	4	11	6	11	2	5	10	8	13	
40歳代	45	2	8	7	11	22	1	0	1	3	40	2	4	6	11	26	3	3	9	6	27	4	13	20	5	10	7	5	17	6	14	
50歳代	52	2	14	3	14	21	1	2	1	3	45	1	4	4	12	32	2	10	6	13	24	7	13	15	10	15	6	12	9	14	18	
60歳代	48	2	15	3	13	19	1	5	1	1	41	2	7	3	13	25	1	6	2	10	29	3	11	12	10	17	5	11	13	9	15	
70歳以上	22	0	4	4	6	10	0	0	1	1	20	0	2	3	6	12	0	0	1	4	17	1	4	8	4	6	2	3	6	4	9	
無回答	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
職 業 別	農林業	11	1	1	1	3	5	0	0	0	0	11	0	0	1	2	8	0	1	1	2	7	0	1	1	4	5	2	1	2	1	5
漁業	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	2	0	1	0	0	2	0	0	1	0	
商工サービス業自営	17	2	5	0	5	8	1	3	1	1	12	1	4	0	6	7	1	3	0	5	9	3	6	3	5	3	3	4	5	5	3	
事務職	27	1	4	4	9	13	1	0	1	1	25	2	1	3	6	18	3	3	3	6	16	4	8	12	6	4	3	3	9	6	11	
技術職	23	0	6	4	9	7	0	0	0	1	22	1	4	1	9	12	1	4	3	4	13	3	5	9	3	8	3	1	4	4	14	
労務職	34	0	14	7	6	12	0	0	1	3	30	0	3	4	3	24	0	4	5	2	23	1	6	8	6	15	2	7	12	5	10	
管理職	11	1	2	1	0	7	0	2	1	0	8	0	2	0	1	8	0	3	0	0	8	2	3	1	1	6	0	8	1	3	1	
自由業	3	0	1	0	2	1	0	0	0	1	2	0	2	0	2	1	1	0	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	
主婦・主夫	29	0	5	2	11	13	0	0	0	2	27	0	0	5	9	15	0	0	2	9	18	1	5	14	6	6	1	1	10	8	10	
学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
無職	35	2	6	5	6	16	1	2	1	1	30	2	4	4	6	21	1	3	4	3	24	4	11	12	2	9	5	8	9	6	12	
その他	17	1	1	4	4	7	2	0	1	0	14	1	2	5	4	5	1	0	8	5	3	1	2	10	2	4	0	4	8	1	5	
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
配 偶 者 の 有 無	いる	151	4	40	12	42	68	4	6	2	8	132	5	19	15	37	85	7	16	15	31	89	17	39	51	25	42	17	32	43	30	49
いない	58	4	6	16	13	22	1	1	4	2	51	2	3	8	11	36	1	6	12	6	34	4	8	21	11	19	5	6	18	11	23	
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
夫 婦 共 働 き か	はい	92	4	27	8	25	39	4	5	2	5	77	4	16	9	21	50	7	15	12	18	47	12	25	28	17	26	11	21	26	17	30
いいえ	57	0	13	4	16	28	0	1	0	3	53	1	3	6	15	34	0	1	3	12	41	5	13	22	7	16	6	10	16	12	19	
無回答	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	1	1	1	0	
居 住 地 域 別	高知市	82	3	20	11	19	38	1	2	3	7	70	3	8	11	20	46	4	8	12	13	49	8	24	31	14	19	11	18	24	20	23
高知市以外の市	75	2	12	10	22	33	2	2	1	1	69	2	7	5	17	47	3	9	8	16	43	7	14	23	21	19	6	12	19	16	28	
町村	51	3	14	7	14	18	2	3	2	2	43	2	7	7	11	27	1	5	7	8	30	6	9	18	1	22	5	8	18	4	21	
無回答	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	
世 帯 構 成 別	単身世帯(一人住まい)	16	1	5	5	5	2	0	1	3	1	12	0	1	3	5	7	0	2	3	2	9	1	4	6	2	4	1	1	4	3	8
夫婦のみの世帯	44	3	10	4	12	19	3	2	0	1	38	3	5	6	13	19	2	4	4	13	21	6	10	18	6	10	6	7	15	8	13	
親と子の世帯(二世帯世帯)	119	3	27	14	31	55	2	3	3	5	107	3	13	11	24	75	6	14	17	17	72	12	27	34	23	39	10	25	35	22	42	
三世帯世帯(親、子、孫の世帯)	24	1	4	5	5	10	0	1	0	3	20	1	2	3	4	16	0	2	3	4	16	1	5	12	4	6	3	5	6	6	7	
その他	5	0	0	0	1	4	0	0	0	0	5	0	1	0	2	3	0	0	0	1	4	1	1	2	1	1	2	0	1	2	1	
無回答	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
回 居 家 族 内 容 別	就学前の子どもがいる	23	0	4	5	7	9	0	0	0	2	21	0	4	3	5	14	1	1	4	2	16	2	7	9	4	6	0	7	7	6	7
小学生の子どもがいる	34	1	5	2	8	20	0	1	1	2	30	0	2	4	8	21	2	2	5	3	23	3	8	9	7	11	3	7	9	9	12	
中学生の子どもがいる	22	1	2	3	6	12	0	0	1	1	20	0	0	2	2	18	1	0	2	2	17	2	5	5	1	11	3	2	3	3	12	
高校生の子どもがいる	17	1	3	0	2	11	1	0	0	0	16	1	1	1	1	13	1	2	2	2	11	1	5	3	3	7	4	4	3	1	6	
大学生、専門学校生等の子どもがいる	21	1	3	2	6	11	0	1	1	2	17	1	3	3	7	9	1	2	5	3	11	2	3	9	4	6	2	4	7	2	8	
65歳以上の方がいる	53	0	10	8	18	20	0	2	0	3	48	2	3	5	10	35	0	6	3	11	34	5	9	19	11	14	5	8	11	14	18	
子どもはいない	14	1	3	5	1	6	1	0	1	1	12	2	2	2	1	9	1	3	4	0	7											

(単位:人、%)

(キ)何を言っても、長時間無視し続ける				(ク)交友関係を制限したり、電話、メール等を細かくチェックする				(ケ)嫌がっているのに、性的な行為を強要する				(コ)見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる				(カ)「口」のおかけで生活できるのか」と言う				(シ)生活費を減さない、極端に制限して渡す				(ス)その他のDV行為										
したことがある		されたことがある		どちらでもない・無回答		したことがある		されたことがある		どちらでもない・無回答		したことがある		されたことがある		どちらでもない・無回答		したことがある		されたことがある		どちらでもない・無回答		したことがある		されたことがある		どちらでもない・無回答						
何度もしました	1・2度しました	何度もされました	1・2度されました	何度もしました	1・2度しました	何度もされました	1・2度しました	何度もされました	1・2度しました	何度もされました	1・2度しました	何度もしました	1・2度しました	何度もされました	1・2度されました	何度もしました	1・2度しました	何度もされました	1・2度しました	何度もしました	1・2度しました	何度もされました	1・2度しました	何度もしました	1・2度しました	何度もされました	1・2度しました	何度もしました	1・2度しました	何度もされました	1・2度しました			
9	37	28	34	112	3	7	24	21	156	2	10	28	12	157	0	5	3	8	193	4	17	18	22	151	1	7	23	10	189	1	2	7	1	198
4.3	17.7	13.4	16.3	53.8	1.4	3.3	11.5	10.0	74.6	1.0	4.8	13.4	5.7	75.1	0.0	2.4	1.4	3.8	92.3	1.9	8.1	8.6	10.5	72.2	0.5	3.3	11.0	4.8	80.9	0.5	1.0	3.3	0.5	94.7
3	22	6	19	45	2	6	5	10	66	2	10	0	1	75	0	5	0	3	80	3	17	2	3	66	1	7	3	1	77	1	2	1	0	84
6	15	22	15	65	1	1	19	11	88	0	0	28	11	80	0	0	3	5	111	1	0	16	19	83	0	0	20	9	90	0	0	6	1	112
0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
0	1	1	1	7	0	0	6	1	3	0	1	6	0	3	0	0	0	1	9	0	0	0	1	9	0	0	4	0	6	0	0	0	0	10
1	3	2	6	21	1	1	7	2	21	1	1	4	1	24	0	0	0	0	31	0	2	0	3	26	0	0	3	1	27	0	0	0	0	31
2	3	7	12	23	2	0	7	6	30	0	2	4	3	36	0	0	1	3	41	0	2	4	3	36	0	1	5	2	37	1	0	1	0	43
3	13	5	9	26	0	2	3	4	44	0	2	5	4	41	0	0	1	1	50	2	5	8	5	34	0	1	5	2	44	0	0	2	0	50
2	15	7	3	23	0	4	0	6	38	1	4	3	3	37	0	5	0	2	41	2	8	1	10	28	1	5	3	4	36	0	2	2	1	43
1	2	6	3	11	0	0	1	2	19	0	0	6	1	15	0	0	1	1	20	0	0	5	0	17	0	0	3	1	18	0	0	2	0	20
0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
1	2	0	2	6	0	0	0	1	10	0	1	0	2	8	0	0	0	1	10	0	0	0	2	9	0	0	1	3	7	0	0	1	0	10
0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
0	6	3	3	6	1	1	0	1	14	0	1	1	1	14	0	1	0	0	16	1	2	0	5	9	0	1	1	1	14	1	0	1	0	15
3	2	5	5	13	0	0	5	0	22	0	0	3	2	22	0	0	0	1	26	0	1	3	0	23	0	0	4	0	23	0	0	1	0	26
1	5	2	4	13	1	1	6	2	14	0	1	4	2	16	0	0	0	0	23	0	0	0	2	21	0	0	2	1	20	0	0	0	0	23
0	5	2	6	22	0	1	4	5	24	1	3	4	0	26	0	0	0	2	32	2	6	1	2	23	0	3	3	1	27	0	0	0	0	34
0	5	0	3	4	0	1	1	3	7	0	0	0	0	11	0	0	0	0	11	1	1	1	0	9	0	0	0	0	11	0	0	0	0	11
0	1	1	1	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	1	0	2	0	0	1	0	2	0	0	0	0	3
1	3	6	3	17	0	0	1	4	24	0	0	5	4	20	0	0	2	1	26	0	0	2	4	23	0	0	3	2	24	0	0	0	0	29
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	5	5	4	21	0	3	2	3	27	1	2	7	1	24	0	3	0	2	30	0	5	7	4	20	1	3	6	2	24	0	2	3	1	29
1	2	4	2	9	0	0	3	2	12	0	2	4	0	11	0	1	1	1	14	0	1	3	3	11	0	0	2	0	15	0	0	1	0	16
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	30	22	26	74	2	3	11	14	122	2	8	12	9	120	0	4	2	3	142	3	13	13	16	107	0	5	10	8	128	1	2	3	1	144
1	7	6	8	38	1	4	13	7	34	0	2	16	3	37	0	1	1	5	51	1	4	5	6	44	1	2	13	2	41	0	0	4	0	54
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	21	15	17	39	2	2	8	7	74	1	8	6	4	73	0	3	1	0	88	1	10	7	10	65	0	4	8	4	76	1	1	3	0	87
2	8	7	9	34	0	1	3	7	46	1	0	5	5	46	0	1	1	3	52	2	3	6	6	40	0	1	2	4	50	0	1	0	1	55
0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
5	12	14	14	43	1	1	9	6	66	1	4	13	2	62	0	0	3	2	77	0	5	6	9	62	0	1	10	3	68	0	0	1	0	81
3	14	10	15	37	1	4	9	11	51	1	3	11	7	53	0	3	0	5	67	3	7	9	8	50	0	4	8	6	57	0	2	5	1	67
1	11	4	5	31	1	2	5	4	39	0	3	4	3	41	0	2	0	1	48	1	5	3	5	38	1	2	5	1	43	1	0	1	0	49
0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
0	2	2	1	11	0	0	1	2	13	0	0	6	1	9	0	0	1	2	13	0	0	3	3	10	0	0	5	2	9	0	0	4	0	12
3	9	8	5	21	0	3	2	5	34	0	3	3	4	34	0	3	1	2	38	0	6	5	6	28	0	3	3	4	34	0	1	1	1	41
2	20	16	23	64	1	3	15	13	88	2	5	14	6	92	0	2	1	3	113	4	9	9	11	87	0	3	10	4	102	1	1	2	0	115
3	5	1	5	12	1	1	6	1	16	0	2	5	0	17	0	0	0	1	23	0	1	1	1	21	0	1	4	0	19	0	0	0	0	24
1	1	1	0	3	1	0	0	0	4	0	0	0	1	4	0	0	0	0	5	0	1	0	1	4	1	0	1	0	4	0	0	0	0	5
0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
1	0	3	8	12	1	0	7	1	15	0	2	5	0	16	0	0	0	1	22	0	0	1	1	21	0	0	4	1	18	0	0	0	0	23
1	6	3	12	15	0	1	4	3	26	1	1	5	2	25	0	0	1	2	31	0	1	2	3	28	0	0	5	2	27	0	0	0	0	34
0	3	1	5	14	0	0	4	0	18	0	0	2	1	19	0	0	0	0	22	2	1	1	1	17	0	0	1	1	20	0	0	0	0	22
0	4	1	5	9	1	0	1	1	14	0	1	1	1	14	0	0	0	1	16	1	2	1	1	12	0	0	1	0	16	1	0	1	0	15
1	4	4	2	11	0	2	3	3	14	0	0	3	2	16	0	0	0	0	21	1	0	3	3	15	0	0	3	1	17	0	0	0	0	21
1	11	2	10	29	1	2	6	4	40	1	1	7	3	41	0	1	0	1	51	1	5	2	6	39	0	2	3	1	47	0	1	1	0	51
1	1	1	3	9	0	0	3	3	8	0	2	2	0	10	0	1	0	1	12	0	3	0	1	11	1	1	2	0	11	0	0	0	0	14
2	3	5	1	7	0	0	0	2	14	0	1	1	0	14	0	0	0	0	16	0	1	2	1	12	0	1	1	0	14	0	0	0	0	16

〈副問1〉あなたは、上記のしたこと、されたことについて誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(あてはまるものすべてに○印)

(単位:人、%)

		サンプル	家族・親せき	友人・知人	警察官	法務局・人権擁護委員・民生委員	市町村役場・福祉事務所	県庁	女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)	こうも男女共同参画センター「ソール」	裁判所・法テラス	医療関係者(医師、歯科医師、看護師など)	民間の機関(弁護士会、民間シェルターなど)	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった	無回答
総合	実数	209	61	72	5	0	0	0	3	1	6	2	4	0	91	7
	%		29.2	34.4	2.4	0.0	0.0	0.0	1.4	0.5	2.9	1.0	1.9	0.0	43.5	3.3
性別	男性	88	13	23	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	51	6
	女性	119	47	49	5	0	0	0	3	1	5	2	3	0	39	1
	無回答	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
年代別	20歳代	10	3	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	30歳代	31	7	14	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	13	0
	40歳代	45	20	18	2	0	0	0	0	0	1	1	1	0	14	1
	50歳代	52	11	18	2	0	0	0	2	0	2	1	2	0	25	2
	60歳代	48	16	12	1	0	0	0	1	1	2	0	1	0	22	3
	70歳以上	22	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	1
	無回答	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	VI (数調査結果)	農林業	11	3	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5
漁業		2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
商工サービス業自営		17	5	9	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	1
事務職		27	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	10	0
技術職		23	7	10	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	7	0
労務職		34	13	12	2	0	0	0	2	1	0	0	0	0	14	0
管理職		11	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6	0
自由業		3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
主婦・主夫		29	10	9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	15	0
学生		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無職		35	5	4	1	0	0	0	0	0	2	1	1	0	22	4
その他		17	7	9	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	4	1
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
配偶者の有無	いる	151	45	50	1	0	0	0	1	1	3	1	1	0	70	5
	いない	58	16	22	4	0	0	0	2	0	3	1	3	0	21	2
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
夫婦共働きか	はい	92	28	35	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	39	2
	いいえ	57	16	14	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	30	3
	無回答	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
居住地域別	高知市	82	25	30	2	0	0	0	1	1	1	1	0	0	34	3
	高知市以外の市	75	21	17	3	0	0	0	1	0	3	1	3	0	38	2
	町村	51	15	25	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	18	2
	無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
世帯構成別	単身世帯(一人住まい)	16	4	5	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	6	1
	夫婦のみの世帯	44	12	13	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	23	2
	親と子の世帯(二世帯世帯)	119	36	44	3	0	0	0	1	0	4	2	2	0	48	4
	三世帯世帯(親、子、孫の世帯)	24	8	9	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	10	0
	その他	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
	無回答	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
同居家族内容別	就学前の子どもがいる	23	5	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0
	小学生の子どもがいる	34	11	14	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	12	0
	中学生の子どもがいる	22	5	6	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	11	1
	高校生の子どもがいる	17	7	6	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	8	0
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	21	8	10	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	5	0
	65歳以上の方がいる	53	14	19	2	0	0	0	0	0	2	1	2	0	24	0
	子どもはいない	14	3	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2
	無回答	16	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	1

★副問1で「13.どこ(だれ)にも相談しなかった」を選んだ方のみお答えください。
 (副問2) あなたが、どこ(だれ)にも相談しなかったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○印)

(単位:人、%)

	サンプル	らどこ(誰)に相談してよいかわからなかったか	世間体が悪く、恥ずかしくて言えなかった	相談しても解決しないので、無駄だと思ったから	もつとひどいことをされると、仕返しを受けたり、相談したことがわかると、仕事を返したから	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをずると思つたから	他人にとにかく言われたくなかつたから	いずれやめるだろうと思つたから	自分に悪いところがあると思つたから	相談するほどのことではないと思つたから	その他	無回答	
総合	実数	91	4	13	22	4	18	22	1	5	4	10	39	2	3
	%		4.4	14.3	24.2	4.4	19.8	24.2	1.1	5.5	4.4	11.0	42.9	2.2	3.3
性別	男性	51	2	7	6	1	5	11	1	2	2	8	27	1	1
	女性	39	2	6	16	3	13	11	0	3	2	2	11	1	2
	無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
年代別	20歳代	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	30歳代	13	1	0	2	1	5	1	0	2	0	1	6	0	0
	40歳代	14	0	1	2	0	3	6	0	1	1	3	7	0	1
	50歳代	25	1	4	7	1	3	7	0	1	2	4	9	0	0
	60歳代	22	1	5	9	1	3	5	1	1	1	2	10	1	0
	70歳以上	16	1	3	2	1	4	3	0	0	0	0	6	1	2
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	VI (数調査結果)														
職業	農林業	5	0	1	0	0	1	3	0	0	0	1	2	0	1
	漁業	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	商工サービス業自営	5	0	0	3	0	1	1	1	0	0	0	2	0	0
	事務職	10	0	1	3	1	2	0	0	1	1	1	5	0	0
	技術職	7	0	1	0	0	1	2	0	1	0	3	5	0	0
	労務職	14	0	3	3	0	3	6	0	0	0	2	7	0	0
	管理職	6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0
	自由業	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	主婦・主夫	15	1	1	9	0	3	5	0	2	2	0	4	0	1
	学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無職	22	2	4	4	3	5	2	0	0	0	1	10	2	1
その他	4	0	0	0	0	2	2	0	0	1	1	1	0	0	
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
配偶者の有無	いる	70	3	11	17	2	12	19	1	4	4	8	31	2	2
	いない	21	1	2	5	2	6	3	0	1	0	2	8	0	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
夫婦共働きか	はい	39	2	6	8	1	6	10	1	2	3	7	19	0	0
	いいえ	30	1	5	9	1	6	8	0	2	1	1	12	2	2
	無回答	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
居住地域別	高知市	34	2	5	10	2	8	7	0	2	1	3	17	0	1
	高知市以外の市	38	1	3	8	1	6	9	0	3	3	3	18	2	1
	町村	18	1	5	3	1	4	6	1	0	0	4	4	0	1
	無回答	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
世帯構成別	単身世帯(一人住まい)	6	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	4	0	0
	夫婦のみの世帯	23	1	7	8	2	6	7	1	1	3	3	6	1	2
	親と子の世帯(二世帯世帯)	48	3	4	10	1	9	12	0	3	1	5	23	1	0
	三世帯世帯(親、子、孫の世帯)	10	0	0	1	0	1	2	0	1	0	2	5	0	1
	その他	4	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
同居家族内容別	就学前の子どもがいる	8	0	0	2	0	1	0	0	1	0	1	6	0	0
	小学生の子どもがいる	12	0	0	0	1	3	2	0	0	0	1	8	0	1
	中学生の子どもがいる	11	0	1	2	0	1	3	0	1	1	2	4	0	1
	高校生の子どもがいる	8	0	2	1	0	0	4	0	1	1	2	4	0	0
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	5	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	3	0	0
	65歳以上の方がいる	24	3	1	5	1	5	9	0	2	1	4	7	1	0
	子どもはいない	4	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0
	無回答	12	0	1	4	0	2	2	0	0	0	0	6	0	0

問9 デートDV(交際相手からの暴力)、DV(配偶者等からの暴力)、性暴力などの行為が社会問題に
なっていますが、このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。(3つまで○印)

(単位:人、%)

	サンプル	加害者に対するカウンセリングや更生プログラムを実施する	法律、制度の強化	学校で児童・生徒・学生に対する教育を行う	職場などで、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う	地域で、防止啓発のための研修会、イベント等を行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に	被害者が早期に相談できるような、身近な相談窓口を増やし、窓口の周知を図る	被害者に対し、研修や啓発を行う	DV被害者が自立して新たな生活を始めるための支援を強化する(衣食住の確保)	その他	わからない	無回答	
総合	実数	1,015	235	451	393	111	45	156	513	147	266	24	48	74
	%		23.2	44.4	38.7	10.9	4.4	15.4	50.5	14.5	26.2	2.4	4.7	7.3
性別	男性	478	112	223	169	56	23	67	225	70	98	14	31	39
	女性	529	122	224	220	55	22	88	284	77	166	10	16	33
	無回答	8	1	4	4	0	0	1	4	0	2	0	1	2
年代別	20歳代	113	25	53	39	11	4	16	61	19	29	5	12	1
	30歳代	142	32	68	57	11	8	29	70	23	46	6	5	2
	40歳代	210	53	95	77	27	10	41	102	35	55	8	9	8
	50歳代	214	59	99	82	23	6	28	119	29	53	1	6	18
	60歳代	239	43	108	98	30	15	32	116	32	66	4	9	23
	70歳以上	88	20	23	36	7	2	10	40	9	15	0	7	21
	無回答	9	3	5	4	2	0	0	5	0	2	0	0	1
VI (数調査結果)	農林業	56	8	21	31	6	2	7	25	7	11	0	4	6
	漁業	3	0	2	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0
	商工サービス業自営	67	20	29	26	7	2	7	38	7	15	3	0	7
	事務職	152	34	71	63	21	9	32	84	23	32	4	7	2
	技術職	135	35	68	55	12	7	29	69	21	45	6	3	5
	労務職	136	32	61	44	14	8	13	69	16	36	3	12	10
	管理職	58	17	28	24	4	2	11	28	10	16	0	1	3
	自由業	17	6	7	8	4	0	2	9	2	7	0	0	0
	主婦・主夫	115	26	44	46	9	2	15	65	16	38	1	3	9
	学生	21	6	7	9	3	1	4	14	5	4	0	2	0
	無職	153	31	70	53	18	5	21	66	23	28	3	12	23
その他	91	17	40	28	10	7	12	38	16	30	4	4	7	
無回答	11	3	3	5	2	0	2	6	1	4	0	0	2	
配偶者の有無	いる	693	163	308	287	80	30	109	354	93	187	15	22	53
	いない	317	71	141	106	31	15	47	157	52	77	9	26	19
	無回答	5	1	2	0	0	0	0	2	2	2	0	0	2
夫婦共働きか	はい	406	94	187	172	44	21	66	200	48	111	11	15	26
	いいえ	279	68	118	114	36	9	42	149	45	75	3	7	24
	無回答	8	1	3	1	0	0	1	5	0	1	1	0	3
居住地域別	高知市	449	107	210	175	46	11	67	246	69	123	12	20	21
	高知市以外の市	375	90	160	146	45	25	62	177	50	87	7	18	39
	町村	185	37	79	71	19	9	26	86	27	54	5	9	14
	無回答	6	1	2	1	1	0	1	4	1	2	0	1	0
世帯構成別	単身世帯(一人住まい)	83	22	34	26	8	1	13	39	13	19	1	10	9
	夫婦のみの世帯	200	39	75	82	23	12	27	103	34	51	4	7	26
	親と子の世帯(二世帯世帯)	604	149	280	224	66	26	96	319	86	161	17	26	31
	三世帯世帯(親、子、孫の世帯)	105	20	51	52	13	5	15	43	13	29	2	3	6
	その他	18	4	8	7	1	0	4	8	1	6	0	1	1
無回答	5	1	3	2	0	1	1	1	0	0	0	1	1	
同居家族内容別	就学前の子どもがいる	113	30	52	54	9	2	20	56	21	40	2	2	0
	小学生の子どもがいる	117	29	45	51	14	4	29	52	13	37	5	4	3
	中学生の子どもがいる	98	24	43	38	11	2	19	45	9	31	2	4	7
	高校生の子どもがいる	85	20	31	32	15	3	16	46	15	21	1	3	4
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	65	22	35	21	3	5	10	37	9	15	0	0	2
	65歳以上の方がいる	262	58	128	97	23	13	42	125	36	74	5	8	19
	子どもはいない	126	26	54	48	17	5	14	67	21	26	4	11	3
無回答	76	20	33	28	10	3	9	44	8	19	3	4	7	

問10 次にあげることのうち、あなたがセクシュアル・ハラスメントだと思うことはどれですか。
(あてはまるものすべてに○印)

(単位:人、%)

	サンプル	す地 位や 権限 を利用 して、 交際 や性 的な 関係 を強 要す る	体 相 手 が嫌 がっ てい るの に、 肩に 手か けたり、 身	宴 席で、 お酌 やデ ュエ ット、 ダン ス等 を強 要す る	よ る役 割分 担を 強要 する (～女 性の みに お茶 くみや 掃除 をさ せる 等) 性 別	性 別を 理由 とし た不 利益 な扱 いす る(～ 昇進 を制 限す る、 給与 を低 く抑 える 等)	容 姿や 服装 に関 して 繰り 返して 言う	相 手が 嫌が って いる のに、 性的 なこ とを 話題 にす る	ろ 又道 ポス ター やポ ルノ 雑誌 等を 人目 につ くと こ ろに 置く 飾る	び 「結 婚は まだ か」 や「 子ど もは まだ か」 等た びた び聞 く	わ から ない	無 回 答	
総合	実数	1,015	882	814	628	505	699	582	768	596	592	24	60
	%		86.9	80.2	61.9	49.8	68.9	57.3	75.7	58.7	58.3	2.4	5.9
性別	男性	478	416	388	308	252	332	264	364	284	273	13	29
	女性	529	462	420	318	251	366	316	401	308	318	10	29
	無回答	8	4	6	2	2	1	2	3	4	1	1	2
年代別	20歳代	113	105	104	71	60	85	77	100	70	69	1	1
	30歳代	142	135	117	86	70	100	78	119	88	93	2	2
	40歳代	210	189	178	138	114	161	127	164	136	131	5	8
	50歳代	214	185	176	145	114	151	135	166	132	136	3	13
	60歳代	239	203	180	143	108	152	126	168	129	124	8	17
	70歳以上	88	57	51	40	35	46	33	43	36	35	5	18
	無回答	9	8	8	5	4	4	6	8	5	4	0	1
VI (数 調 査 結 果)	農林業	56	47	41	29	24	30	23	33	28	29	2	5
	漁業	3	2	2	2	2	1	1	2	1	1	0	0
	商工サービス業 自営	67	59	56	43	34	45	36	50	37	36	2	4
	事務職	152	145	135	112	93	118	107	131	115	119	0	1
	技術職	135	125	120	86	76	104	90	113	86	81	1	4
	労務職	136	116	111	78	61	92	78	103	66	69	3	9
	管理職	58	51	53	42	35	43	41	52	45	42	0	2
	自由業	17	17	14	13	12	15	13	17	14	11	0	0
	主婦・主夫	115	98	85	73	56	81	66	84	67	62	2	7
	学生	21	20	17	13	12	18	12	19	12	16	0	0
	無職	153	118	102	86	62	85	69	95	73	72	11	20
その他	91	76	72	47	33	62	42	61	48	50	3	6	
無回答	11	8	6	4	5	5	4	8	4	4	0	2	
配偶者の有無	いる	693	612	560	436	361	482	400	527	417	412	12	42
	いない	317	267	251	189	141	214	179	238	177	177	12	16
	無回答	5	3	3	3	3	3	3	3	2	3	0	2
夫婦共働きか	はい	406	367	348	258	226	288	242	318	256	260	5	18
	いいえ	279	240	208	176	132	191	157	205	159	149	7	22
	無回答	8	5	4	2	3	3	1	4	2	3	0	2
居住地域別	高知市	449	409	387	306	246	343	295	371	288	291	5	15
	高知市以外の市	375	311	277	218	174	238	186	252	201	188	15	33
	町村	185	157	144	102	83	114	97	142	104	110	4	12
	無回答	6	5	6	2	2	4	4	3	3	3	0	0
世帯構成別	単身世帯(一人住まい)	83	62	56	44	36	54	35	57	37	40	5	7
	夫婦のみの世帯	200	167	150	128	108	135	118	142	116	115	7	20
	親と子の世帯(二世 代世帯)	604	540	501	379	298	425	353	470	374	362	10	26
	三世 代世帯(親、子、孫 の世帯)	105	97	91	65	54	73	65	82	59	60	1	4
	その他	18	14	13	10	8	9	9	14	9	12	0	2
無回答	5	2	3	2	1	3	2	3	1	3	1	1	
同居家族内容別	就学前の子どもが いる	113	110	95	69	59	80	66	94	70	67	0	0
	小学生の子どもが いる	117	107	105	88	65	87	73	101	74	81	1	3
	中学生の子どもが いる	98	87	82	60	58	67	62	76	59	65	1	7
	高校生の子どもが いる	85	76	74	57	45	64	52	73	57	53	0	4
	大学生、専門学校生 等の子どもが いる	65	60	56	44	37	47	41	54	43	43	1	0
	65歳以上の方が いる	262	227	212	160	120	175	139	192	150	151	6	16
	子どもはいない	126	115	109	87	61	90	83	104	85	79	3	3
無回答	76	66	61	43	34	50	43	52	44	44	0	7	

問11 あなたは、次にあげる言葉について、知っていますか。(それぞれ該当する番号(1~3)に1つだけ○印)

	サンプル	(ア) 仕事と生活の調和(ワークライフ・バランス)				(イ) DV(ドメスティック・バイオレンス)				(ウ) セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)				(エ) こうち男女共同参画センター「ソーレ」				(オ) クオータ制				(カ) 女性相談支援センター					
		内容を知っている	聞いたことがあるが内容は知らない	知らない	無回答	内容を知っている	聞いたことがあるが内容は知らない	知らない	無回答	内容を知っている	聞いたことがあるが内容は知らない	知らない	無回答	内容を知っている	聞いたことがあるが内容は知らない	知らない	無回答	内容を知っている	聞いたことがあるが内容は知らない	知らない	無回答						
総合	実数	1,015	238	271	409	97	881	69	26	39	902	62	13	38	350	414	206	45	34	155	771	55	172	473	320	50	
	%	100.0	23.4	26.7	40.3	9.6	86.8	6.8	2.6	3.8	88.9	6.1	1.3	3.7	34.5	40.8	20.3	4.4	3.3	15.3	76.0	5.4	16.9	46.6	31.5	4.9	
性別	男性	478	123	128	185	42	400	41	17	20	414	33	10	21	157	176	122	23	21	86	345	26	69	216	170	23	
	女性	529	114	141	222	52	478	27	7	17	485	27	3	14	192	235	82	20	13	69	421	26	101	254	149	25	
	無回答	8	1	2	2	3	3	1	2	2	3	2	0	3	1	3	2	2	0	0	5	3	2	3	1	2	
年代別	20歳代	113	24	27	54	8	106	4	1	2	107	3	1	2	33	51	27	2	1	19	91	2	15	41	55	2	
	30歳代	142	32	39	66	5	136	6	0	0	136	5	1	0	51	65	23	3	7	18	114	3	25	75	39	3	
	40歳代	210	58	62	78	12	186	15	5	4	186	17	3	4	74	84	47	5	5	41	157	7	35	102	68	5	
	50歳代	214	55	54	88	17	193	11	2	8	196	9	1	8	84	90	31	9	8	34	162	10	41	102	62	9	
	60歳代	239	49	66	91	33	198	24	6	11	206	18	4	11	77	97	53	12	9	32	182	16	44	111	67	17	
	70歳以上	88	17	20	30	21	55	8	12	13	64	9	3	12	29	25	21	13	3	9	60	16	11	38	26	13	
	無回答	9	3	3	2	1	7	1	0	1	7	1	0	1	2	2	4	1	1	2	5	1	1	4	3	1	
職業別	農林業	56	7	16	24	9	45	5	1	5	46	5	0	5	19	24	8	5	0	10	40	6	9	26	16	5	
	漁業	3	0	0	3	0	2	0	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0	3	0	0	0	3	0	
	商工サービス業自営	67	12	20	28	7	57	6	0	4	58	5	0	4	16	35	12	4	0	9	53	5	8	31	24	4	
	事務職	152	56	38	53	5	144	6	2	0	145	6	1	0	69	59	23	1	6	36	108	2	26	74	50	2	
	技術職	135	37	43	46	9	128	4	0	3	130	1	1	3	52	57	23	3	6	23	103	3	26	70	36	3	
	労務職	136	27	35	63	11	114	13	3	6	118	11	1	6	36	64	29	7	3	19	106	8	21	65	44	6	
	管理職	58	23	18	13	4	55	1	0	2	55	1	0	2	24	20	11	3	3	13	40	2	10	33	13	2	
	自由業	17	8	1	7	1	17	0	0	0	17	0	0	0	7	7	3	0	2	2	13	0	4	6	7	0	
	主婦・主夫	115	13	35	50	17	100	8	3	4	101	10	1	3	38	50	22	5	2	13	95	5	23	47	39	6	
	学生	21	9	4	8	0	19	2	0	0	19	2	0	0	3	11	7	0	0	0	3	18	0	4	5	12	0
	無職	153	29	38	64	22	112	16	13	12	121	14	6	12	45	48	48	12	5	17	114	17	21	74	42	16	
	その他	91	17	21	44	9	79	8	2	2	81	6	2	2	36	34	18	3	7	9	71	4	19	37	31	4	
	無回答	11	0	2	6	3	9	0	1	1	10	0	0	1	4	4	1	2	0	1	7	3	1	5	3	2	
配偶者の有無	いる	693	164	192	269	68	611	39	17	26	622	38	6	27	252	276	135	30	24	105	526	38	121	333	205	34	
	いない	317	73	78	138	28	266	30	9	12	276	24	7	10	98	136	69	14	10	49	242	16	51	137	114	15	
	無回答	5	1	1	2	1	4	0	0	1	4	0	0	1	0	2	2	1	0	1	3	1	0	3	1	1	
夫婦共働きか	はい	406	106	113	157	30	373	16	6	11	375	16	4	11	152	169	72	13	14	65	310	17	70	201	120	15	
	いいえ	279	56	78	108	37	231	23	11	14	240	22	2	15	96	105	62	16	10	37	212	20	49	129	83	18	
	無回答	8	2	1	4	1	7	0	0	1	7	0	0	1	4	2	1	1	0	3	4	1	2	3	2	1	
居住地域別	高知市	449	124	118	173	34	412	21	6	10	419	17	2	11	199	185	53	12	19	60	353	17	86	213	134	16	
	高知市以外の市	375	73	99	157	46	303	35	16	21	315	32	9	19	87	166	99	23	9	68	272	26	53	174	124	24	
	町村	185	40	53	76	16	160	13	4	8	163	12	2	8	62	61	53	9	5	26	143	11	31	84	61	9	
	無回答	6	1	1	3	1	6	0	0	0	5	1	0	0	2	2	1	1	1	1	3	1	2	2	1	1	
世帯構成別	単身世帯(一人住まい)	83	23	15	36	9	62	14	3	4	66	11	3	3	27	32	20	4	2	17	59	5	14	34	30	5	
	夫婦のみの世帯	200	45	56	68	31	166	14	5	15	169	14	1	16	72	68	44	16	7	33	141	19	31	86	65	18	
	親と子の世帯(二世帯世帯)	604	139	169	252	44	539	35	16	14	551	31	8	14	203	264	117	20	21	90	471	22	104	291	189	20	
	三世帯世帯(親、子、孫の世帯)	105	26	28	43	8	96	6	1	2	97	6	0	2	39	44	20	2	2	12	88	3	17	55	30	3	
	その他	18	4	3	9	2	15	0	1	2	16	0	1	1	8	5	4	1	2	2	11	3	4	6	6	2	
無回答	5	1	0	1	3	3	0	0	2	3	0	0	2	1	1	1	1	2	0	1	1	3	2	1	0	2	
同居家族内内容別	就学前の子どもがいる	113	31	32	45	5	110	3	0	0	109	4	0	0	39	55	19	0	1	13	97	2	18	64	31	0	
	小学生の子どもがいる	117	39	24	49	5	113	2	0	2	114	1	0	2	53	42	20	2	4	13	97	3	29	56	29	3	
	中学生の子どもがいる	98	26	27	37	8	89	3	2	4	86	6	2	4	39	38	15	6	2	18	71	7	17	49	25	7	
	高校生の子どもがいる	85	19	29	34	3	80	2	1	2	78	5	0	2	34	30	17	4	1	17	64	3	15	41	26	3	
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	65	18	20	23	4	57	7	0	1	59	5	0	1	26	22	15	2	5	15	44	1	13	27	24	1	
	65歳以上の方がいる	262	53	70	116	23	230	19	6	7	239	12	5	6	83	123	48	8	9	29	213	11	43	136	72	11	
	子どもはいない	126	30	40	47	9	111	8	4	3	112	10	1	3	40	55	29	2	5	25	94	2	15	55	53	3	
無回答	76	14	21	31	10	63	4	6	3	69	3	1	3	24	36	12	4	2	8	60	6	17	34	21	4		

(単位:人、%)

(キ) 高知家の女性しごと応援室				(ク) 女子差別撤廃条約				(ケ) 男女雇用機会均等法				(コ) 育児・介護休業法				(カ) 次世代育成支援対策推進法				(シ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(いわゆるDV防止法)す				(ス) 高知県男女共同参画社会づくり条例			
内容を 知っている	聞いた ことがあるが 内容は 知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことがあるが 内容は 知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことがあるが 内容は 知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことがあるが 内容は 知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことがあるが 内容は 知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことがあるが 内容は 知らない	知らない	無 回答				
37	213	719	46	101	255	608	51	519	315	135	46	451	392	128	44	58	270	634	53	287	508	178	42	86	378	502	49
3.6	21.0	70.8	4.5	10.0	25.1	59.9	5.0	51.1	31.0	13.3	4.5	44.4	38.6	12.6	4.3	5.7	26.6	62.5	5.2	28.3	50.0	17.5	4.1	8.5	37.2	49.5	4.8
13	104	337	24	46	117	287	28	257	135	64	22	203	188	65	22	28	122	303	25	138	232	87	21	50	160	243	25
24	107	378	20	55	136	317	21	260	178	69	22	245	202	62	20	30	146	327	26	147	273	91	18	36	216	255	22
0	2	4	2	0	2	4	2	2	2	2	2	3	2	1	2	0	2	4	2	2	3	0	3	0	2	4	2
2	18	91	2	22	37	51	3	58	31	22	2	49	39	23	2	3	26	83	1	26	58	28	1	11	30	70	2
3	24	112	3	17	32	90	3	76	48	15	3	59	66	15	2	5	38	94	5	44	75	21	2	14	45	80	3
6	41	157	6	23	46	136	5	113	66	25	6	97	81	27	5	16	56	132	6	65	107	34	4	18	74	112	6
14	45	147	8	20	43	141	10	117	66	23	8	101	79	26	8	19	55	132	8	70	105	30	9	22	92	89	11
9	61	157	12	12	75	138	14	116	77	34	12	108	92	26	13	12	69	143	15	60	122	46	11	13	101	112	13
2	23	49	14	5	21	47	15	34	24	16	14	31	33	11	13	1	24	46	17	19	36	19	14	6	34	35	13
1	1	6	1	2	1	5	1	5	3	0	1	6	2	0	1	2	2	4	1	3	5	0	1	2	2	4	1
1	12	38	5	2	14	33	7	20	25	6	5	21	22	8	5	3	16	33	4	10	33	8	5	3	19	29	5
0	0	3	0	0	0	3	0	2	0	1	0	1	1	1	0	0	0	3	0	0	1	2	0	0	1	2	0
0	15	49	3	2	15	45	5	35	24	4	4	23	31	9	4	5	20	38	4	17	33	13	4	5	26	32	4
7	42	102	1	20	44	86	2	100	42	8	2	84	56	11	1	12	45	92	3	50	79	22	1	18	57	75	2
3	33	96	3	23	37	72	3	77	40	16	2	73	50	9	3	7	41	83	4	50	65	18	2	18	47	67	3
4	24	101	7	6	24	98	8	50	47	32	7	45	59	26	6	3	29	95	9	35	71	25	5	4	56	68	8
2	15	39	2	8	16	32	2	36	16	4	2	37	17	1	3	12	18	26	2	21	30	5	2	11	24	21	2
1	1	15	0	2	4	11	0	15	1	1	0	8	8	1	0	1	3	13	0	4	10	3	0	2	6	9	0
8	15	88	4	7	21	83	4	50	46	15	4	51	44	16	4	5	30	76	4	27	57	27	4	7	47	57	4
1	1	19	0	7	6	8	0	13	4	4	0	10	5	6	0	1	2	18	0	5	13	3	0	0	5	16	0
3	35	99	16	9	44	84	16	69	39	30	15	56	62	21	14	4	39	92	18	38	71	30	14	8	54	77	14
7	18	62	4	13	27	48	3	46	29	12	4	36	33	19	3	5	24	58	4	27	42	18	4	9	33	44	5
0	2	8	1	2	3	5	1	6	2	2	1	6	4	0	1	0	3	7	1	3	3	4	1	1	3	5	2
27	154	482	30	59	169	430	35	365	217	82	29	326	265	73	29	44	187	426	36	200	354	110	29	58	271	332	32
10	58	234	15	42	85	175	15	152	97	52	16	123	126	54	14	14	81	206	16	85	153	67	12	28	106	167	16
0	1	3	1	0	1	3	1	2	1	1	1	2	1	1	1	0	2	2	1	2	1	1	1	0	1	3	1
15	92	287	12	39	92	261	14	220	125	48	13	192	159	42	13	27	106	256	17	121	213	60	12	32	160	199	15
12	58	192	17	19	74	167	19	142	88	34	15	130	103	31	15	17	77	167	18	78	135	50	16	26	107	130	16
0	4	3	1	1	3	2	2	3	4	0	1	4	3	0	1	0	4	3	1	1	6	0	1	0	4	3	1
18	82	337	12	45	119	270	15	249	138	48	14	211	174	51	13	23	106	306	14	132	219	84	14	40	167	229	13
10	97	246	22	35	92	223	25	172	127	55	21	149	153	52	21	24	103	221	27	104	188	62	21	29	137	185	24
9	34	131	11	21	43	111	10	94	50	31	10	88	63	25	9	11	59	104	11	49	98	31	7	17	73	84	11
0	0	5	1	0	1	4	1	4	0	1	1	3	2	0	1	0	2	3	1	2	3	1	0	0	1	4	1
3	17	59	4	11	17	51	4	38	20	20	5	35	26	18	4	5	17	55	6	22	36	21	4	9	25	44	5
6	40	138	16	17	46	118	19	102	62	21	15	86	77	22	15	10	48	125	17	57	98	28	17	20	73	92	15
22	132	429	21	58	154	372	20	311	197	76	20	270	241	74	19	36	171	374	23	175	309	104	16	46	232	303	23
3	23	78	1	13	34	55	3	56	31	16	2	48	44	11	2	4	32	65	4	27	56	20	2	7	45	51	2
2	1	13	2	1	4	10	3	10	5	1	2	10	3	3	2	1	2	14	1	5	8	4	1	3	3	10	2
1	0	2	2	1	0	2	2	2	0	1	2	2	1	0	2	2	0	1	2	1	1	1	2	1	0	2	2
2	16	94	1	9	32	71	1	60	35	17	1	57	44	11	1	6	33	72	2	37	57	19	0	5	39	68	1
6	24	86	1	12	21	82	2	69	34	12	2	62	41	12	2	9	35	71	2	38	61	15	3	11	45	58	3
5	29	59	5	10	24	58	6	59	25	8	6	53	31	9	5	7	29	55	7	33	46	14	5	12	34	45	7
1	19	62	3	10	21	51	3	44	28	10	3	44	29	9	3	2	20	60	3	27	39	17	2	6	32	43	4
2	13	49	1	11	13	40	1	36	22	6	1	34	24	6	1	6	17	40	2	20	32	12	1	9	29	26	1
10	60	182	10	24	76	151	11	132	90	29	11	107	117	28	10	12	80	158	12	70	141	43	8	19	110	122	11
3	25	95	3	12	39	72	3	63	42	19	2	50	55	19	2	4	40	80	2	30	68	27	1	8	52	63	3
6	18	48	4	8	21	43	4	37	24	11	4	32	27	13	4	6	16	50	4	17	37	18	4	6	29	37	4

問12 あなたは、今まで以上に男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
(3つまで○印)

(単位:人、%)

	サンプル	法律や制度の面で見直しを行い、男女差別につながるものを改めること	女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	女性の役職への登用や政策決定の場への参画を進めること	労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること	男性自身が生活者としての家事能力を身につけること	家庭や学校で男女平等教育を行うこと	その他	わからない	無回答	
総合	実数	1,015	418	471	281	317	152	383	228	226	21	47	33
	%		41.2	46.4	27.7	31.2	15.0	37.7	22.5	22.3	2.1	4.6	3.3
性別	男性	478	217	211	113	141	73	176	102	100	8	25	19
	女性	529	197	257	167	174	79	204	126	124	13	21	12
	無回答	8	4	3	1	2	0	3	0	2	0	1	2
年代別	20歳代	113	43	52	17	36	22	43	26	21	2	11	1
	30歳代	142	52	56	31	54	20	71	38	33	4	2	1
	40歳代	210	92	93	56	56	36	78	47	52	9	9	6
	50歳代	214	83	123	65	70	27	76	44	47	1	7	8
	60歳代	239	98	117	80	79	33	83	49	53	4	13	8
	70歳以上	88	44	26	29	21	13	27	23	19	1	5	9
	無回答	9	6	4	3	1	1	5	1	1	0	0	0
VI (数調査結果)	農林業	56	13	29	18	16	10	18	11	17	0	2	3
	漁業	3	1	2	0	0	1	3	0	1	0	0	0
	商工サービス業自営	67	28	26	24	23	10	9	14	15	2	5	4
	事務職	152	64	70	37	61	27	76	30	34	1	2	0
	技術職	135	59	62	36	44	19	55	32	33	6	2	2
	労務職	136	59	69	38	40	9	50	39	32	2	5	4
	管理職	58	19	27	18	20	18	21	7	11	0	2	3
	自由業	17	7	5	4	6	3	7	1	3	1	0	0
	主婦・主夫	115	39	54	34	30	19	53	26	24	2	8	3
	学生	21	5	11	5	7	5	8	5	4	1	1	0
	無職	153	84	66	43	41	20	43	40	25	3	15	9
その他	91	37	42	21	27	10	36	22	24	2	4	4	
無回答	11	3	8	3	2	1	4	1	3	1	1	1	
配偶者の有無	いる	693	276	336	198	210	102	274	157	166	11	24	25
	いない	317	141	133	82	106	50	105	70	59	10	23	7
	無回答	5	1	2	1	1	0	4	1	1	0	0	1
夫婦共働きか	はい	406	152	189	116	125	59	165	96	109	8	10	13
	いいえ	279	121	143	79	83	43	103	60	55	3	14	11
	無回答	8	3	4	3	2	0	6	1	2	0	0	1
居住地域別	高知市	449	194	205	116	138	63	192	101	106	9	20	9
	高知市以外の市	375	150	174	116	128	61	124	80	70	9	18	17
	町村	185	72	89	47	49	27	64	47	50	3	9	7
	無回答	6	2	3	2	2	1	3	0	0	0	0	0
世帯構成別	単身世帯(一人住まい)	83	40	32	25	22	13	25	20	22	1	7	3
	夫婦のみの世帯	200	87	97	68	58	33	67	44	37	5	7	11
	親と子の世帯(二世帯世帯)	604	238	276	160	214	79	247	137	123	12	29	16
	三世帯世帯(親、子、孫の世帯)	105	45	57	21	18	23	35	23	36	2	4	2
	その他	18	6	6	5	3	4	9	4	7	1	0	0
無回答	5	2	3	2	2	0	0	0	1	0	0	1	
同居家族内容別	就学前の子どもがいる	113	38	47	23	37	15	59	27	35	3	4	1
	小学生の子どもがいる	117	39	59	19	34	20	46	29	36	6	3	3
	中学生の子どもがいる	98	36	48	20	28	20	37	19	21	3	6	6
	高校生の子どもがいる	85	32	40	29	26	16	36	12	20	0	1	2
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	65	31	29	26	18	11	18	11	14	2	1	2
	65歳以上の方がいる	262	112	120	58	79	40	93	60	65	9	12	8
	子どもはいない	126	57	57	32	46	16	42	37	11	3	10	1
無回答	76	30	40	22	28	10	30	15	17	0	3	2	

問13 男女共同参画は、私たち一人ひとりの身近な課題です。まず自分にできることから始めることが大切ですが、あなたは、何ができますか。(あてはまるものすべてに○印)

(単位:人、%)

	サンプル	家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする	「男らしく、女らしく」から「その子らしく」子育てをする	学校では、PTAや保護者会で男女平等について取り組む	職場で男女平等意識を浸透させる	地域(自治会など)では、古い慣習を見直し、男女平等に活動に参加するよう取り組む	男女共同参画について学ぶ	業に参加して理解を深める「ソール」などの事業	その他	無回答	
総合	実数	1,015	695	444	167	368	314	306	126	31	59
	%		68.5	43.7	16.5	36.3	30.9	30.1	12.4	3.1	5.8
性別	男性	478	321	188	92	200	164	135	55	19	31
	女性	529	369	253	75	167	149	170	70	12	26
	無回答	8	5	3	0	1	1	1	1	0	2
年代別	20歳代	113	86	49	16	41	28	43	12	6	3
	30歳代	142	111	66	21	47	26	32	12	2	10
	40歳代	210	139	107	44	92	60	54	18	11	9
	50歳代	214	149	92	30	91	67	63	28	5	10
	60歳代	239	155	93	42	70	100	78	38	5	10
	70歳以上	88	50	33	13	23	28	33	18	2	17
	無回答	9	5	4	1	4	5	3	0	0	0
VI (数調査結果)	農林業	56	39	26	8	10	21	13	7	1	3
	漁業	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0
	商工サービス業自営	67	44	31	14	27	25	25	10	3	3
	事務職	152	108	70	28	74	40	55	17	3	5
	技術職	135	103	72	28	58	41	56	19	3	7
	労務職	136	94	56	22	56	43	33	19	6	7
	管理職	58	39	21	9	32	15	13	2	3	3
	自由業	17	10	8	1	6	4	5	0	1	1
	主婦・主夫	115	83	51	17	28	36	31	16	2	5
	学生	21	17	11	2	4	5	10	1	0	0
	無職	153	90	52	24	39	60	46	23	5	15
その他	91	61	39	13	32	22	16	10	4	7	
無回答	11	5	5	1	2	2	3	2	0	3	
配偶者の有無	いる	693	491	319	123	250	234	216	90	16	37
	いない	317	201	123	44	118	80	88	35	15	21
	無回答	5	3	2	0	0	0	2	1	0	1
夫婦共働きか	はい	406	309	214	79	162	125	128	49	11	15
	いいえ	279	177	103	44	87	108	86	40	5	20
	無回答	8	5	2	0	1	1	2	1	0	2
居住地域別	高知市	449	320	198	70	174	131	139	69	17	24
	高知市以外の市	375	252	155	61	120	111	112	39	10	27
	町村	185	120	89	36	72	71	53	17	4	8
	無回答	6	3	2	0	2	1	2	1	0	0
世帯構成別	単身世帯(一人住まい)	83	44	34	14	31	21	26	14	5	6
	夫婦のみの世帯	200	131	82	36	68	83	66	31	5	10
	親と子の世帯(二世帯世帯)	604	423	276	97	220	169	177	68	15	37
	三世帯世帯(親、子、孫の世帯)	105	80	46	17	39	34	34	10	6	3
	その他	18	15	3	1	7	4	2	1	0	2
無回答	5	2	3	2	3	3	1	2	0	1	
同居家族内容別	就学前の子どもがいる	113	95	67	22	38	25	31	6	2	4
	小学生の子どもがいる	117	94	63	24	42	36	36	9	3	3
	中学生の子どもがいる	98	74	48	23	38	28	30	9	5	5
	高校生の子どもがいる	85	60	41	14	29	25	21	8	1	1
	大学生、専門学校生等の子どもがいる	65	44	31	15	29	23	21	13	1	2
	65歳以上の方がいる	262	173	101	32	87	86	80	30	10	21
	子どもはいない	126	74	44	14	50	27	36	12	6	7
無回答	76	58	32	15	27	22	22	13	2	5	

VII 自由回答

平成 26 年度男女共同参画県民意識調査自由記載内容

◆「男」・「女」平等について

【男女の相互理解・尊重】

- ・男女ともにお互いによく話し合うコミュニケーションが必要だと思います
- ・これから色々なことで男女共に努力しなくてはならないと思います
- ・男らしく、女らしく・・・お互いに思いやり尊重し合うべき人間としての優しさが必要だと思います
- ・男女は違うので、違いを理解して、お互いにたすけあうのは、とても大事なことだと思います。パートナーのことで、TEL で相談しましたが、自分がみじめになり、とても嫌でした。最後は本を探していろいろ調べて、モラルハラスメントではないかとわかりました
- ・男は女を尊敬し、女は男を尊敬する
- ・男らしく、女らしくも大事だと思います。ただ場面によっては自分らしくも大事でしょう。男のような女もいますし、女のような男もいます、人それぞれでしょうか。男も女も人を大事にする気持ちこそが、平等への近道だと考えます
- ・共同参画は同じ事をする事为目标とするよりも補完を重視すべきと思う。「チーム」の発想が大切
- ・男女の様々な特性を生かし、尊重し合っていける社会が望ましいと思います
- ・ジェンダーに関して、反対に女性の権利をやたら主張して過敏になりすぎているような印象を持つこともあります。男性、女性、両方の立場に立ちながら意識が偏らないように注意しながら、取り組んでいかななくてはならない問題だと思います
- ・男だから、女だからこう有るべき、又そうする必要は無いという枠組みが固定化されすぎている。歴史的な因習に縛られずに全てにおいて合理的に性別を超越して良い案を積極的に採用すべき。斬新で画期的発言をするとまるで犯罪者を見る様な目で目を見開く。又は一蹴して嘲笑したりして、次元が低い意識者が多い為、却下されるので、永遠に社会が進歩しない。又、話はそれるが企業が利益至上主義に走り過ぎ人命より金が大事とギラギラ感が有って生理的に気持ちが悪い。又、従業員に対しての発言が何かと威圧的、且つ恩着せがましい
- ・楽しんで皆が男女共同参画社会に参加しなければ意味がないし、続かないと思います。人生の中でそういう時間も一時ですから、後ではいい思い出に変わります。その子ども、孫まで見えています
- ・今の時代「家事は女性が行うもの」という考え方をを持った男性が結婚することが間違いであり、男女共に家族、家庭を守っていく考え方に切り替えが必要と考える。しかし、女性の育児放棄なども問題で女性でないと行えないこともあり、男性がもっと把握してあげられる環境づくりが必要と思う
- ・男女平等という事は非常によい事だが、身体的にどうあっても男女差はあるため、完全な平等は難しいと考えます。子育てのために男女が協力しあえる、社会的環境が実現できることを期待します
- ・男女に関係なく、相手を思いやりながら生活を共にすることだと思います。我が家では時間のある方が家事（食事の用意、掃除、洗濯など）をします。両方が休みの日には分担をしたり、一緒にします。家族も夫婦も助け合い（協労）を心掛けたいと考えています
- ・人としての成熟と、精神の成熟が必要だと思います。互いが助け合ったり、認め合っていれば、そこに平等があると思います

【「家事・育児は女性の仕事」との意識等の改善】

- ・まだまだ男尊女卑が残っています。女性が家事や育児をするのが当たり前、男が仕事をして家族を支えるのが当たり前という感じです。主夫は高知県ではありえません。肩身が狭いと思います
- ・以前、男性が多い職場で女性に対してまだまだ理解されていないせいか、扱いが悪かったです。今は、ほとんど女性なので安心してますし、子どもが小さい時など、休む時も理解し

てくれていました。特に中年以上の方は昔の考えですね。今後は、高校生、中学生の時から
の教育が大切だと思います。高知は、働く女性が多いといわれていますが、家事、育児そし
て介護まで女性がするものだと思います。そんな人、女性だけが頑張る
ものではないと思います、そんなことをして、ありがたみもないなら、離婚率もUPするの
では？と思います

- 古い習慣はなかなか直らないものだと思います。それが続いてきた年月と世代交代が必要だ
と思います。また、地域格差も大だと思います
- 男女平等と言っても、正直いろいろ難しいと思います。一人一人が意識してやっていくしか
ないと思うが、「男は仕事、女は家事」という考えを持った60代以上の方が多いと思います。
その世代と10代、20代の世代間の考え方を皆で共有できればもう少し平等になるの
ではないかと思います
- 男尊女卑はどの世代にもあり得ること。男だから、女だからと言って役割が違うのはおかし
いと思う。そのような風習や考え方を根本から変えるのは難しいが、社会や大人の理解が深
まれば、良い方向にいくと思う。子どもは大人や社会についてよくみている。若い世代に何
を伝えるのか、一人一人がきちんと考えるべきだ
- 私は、50才代の自営業で家族従事者です。80代の義母の世話と仕事、家事でゆっくり座る時
間もありません。夫は、DVなどはありませんが、家事、育児（すでに成人していますが）
にはほとんどと言っていいほど関わらない人です。自営業で、忙しいというのがありますが、
男性は忙しいのを理由にできないで済ませられますが、女性はそうはいきませんし、家族の
中にも私がするのが当然という気持ちがあります。私はいわゆるできる妻であり、嫁であり、
母親ですが、いつも頑張っていないといけない自分がとても悲しく辛くなる時があります。
夫や子どもに家事を頼むと、かえって説明するのに時間がかかったり、ぐちを言うと「また
始まった」と言われて理解しようという気持ちがみられません。家族の世話をするのは、
嫌ではないのですが、自分がホッとする時間や自分のために使う時間があればいいと思う
毎日です。制度が、どうのこうのというより、家族のあり方の意識改革がいつの日かなされ
るようにと願ってやみません
- 高知県では、共働きの夫婦がほとんどだと思います。それなのに女性は家事・育事をやって
当たり前。男性が手伝うとほめられるという事がそもそもおかしいと思います。もちろん男
性の方が、仕事に対する責任や労働時間が長い等は十分わかっています。ただ、女性がすべ
てやらなくてはいけないという男性の話を聞くと正直腹立ちます
- 以前セクハラ（結婚して仕事を辞めるという噂から、次第に無視されるようになった）で会
社を退職し、Uターンで帰ってきたが、こちらでも女性上司の「女性は仕事を辞めて、子ど
もを育てるべきだ」という言葉により出産前に退職しました。子どもが小学生になればと思
っていたが、そのころには父親の介護が始まり、父親を見送った後今度は母親が認知症と診
断されたが、発見が早すぎたため介護を受けることもできません。子どものために少しでも
仕事をと思いますが、今の状況では無理ですし、「社会的に男女共同参画」が向上しても、解
決する問題とは思いませんし、解決できない問題の方が多いと思います
- 女性の意識は変わりつつありますが、男性の意識はまだまだ変わっていません。体力的に男
性が優れている点で男性に任せる業務もあり、その点女性が優れている業務もあります。そ
もそも、男性と女性は違います。その中でお互いを尊重し合い、同じ社会で同等に過ごすこ
とはとても難しいことです
- 自分自身では男女平等と思っているが、田舎の年輩の方にはなかなか理解されにくいのが現
状です。女は子どもが生まれたら仕事を辞めて子どもを見るのに専念という考え方があり、
また、仕事を探そうとしてもなかなか見つからない。子どもを家で見ている母親はゆったり
子育てしていい母親で子どもが幸せ。働いて子どもを預けている母親は子どもがギスギ
スして可哀想、母親も忙しくてゆとりがないとなる。理想と現実の違い
- 女性に対し差別をなくし、古い考えも無くしてほしいです。もっと、障害者に対しての理解
をしてほしいです

【身体的な差異、性差に由来するもの】

- ・男女共同参画社会は、大事だとは思いますが、子どもを産めるのは女性だけなので、男女双方がお互いの役割を分担する事を理解する社会の方がうまくいくと思います
- ・男女平等・・・と言ってもどこまでが平等なのか？力仕事はどうしても男性にたよってしまうことが大きいし・・・
- ・男は女になれないし、女は男にならない、生まれながらの性差を意識して「女らしく」でも、きちんと社会で通用していける制度が必要。子どもは母から生まれ、母を求めるのは本来の姿であるように男女が同じ条件では成立しないと思う。それぞれ（例外はみとめながらも）の生まれもった役割を活かしながら社会生活が成立して行ける社会になるよう、教育、制度の整備が必要であると思う。書類では、男女と性差を補正するため同じ条件をつくっても、男と女は同じ条件で成立できない種としての役割もあるのではないかと思う、男が子どもを生めないようとか、女性が力仕事に向かない事が多いように、それぞれの性を享受しながらも、なお公平に社会参加ができるように！
- ・男女は性差があるように役割は違う。女性は子どもを産むという偉業があり、それをサポートする夫、社会を育てていく環境は大事。フランスのように社会が育てる環境をまず整え、それから、女性もしくは男性が社会に貢献していくように、まず子どもの育児、育ていく社会に出ていくまでを親、もしくは社会が責任を持てるように考えたい。男女どちらが社会貢献をするのかは夫婦で決めればよい
- ・男女は生物学的にも差異があるので、平等、同等といっても、越えられない壁があるように感じています。あと、日本固有の国民性が問題
- ・男女を同じにすることが、平等ではありません、でも同じ人間です。互いに違いを理解することを始めて欲しい。男の人は子どもを生めません、でも育てることはできます。女の人は力仕事では男の人に比べて、少し不得意です。同じではないのです。そのことをふまえた上で、精神的、経済的、生活的、自立を求める、教育・社会の仕組みが必要だと思う。例えば、結婚に例えると、半人前同志が互いを補い合い、 $0.5+0.5=1$ では困るのです。実社会では、 $0.5 \times 0.5 = 0.25$ が互いに有機的に触れ合い生活しているのですから、この計算式の方が正しいと思います。0.25の家庭をどんどん作ったのでは社会が助けることは限られます。3つの自立を求める教育・社会のしくみが一番必要だと思う
- ・男女平等とは思いますが、男性、女性それぞれの能力、役割など「平等」でひとくくりできないものもあるかと思っています。あまりにも平等を推進しすぎると、バランスが崩れてしまわないかと疑念を抱きます
- ・「男らしく、女らしく」というのが必ずしも差別や偏見等につながるようには思いません。今はジェンダーの問題や性同一性障害等のこともメディアを使って取り上げられたりしていますが、必ずしも女性の地位が低いや、見下げられているとは思いません。そのような事柄は、男性でも同じように偏見があると思います。また、昔からある「ますらお」や「大和撫子」等の言葉は日本らしさを表していると思います、日本の伝統や日本らしさのある習慣は残していっても良いのではないかと思います。どうしてそれが差別を生むのかという問題や経緯、原因を考えていきたいと思っています

【「男女平等」は不要】

- ・男女共同参画社会＝男女平等を求めるならば、社会実現に反対する
- ・いくら法律や制度、行政サービスを充実させたところで、それが果してどれくらい社会に浸透するかが疑問、今現在いくつも法律や制度が作られているが、それを実感できる程、社会の意識は変わっていない。男性、女性で物事を考えるのではなく、その人個人を見て考えた方がよいように思う。男女問わず優れている人は、男女共同参画とかは考えてないと思う。劣っている人達が努力もせずに平等と言う耳あたりの良い言葉を使ってただ騒いでいるだけなので、こんな制度はいらない
- ・何でもかんでも、男女平等というのはおかしい。男には男の、女には女の役割というものがあるはず、それがたとえ、女の方に負担がかかるかもしれないけど、それによって家庭が成り立っていると思う。女性よ、ガンバレ

- ・①会社でも男女は組織上の区別はされているが、差別しているようには思わない。②現在の社会では男性が優遇されているとはとても思えない。③男女平等、言葉自体が陳腐化している。人権を尊重することと、平等を押し付けることは違う。④このアンケートのように一方的に「男が優遇、女が虐げられている」という意識でいる間は無理ではないか。現状は大分違う
- ・男女共同参画課がある事自体が何か男女平等ではないのではないのでしょうか？男性だから女性だからと仕事に関して考えるのはおかしいと思います。男性が仕事でよく怒られる事でも女性が怒られると男女差別になる。このような企画をすること自体が男女差別に思えます。仕事で頑張りたい女性はそれなりの態度が必要で有り、こんな事を主張していたら子どもが減り日本自体がなくなります。男女平等を訴えるより、まずは男性の給料が今の倍になる方が大事だと思います
- ・男性らしさ、女性らしさを強要しない事。そして男女平等も強要してはならない。様々な価値観が認められる社会が理想。古き良き日本文化を残しつつ、現代にあった形態が理想。単純に男女平等という形が理想ではないと思う
- ・人間として思いやる心が大事。法律で男女平等など制限するのがおかしい。男がとか女がとか言っている時点で差別につながる

【過度に男女平等が意識されているのではないか】

- ・①男女共同参画社会というキーワードに固執し、必要以上に男女平等を目指すことはないと思う②男性が子どもを産めないように女性も重いものが持てない等、男性と女性は同じでない③男尊女卑という言葉は忌むべきものであるし、社会へ進出したい女性を最大限サポートする制度は必要である④会社内で昇進を希望する女性がいなくてもかわらず、「役職者の一定数以上は女性であること」とするような行き過ぎた男女平等は違和感がある
- ・①求職のとき、男性しか雇うつもりがないのに男女雇用機会均等法のせいで女性でもOKみたいな求人をしているのはお互い無駄なことだと感じました。そんな形だけの均等なら無い方がマシです。②今回のアンケートからは女性も社会に出て男性と対等に働ける社会が良い社会という印象を受けましたが、家庭の事情が許せば男性が外で稼ぎ、女性が家を守るのも有りだと思います。③親が認知症になり預けることのできる施設が無いため泣く泣く退職する人が年に数人はいます。今後この問題は大きくなる一方でしょうが、周りの人は口をそろえて子ども達に迷惑をかけたくないという事です。安楽死が合法になればこんな心配しなくていいのにと思うこともしばしばです

【「男女平等」＝「女性優遇」になっている】

- ・男女平等は大切な事で完ぺきに実現すれば良い社会にはなると思う。しかし、平等と言いつつ、レディースデーや女性専用車両があるのに、メンズデー、男性専用車両が無いのは疑問を感じる。女性をターゲットにするという意味でレディースデーを設定しているのはマーケティングの観点からすれば納得できるが、痴漢防止で専用車両を作るなら、冤罪防止の男性車両がないのは社会において女性は優遇されていると感じる。法律において女性の地位向上はなされてきた一方で、その立場を悪用する女性もいて痴漢など性犯罪で男性が被害を受けることもある。そうした対策も男女共同参画には必要なのかなと感じています
- ・あまりにも男女平等という事に拘りすぎていると思う。世間では実は男性よりも女性の意見が取り入れられているのではないかという場面もあるし、(例えば離婚訴訟などにおいては、涙を見せた女性に肩入れしすぎていて、これは男性の方が気の毒と思われる場面がある)要は、女性自身も女性の立場に甘えるのではなく、男女共同参画などというならば、それなりに甘えを捨てなければならない部分もあると思う。何もかも一緒に同一レベルにするのが男女平等だとは思わない
- ・男女平等と言いながら「女性、女性」と言い過ぎではないのでしょうか？母子家庭は優遇され、父子家庭には優遇されていない報道番組を見た事があります。日本の価値観が変わらないと何も変わらないと思います
- ・クオータ制について、一定の定数において男女比を操作すれば同じ成績なら男の方が落第す

るという支離滅裂な現状が起こり兼ねない。果たしてそれが男女平等といえるのでしょうか。男が男らしく、女が女らしく振舞うことに男女差別が関係あるのでしょうか。個人の考え方を大事にする方がその人らしく生きていると考えます。男と女には体力差があり、できる仕事もそれぞれ違う事もある、例えば重い物を持つ時に、女でもそれをしろと言っても不可能な時がある、果たして男と女は平等であるだろうか？私見では法律上定められた事には一般には男女の平等は定める事はできないと思う。もちろんDVや差別はあってはいけないと思うが、最終的には個人対個人の考え方だけだと思う。肩や髪を触られても嫌悪感を抱く、抱かないかは個人の感情だけ。個人と個人が理解し合えていれば差別が差別でなくなる。感情は制度や法律では縛れない。制度や法律だけが先走り考え方がどんどん貧しくなっているかと危惧しております

- ・社会全体として女性の方が優遇されていると思っているので、女性の権利向上を望んでも無意味
- ・女性が不利な社会だと言われているが、離婚問題等では、十分に男性が不利である（DVや不貞行為等も無く、男性側が平等を謳うのであれば、そういう面も平等でなければ・・・慰謝料、教育費の面など・・・）
- ・本来、男女の肉体的特徴を考慮するものと解釈していたが、名前は男女共同云々だが、女性優遇の考えが主になっていると思う。男性に向いているのは男性が、女性に向いているのは女性が、ではないか？現在現場、公安関係の仕事にも女性の進出が目覚ましく、少子化で逆ピラミッドになっている時代では戦力になるが、女性が働く事により更に少子化が助長されるのではないか？この言葉はジェンダーイコリティの訳語になるので性別否定になるので男女間の肉体的違いを否定するのはどうかと思う
- ・①女性の地位向上に重きを置く世間の流れのせい、女性が一般常識外れな事をして許され、それを注意した男性がセクハラ、パワハラと言われる世の中になっている。②男性だの女性だのと言っている時点で、差別なのではないでしょうか

【男性優遇の是正】

- ・役所とか、大企業は男女平等の場を与えられますが、田舎の零細企業では働く側が当然の要求をしても、不満なら辞めよ！という雇用主が多く、パートでは何年も最低賃金のままの労働者もいます（雇用保険も無くフルタイムで）。そんな現状で働いている人たちには男女共同参画など夢のまた夢です。また、家庭では、女は家事という昔ながらの慣習が強く、やはり男性有利です。私の世代とは違って、今の若い世代は女親が積極的になり、家事分担しているのを見ると本当にうれしく応援したくなります

【女性は家庭や子育てを重視すべき】

- ・女性でなければできない仕事もあるので、結婚後も働く必要がある場合もあると思いますが、基本的には女性は家事と育児に専念することが大切だと考えます。なぜならまず、家庭がしっかり機能し、子ども達が立派な大人に育つ環境を作ることが大事だと思うからです。社会は家族の単位から成り立っていますので、家族の崩壊は社会の崩壊につながる恐れがあるのではないのでしょうか。女性は家庭において教師、看護師、料理人等々様々な役割の良い働き手になるよう一生懸命努力することによって社会に参画できると思います
- ・せめて子どもができれば、女性は育児に専念すべき。また男性はそれで生活ができるような所得がなければ子どもをつくるべきではないと思う。そう考えている私にとっては、男女の役割は明確に分けておくべきだと思います

【女性の意識改善】

- ・女性も世の中に出て社会を見るのが大切。女性も社会の役に立っている自覚が必要

◆就労・企業に関すること

【長時間労働等の是正】

- ・男女ともに雇用環境、職場環境の改善が必要で、その改善により男女が共同する社会が実現できるものと思います
- ・現在の日本は、諸外国と比べても長時間、超過密、低賃金労働を強いられています。国政が大企業を応援して、労働者が小・中・零細企業を傷めつける政策を続ける限り、男女共同参画は実現しないと考えます。労働者が団結し国民全体の中で、もっと人間らしい労働、暮らしができる社会にしようと、声を上げる必要があります。日本国憲法が精神が文字通り実現すれば、男女共同参画社会は実現すると考えます。こうしたアンケートの様な取り組みも大変重要だと考えます
- ・いわゆる「ブラック企業」を取り締まり、残業や休暇の未取得を無くすことが必要だと思う
- ・私は第2子を出産したばかりの主婦ですが、夫の勤務時間が朝早く夜も遅いので育児を手伝ってもらえず、ほとんど母子家庭の状態です。休みの日も普段の仕事疲れから育児に協力してもらえず少ないので、もう少し勤務時間を短く改善してもらいたいです。子どもが小さい時こそ一番家に居てもらいたいです、夫の職場側にそんな制度があったら嬉しいです
- ・夫は管理職で帰宅時間が非常に遅い。(午後10時以降に帰宅)必然的に妻が残業をしても夫より早く帰宅する。夕食作りや家事の分担は不可能でした。外食するにも田舎ではお店が閉まっており残業が10日も続けば体はフラフラでした。「男女共同参画社会」ものすごく遠い存在です
- ・私の働いている歯科医院には、産休育休がありません。有休もあつてないようなもの悲しいです
- ・嫁に行った娘、長男、次男の労働時間を何時も聞いていますが、労働時間の短縮をお願いしたいです。(※昨年、孫があるレストランに就職し労働時間が長いし、そして罵倒・・足でける、刃物をまな板に突き刺し、フライヤーの油の中に手をつけるまねをする、その他いろいろあります)
- ・男性が子育てに参加できる社会を作っていったら、女性の家事労働も減っていくのではないだろうか。両方が均等に休める環境づくり
- ・もっと時間にゆとりが出来る生活になることにより周囲を見渡し、思い巡らせるようなになれる社会を作ること。お互いを認め合い、相手の立場に立った生活をする事

【育児や介護に対する周囲の理解】

- ・①女性の働く意識の向上②家族や職場、周りの理解 この上記2点が成り立たないと、これからは変わらないと思う。私はシングルマザーで子どもが二人(未就学児)いますが、バリバリ働いています。私の親もまだ若く、働いています私は子どもとの一緒に休みが月に1~2回程度ですが、家族が理解してくれるからこそ仕事もできるし、子どもも不満なしです。あとは職場がもう少し理解してほしいです(もっと働かせてほしい)
- ・参観日や学校行事においても母親中心の参加になっているので父親も参加できるように職場も外出・早退しやすく両親で子育てを出来たら良いなと思います。我が社の男性は比較的、子ども行事に参加できているので良い職場と思います
- ・介護に関しては施設など整っていると思うが、育児に関しては不十分であると思う。小児科の病院も遠くなってしまい、職場に関しても理解が不十分であるため働きにくい。長年勤務しているので、出産・育児をしながらフルタイムで仕事ができているが、新しい職場に行った際は困難ではないかと考えます。もっと子どもを産みたいが、生めない現状である
- ・私の娘は昨年二人目の子どもができた時、一方的に会社から解雇通知を受け取りました。理由は育児休業により、一年間の休みを取得することによる会社の不利益でした。高知県ではまだまだ子育てなどに対して、会社の理解不足というか、会社の事しか考えていないという現実があります。そういう現実を踏まえ、県や市町村が各企業に直接労働基準法などを守る事などを積極的に啓発すべきではないかと思う。また、その会社は朝礼で社長より、「一人目

は許すが、二人目ができたら会社を辞めてもらう」と言ったと聞きました。こうした現実では女性が安心して子どもを産めないと思います

- ・くり返しになりますが、企業は子育てに理解はまずありません。都会の大企業ならわかりませんが、子育て世代への会社での負担は大きいです。夫婦共に30代で働き盛りの場合が多く本当に大変で、私は無理し過ぎて身体をこわし、フルタイムの仕事を子どもが小学2年の時に15年くらい勤めたのですが退職しました。その後は、たまたまワークライフバランスの取れた仕事にすぐに就職できましたが、正職ではありません。子どもに関わる時間が少ないのは、子どもの精神面や学習にもつながります。本県の低所得者が多いのも「学習についていけない→正職に就けない→年収が低い」にどんどんつながって負のスパイラルだと思います
- ・子どもを育てながら働くのは、大変ですよ、病気で休めば嫌みを言われるし、でも生活もあるし、頼れる人がそばに居ればいいですが、私は居なくて困りました。両親がいなくても、サポートをしてくれる方がいればと思います
- ・女性が生涯にわたり社会の中で仕事をしていくのはなかなか大変なことです。子どもが小さい時は病気や学校行事、やっとな手が離れたと思ったら、今度は親の介護や通院など、自分は元気だと思っても、周囲の状況でいやおうなしに休まざるを得ない事も…。周囲の理解が必要です

【女性の就労の場の確保】

- ・まだ、女性全体の仕事就業率が低いと思うので、もっと女性の働ける職場を多くしてほしい。転職を繰り返したり、年齢が上がったりすると就職しにくい社会を見直してほしい

【安定した雇用や収入の確保】

- ・共働きで無いと経済的に保育所に預けることができない。その分、女性への負担は多く、大変です。男女平等は共働き夫婦にとっては成り立っていません
- ・高知県の男性の収入所得が少ない為に、高給取りの方は知りませんが、奥さんも働かざるを得ない為に働いています。男性がパートで人より少ない時間で働いているなら少なくとも仕方ないと思いますが、男性が8時間働くのであれば、もう少し、高知県全体として上がってほしいと思います
- ・男女共同参画と言っても、正職員になれない人達が多くなり、個人として大事にされていない世の中はどうなのだろうと思います
- ・男女共同参画に限らず、個々の生活水準が向上し他人を思いやれる「ゆとり」が生じない限り、この様なアンケートを取っても何ら成果が上がるとは思われません、絵に描いたモチです
- ・老若男女、様々な意見があつていいと思いますが、その人がその人らしく生きるということが一番大事だと思います。考え方は、時代によって変わっていくものだと思うので、教育とかよりは、今困っている人の支援に力を入れていただけたらいいなど、個人的に思います。高知県では、特に金銭的な補助が必要だと思います
- ・家庭が整っていれば、夫婦も幸せだし、子ども達も良い成長が出来るはずと考えます。そのためには、①共稼ぎしなくてよい男性の職場があること②共稼ぎをしなくてはならない場合は家事・育児・親の世話等を分担して、女性ばかりに負担が多くかからないことが大切と考えます③子育てが終わればどんな形であれ仕事に携われることも良いのではないかと考えます
- ・今は若い方が家庭を持つということは大変厳しい状況だと思います。給料は安く家賃は高い。共働きをしないとやっていけないという方が随分います。子どもも、もう少し周りが気を配りしないといけない気がします。小さい時からの周りの環境だと思います

【能力による正当な評価】

- ・現在の職場では男性の上司の方が女性の上司よりも皆を平等に扱ってくれます。これから先、女性の管理職が増えることが良いことか疑問に感じます。男女に関わらず能力のある人という観点で選んでほしいと思います。また、DVに関しては個人情報保護がしっかり守られる

ような行政設備を望みます。親身になって相談に乗ってくれる職員の方がいれば安心して相談できると思います

- ・世の中には能力のある人はたくさんいると思いますが（男女を問わず）男性の方がはるかにその特権が見える。同じ年齢、同じ能力、同じような環境ならほぼ男性を選ぶ。女性が失敗したら「女性だから」と言われ、成功したら「女のくせに」って言われる。男と肩を並べて仕事ができるように努力してもそれを認めることはあまりない。社会を動かすのは男性だけなのか。男の嫉妬一番みっともない。女よりたちが悪い。仕事は能力の前に平等であるべきです。きちんと「見極める目」を男性に持ってもらいたい。もちろん、いろんな女性もいます。でも、その中にも真剣に仕事と向き合い、成果をあげている人をきちんと評価しなさい！ここまで、放った社会も悪いですが、悪いと思えない社会もおかしい。表面だけで満足するな。上の人のお話を信じるな、会長、社長、店長クラスできちんと話が分かる人は少ないです。行政もおぞなりの仕事はやめて頂きたい

◆DV被害者支援

【DV加害者へ厳正な対応を】

- ・私のガールフレンドもDVにあっていました。ひどいDVです。加害者は施設に入るなどして自分を改め、女性に近寄って欲しくないです。女性を守ってくれる社会にして下さい。お願いします

【関係機関の連携強化】

- ・DVや暴力が根底にある場合は、相談窓口や警察の協力が必要だと考えます

【支援者の存在】

- ・逃げ場所とか、憩いの場所とかが、確立合わさった物とか、24時間育児相談。爺婆様の知恵の利用役所、役場での仕事の斡旋、農業で人が要るとか引越しとか等無限。男女共同から→子ども、青年、大人、爺婆共同参画でしょう
- ・地域のコミュニケーションが少ないと思います。特に若い世代が、家を建てたりして、昔から住んでいる方々の中へ入っていく時、そういった機会が全くない為、地域にとけ込めません。まずは身近な地域の輪が出来れば、その市そして県全体も活気づくのではないのでしょうか。そして、地域でもっと子どもを応援していく体制づくりが、大切ではないのでしょうか
- ・女性がDVなどで困った時に駆け込める場所を広く知らせておいてほしい

◆行政に対して

【行政による施設や制度等の子育て支援の充実】

- ・女性のより一層の社会進出は今後の重大な課題であり、日本は外国に比べ大きく遅れている点と思います。社会環境全体の整備が必要です。なお、一方で専業主婦を強く希望する者もあり、配慮が必要です
- ・公的機関の支援の充実。民間などの経済力を高める工夫が必要
- ・高知では、女性に対する差別が比較的少ないと思う。でも、子育てに対する制度があまりに少なく、各家庭の負担が大きく、出産への障壁になっていると思います。このため、生んだ後は、仕事を制限するようになってしまいます。男女共に働きやすい制度の拡充を早急に進めてもらいたいです
- ・共働きだと、子育てに目が届かなくなりがち。男女共に働きながら、子育てできる環境が必要。また、子どもとのコミュニケーションを啓発するイベントや環境がもっとあれば嬉しい
- ・少子高齢化が叫ばれ、進んでいる現状では男女平等とはなりえないと思う。何よりも、お産適齢期の女性の負担軽減の方が急務ではないのか。また、今のお母さんは子どもを預けるた

- めに働いているような状態であり、そうでないと幼稚園や保育所の月謝が払えない。働いても収入は増えず、とても第二子、第三子など考えられない。それに、子どもが小さいうちには、母親にしかできない事も多く、男性が肩代わりするなど思い上がりではないでしょうか
- ・出産、子育て、介護などが障害にならないような制度をきちんと整備すること。(企業に対して) キャリアアップしたい女性には男性と同等の機会を与えること。女性の政治家がもっともっと増えなくてははじまらない！日本は少なすぎる！
- ・少子化対策としても、保育所の整備、充実と公的補助を拡大し、女性が働ける環境を国、市町村が無駄な経費を削減して(公務員の給料が高すぎる。財政が苦しいのにボーナスをもらうなど、もっての外である)、整える事が女性の地位向上に繋がる。男女平等が遅れているのは全て行政の怠慢が原因である。欧米を見習ってもらいたい
- ・特に行政として世界の優れた社会システム(特に北ヨーロッパ)を導入していく様にしてはどうでしょうか。是非、教えていただきたいです

【積極的な女性の登用の推進】

- ・有能な女性職員を積極的に管理職に登用すべきです。公務員は女性管理職が少ないと思う。特に田舎の役場などは…
- ・思い切って国会議員から市町村の議員まで議員の男女比率を1/2にするように法制化する

【県民への啓発・広報の実施】

- ・もう少しTVとかにも取り組んでほしいです。実際は浸透するまでには時間もかかりますが、広めていくしかないですね。私は仕事することが大好きですが、なかなか社会では、女性はまだまだ男性の下という感じに思います。高知の女性は強いイメージですが、やはり目にはみえないところはまだまだあると思います
- ・DVについて知っていると思っても、実は正確に理解していないなど、人によって理解に差があるように思う皆が正しい理解、認識を持つためには、教育・啓発が大切だと思う
- ・男女共同参画をもっとわかりやすくする(あまり知っている人達が少ないのでは)
- ・男女平等意識の中では、性別の差別、区別を明確にして浸透すべきである
- ・まだまだ男女共同参画に対する県民の意識は低いと思います
- ・男女共同参画社会の理想像が見えないので学ぶ場所、どういう活動があるのかを周知できるように広められないか。地域や近所でのコミュニケーションで、他人とのつながりがないと、DVなどあっても公共の場には言っていけないと思うので、助けられていないという現状にあるのではないかと思う

◆教育

【子どもへの教育】

- ・幼少の頃(幼児、子どもの頃)から差別(男女、人種、外見、能力、部落差別等)をしない社会にする教育を徹底的にする。保育園、小学校の先生の男女比率を1/2にする
- ・大きくなってからの習慣や感覚は中々直しにくいので(人間の核の部分から)、幼い頃からの教育やしつけの中で教えていくことが大切だと思います
- ・最近世の中の環境(家庭・社会)が歪になっていて、子育て時期から事の是非を教えていないように思う。小、中学校教育に男女平等、DV、セクハラ等の害を知らず。教えるカリキュラムが必要。成人になってからの教育では遅い。子育てには社会、地域も参加して、昔の地域社会の様な環境に戻す社会構造になったらと思う
- ・小さい頃からの教育(特に道徳)が極めて重要だと思います。良識ある地域社会や家族環境を作る上で幼少期からの継続した教育により、男女が大人になりより良い高知県を作っていくと考えています。どんなことも、お互いがお互いを助け合う、そんな社会の構築をなすため、一員として頑張っていきたいと考えています

- ・次世代の子ども達にその人らしさを尊重する心を育ててあげ、ジェンダーフリーを実現したい
- ・最近のいじめの問題なども、基本は幼少からの教育が重要だと思う。お互いに人間として尊重するような子どもの社会が、やがて大人になってからの平等な社会を形成すると思う。男女の区別をするとかしないとか関係なく、人間一人一人がお互いに尊重し合える社会の基本は教育だと思う
- ・家庭教育の中で、男女平等の意識を育てることが大切
- ・一番身近な家庭環境から男女平等の考え方を子どもに押し付けられない教育をして行かなくてはならない
- ・できるだけ差別、区別のない様にと心がけて日々生活を思っていますが、なかなか言うはやすくというところがあります。農家であり、男女共同参画などは、色々の風習、慣習があり、子どもの時分からそんな生活を送って来て身にしみているみたいです。小さい時からの教えも大切だと感じます。本年、地区長をやることになりましたが、古い慣習など見直し、話し合いもしていったらと考えています
- ・自分の夫は料理が得意で、自分の弁当を作ったり、夕食作りだけはしていますが、「本当は女がするのが当たり前。お前にやる気がないから仕方ない」と思っています。男女平等の社会はまだ先の様です。やはり、家事学習能力の高い男子を育てるべきだと思います

【家庭で男女平等に取り組む】

- ・子どもは育った環境や親の姿を見て、思考、善悪などが見についていくと考えています。幼い頃から夫婦平等、お互いを敬う両親を見ていれば、このような問題も減るのではないかと思うので、すぐに結果を求めても無理でしょう。大人たちの意識改革は難しいから、未来を担う子どもたちに向けて浸透させていけば、10年後には変わるかもしれません。生きにくい世の中なので、せめて孫達の時代には、今よりも明るい世の中であることを期待したいです
- ・共働きの多い高知県では意識は高い方だと思いますが、上の世代ではまだまだわかりません。まずは家庭内から平等につとめていきたいと改めて感じました
- ・私の職場は、男女関係なく同等に仕事させてもらえる。しかし、いまだに家事は女性中心という考え方が残っており、仕事と家庭の両立で以前より大変になったのではないかと思うこともある。職場では、男女平等が成立し始めているので、同時に家庭内での男女平等が成立することを願う

【その他の教育】

- ・現世代を含め、教育現場で保護者も一緒に教育を続けていくしかないのでは
- ・問題を解決するには、問題に焦点を合わせるのではなく、解決に焦点を合わせるべきだと思います。人間は心にイメージしたのを実現するそうです。暴力をイメージするも、暴力をイメージしないも、同じように暴力を実現します。その反対たとえば愛・平和をイメージするのが良いと思います。愛のある人を、平和を作る人を増やすことに力を入れれば暴力は減ると思います

◆その他

【その他】

- ・女性が働きにくい環境を作っているのは一部の非常識な人が原因だと思う。職場をどうこうしても同じような人がいるかぎり改善されるかどうか疑問です
- ・男は、もっと家庭の事（育事、家事、介護等）を出来る力をつけ行動を起こす。女は、結婚して家に入るのをゴールとせず、社会に出る。社会は家の事が出来る様な社会をつくる。会社は家の事が出来る様に休みがとれ、経済的にも社員が生活できる体制にする。理想を言えばきりがなくどうにもならないと思う
- ・改めて、男女平等を考える事になりました。DVについては、深く思っていなかったし、自分の事には関係がない事のように思い過ごして来ました。質問に答えていく内、これもDVなのか・・・と思う所あり、答えに迷ってしまうことしばしば。職場においても、あっちこっちと行ったことがないので、男1に女0なので、よくわからない事がある。お役に立てれば幸いです。又これから、子育てしていく、自分の子ども達にとってもよりいい環境社会であってほしいと思います
- ・今の若い方は、全て分担されているので良いのではないのでしょうか
- ・慣例、風習から法律、制度への移行
- ・社会全体があらゆる問題に明るく開けていったとしても、生きていく一人一人の心のうちにあるものがどういうものなのかをもう一度しっかりと見直さないことには、日本の明るい未来はないような気がします。今現実将来を背負って生きる子ども達がどのような実態におかれているかを行政に関わる方には知る必要があると思っています。経済の歪み、大人社会の歪み、それらすべてを抱えているのは子どもたちという気がしてなりません。すべては子どもたちの「心の育ち」を根本に置いてのあらゆる施策であることを望んでいます
- ・現実には私たちの知らない所で沢山の人が困っているのかもしれない。今後は少しでも多くの問題点が改善されていくことを願っています
- ・各々が自立して一人の人間としてどう考え、どう行動するかだと思います。“当たり前”のことができる…と言っても今（現在）何が当たり前なのかわからない時代なので難しいですね
- ・男女平等とか難しいことはあまり考えないように生活しています。相手の意見を聞くことも大切ですが、どんな人間でもひとつくらいは長所があるはずです。これを見つければ、少しは話もできるし、嫌いな人でも好きにはなれないけれど、気分良く生きていけます
- ・とても勉強になりました
- ・現在は仕事もしていないので家事が仕事だと思えますが、共働きの時は、夫と、又は家族皆で家事の分担をすべきでした。自分の性格（何でも自分でやる）と家の事は何も手伝わぬい夫…。人生で反省するならこのことだと思います
- ・教育現場というところでありながら、管理職（校長・教頭）その他の教員は差別意識の固まりのような社会です。女、女生徒、母子家庭、障がいがあると差別をする、隠ぺい工作をする教師ばかり優遇される汚い社会です
- ・男女平等意識はやはり難しいと思う。女性は出産という重大な仕事があるが、会社がしっかりしていないと働く女性の味方は少ない状態です
- ・あいまいな形で男女平等を言っても世代のズレなどあると思う。人間的にいつでも男女とも平等に話のできる社会があればいいと思う
- ・いつどのような活動があるのか分からないので、活動計画などどこで知ればよいのか分からない
- ・私は幸せなことに夫婦平等に家事をこなしています。DVなど一度もなく家庭生活を送っています
- ・自分自身、正社員で入社にその後セクハラで退社し、現在はアルバイトをしています。このことで、正規雇用と非正規雇用に差を感じました。この男女共同参画社会に関する意識調査を通じて、社会の中における女性の弱さを感じました。高知県は、性別に関係なく、優しく助け合える環境になって欲しいと思います
- ・皆が、楽しく明るく生き生きと暮らせる毎日である事を願っています

- ・知らない法律や取り組みがあったので、今後ネットで調べておくことも大切だし、男女共同であることを広めていきたいです
- ・田舎暮らしで少子高齢化の現代にあって、日常生活を振り返ると、大切な家庭では独居老人が多く、地域では子どもの姿を見て、触れ合う事もなく、早期退職（59才時）をし、年金受給まで数年ある中、高知県の求人内容、就業状況は厳しい状態を再確認。特に若者に結婚し、子育てして行く夢を抱かせてあげられるのかと、私自身の老後ともに不安が過ぎる男尊女卑の考え方は田舎においては、未だに存在しているものの、現代の若者男性にあっては、自分勝手派が多く見受けられ、大黒柱は女性が引き受け、切り盛りしているとも感じる現代人の抱える悩みの中に共存共栄は可能なのか？と自問してみる
- ・家庭では、夫婦円満で社会では男女差別のない事を望んでいます
- ・独身で病気になるので男の人は関わりたくありません。子どももありません
- ・私自身配偶者はいませんが（もちろん子どもも）、男女共、住みやすい社会になるといいですね
- ・男女共同参画社会について今回少し勉強になった様に思う。パート職と契約、臨時職との差（待遇）がある事を感じる（仕事はほぼ同じ事をしている）
- ・男女に関係なく暴力のない、思いやりのある社会にすべきだと思う
- ・1人の人間として、自分らしく生きることの大切さにつながってほしいです
- ・女性が社会、家庭、仕事などで過ごしやすい生活しやすいように少しずつなっていってほしいと望みます
- ・皆の意見を参考に実現する未来となることを願っています
- ・考えた事がない！
- ・父親と母親、どちらが好きかと聞けば大半の子どもは母親と答える。設問に「・・・の教育」というのがあるが、そんなもので変わるわけがない。とにかく駄目なものは駄目である。だからこんなことに金を使うのは、止めてもらいたい
- ・私は身体障害者です、何もできません、くだらん世の中

【ソールについて】

- ・ソールで活発な活動を行っているようですが、幡多方面からは容易に高知市迄は行きにくいのが現状です。出前の活動を期待したいところです
- ・ソールがやたらと目立ちます

【今回の調査についてのご意見】

- ・アンケート内容を点検して出してほしいです
- ・この資料を作成した方の偏った考え方が理解できません
- ・少子化や若者が都会へ流れてしまう問題を抱える中で、少しでも高知県を良くしようと様々な取り組みをしていると改めて分かり、もっと県民全体で意識を持つことが大切だと思いました。この調査が今後の高知県にとって少しでもより良いものになるよう期待したいです。よろしくお祈りします
- ・質問が画一的なため、意識調査としての意味が薄いような気がします。（問6などは、口論になった場合など、声が大きくなる場合もある）
- ・①問8の（オ）（カ）について、夫婦であれば多少の口喧嘩はあります。夫婦だからこそ時に声が高くなったりできるのです。DVとひとくくりにするのはどうか？②男女平等といいますが、男女にはもともと差があり、平等と言っても女性に力仕事をさせても能率は上がらないし、無理です。男と女は違うから魅力があるのでは？③誰もが自分の意思で個性と能力を発揮できる社会と書いていますが、仕事においては個性や能力よりも、人事異動があればいやでもその職場で働くことになりますので、非常に無理なことではないでしょうか
- ・設問内容に問題はありますか。幾分の違和感があります
- ・高齢者に付き、この様な調査の内容を十分把握する事が出来かねる様になりました。誠に勝手ではございますが、次回より、もう少し若い人をお選び下さいます様、お願い致します
- ・仕事大変だと思いますが、頑張ってください。ありがとうございました

VIII 自由回答

〔「その他」の内容〕

F 7 あなたの世帯は

- ・四世代（3）
- ・兄弟姉妹（3）
- ・2人住まい
- ・おじ夫婦と甥
- ・子2人

問2 男女の役割分担の理想と現実について、伺います

(1) あなたの理想に最も近いものはどれですか

- ・1→5子どもの成長によって変えていく
- ・夫が家計を支え、家事、育児にも参加して協力する
- ・社会通念ではなく、夫婦相互の意志の尊重

(2) 実際にあなたの家庭では夫婦の役割分担をどのようにしていますか（していましたか）

- ・亭主関白に近い
- ・夫は仕事のみで、家事、育児など全くしなかった
- ・夫が家計を支え、家事育児も分担
- ・夫が家計を支え、家事、育児にも参加して協力する
- ・妻が病弱のため、夫が主にしている
- ・家事、子育て、生活費を妻に求める夫だった
- ・妻が家計を支え、家事、育児も妻がする
- ・今は妻が働いて、夫が子どもの仕事を時々手伝う
- ・妻が家計を支え、夫は身体障害者で介護が必要
- ・夫婦共に家計を支えてきた
- ・2人で働かないと生活が無理なので、パートの時間で家事ができるようにした
- ・3と5の間
- ・夫の家計では難しい。地域活動でも妻の方が主になっている
- ・夫が食事を作り、妻は洗濯、掃除
- ・家事育児分担
- ・夕食の後片付けは主人がしていた
- ・夫は食器洗い、子どもと遊ぶなど。妻はその他の家事全般
- ・分担しなくてもお互いがやっている
- ・子どもがいないので当てはまるものが無い

問3 あなたが考える理想的な男女の役割分担が実現するためには、どんなことが必要だと思いますか

- ・ 保育所の整備、保育費の補助
- ・ 子育て、介護などを家庭で抱える必要がないように、社会環境を整えること
- ・ 市内を含め、町村も環境づくりが必要
- ・ 本来の女性の役割を見直すこと
- ・ 子ども時代に意識の教育
- ・ 家事（育児）は女性がするものと思っている男性の意識を改革
- ・ 社会ではなく、男性個人の考え方がまだまだ。男は外、女は内ということを変えられなければ何も変わらない
- ・ 一番は男性の意識を変えることだと思う。家事、育児は女性がするものだと思っている
- ・ 役割分担にとらわれず、協力し合う事から始める
- ・ 固定観念をなくす
- ・ 無理に役割分担を考えなくてもいいと思う
- ・ 男女の特性を生かした活動をし、必要以上に男女同権や両性を同一化しないこと
- ・ 子育てや介護の時期には男女ともに自由になる時間が必要だと思う
- ・ 正職員でなければ、男女とも育児休業などとれないのはおかしい
- ・ シニアの活用
- ・ 全部
- ・ わからない

問4 女性の働き方の理想と現実について、伺います

(1) 女性の働き方について、あなたの理想に最も近いものはどれですか

- ・その人の状況等に合わせた働き方や時間等の配慮による仕事の継続 (11)
- ・1～6のどれでも希望すれば実現できることが理想 (2)
- ・女性自身の希望を尊重する (2)
- ・結婚や出産にかかわらず好きなように働かせる
- ・働き方の選択ではなく、意識の問題
- ・夫婦の考え方
- ・家族との話し合いで理解を得て好きな仕事に専念
- ・北欧のように、男女の働き方の違いを無くすのが理想
- ・子どもができて、ある程度休暇をとって働く
- ・職場の理解が必要。女性でも年配だと育児や出産について数十年前で忘れている
- ・子どもが小さい頃は、見てもらえる人がいなければパートで働きたい (大きくなればフルタイムで)
- ・子育て世代 (小学校終了まで) は短時間勤務を原則とする (正社員として)
- ・育児休業など利用する。職場休業補償が異なる為、一定した保証が受けられる制度が必要
- ・3で「仕事を辞め」ではなく、「休職」とする
- ・結婚、出産では選択 (退職・休業) として、復職は能力やスキルで社会が受け入れる
- ・わからない。考えたこともない

(2) 実際のあなたの働き方で、あてはまるものはどれですか

- ・結婚や出産をしたことが無いので、どちらにも当てはまらない (8)
- ・子どもが小さい時に家におり、大きくなってフルタイムで働いた (2)
- ・自営業 (2)
- ・2と3
- ・子どもを託児所に預けて仕事をした
- ・離婚後仕事と子育てをした
- ・ひとり身なので、自分が子どもを養う必要があり、働かざるをえない
- ・子どもができてもある程度休暇をとって働く
- ・子どもが小さい頃には、見てもらえる人がいなければ、パートで働きたい (大きくなればフルタイムで)
- ・家族との話し合いで理解を得て、好きな仕事に専念
- ・結婚前はパート職、育児中には内職をし、大きくなり又パート職
- ・子どもが小さいうちは育児に専念、子どもの手が離れた時にフルタイムであれ、パートであれ、自分が望む職場に復帰できることが理想
- ・20代の頃フルタイムで働いていたが、病気により退職。療養後30代前半でパート採用
- ・失業後、パートを続け、現在はフルタイム (既婚ではあるが、子どもはいない)
- ・家庭と仕事がごちゃごちゃで、仕事は続けたが融通はきいた
- ・家庭や子どもができて、自宅でできる仕事技術を身につけ、仕事と子育てを両立
- ・固定的な考えやめ、その時々に応じた選択ができる社会であって欲しい
- ・10年間は6番で、帰高してからは毎日農業

問5 あなたが考える理想的な女性の働き方が実現するためには、どんなことが必要だと思いますか

(1) 家族や地域において必要なこと

- ・女性は敢えて働かなくていい(2)
- ・保育施設などの充実(2)
- ・わからない(2)
- ・保育所の充実、子どもが病気の時の受け皿
- ・社会(地域)が女性の労働を理解すること
- ・能力・スキルに応じた働く場が必要
- ・静岡などのように工場を増やしてほしい
- ・母親は子育てに専念すべき
- ・当事者の問題に周りが余計な口を出さない

(2) 企業など職場において必要なこと

- ・1~10全部(3)
- ・わからない(2)
- ・人員が常にギリギリの職場なので急に休まれると困る。数回ならともかく週に1回は休んだりする。法としては認められていても、そのたびに勤務変更、公休の社員が呼び出される
- ・会社も行政もとにかく金銭面が大事。企業も数少ない人員の中で、時間短縮など絶対にムリな状態。預かり先がいくらあっても、子どもと親の一緒に過ごせる時間がないのは問題。一般的な企業で8:30~17:00過ぎに終業を迎え、食事のしたく、お風呂、ねかしつけ、洗濯、残業や買い物、子どもの病気などにどこが対応してくれるのか
- ・6,9,10は絶対に必要なこと。後はその職場の雇主(社長)の心
- ・認め、ほめること、ワクワクして働ける会社作り
- ・子どもができたら、すぐに辞められる環境をつくる
- ・特になし

(3) 行政の取組において必要なこと

- ・全て(2)
- ・子育て支援を充実させる(2)
- ・わからない(2)
- ・病気の子どもを預かってくれる場所を作って欲しい。夫も育児休業を取りやすい県にしてほしい
- ・子育てに対する相談、援助機関の充実など(要介護認定者に対するケア・マネジャーのような存在)
- ・町村は特に職場環境の改善が必要。就職希望者が少ない
- ・男女平等について(会社での)もう少し真剣に分かろうとすべき
- ・スウェーデンのようにクオータ制の導入
- ・企業への支援は必要とは思わない。個人に対する経済支援も必要でない
- ・「理想的な女性の働き方」というのが理解できない、何を理想とするのか
- ・行政の人がワクワクして働く
- ・特になし

問8 あなたは、あなたの配偶者や恋人に次のようなことをしたこと、またはされたことはありますか

(ス) その他のDV行為(具体的に)

- ・生活に困っても何もしない
- ・髪の毛を引っばる
- ・熱々のスープをかけられた。就寝時間、寝る時の向きを強要する

問8 副問2 あなたが、どこ(だれ)にも相談しなかったのはなぜですか

- ・酒乱で我慢するしかなかった
- ・考え方の相違による夫婦ケンカであり、DVとは少し違うと思うが暴力は否定する

問9 デートDV(交際相手からの暴力)、DV(配偶者等からの暴力)、性暴力などの行為が社会問題になっていますが、このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか

- ・被害者が被害を受けている事を自覚できるよう啓蒙(2)
- ・加害者が身近に相談できる窓口を増やす
- ・警察に責任を持った対応をさせる(責任の所在をハッキリさせる)
- ・すぐに別れられる様な措置、又は保護(重度の場合)
- ・インターネットのコンテンツに規制を考えるべき
- ・相談してもすぐ対応してくれなさそうなので意味がない
- ・男を見る目を育てる
- ・仲の良い夫婦、家族など良いものをメディアなど活用して広報する
- ・加害者をスター的な扱いにするメディア傾向を感じる
- ・DVを受ける方もする方も自立、自律
- ・幼少期の成長過程に問題が生じると思うので、地域の共同託児施設の充実が良いと思う
- ・家庭支援を行う(家庭での教育力を高められるように)
- ・親の育て方も大切
- ・加害者の親の教育が原因だと思うので、そこを何とかしなくてはと思う
- ・2,3は今最もする事と思う。4~6は遅い。8に関しては、警察は事件が起こらないと動かないところ
- ・離縁
- ・DVや性的犯罪の様な本能的な行動を、理性で押さえられない人を教育で校正できるとは思えない
- ・治らない
- ・なくなるらない

問 12 あなたは、今まで以上に男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか

- ・男女平等の教育は大切だが、男女は性差、特質など全く違った人であることも学ぶべき（4）
- ・女性に選択肢をつくること、そして選択できる環境をつくること
- ・能力による給与、人事、評価の出来る社会
- ・社会全体に潤うこと。子どもを預かってもらいたい時にいつでも預かってもらえること
- ・男女がそれぞれに対し認め、尊敬、尊重しあうことができる環境（社会）づくり
- ・女性による、女性だけの意見交換を行い作成した組織図が必要（この際男性は意見をさしはさまない事が重要）
- ・②の女性を男性に置き換え、男女が共同生活者として意識をもって協力し合い生活する
- ・特に男女に拘ったことに介入すべきでない。自然のままになるようになるべき
- ・女性の社会進出も非常に大切だが、女性の一番大切な仕事は母親である
- ・男女共同参画と言うより人の命を大切にする教育をすべき
- ・為に生きる（配偶者の為に生きる・家族の為に生きる・地域の為に生きる・会社の為に生きる・国の為に生きる・世界の為に生きる）
- ・男女が働いていると、今の夫婦は仲よく手わけして感心するほど手伝っている
- ・今の世の中で（田舎の職場で）男女の差別とかは全くない
- ・特に行っていない
- ・一生、その様な社会はこない

問 13 男女共同参画は、私たち一人ひとりの身近な課題です。まず自分にできることから始めることが大切ですが、あなたは、何ができますか

- ・わからない（5）
- ・できそうにない（3）
- ・自らがそういったものへの意識を少しずつ向上させていく
- ・性別に関係なく社会性を身につけ、政治参加（直接・間接的）市民感覚をみがき、自らの意思表示を行うことを日常的に展開できる自主性（自律性）を養う
- ・それぞれがやれることをやる
- ・自分の身の回りの事をやる
- ・形式にこだわらない事
- ・性別を理由に差別しない
- ・人を大切にする。考えて行動する
- ・家庭、職場、趣味の場等、全ての場において他人と話し、和を見つけ出していくこと
- ・身近な問題であろうとも他人をおもいやれる「ゆとり」を持てる生活が送れる様にならなければ無理
- ・為に生きる（配偶者の為に生きる・家族の為に生きる・地域の為に生きる・会社の為に生きる・国の為に生きる・世界の為に生きる）
- ・子育てしながら働ける労働条件、ミスマッチの解消
- ・弱者が働きやすい場をもっと作る
- ・子どもたちへも幼い時から男女平等の意識づけを大切に
- ・男の良さ、女の良さを見つけて伸ばす
- ・今の世代や、自分たちの世代もそんな事（男女同権）とかは気にしていない
- ・難しい。本人の考え次第だと思う

IX 調査票
〔単純集計結果〕

男女共同参画社会に関する県民意識調査のお願い

平成27年1月
高知県文化生活部県民生活・男女共同参画課

- ・高知県では、県内にお住まいの満20歳以上の2,000人の方（選挙人名簿から無作為抽出）を対象に、「男女共同参画社会（注1）に関する県民意識調査」を行います。
- ・この調査は、県民の皆様の男女共同参画に関するお考えをお聞きし、男性も女性もともに平等な立場であらゆる分野に参画できる「男女共同参画社会」の実現に向けた取り組みに役立てるための基礎資料とさせていただくことを目的として行うものです。

今回は、次のテーマについて、皆様のお考えをお聞かせください。

1. 男女平等に関する意識について
2. 家庭生活について
3. 女性が働きやすい環境づくりについて
4. ドメスティック・バイアス(夫婦・恋人間の暴力)／セクシュアル・ハラスメントについて
5. 男女共同参画の推進について

突然のお願いであり、また、お忙しいところ誠に恐れ入りますが、皆様のご協力をお願いします。

なお、ささやかながら謝礼品として、「高知家プリント入りボールペン」を同封します。

(※ 裏面の「記入・回答にあたってのお願い」をよく読んでお答えください。)

(注1) 男女共同参画社会

男女の性別にかかわらず一人ひとりがお互いの人権を尊重し責任も分かち合い、誰もが自分の意志で個性と能力を十分に発揮することができる社会をいいます。

みなさんの家庭や職場、地域など日ごろの生活の中で、一人ひとりがお互いを思いやって支えあい助け合うことが、「男女共同参画」です。

記入・回答にあたってのお願い

- ・この調査は、個人を対象にしていますので、あて名の方ご自身がお答えください。
- ・この調査は、無記名式です。あなたのお名前やご住所を書いていただく必要はありません。
- ・設問の回答は、設問の上に指定がある以外は、全員がお答えください。

調査票の返送について

- ・ご回答をいただいた調査票は、記入もれがないかお確かめのうえ、同封の返信用の封筒に入れて、切手を貼らずに 1月27日（火曜日）までにご返送ください。

調査票の取り扱いについて

- ・調査結果は、統計的に処理したうえで分析に用いますので、個人のお答えの内容や皆様の個人情報外部に漏れることは一切ありませんし、他の目的に使用したりすることはありません。また、委託業者にもこのことは徹底しています。

なお、この調査の結果は、平成27年4月に県のホームページで公表する予定です。

調査の実施について

- ・この調査は、高知県が株式会社トミーコーポレーション（高知市高須2丁目17-34）に発送や回収等の業務を委託して行っています。

*この調査についてのおたずねは、下記までご連絡ください。

調査票の発送・回収などについて：株式会社トミーコーポレーション

(電話 088-861-5025)

質問の内容などについて：高知県 文化生活部 県民生活・男女共同参画課

(電話 088-823-9651)

まず、あなたご自身のことについておたずねします。

以下のF 1からF 8までは、問1から問10までの回答が性別によってどう違うか、年代別にはどういう違いがみられるか、などといった分析をする上で必要な質問です。あてはまる番号に○をつけてください。

F 1 あなたの性別は

(回答者数 1,015 人)

	項目	回答数	回答比率
1	男性	478	47.1%
2	女性	529	52.1%
3	無回答	8	0.8%

F 2 あなたの年代は (平成27年1月1日現在)

(回答者数 1,015 人)

	項目	回答数	回答比率
1	20歳代	113	11.1%
2	30歳代	142	14.0%
3	40歳代	210	20.7%
4	50歳代	214	21.1%
5	60歳代	239	23.5%
6	70歳以上	88	8.7%
7	無回答	9	0.9%

F 3 あなたの職業は (1つだけ○印をしてください)

(回答者数 1,015 人)

	項目	回答数	回答比率
1	農林業	56	5.5%
2	漁業	3	0.3%
3	商工サービス業自営	67	6.6%
4	事務職	152	15.0%
5	技術職	135	13.3%
6	労務職	136	13.4%
7	管理職	58	5.7%
8	自由業	17	1.7%
9	主婦・主夫	115	11.3%
10	学生	21	2.1%
11	無職	153	15.1%
12	その他	91	9.0%
13	無回答	11	1.1%

F 4 あなたは配偶者がいますか。

(回答者数 1,015 人)

	項目	回答数	回答比率
1	いる	693	68.3%
2	いない	317	31.2%
3	無回答	5	0.5%

F 5 F 4で「1. いる」と答えられた方におたずねします。
あなたは夫婦共働きですか。

(回答者数 693 人)

	項目	回答数	回答比率
1	はい	406	58.6%
2	いいえ	279	40.3%
3	無回答	8	1.2%

F 6 あなたの住んでいる市町村は

(回答者数 1,015 人)

	項目	回答数	回答比率
1	高知市	449	44.2%
2	高知市以外の市	375	36.9%
3	町村	185	18.2%
4	無回答	6	0.6%

F 7 あなたの世帯は

(回答者数 1,015 人)

	項目	回答数	回答比率
1	単身世帯 (一人住まい)	83	8.2%
2	夫婦のみの世帯	200	19.7%
3	親と子の世帯 (二世帯世帯)	604	59.5%
4	三世帯世帯 (親、子、孫の世帯)	105	10.3%
5	その他	18	1.8%
6	無回答	5	0.5%

F 8 あなたの同居の家族に、次の方はいますか。

(回答者数 727 人)

	項目	回答数	回答比率
1	就学前の子どもがいる	113	15.5%
2	小学生の子どもがいる	117	16.1%
3	中学生の子どもがいる	98	13.5%
4	高校生の子がいる	85	11.7%
5	大学生、専門学校生等の子どもがいる	65	8.9%
6	65歳以上の方がいる	262	36.0%
7	子どもはいない	126	17.3%
8	無回答	76	10.5%

それでは、次のページから順にお答えください。

●質問は副問含めて17問あります。

●質問の前に、「★」のあるものは、該当する方のみお答えください。

◆ 1. 男女平等に関する意識について

問1 次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

(ア) から (ク) まで、あなたの気持ちに最も近い番号 (1~6) に1つだけ○印

(回答数・回答比率% 回答者数 1,015人)

項目	選択肢 男性の方が非 常に優遇され ている		どちらかとい えば男性の方 が優遇されて いる		平 等		どちらかとい えば女性の方 が優遇されて いる		女性の方が非 常に優遇され ている		わからない		無回答	
	回答数	回答比率%	回答数	回答比率%	回答数	回答比率%	回答数	回答比率%	回答数	回答比率%	回答数	回答比率%	回答数	回答比率%
(ア) 家庭生活	90	8.9%	432	42.6%	349	34.4%	61	6.0%	13	1.3%	58	5.7%	12	1.2%
(イ) 職場生活	89	8.8%	377	37.1%	332	32.7%	68	6.7%	12	1.2%	99	9.8%	38	3.7%
(ウ) 学校教育	12	1.2%	65	6.4%	721	71.0%	20	2.0%	3	0.3%	155	15.3%	39	3.8%
(エ) 政治の場	271	26.7%	454	44.7%	140	13.8%	8	0.8%	2	0.2%	109	10.7%	31	3.1%
(オ) 地域活動の場	48	4.7%	273	26.9%	438	43.2%	73	7.2%	8	0.8%	140	13.8%	35	3.4%
(カ) 法律や制度の 上	79	7.8%	294	29.0%	383	37.7%	68	6.7%	8	0.8%	154	15.2%	29	2.9%
(キ) 社会通念・習 慣・しきたり	164	16.2%	554	54.6%	140	13.8%	23	2.3%	4	0.4%	103	10.1%	27	2.7%
(ク) 社会全体	97	9.6%	572	56.4%	163	16.1%	41	4.0%	19	1.9%	96	9.5%	27	2.7%

◆ 2. 家庭生活について

★ (1) は全員、(2) は結婚している (またはしたことがある) 方のみお答えください。

問2 男女の役割分担の理想と現実について、伺います。

(1つだけ○印)

(回答者数 1,015 人)

	項目	選択肢	回答数	回答比率
1	あなたの理想に最も近いものはどれですか【全員回答】	夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する	207	20.4%
		妻が家計を支え、夫が家事・育児に専念する	6	0.6%
		夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する	113	11.1%
		夫と妻が共同で家計を支え、主に夫が家事・育児を分担する	6	0.6%
		夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する	452	44.5%
		夫と妻の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う	203	20.0%
		その他	9	0.9%
		無回答	19	1.9%
2	実際にあなたの家庭では夫婦の役割分担をどのようにしていますか (していましたか)【結婚している (またはしたことがある) 方のみ】 (回答者数 747 人)	夫が家計を支え、妻が家事・育児に専念する	174	23.3%
		妻が家計を支え、夫が家事・育児に専念する	7	0.9%
		夫と妻が共同で家計を支え、主に妻が家事・育児を分担する	307	41.1%
		夫と妻が共同で家計を支え、主に夫が家事・育児を分担する	5	0.7%
		夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児を分担する	141	18.9%
		夫と妻の役割を固定せず、家事・育児も分担制にせず自由に行う	85	11.4%
		その他	28	3.7%
		無回答	0	0.0%

問3 あなたが考える理想的な男女の役割分担が実現するためには、どんなことが必要だと思いますか。

(3つまで○印)

(回答者数 1,015人)

	項目	回答数	回答比率
1	夫婦や家族間で、コミュニケーションを増やすこと	604	59.5%
2	年配者や周りの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	163	16.1%
3	男性が子育て・介護等に参加することに対する、女性の抵抗感をなくすこと	70	6.9%
4	男性が子育て・介護等に参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくすこと	267	26.3%
5	社会のなかで、男性による子育て、介護についての評価を高めること	232	22.9%
6	労働時間短縮や休暇制度を充実することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	347	34.2%
7	育児・介護休業制度が充実するとともに、休業しやすい職場の雰囲気があること	442	43.5%
8	女性が働くことを希望したときに、相談窓口の充実など様々な支援があること	184	18.1%
9	共働きしなくても生活できる所得が確保されること	363	35.8%
10	その他	17	1.7%
11	特に必要なことはない	15	1.5%
12	無回答	11	1.1%

◆ 3. 女性が働きやすい環境づくりについて

県が行った世論調査では、「女性にとって、高知県は働きやすい県だと思いますか」との問いに対して、過半数の方が「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」と回答されています。そこで、女性が働きやすい環境づくりに向けて、女性の働き方の理想と現実、また、理想を実現するために必要なことを、伺います。

★ (1) は全員、(2) は働いている (または働いたことのある) 女性の方のみお答えください。

問4 女性の働き方の理想と現実について、伺います。

(1つだけ選択)

(回答者数 1,015人)

	項目	選択肢	回答数	回答比率
1	女性の働き方について、あなたの理想に最も近いものはどれですか。【全員回答】	結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける (続けた)	319	31.4%
		結婚や出産するまではフルタイムで、その後はパートタイムで仕事を続ける (続けた)	159	15.7%
		子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったらフルタイムで仕事を続ける (続けた)	191	18.8%
		子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったらパートタイムで仕事を続ける (続けた)	126	12.4%
		子どもができたなら仕事をやめ、家事や育児に専念する (専念した)	61	6.0%
		結婚したら仕事をやめ、家事に専念する (専念した)	46	4.5%
		その他	38	3.7%
		無回答	75	7.4%
2	実際のあなたの働き方で、あてはまるものはどれですか。【働いている (または働いたことのある) 女性の方のみ】 (回答者数 450人)	結婚や出産に関わらずフルタイムで仕事を続ける (続けた)	183	40.7%
		結婚や出産するまではフルタイムで、その後はパートタイムで仕事を続ける (続けた)	55	12.2%
		子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったらフルタイムで仕事を続ける (続けた)	42	9.3%
		子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったらパートタイムで仕事を続ける (続けた)	74	16.4%
		子どもができたなら仕事をやめ、家事や育児に専念する (専念した)	25	5.6%
		結婚したら仕事をやめ、家事に専念する (専念した)	31	6.9%
		その他	40	8.9%
		無回答	0	0.0%

問5 あなたが考える理想的な女性の働き方が実現するためには、どんなことが必要だと思いますか。

(1) 家族や地域において、(2) 企業など職場において、(3) 行政の取組において、についてどう
 思いますか。 (それぞれ2つまで○印)

(1) 家族や地域において必要なこと

(回答者数 1,015人)

	項目	回答数	回答比率
1	家族が、女性が働くことについて理解すること	430	42.4%
2	女性自身が、働くことについての意識を向上させること	176	17.3%
3	男性が、家事・育児・介護などに参加すること	592	58.3%
4	両親や親せきが、家事・育児・介護などを手伝うこと	168	16.6%
5	周りに、子育てや介護をするうえで助けてくれる仲間がいること	390	38.4%
6	その他	17	1.7%
7	無回答	17	1.7%

(2) 企業など職場において必要なこと

(回答者数 1,015人)

	項目	回答数	回答比率
1	仕事と、子育てや介護の両立について、職場(上司・同僚・部下)の理解が得られること	527	51.9%
2	育児休業や介護休業などが整っている、または、取得しやすい雰囲気があること	443	43.6%
3	在宅勤務やフレックスタイム制度(始業終業時刻を労働者意思で決定)など柔軟な働き方が整備されていること	147	14.5%
4	再雇用制度が導入されていること	146	14.4%
5	長時間労働が改善されること	107	10.5%
6	給与・昇進・昇格・教育機会の面で、性別による差がなくなること	145	14.3%
7	パートタイマーの労働条件が改善されること	115	11.3%
8	意欲と能力のある女性社員を積極的に管理職へ登用すること	66	6.5%
9	職場におけるセクシュアル・ハラスメント(注1)をなくすこと	27	2.7%
10	妊娠や出産による不利益な配置転換や勤務時間の変更などの、マタニティ・ハラスメント(注2)をなくすこと	105	10.3%
11	その他	12	1.2%
12	無回答	24	2.4%

(3) 行政の取組において必要なこと

(回答者数 1,015人)

	項目	回答数	回答比率
1	保育サービスが充実すること	409	40.3%
2	放課後児童クラブや放課後子ども教室などが充実すること	240	23.6%
3	児童手当など子育てに関する経済的な支援が充実すること	283	27.9%
4	介護サービスが充実すること	193	19.0%
5	出産や育児、介護でいったん退職した女性の再就職の支援があること	301	29.7%
6	女性を積極的に活用する企業への支援を行うこと	91	9.0%
7	男性の家事や育児への参加を促すための意識啓発を行うこと	95	9.4%
8	セクシュアル・ハラスメントやマタニティ・ハラスメントに関する啓発を行うこと	48	4.7%
9	育児休業や介護休暇を実施している企業への支援（助成金など）を行うこと	168	16.6%
10	その他	16	1.6%
11	無回答	22	2.2%

(注1)「セクシュアル・ハラスメント(=性的いやがらせ)」とは？

相手が望まない性的な言動により相手方の生活環境を害すること、または性的な言動に対する相手方の対応によりその者に不利益を与えること

(注2)「マタニティ・ハラスメント」とは？

働く女性が妊娠・出産にあたって職場で受ける精神的・肉体的な嫌がらせ、いじめのこと

◆ 4. ドメスティック・バイオレンス(夫婦・恋人間の暴力) (注1) / セクシュアル・ハラスメントについて

(注1)「DV (ドメスティック・バイオレンス)」とは？

配偶者や恋人など、親密な関係にある、または、あったパートナーからの身体や心への暴力のこと。暴力には、肉体的、精神的、経済的、性的暴力などがある。

問6 あなたは、配偶者や恋人があなたに対して、次のようなことをした場合、それを暴力だと思いますか。

(あなたの気持ちに最も近い番号(1~3)に1つだけ○印)

(回答数・回答比率% 回答者数 1,015人)

項目	選択肢		どんな場合も暴力に 当たると思う		暴力の場合とそうで ない場合がある		暴力に当たると思わ ない		無回答	
	番号	比率%	番号	比率%	番号	比率%	番号	比率%	人数	比率%
(ア) 素手で殴ったり、足でける	864	85.1%	113	11.1%	5	0.5%	33	3.3%		
(イ) バットやベルト等、物を使って殴る	958	94.4%	11	1.1%	7	0.7%	39	3.8%		
(ウ) 物を投げつける突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする	885	87.2%	83	8.2%	6	0.6%	41	4.0%		
(エ) ドアをけったり、壁に物を投げつける刃物などを突きつけたり、殴るふりをして、おどす	891	87.8%	78	7.7%	6	0.6%	40	3.9%		
(オ) 大声でどなる、罵倒する	600	59.1%	352	34.7%	28	2.8%	35	3.4%		
(カ) 小バカにするようなことを言ったり、態度を取る	448	44.1%	442	43.5%	81	8.0%	44	4.3%		
(キ) 何を言っても、長時間無視し続ける	520	51.2%	349	34.4%	103	10.1%	43	4.2%		
(ク) 交友関係を制限したり、電話、メール等を細かくチェックする	564	55.6%	308	30.3%	97	9.6%	46	4.5%		
(ケ) 嫌がっているのに、性的な行為を強制する	821	80.9%	133	13.1%	18	1.8%	43	4.2%		
(コ) 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	723	71.2%	187	18.4%	63	6.2%	42	4.1%		
(サ) 「誰のおかげで生活できるのか」などと言う	680	67.0%	226	22.3%	64	6.3%	45	4.4%		
(シ) 生活費を渡さない、極端に制限して渡す	739	72.8%	185	18.2%	50	4.9%	41	4.0%		

※上記はすべてDVに該当します。

問7 上記のようなことをあなたは経験したり、見聞きしたことがありますか。(1つだけ○印)

(回答者数 1,015人)

	項目	回答数	回答比率
1	直接、経験したことがある	209	20.6%
2	身近に見聞きしたことがある	393	38.7%
3	経験したこともないし、見聞きしたこともない	399	39.3%
4	無回答	14	1.4%

★問7で「1. 直接、経験したことがある」を選んだ方のみお答えください。

問8 あなたは、あなたの配偶者や恋人に次のようなことをしたこと、またはされたことはありますか。

(あなたの経験に最も近い番号(1~4)に○印)

(回答数・回答比率% 回答者数 209人)

項目	選択肢		したことがある				されたことがある				どちらもない・無回答	
	何度もした	1, 2度した	何度もされた	1, 2度された	何度もされた	1, 2度された						
(ア) 素手で殴ったり、足でける	8	3.8%	46	22.0%	28	13.4%	55	26.3%	90	43.1%		
(イ) バットやベルト等、物を使って殴る	5	2.4%	7	3.3%	6	2.9%	10	4.8%	183	87.6%		
(ウ) 物を投げつける突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする	7	3.3%	22	10.5%	23	11.0%	48	23.0%	121	57.9%		
(エ) ドアをけったり、壁に物を投げつける刃物などを突きつけたり、殴るふりをして、おどす	8	3.8%	22	10.5%	27	12.9%	37	17.7%	123	58.9%		
(オ) 大声でどなる、罵倒する	21	10.0%	47	22.5%	72	34.4%	36	17.2%	61	29.2%		
(カ) 小バカにするようなことを言ったり、態度を取る	22	10.5%	38	18.2%	61	29.2%	41	19.6%	72	34.4%		
(キ) 何を言っても、長時間無視し続ける	9	4.3%	37	17.7%	28	13.4%	34	16.3%	112	53.6%		
(ク) 交友関係を制限したり、電話、メール等を細かくチェックする	3	1.4%	7	3.3%	24	11.5%	21	10.0%	156	74.6%		
(ケ) 嫌がっているのに、性的な行為を強制する	2	1.0%	10	4.8%	28	13.4%	12	5.7%	157	75.1%		
(コ) 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	0	0.0%	5	2.4%	3	1.4%	8	3.8%	193	92.3%		
(サ) 「誰のおかげで生活できるのか」などと言う	4	1.9%	17	8.1%	18	8.6%	22	10.5%	151	72.2%		
(シ) 生活費を渡さない、極端に制限して渡す	1	0.5%	7	3.3%	23	11.0%	10	4.8%	169	80.9%		
(ス) その他のDV行為	1	0.5%	2	1.0%	7	3.3%	1	0.5%	198	94.7%		

〈副問 1〉 あなたは、上記のしたこと、されたことについて誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(あてはまるものすべてに○印)

(回答者数 209 人)

	項目	回答数	回答比率
1	家族・親せき	61	29.2%
2	友人・知人	72	34.4%
3	警察官	5	2.4%
4	法務局・人権擁護委員・民生委員	0	0.0%
5	市町村役場・福祉事務所	0	0.0%
6	県庁	0	0.0%
7	女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）	3	1.4%
8	こうち男女共同参画センター「ソーレ」	1	0.5%
9	裁判所・法テラス	6	2.9%
10	医療関係者（医師、歯科医師、看護師など）	2	1.0%
11	民間の機関（弁護士会、民間シェルターなど）	4	1.9%
12	その他	0	0.0%
13	どこ（だれ）にも相談しなかった	91	43.5%
14	無回答	7	3.3%

★副問 1 で「13. どこ（だれ）にも相談しなかった」を選んだ方のみお答えください。

〈副問 2〉 あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。

(あてはまるものすべてに○印)

(回答者数 91 人)

	項目	回答数	回答比率
1	どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから	4	4.4%
2	世間体が悪く、恥ずかしくて言えなかった	13	14.3%
3	相談しても解決しないので、無駄だと思ったから	22	24.2%
4	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどいことをされると思ったから	4	4.4%
5	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから	18	19.8%
6	自分にも悪いところがあると思ったから	22	24.2%
7	相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをと思ったから	1	1.1%
8	他人にとやかく言われたくなかったから	5	5.5%
9	いずれやめるだろうと思ったから	4	4.4%
10	自分に悪いところがあると思ったから	10	11.0%
11	相談するほどのことではないと思ったから	39	42.9%
12	その他	2	2.2%
13	無回答	3	3.3%

問9 デートDV（交際相手からの暴力）、DV（配偶者等からの暴力）、性暴力などの行為が社会問題になっていますが、このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。

（3つまで○印）

（回答者数 1,015人）

	項目	回答数	回答比率
1	加害者に対するカウンセリングや更生プログラム等を実施する	235	23.2%
2	法律、制度の制定や見直しを行い、加害者への罰則を強化する	451	44.4%
3	学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や暴力を防止するための教育を行う	393	38.7%
4	職場などで、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う	111	10.9%
5	地域で、防止啓発のための研修会、イベント等を行う	45	4.4%
6	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	156	15.4%
7	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やし、窓口の周知を図る	513	50.5%
8	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者等に対し、研修や啓発を行う	147	14.5%
9	DV被害者が自立して新たな生活を始めるための支援を強化する（衣食住の確保）	266	26.2%
10	その他	24	2.4%
11	わからない	48	4.7%
12	無回答	74	7.3%

問10 次にあげることのうち、あなたがセクシュアル・ハラスメントだと思うことはどれですか。

（あてはまるものすべてに○印）

（回答者数 1,015人）

	項目	回答数	回答比率
1	地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する	882	86.9%
2	相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体にさわる	814	80.2%
3	宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する	628	61.9%
4	（女性のみにお茶くみや掃除をさせる等）性別による役割分担を強要する	505	49.8%
5	性別を理由とした不利益な扱いをする（昇進を制限する、給与を低く抑える等）	699	68.9%
6	容姿や服装に関して繰り返して言う	582	57.3%
7	相手が嫌がっているのに、性的なことを話題にする	768	75.7%
8	ヌードポスターやポルノ雑誌等を人目につくところに置く、飾る	596	58.7%
9	「結婚はまだか」や「子どもはまだか」等たびたび聞く	592	58.3%
10	わからない	24	2.4%
11	無回答	60	5.9%

◆ 5. 男女共同参画の推進について

問11 あなたは、次にあげる言葉について、知っていますか。

(それぞれ該当する番号(1~3)に1つだけ○印)

(回答数・回答比率% 回答者数 1,015人)

項目	選択肢		内容を知っている		聞いたことがあるが内容は知らない		知らない		無回答	
(ア) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	238	23.4%	271	26.7%	409	40.3%	97	9.6%		
(イ) DV(ドメスティック・バイオレンス)	881	86.8%	69	6.8%	26	2.6%	39	3.8%		
(ウ) セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)	902	88.9%	62	6.1%	13	1.3%	38	3.7%		
(エ) こうち男女共同参画センター「ソーレ」	350	34.5%	414	40.8%	206	20.3%	45	4.4%		
(オ) クオータ制 ※注1	34	3.3%	155	15.3%	771	76.0%	55	5.4%		
(カ) 女性相談支援センター	172	16.9%	473	46.6%	320	31.5%	50	4.9%		
(キ) 高知家の女性しごと応援室	37	3.6%	213	21.0%	719	70.8%	46	4.5%		
(ク) 女子差別撤廃条約	101	10.0%	255	25.1%	608	59.9%	51	5.0%		
(ケ) 男女雇用機会均等法	519	51.1%	315	31.0%	135	13.3%	46	4.5%		
(コ) 育児・介護休業法	451	44.4%	392	38.6%	128	12.6%	44	4.3%		
(サ) 次世代育成支援対策推進法	58	5.7%	270	26.6%	634	62.5%	53	5.2%		
(シ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(いわゆるDV防止法)	287	28.3%	508	50.0%	178	17.5%	42	4.1%		
(ス) 高知県男女共同参画社会づくり条例	86	8.5%	378	37.2%	502	49.5%	49	4.8%		

(注1) クオータ制とは・・・性別を基準に一定の人数や比率を割り当てる手法

問12 あなたは、今まで以上に男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

(3つまで○印)

(回答者数 1,015人)

	項目	回答数	回答比率
1	法律や制度の面で見直しを行い、男女差別につながるものを改めること	418	41.2%
2	女性をとりまくさまざまな偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること	471	46.4%
3	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	281	27.7%
4	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	317	31.2%
5	女性の役職への登用や政策決定の場への参画を進めること	152	15.0%
6	労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること	383	37.7%
7	男性自身が生活者としての家事能力を身につけること	228	22.5%
8	家庭や学校で男女平等教育を行うこと	226	22.3%
9	その他	21	2.1%
10	わからない	47	4.6%
11	無回答	33	3.3%

問13 男女共同参画は、私たち一人ひとりの身近な課題です。まず自分にできることから始めることが大切ですが、あなたは、何ができますか。

(あてはまるものすべてに○印)

(回答者数 1,015人)

	項目	回答数	回答比率
1	家庭では、家族みんなで家事・育児などの分担をする	695	68.5%
2	「男らしく、女らしく」から「その子らしく」子育てをする	444	43.7%
3	学校では、PTAや保護者会で男女平等について取り組む	167	16.5%
4	職場で男女平等意識を浸透させる	368	36.3%
5	地域(自治会など)では、古い慣習を見直し、男女平等に活動に参画するよう取り組む	314	30.9%
6	男女共同参画について学ぶ	306	30.1%
7	こうち男女共同参画センター「ソーレ」などの事業に参加して理解を深める	126	12.4%
8	その他	31	3.1%
9	無回答	59	5.8%

◎ 男女共同参画社会に関するご意見、ご感想がございましたら、どんなことでも結構ですから、ご自由にご記入ください。

Ⅶ自由回答 (107 ページ～) に記載しています